

クラス		受験番号	
出席番号		氏名	

2014年度 第3回 全統記述模試  
学習の手引き【解答・解説集】  
**国語・地理歴史・公民**

【2014年10月実施】

●地理歴史

世界史B	.....	1
日本史B	.....	15
地理B	.....	24

●公 民

政治・経済	.....	44
倫 理	.....	57

●国 語 ..... 112

※英語冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

河合塾



1461230119502050



# 【地理歴史】

## 世界史 B

### ① 西洋の衝撃とアジア

#### 【解答】

- 1 マムルーク
- 2 アズハル
- 3 ウラーピー
- 4 カースト
- 5 サティー
- 6 塩
- 7 パキスタン
- 8 アヘン
- 9 九竜
- 10 柳条湖

- 問1 ③
- 問2 (a) アブデュル＝ハミト2世  
(b) 青年トルコ革命
- 問3 ③
- 問4 ②
- 問5 (a) アトリー  
(b) 労働党
- 問6 曾国藩や李鴻章ら漢人官僚により中体西用の理念の下、軍の近代化などで伝統的支配体制の維持をはかる洋務運動が展開された。  
(58字)
- 問7 ア i イ b ウ a

#### 【配点】 (26点)

<input type="checkbox"/> 1 ~ <input type="checkbox"/> 10	各1点×10
問1	2点
問2 (a)・(b)	各1点×2
問3・問4	各2点×2
問5 (a)・(b)	各1点×2
問6	3点
問7 ア～ウ	各1点×3

#### 問6 【答案作成のポイント】

- ①曾国藩または李鴻章の名の明示
- ②中体西用またはその内容の明示
- ③洋務運動の明示

### 【出題のねらい】

19世紀に本格化するヨーロッパ諸国のアジア進出、いわゆる「西洋の衝撃」に対する西アジア・南アジア・東アジアの改革に関する文章から、関連する問題を出題した。

### 【設問別解説】

**1** 正解はマムルーク。エジプトのマムルーク勢力は、マムルーク朝がオスマン帝国に征服された後も、エジプトの実権を握っていた。彼らはその後エジプトの近代化を進めるムハンマド＝アリーによって一掃された。

**2** 正解はアズハル。アズハル学院は、10世紀にファーティマ朝によってシア派の教義の研究と布教のためのマドラサとして設立された。ファーティマ朝滅亡後はスンナ派となり、13世紀にモンゴル軍によってバグダードが占領されると、スンナ派の最高学府となった。今日では総合大学に発展し、存続している。

**3** 正解はウラーピー（ウラーピー＝バシャ）。19世紀後半のエジプトでは対外債務が膨らみ、英仏両国によって財政管理が行われるようになった。イスラーム改革思想の影響を受けた軍人ウラーピーは、1881年に「エジプト人のためのエジプト」をめざす運動を起こしたが、翌年イギリスによって鎮圧され、以後エジプトは事実上イギリスの保護国となった。

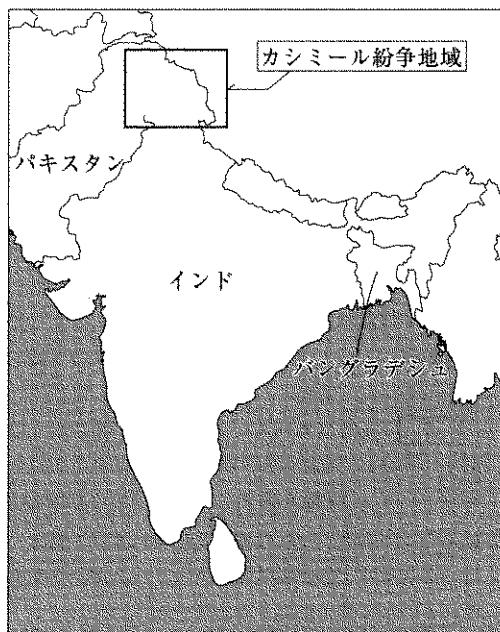
**4** 正解はカースト。ヒンドゥー教の成立以前から存在していたヴァルナと職業集団を示すジャーティによって形成されたインドの複雑な身分制度はカースト制度と呼ばれていた。現在インド憲法ではカーストによる差別は否定されているが、今なおインド社会に深く根を下ろしている。

**5** 正解はサティー。ヒンドゥー教では、寡婦となった女性は、夫の火葬の際に、一緒に焼かれて死ぬことで家に功徳をもたらすと考えられた。ラーム＝モーハン＝ローイらはサティーの禁止運動を進め、イギリス植民地政府も禁止令を出したが、伝統の破壊であるとする反発もあった。

**6** 正解は塩。イギリスはインドにおいて早くから塩を専売品としていた。ラーム＝モーハン＝ローイは渡英後、東インド会社が専売する塩が大変粗悪なもので、価格もそれまで流通していた塩の数倍にのぼることを述べ、この制度を批判している。また、1930年に国民會議派のガンディーは、支持者とともに数百キロの道のりを徒歩で海岸をめざす

「塩の行進」を行った。当時インド帝国が禁じていたインド人自身の手による塩の生産を提唱したもので、ガンディーの行った第2次非暴力・不服従運動である。

7 正解はパキスタン。1935年の新インド統治法施行後、州選挙で国民會議派が躍進を続けると、ジンナーらイスラーム教徒は危機感を募らせ、イスラーム教国家パキスタンの分離独立をめざすようになった。第二次世界大戦後、インド帝国は解体し、インドと東西パキスタンの分離独立が実現した。イスラーム教国として独立したパキスタンは、カシミール地方の帰属をめぐって今日もなおインドと対立を続けている。また、1971年に東パキスタンは、バングラデシュとしてパキスタンから分離独立した。



『独立後のインド』

8 正解はアヘン。イギリスとの間で戦われたアヘン戦争（1840～42）に敗れた清は、南京条約やそれに続く追加条約などで広州における特権商人組合の公行を廃止し、領事裁判権を承認するなどイギリスの圧力に屈し、あわせて五港を開港した。

9 正解は九竜。アヘン戦争の講和条約である南京条約で、イギリスは香港島を獲得したが、これに隣接する九竜半島はアロー戦争後の北京条約でその南部がイギリス領となった。さらに半島全域と周辺の島々は1898年イギリスに99カ年の年限で租借され、今日の香港の領域が形成された。なお、この

領域は1997年に中国に一括返還されている。伊藤博文は、彦島を香港島になぞらえ、これに隣接する下閣を九竜半島になぞらえたわけである。

10 正解は柳条湖。中国東北地方南部で日本の利権保護にあたっていた関東軍は、1928年の国民党による中国統一を背景とした利権回収運動の動きや世界恐慌による日本の輸出不振が続くなか、1931年に南満州（洲）鉄道を爆破する柳条湖事件を起こし、張学良軍の仕業として軍事行動を開始して満州事変となつた。1932年には満州國が建国されたが、翌年、国際連盟が満州國を不承認とすると、日本は連盟を脱退し、国際的な孤立を深めていくこととなつた。

問1 正解は③。国内の不満を解決できないシャルル10世は、1830年にアルジェリアに軍を送り、国内問題の打開をはかるとしたが、その直後に七月革命が勃発し、ブルボン朝の復古王政は崩壊した。①ルイ＝ブランなど社会主義者が参加したのは、1848年の二月革命の際に発足した第二共和政の臨時政府である。②仏越戦争は、1858年に宣教師殺害を口実にナポレオン3世がインドシナに派兵してはじまり、1862年、サイゴン条約が締結されてフランスの勝利に終わり、コーチシナ東部がフランスに割譲された。④プロイセン軍によるパリ占領は、普仏戦争（1870～71）の時である。

問2 (a) 正解はアブデュル＝ハミト2世。オスマン帝国のスルタンであるアブデュル＝ハミト2世は、1876年に宰相ミドハト＝パシャの起草による憲法を発布したが、露土戦争（1877～78）が起るとこれを理由に憲法を停止し、スルタンの專制を復活させた。

(b) 正解は青年トルコ革命。日露戦争（1904～05）の日本の勝利などに刺激され、1908年に青年トルコは無血革命を成功させ、アブデュル＝ハミト2世の退位とミドハト憲法の復活を実現した。

問3 正解は③。イブン＝サウードによってサウジアラビア王国が成立するのは戦間期の1932年である。マフディーの反乱は、1881年にはじまり1898年イギリスによって鎮圧されるまで続いた。iranのタバコ＝ボイコット運動は1891年から1892年にかけて展開され、イギリスからのタバコ利権の回収に成功した。1917年のバルフォア宣言は事実上パレスチナにユダヤ人国家の建設を約束したものであった。1948年にイスラエルが建国を宣言すると、これを認めないアラブ諸国との間で第1次中東戦争が勃発した。1955年にイギリスを中心にイラク・トルコ・イラ

改革者・抵抗者	活動した国	内容
アフガーニー	イラン・オスマン帝国など	パン=イスラーム主義を提唱。イランのタバコ=ボイコット運動、エジプトのウラービー運動などに影響
ウラービー=パシャ	エジプト	英仏の財政管理に抵抗。英軍に敗れセイロン島に流刑
ミドハト=パシャ	オスマン帝国	アジア最初の憲法を制定し、大宰相となつたが、1877年解任され、憲法も停止された
ラーム=モーハン=ローイ	インド	サティー禁止に尽力
ナオロジー	インド	インド国民会議の結成に参加。「富の流出」を指摘し、インド人による自治を要求

〈19世紀西アジア・南アジアの主な改革者・抵抗者〉

改革	時期	推進者	内容
洋務運動	1860年代以降	曾国藩・李鴻章・左宗棠	軍事技術の導入・鉄道建設・産業育成など
変法運動	1898年	康有為・梁啟超・譚嗣同	明治維新を範に立憲体制の樹立を目指す
清末（光緒）新政	1900年代以降	清朝政府	軍の近代化・科挙廃止・憲法大綱の発表など

〈清朝後半の諸改革〉

ン・パキスタンというイギリスの影響力が強い国々によって、中東条約機構（バグダード条約機構、METO）が結成された。

問4 正解は②。タイのラタナコーン（チャクリー王朝は1855年にラーマ4世がイギリスとボウリング条約を結んで開国したが、ラーマ5世（チュラロンコン大王）による近代化が成果をあげたこともあり、英仏の植民地となることはなかった。①タキン党はラングーン大学の学生を中心に結成された民族主義政党で、その指導者は、ノーベル平和賞受賞者で現在のミャンマー（ビルマ）民主化運動の指導者ウン=サン=スーターの父、ウン=サン将軍である。③マレー半島ではマレー人とスズ鉱山・ゴム農園の労働力としてイギリスによって導入された中国人・インド人などの住民グループが、別々に生活する複合社会が形成された。④シンガポールは中国系住民が中心だったため、1965年にマレー人優先政策をとるマレーシアから離脱し、独立国となつた。

問5 (a) 正解はアトリー。ポンペイの水兵反乱を契機にインドの独立の機運が高まると、イギリスでも独立やむなしの世論が高まり、アトリー首相はこれを容認した。

(b) 正解は労働党。第二次世界大戦のドイツ降伏後の総選挙で、チャーチル率いる保守党は敗北し、ポツダム会談のさなかアトリー労働党内閣が成立した。

問6 本文の説明から、「東洋道德、西洋芸術」を、「中体西用」と結びつければよい。アロー戦争

(1856~60)、太平天国の乱（1851~64）に際し、清の八旗・綠營といった正規軍はその無力さを露呈し、太平天国の乱の鎮圧にはもっぱら各地の郷紳らが結成した郷勇があつた。また、アメリカ人ウォードが編制し、その死後はイギリス人のゴードンに率いられた西洋式の常勝軍が活躍したことから、乱鎮圧後漢官僚の曾国藩や李鴻章らにより軍事技術の導入や鉄道建設、洋式工場設立などを進める洋務運動が展開された。同治帝の治世は大きな戦乱もなく改革は順調に進み、同治の中興と称されたが、改革の理念である中体西用は、旧来の徳すなわち儒教理念に基づく中華思想の下で西洋の技術を導入するというもので、政治体制の変革をともなわず、清仏戦争（1884~85）、日清戦争（1894~95）の敗戦でその限界を露呈した。

問7 正解はア i イ b ウ a。ポーツマス条約で韓国の保護権が承認されると、日本は第2次日韓協約で韓国を保護国とし、外交権を接収して韓国統監府を設置して初代統監には伊藤博文が就任した。ハーグ密使事件を契機に第3次日韓協約が結ばれて日本の支配が強化されるなか、韓国では反日武装闘争である義兵運動が激化し、1909年、伊藤博文はハルビン駅で安重根によって暗殺された。1910年に日本は韓国を併合し、統監府に代わり設置された朝鮮総督府の支配が1945年まで続くこととなつた。

## ② 18世紀以降の経済変動

### 【解答】

(A) アダム・スミス

(B) 力織機

(C) フォード

(D) オタワ

(E) ブレトン=ウッズ

(F) シューマン

問1 ①

問2 ウォルポール

問3 穀物法

問4 オコンネル

問5 ③

問6 ④

問7 ②

問8 ラバロ条約

問9 フランスとベルギーがドイツの賠償支払い遅延を理由にルール工業地帯を占領すると、極度のインフレーションとなり、これを収束させるため発行された。(70字)

問10 ④

### 【配点】 (24点)

(A) ~ (F) 各2点×6

問1~問8 各1点×8

問9 3点

問10 1点

#### 問9 [答案作成のポイント]

①ドイツの賠償支払い遅延

②フランス(ベルギー)がルール占領

③インフレーション(物価急騰・通貨価値の急落)

### 【出題のねらい】

本問では、経済変動の歴史について、18~20世紀の経済的な出来事を中心とした年表に関連した問題を出題した。

### 【設問別解説】

(A) 正解はアダム・スミス。アダム・スミスはスコットランドのグラスゴー大学の道德哲学教授として名声を博した。大学を辞した後、重商主義を批判し、政府の規制を排した自由な生産活動による国富増大を主張した『諸国民の富(國富論)』を著して後世に多大な影響を与え続けて、古典派経済学

の祖とされるようになった。なお本書が出版された1776年は、アメリカ合衆国の独立宣言が発せられた年でもある。

(B) 正解は力織機。カートライトが発明した力織機は、外部の動力を利用し、1人の織布工が何台もの織機を同時に運転することを可能とした。その生産効率は1733年にジョン・ケイが発明した飛び梭の3倍以上となった。

(C) 正解はフォード。フォード社は、20世紀初めにアメリカのヘンリイ・フォードが設立した自動車メーカーである。T型車発売後、流れ作業による生産ラインを導入して量産化・低価格化を可能にしたことで自動車の大衆化を実現した。

(D) 正解はオタワ。オタワはカナダの首都である。世界恐慌に対処するため、1932年にイギリス連邦の自治領代表を集めたオタワ連邦会議(イギリス連邦経済会議)では、イギリス本国と自治領間で特恵関税制度を導入して本国製品の販路を確保し、ポンド通貨圏以外からの輸入に高関税をかけることになった。これを定めたのがオタワ協定で、いわゆるスターリング・ブロックが形成されることになった。第一次世界大戦後、経済霸権を失ったイギリスは、スターリング・ブロックの形成によって19世紀以来の自由貿易主義を放棄することになり、またフランスなどもブロック経済を導入したため、世界経済はブロック化し、縮小していった。

(E) 正解はブレトン=ウッズ。ブレトン=ウッズ会議は第二次世界大戦の連合国44カ国による通貨金融会議で、国際通貨体制の再構築のため、国際通貨基金(IMF)と国際復興開発銀行(IBRD、世界銀行)の設立や、通貨安定のための融資の仕組みを決めた。このブレトン=ウッズ協定によってアメリカのドルと金との交換保証を前提として、基軸通貨ドルと各国通貨の固定為替相場制がとられた。だがその後、アメリカ経済が相対的に力を失ってドルへの信用が揺らぎ、アメリカから金が流出するようになったことから、1971年、アメリカのニクソン大統領は金とドルの一時交換停止を宣言し、ブレトン=ウッズ体制は崩壊に向かった。

(F) 正解はシューマン。フランスの外相シューマンは、2度の世界大戦で敵対したフランスとドイツの間にアルザス・ロレーヌ地方などの石炭・鉄鉱石をめぐる資源問題があると考え、また凋落したヨーロッパ再生の意図をもって、両国による同資源の共同管理を提案した。これにオランダ・ベルギー・ルクセンブルク・イタリアも賛同し、1951年に

人物	国 生没年	業績
ケネー	フランス 1694～1774	重農主義の祖。国富の源泉を農業生産とし、自由放任を主張 『経済表』経済学を生産・流通・消費の体系として捉える
チュルゴー	フランス 1727～81	ケネーの弟子 フランス革命前に財務総監として財政再建を試みるが失敗
アダム＝スミス	イギリス 1723～90	古典派経済学の祖。国富の源泉を生産労働とし、分業を評価 『道徳感情論』『諸国民の富（國富論）』
マルサス	イギリス 1766～1834	食料生産と人口増大の不均衡を貧困の原因と主張 『人口論』
リカード	イギリス 1772～1823	古典派経済学。労働価値説から比較優位と国際分業を主張 『経済学および課税の原理』自由貿易に理論的根拠を与える
リスト	ドイツ 1789～1846	歴史学派経済学。保護貿易を主張し、関税同盟の結成に尽力 古典派経済学を批判、国民経済の発展段階の相違を強調
マルクス	ドイツ 1818～83	マルクス主義。経済学・哲学・社会思想を統合 『資本論』剩余価値説で労働者が搾取されていると主張
ケインズ	イギリス 1883～1946	修正資本主義。国家の経済への介入を是認 『雇用・利子および貨幣の一般理論』

〈18～20世紀の主な経済学者〉

パリでヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）条約が結ばれた。この条約は今日のヨーロッパ連合（EU）の出発点となった。

問1 正解は①。ニジェール川中流域に位置したガーナ王国は11世紀にはすでに衰退しており、16世紀から盛んになったアメリカ大陸への奴隸貿易には従事していない。奴隸供給源となったのは、現在のナイジェリアに位置するベニン王国や現在のベナンに位置するダホメ王国などであった。②カリブ海のフランス領サン＝ドマングでは、1791年に砂糖やコーヒーのプランテーション労働力として導入された黒人奴隸の反乱が起こった。指導者トゥサン＝ルヴェルチュールはフランス軍に捕らえられたものの、彼の後継者らは1804年にハイチとして独立を宣言し、史上初の黒人共和国となった。③イギリスでは、福音主義の政治家ウィルバーフォースによる反奴隸貿易の運動が行われ、1807年に奴隸貿易の廃止、1833年には奴隸制の廃止が実現した。④奴隸解放宣言は、南北戦争中の1863年にアメリカ大統領リンカーンによって発せられ、戦後の1865年にはその内容が憲法修正第13条に明記されることになった。

問2 正解はウォルポール。ウォルポールはホイッグ党の政治家で、南海泡沫事件を收拾して経済を立て直したことから、1721年に事実上の首相に就任し、1742年まで長期にわたって政権を担当した。この間、ハノーヴァー朝のジョージ1世およびジョージ2世が王であったが、ドイツから王として迎えられたジョージ1世は国政に疎かったこともあって、内

閣制度が発達した。ジョージ2世からも信任を受けたが、その後、議会選挙でトーリ党に敗れたことから首相を辞任した。ここから内閣は議会に対して責任をもつという責任内閣制度が形成されていった。

問3 正解は穀物法。イギリスでは、ナポレオン戦争以前から閉い込み運動（第2次）が推進され、大規模農業経営が行われていたが、ナポレオン戦争の終結によってヨーロッパ大陸から安価な穀物が流入することを警戒して、1815年、地主優位であった議会は輸入関税を引き上げる穀物法を制定した。産業資本家はこれに反発し、1839年にはマン彻スターに反穀物法同盟が結成され、コブデンやブライトを中心に反穀物法運動を展開した。こうした動きに、1845年に起こったアイルランドにおけるジャガイモ飢饉もあいまって、保守党のピール内閣は1846年に穀物法を廃止し、これによってイギリスにおける自由貿易が大きく前進した。

問4 正解はオコンネル。アイルランドは1801年にイギリスに併合されたが、カトリック教徒のアイルランド人は審査法によって公職に就くことができなかった。アイルランドの政治家オコンネルは、1828年に下院議員に選出されたが、審査法によって議員就任を拒否された。しかし、これに反発するアイルランド人の民族運動が高揚したため、トーリ党ウェリントン政権の下で1828年に審査法は廃止され、1829年にカトリック教徒解放法が制定されてオコンネルの議員就任が認められた。なおウェリントンは、1815年のワーテルローの戦いでナポレオンに勝利し

たイギリス軍の司令官でもある。

問5 正解は③。第2インターナショナルのアムステルダム決議を受けて、1903年にフランスで結成されたのは、急進社会党ではなくフランス社会党である。急進社会党はドレフュス事件に際して共和派が結集して結成された政党で、小ブルジョワや小農民を支持基盤とした。①②第1インターナショナルは、1863年に勃発したボーランド反乱をイギリスの労働者などが支援したことが契機となって1864年にロンドンで結成された。1871年のパリ＝コミューンを支持したことから各国で弾圧を受け、1876年に解散した。④第2インターナショナルは1889年にフランス革命100周年を記念してパリで結成され、やがてドイツ社会民主党が主導した。反戦平和主義を標榜したが、1914年に第一次世界大戦が勃発すると、各国の社会主义政党が自国の「防衛戦争」を支持したことから崩壊にいたった。

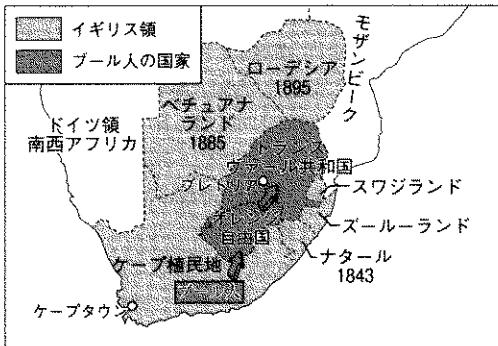
問6 正解は④。アイルランド自治法案は、自由党のグラッドストン内閣が1886年と1893年の2回議会に

提出したが否決された。アイルランド自治法が成立したのは自由党のアスキス内閣時の1914年であるが、第一次世界大戦の勃発によって実施は延期され、戦後の1922年にアイルランド自由王国としてイギリスの自治領となった。①フランスで元陸軍大臣のブーランジェがクーデタ未遂事件を起こしたのは1887～89年である。②露仏同盟の成立は、1891～94年にかけてのことで、フランス資本を導入したシベリア鉄道の建設も1891年に開始された。なお、露仏同盟の成立は、フランスの孤立化を推進したビスマルクが1890年に首相を辞任し、皇帝ヴィルヘルム2世の親政下でドイツがロシアとの再保障条約の更新を拒否したことを背景とする。③フロンティアの消滅は、1890年にアメリカ合衆国政府の国勢調査で発表された。

問7 正解は②。a. 17世紀半ば以来、オランダの植民地であったケープ植民地は、1815年のウィーン講定書でイギリス領となった。イギリスの支配を嫌うオランダ系のブル（ボーア）人たちは北方に移動

会 議	日時・場所	出席 者	協 議・決 定 事 項
大西洋上会談	1941年8月大西洋上、イギリス戦艦「プリンス・オブ・ウェールズ」	ローズヴェルト チャーチル	領土不拡大・民族自決・貿易の自由と拡大・労働条件と社会保障の改善・海洋の自由・軍備縮小・平和機構の再建などの「 <b>大西洋憲章</b> 」を発表、戦争目的の明確化。対独戦争及びソ連援助、他
カサブランカ会談	1943年1月 (モロッコ)	ローズヴェルト チャーチル	対独無条件降伏の基本線確認。北アフリカ・地中海作戦の協議
カイロ会談	1943年11月 (エジプト)	ローズヴェルト チャーチル 蔣介石	対日処理方法の決定。「 <b>カイロ宣言</b> 」発表 ①日本は、1914年以後に獲得した太平洋上の全島を喪失。②満州・台湾・澎湖諸島を中国に返還。③朝鮮の独立。④日本の無条件降伏、他
テヘラン会談	1943年11月 ～12月 (イラン)	ローズヴェルト チャーチル スターリン	①第二戦線の最終的決定(ノルマンディー上陸) ②戦後の国際安全保障組織(国際連合)の設立
ダンバートン=オーカス会議	1944年8月 ～10月 (アメリカ)	米・英・ソ・中	国際連合憲章原案を作成
ヤルタ会談	1945年2月 (ソ連)	ローズヴェルト チャーチル スターリン	「 <b>ヤルタ協定</b> 」を締結。①ドイツの無条件降伏と英・米・仏・ソ連4カ国による占領管理。②ドイツ軍隊の解体、軍国主義の一掃他。③賠償金。④ソ連の対日参戦と樺太・千島の獲得。⑤国連安保理における拒否権の確認
サンフランシスコ会議	1945年4月 ～6月 (アメリカ)	連合国50カ国	国際連合憲章を採択
ポツダム会談	1945年7月 ～8月 (ドイツ)	トルーマン チャーチル (後にアドラーと交代) スターリン	ドイツの処理を最終決定。米・英・中で対日共同宣言「 <b>ポツダム宣言</b> 」発表。①日本の無条件降伏。②領土を本土の4島に削減。③完全武装解除、軍国主義絶滅。④戦犯の処罰、他

〈第二次世界大戦中の主な連合国首脳会談〉



<1898年の南アフリカ>

し、19世紀半ばにトランスヴァール共和国やオレンジ自由国を建てた。b. セシル・ローズは、1890年代前半に現在のザンビアやジンバブエにあたる地域を支配下に置いていた。この地域は彼の名にちなんでローデシアと名づけられた。その後、トランスヴァール・オレンジ両国への侵入をはかったが失敗して失脚した。代わってイギリス本国が侵略の主体となり、植民地相ジョゼフ・チェンバレンの主導で1899～1902年の南アフリカ（ブルー）戦争で両国を征服した。1910年には両国とケープ植民地などを合わせてイギリス自治領南アフリカ連邦とした。

**問8 正解はラバロ条約。** ヴェルサイユ体制の下で孤立していたドイツとソヴィエト政権は、イタリアで開催された経済会議に招かれた際に、ラバロ条約を結んで国交を樹立した。その際、ドイツは第一次世界大戦の賠償を、ソヴィエト政権は帝政時代の対ドイツ債務を相殺することに合意した。

**問9 レンテンマルク発行までの1923年の出来事をまとめればよいので、ドイツが賠償支払い遅延の宣言を行ったこと、フランスとベルギーによるドイツのルール工業地帯の占領、そしてそれにともなう激しいインフレーションに対応してレンテンマルクが発行されたことを述べればよい。** 第一次世界大戦に敗北したドイツはヴェルサイユ条約で賠償が課され、1921年に1320億金マルクという莫大な金額が決定した。戦後のドイツ経済はインフレ基調であったが、支払い能力を超えた賠償は国民生活に打撃を与えた。戦勝国のフランスも同様に経済的苦境にあったが、政府はドイツの賠償金を債務返済にあてていたことから、ドイツの賠償支払いが遅延すると、1923年にベルギーを誘ってドイツ最大の工業地帯であるルール地方を占領した。これに対してドイツの労働者はサボタージュなどによる抵抗を行ったことから生産が滞り、物価の急騰を招いてマルクの価値は開

戦直前の1兆分の1に下落した。この経済的破綻状況を收拾したのが、暴落した旧マルク紙幣1兆マルクに対し1レンテンマルクの比率の交換でシュトレーゼマン政権下で発行された、不動産を基礎とする紙幣レンテンマルクであった。ドイツ賠償問題は、イギリス・フランスのアメリカに対する戦債返済と連関しており、賠償と戦債の支払いを円滑化する枠組みを構築することが急務となり、1924年にアメリカの実業家ドーズを委員長とする国際的な賠償委員会がドーズ案を提示し、アメリカ資本のドイツへの投下によるドイツ経済の復興を促し、ドイツの賠償支払いとイギリス・フランスの戦債返済を促す枠組みが作られた。これを受けて、フランス・ベルギーはルールからの撤退を決定し、ドイツ・フランスの協調も進んで、1925年にはロカルノ条約が締結された。

**問10 正解は④。** フランクリン・ローズヴェルトは1945年7月から開催されたポツダム会談には参加していない。ローズヴェルトは1945年2月のヤルタ会談に出席した後4月に死亡しており、副大統領から昇格したトルーマンがポツダム会談に出席した。①ローズヴェルト政権はラテンアメリカへの外交方針を転換して善隣外交を推進し、1934年には保護国としていたキューバの独立を認めた。②1941年8月、ローズヴェルトはイギリス首相チャーチルと大西洋上会談を行い、領土不拡大・民族自決・平和機構の再建などの8カ条にわたる大西洋憲章を発表した。③1940年にドイツにフランスが降伏し、フランス北部がドイツの占領下に、フランス南部が対ドイツ協力政府であるヴィシー政府の統治下に入ると、翌1941年ローズヴェルトは中立法を改正して武器貸与法を制定し、孤立したイギリスへの軍事支援に乗り出した。武器貸与法は、その後ソ連を含めた連合国に適用された。

### ③ 中欧とバルカン半島の歴史

#### 【解答】

- |   |         |
|---|---------|
| 1 | アッティラ   |
| 2 | オットー1世  |
| 3 | スレイマン1世 |
| 4 | デウシルメ   |
| 5 | バトゥ     |
| 6 | ニコポリス   |
| 7 | フス      |
| 8 | カルロヴィッツ |

**9** サライエヴォ

**10** ウィルソン

問1 ①

問2 カノッサの屈辱

問3 ティマール制

問4 ④

問5 ③

問6 ①

問7 ①

問8 ④

### 【配点】 (26点)

**1** ~ **10**

各1点×10

問1~問8

各2点×8

### 【出題のねらい】

本問は、中欧とバルカン半島という地域を対象として、その古代から現代にいたるまでの歴史を通じて、それに関連する事柄を中心に出題した。

### 【設問別解説】

**1** 正解はアッティラ。ゲルマン人の大移動の契機となったフン人は、現在のカザフスタンからウクライナにかけて遊牧生活を行っていた。4世紀に彼らは西に向かって移動を開始した。5世紀にフン人はアッティラ大王の下でパンノニア（現在のハンガリー）を中心に大帝国を建設し、さらに西ヨーロッパに侵入したが、451年のカタラウヌムの戦いで西ローマ・西ゴート・フランク連合軍に敗れた。

その翌年にはイタリアに侵入したが、ローマ教皇レオ1世に説得されて撤退した。その後パンノニアに戻ったところで急死し、帝国も崩壊した。

**2** 正解はオットー1世。オットー1世は東フランク（ドイツ）のザクセン朝第2代の王（位936~73）で、レヒフェルトの戦いで東方より侵入したマジャール人を破り、スラヴ人なども討った。さらに諸侯勢力をおさえ、イタリアに遠征してローマ教皇を援助した。こうしたことに対してローマ教皇ヨハネス12世は、962年にローマ皇帝の帝冠を受けた。これによりドイツ王がローマ皇帝の称号を受け継ぐことになり、神聖ローマ帝国の起源となつた。

**3** 正解はスレイマン1世。スレイマン1世（位1520~66）はオスマン帝国第10代のスルタンで、最盛期を築いた。立法者（カースーニー）と称されるように内政にも力を入れたが、対外的にも積極的にヨーロッパ方面に進出した。1526年のモハーチの戦いでハンガリーの大半を支配下に入れ、1529年には第1次ウィーン包囲を行って神聖ローマ皇帝カール5世を苦しめた。さらに地中海方面においては1538年のプレヴェザ海戦でスペイン・ヴェネツィア・ローマ教皇の連合艦隊を破り、地中海の制海権を掌握した。また、フランス王のフランソワ1世と結んでハプスブルク家に対抗した。

**4** 正解はデウシルメ。デウシルメ制とは、オスマン帝国の下で行われた徴発制度で、バルカン半島のキリスト教徒の少年がその主な対象であった。徴発された少年はイスラーム教に改宗させられ、教育や訓練が施されて官僚や常備歩兵軍團のイ

系統	民族	建国〔成立時期〕	主な宗教
西スラヴ人	ポーランド人	ポーランド王国〔10世紀〕	カトリック
	チェック人	モラヴィア王国〔9世紀〕	カトリック
	ボヘミア（ベーメン）人	ボヘミア（ベーメン）王国〔10世紀〕	カトリック
南スラヴ人	スロヴァキア人	モラヴィア王国（チェック人と統一国家）〔9世紀〕	カトリック
	セルビア人	セルビア王国〔11世紀〕	ギリシア正教
	クロアチア人	フランク王国などに服属	カトリック
東スラヴ人	スロヴェニア人	フランク王国などに服属	カトリック
	ロシア人	ノヴゴロド国〔9世紀後半〕 (ノルマン人が建国、次第にスラヴ化)	ギリシア正教
	ブルガール人	ブルガリア王国〔7世紀〕(南スラヴ人に同化)	ギリシア正教
アジア系	マジャール人	ハンガリー王国〔10世紀末〕	カトリック
	ルーマニア人	ワラキア公国〔14世紀頃〕 モルダヴィア公国〔14世紀〕	ギリシア正教

〈東欧の諸民族〉

スルタン	在位期間	業績
オスマン1世	1299～1326	アナトリア西部で自立し、オスマン帝国を創始
ムラト1世	1362～89	アドリアノープル遷都 コソヴォの戦い（1389）でセルビアなどバルカン連合軍を破る
バヤジット1世	1389～1402	ニコポリスの戦い（1396）でヨーロッパ軍を破る アンカラの戦い（1402）でティムールに敗れ、オスマン帝国中断
メフメト2世	1444～46 1451～81	コンスタンティノープルを攻略、ビザンツ帝国を滅ぼす（1453） イスタンブル遷都
セリム1世	1512～20	チャルディラーンの戦い（1514）でサファヴィー朝を破る マムルーク朝を滅ぼし（1517）、メッカ・メディナ支配
スレイマン1世	1520～66	モハーチの戦い（1526）でハンガリーの大半獲得 第1次ウィーン包囲（1529） ブレヴェザ海戦（1538）でスペインなど西欧連合軍を破る 仮王フランソワ1世と同盟 イスタンブルにスレイマン＝モスク造営
アフメト3世	1703～30	チューリップ時代 対西欧宥和政策をとりつつ国内で文化振興をはかる

〈18世紀までのオスマン帝国の主なスルタン〉

エニシェリに登用された。

**5** 正解はパトウ。パトウはチンギス・ハンの孫で、長子ジュチの子である。チンギス・ハンの後を継いだオゴタイ・ハンはパトウにヨーロッパ遠征を命じた。パトウ率いるモンゴル軍は1241年にチュレジエン地方で行われたワールシュタットの戦いでドイツ・ポーランド諸侯連合軍を破った。その後パトウは南ロシアにキプチャク・ハン国を建てた。

**6** 正解はニコボリス。1389年のコソヴォの戦いでバルカン進出に弾みをつけたオスマン帝国に脅威を感じたヨーロッパでは、ハンガリー王ジギスムントを中心に、バルカン諸国と西ヨーロッパ諸国による対オスマン十字軍が結成され、両者は1396年にブルガリア北部のニコボリスで衝突した。結果はバヤジット1世率いるオスマン帝国側の勝利となり、オスマン帝国がドナウ以南のバルカン半島を確保した。

**7** 正解はフス。フスはボヘミア（ベーメン）のプラハ大学神学教授で、イギリスのウィクリフと共に鳴り、混乱するカトリック教会を批判した。また聖書のチェコ語訳も行い、聖書を中心とする教会改革を主張したが、コンスタンツ公会議に召喚され、異端と断じられ火刑に処せられた。これがきっかけとなってボヘミアのフス派の住民がフス戦争を起こした。当時のボヘミアはカトリック教会とドイツ人が強い勢力を有しており、こうしたことに対するボヘミアのチェック人の反発もフス戦争につながっていた。

**8** 正解はカルロヴィッツ。16世紀以来、オ

ーストリアとオスマン帝国は断続的な戦争を繰り返していたが、オーストリアは1683年の第2次ウィーン包囲を退けて、オスマン帝国に対して優位に立ってハンガリーを征服し、1699年のカルロヴィッツ条約でオスマン帝国からのハンガリー獲得を確定させた。

**9** 正解はサライエヴォ。1914年6月28日、ボスニアの州都サライエヴォで、オーストリア皇位継承者夫妻がセルビア人の青年によって暗殺されるというサライエヴォ事件が起こった。この事件の背景には、青年トルコ革命（**I問2(b)**の解説参照）に乗じてオーストリアがボスニア・ヘルツェゴビナを併合したことに対するセルビアの反発があった。当時のセルビアでは、バルカン半島のセルビア人を統合して大セルビア国家樹立をめざす大セルビア主義が高まっており、オーストリアのこうした動きがセルビア人の反感を招き、サライエヴォ事件を引き起こした。

**10** 正解はウィルソン。民主党のウィルソン（任1913～21）は、合衆国第28代大統領である。第一次世界大戦に際して中立の立場をとってきたが、ドイツの無制限潜水艦作戦をきっかけに連合国側で参戦した。1918年1月に14カ条の平和原則を発表し、戦争終結を訴えた。これはロシア十一月革命（ロシア暦十月革命）後に出された「平和に関する布告」や、これを黙殺されたソヴィエト政権が帝政ロシアが行ってきた秘密外交を暴露するという動きに対するなかで発表された。大戦休戦後、パリ講和会議にはウィルソン自身も参加し、彼が提唱した14

カ条の平和原則が基本原則とされたが、ドイツに対して強硬な姿勢の英仏のために、講和条約ではその原則が十分には適用されなかった。

**問1 正解は①。**スキタイは前6世紀頃、南ロシア一帯に勢力を拡大した。彼らの活動により草原の道（ステップ＝ロード）を通じて匈奴など内陸アジアの騎馬民族の活動が活発化した。②匈奴の全盛期は冒頓单于の時代で、彼は後漢の劉秀ではなく前漢の建国者劉邦（高祖）と争い、これを破った。③突厥はエフタルを滅ぼすが、彼らが結んだのはアケメネス朝ではなくホスロー1世の時代（6世紀）のササン朝ペルシアである。④ウイグルはモンゴル系ではなくトルコ系である。彼らは安史の乱に際して唐を支援するなど8世紀にはモンゴル高原で強勢を誇ったが、9世紀に同じトルコ系のキルギスによって滅ぼされて一部は西走した。中央アジアのトルコ化はじまるのはこの頃からである。

**問2 正解はカノッサの屈辱。**クリュニー修道院の教会刷新運動の影響を受けたとされる教皇グレゴリウス7世は、聖職者の妻帯や聖職売買を禁止するなどの教会改革を進めた。叙任権闘争では、神聖ローマ帝国における聖職者の叙任権をめぐって皇帝ハインリヒ4世と対立し、彼を破門した。破門されたハインリヒ4世はドイツ諸侯の支持を失い、北イタリアのカノッサに滞在中のグレゴリウス7世を訪ねて許しを請い、破門は解かれた。これがカノッサの屈辱であるが、このことはローマ教皇の権威が上昇し、神聖ローマ皇帝の権威を上回る契機となったとされる。

**問3 正解はティマール制。**オスマン帝国ではシバーヒーと呼ばれた騎士などに、軍役を課す見返りに土地を配分し、俸禄としてその徴税権を与えた。これをティマール制という。この制度はイスラーム世界でアユーフ朝にはじまり、セルジューク朝時代に整備され継承されてきたイクター制を受け継ぐものであるが、11世紀以降のビザンツ帝国で行われてきたプロノイア制の影響もあると考えられる。

**問4 正解は④。**オゴタイ＝ハンはバイカル湖の南、オルホン川の流域にカラコルムを建設して都とした。①カラ＝ハン朝は、10世紀に中央アジアに成立了トルコ系最初のイスラーム王朝であるとされ、中央アジアのトルコ人のイスラーム化を促進した。11世紀には東西に分裂し、12世紀前半にともに西遼（カラ＝キタイ）に征服された。13世紀にはイラン高原にはホラズム朝があったが、チンギス＝ハンの遠征を受けて事実上滅亡した。②高麗を属国とした

のは、オゴタイ＝ハン（位1229～41）ではない。高麗はオゴタイ＝ハンの時代からモンゴルの侵入を受けているが、オゴタイ＝ハンの死後の1259年に属国となった。③金を建てたのは契丹人ではなく女真人である。

**問5 正解は③。**c. ドイツではルターが1517年に95カ条の論題を発表し、宗教改革がはじまった。d. ルターの改革の思想は、ドイツ国内に広まり、さまざまな搾取を受けていたドイツの農民たちにも支持され、彼らがドイツ農民戦争を起こした（1524～25）。これに対し、ルターは当初同情的であったといわれるが、農民の要求が農奴制の廃止など社会変革を求めるものとなると、諸侯に鎮圧を呼びかけた。a. 農民戦争は鎮圧されたが、ルター派諸侯と皇帝との対立が生じた。イタリア戦争やスレイマン1世のオスマン帝国軍の侵攻などの危機に直面した神聖ローマ皇帝カール5世は、シュバイアー（シュバイエル）帝国議会でルター派を黙認する態度をとり、国内諸勢力の团结をはかった。しかし、対外情勢が好転すると皇帝は1529年に再びシュバイアーで帝国議会を開催し、ルター派を禁じる措置をとった。これに対し、ルター派が抗議したことからプロテスタントという新教派の呼び名が生まれ、またルター派の諸侯・都市は、1530年にシュマルカルデン同盟を結成して皇帝に対抗した。b. ルター派の諸侯と皇帝派は、1546年にシュマルカルデン戦争に突入し、翌年に皇帝派が勝利したものの、ルター派諸侯と皇帝との対立は解消されなかった。そこで1555年にアウクスブルクの宗教和議が成立し、諸侯と都市にカトリックカルター派の選択権を認めてルター派を容認した。なお、アウクスブルクの宗教和議ではカルヴァン派の信仰や個人の信仰の自由は認められなかった。

**問6 正解は①。**ナポレオン1世はプロイセンとロシアをイエナの戦いなどで破り、1807年にプロイセンにとって屈辱的なティルジット条約を締結した。これによりプロイセンの領土は大幅に削減され、プロイセン領ポーランドにはワルシャワ大公国が建てられた。アミアンの和約は統領政府時代のナポレオンが、1802年にイギリスとの間に締結したもので、これにより第2回対仏大同盟は崩壊した。②ウィーン会議の結果、ポーランドにはポーランド立憲王国が成立したが、その王位はロシア皇帝が兼ね、事実上のロシア領となつた。③第一次世界大戦後、ロシアから独立したポーランドは、第1次ポーランド分割以前の領土回復をめざしてソヴィエト政権下のロシ



〈2014年現在の中欧とバルカン半島〉

アに侵入してソヴィエト＝ポーランド戦争が勃発した。④1956年、ソ連共産党第20回大会でフルシチョフはスターリン批判を行い、従来のソ連の路線から平和共存路線への転換を打ち出した。また、コミニフォルムを解散して社会主義圏への姿勢も転換した。こうした動きは社会主義陣営に動揺をもたらした。ポーランドではポズナニで反政府自由化暴動（ポズナニ暴動）が発生したが、政権に就いたゴムウカはこの動きを押さえ込み、ソ連の軍事介入を回避した。この時期、ハンガリーでも反ソ暴動が発生したが、政権を握ったナジ（＝イムレ）は、ワルシャワ条約機構からの脱退などを表明したためソ連軍が介入し、ナジは捕らえられ、処刑された。

問7 正解は①。a. 1848年のフランス二月革命は、各地の民族運動を高揚させ、「諸国民の春」と称される事態を招いた。ボヘミアではプラハで、バラツキーを指導者にスラヴ民族会議が開催され、スラヴ人の団結とオーストリアに対する自治を求めた。b. ハンガリーではコシュートの指導の下で独立政府が樹立された。

問8 正解は④。こうした地図問題の場合、まず大きな手掛かりとして地形に注目する。イタリア半島のイタリアは容易にわかるであろうから、このイタリアの北に隣接するBがオーストリアであることを導き出したい。Bの北側に隣接するAはチェコで、問題文中のボヘミアとはこの国の西部を、モラヴィアは東部を指す。またBの東側のCはハンガリーで、その南に隣接するDはセルビアである。セルビアの南東に位置するEはブルガリアである。

## 4 エネルギー源の歴史

### 【解答】

#### 〔設問I〕

- 問1 始皇帝
- 問2 アルキメデス
- 問3 ドイツ騎士団
- 問4 ラグイド運動
- 問5 アクティウムの海戦
- 問6 文永・弘安の役
- 問7 ムスリム同胞団
- 問8 ステュアート朝
- 問9 フィラデルフィア
- 問10 京都
- 問11 第五福竜丸
- 問12 ウクライナ

#### 〔設問II〕

- 問a ②
- 問b ③
- 問c ①
- 問d ③
- 問e ①
- 問f ③

### 【配点】 (24点)

問1～問12	各1点×12
問a～問f	各2点×6

### 【出題のねらい】

エネルギー源の歴史について、Aでは人力と畜力を、Bでは風力と水力を、Cでは火力と蒸気機関を、Dでは石油を、Eでは原子力を扱って出題した。

### 【設問別解説】

#### 〔設問I〕

問1 正解は始皇帝。秦王政は秦を率いて前221年に中国を統一し、新たに皇帝の称号を採用した（始皇帝）。彼は丞相に李斯を起用して法家思想に基づく統治を行い、郡県制を施行した。また貨幣を半兩銭に、文字を小篆に統一し、度量衡の統一を行った。対外的には北方の匈奴に遠征を行い、さらに万里の長城の修築や大規模な宮殿・陵墓の造営を行った。しかし、彼の死後、秦の法家思想に基づく厳しい統治や急激な中央集権化が人々の反発を招き、陳勝・

呉広の乱が起こると各地で反乱があいつぎ、最終的には前206年に秦は滅亡した。

問2 正解はアルキメデス。アルキメデスは前3世紀のシチリア島出身の数学・物理学者で、アレクサンドリアのムセイオンに学び、浮体の原理（アルキメデスの原理）などを発見した。その後、第2次ポエニ戦争の際にシチリア島のシラクサを攻撃したローマ兵に殺害された。

問3 正解はドイツ騎士団。ドイツ騎士団は第3回十字軍の際に結成された宗教騎士団で、後にエルベ川以東への東方植民を行ってバルト海沿岸地域にドイツ騎士団領を形成し、同地をキリスト教化した。しかし、1410年にポーランドのヤグウォ朝とのタンネンベルクの戦いに敗れて劣勢となり、支配領域を縮小した。ドイツ騎士団領は16世紀のルターの宗教改革の影響を受け騎士団長がルター派に改宗し、その後プロイセン公国となった。1618年にはホーエンツォレルン家のブランデンブルク選帝侯が継承してここにブランデンブルクとプロイセンの同君連合が成立した。17世紀半ばにポーランドの宗主権から脱し、1701年のスペイン継承戦争を機にフリードリヒ1世が神聖ローマ皇帝より王号を認められ、ブランデンブルク＝プロイセンはプロイセン王国となつた。

問4 正解はラダイト運動。ラダイト運動は1810年代にイギリスで行われた機械打ち壊し運動のこと、産業革命期の機械化の進展によって失業した手工業者や労働者が起こした。これに対して政府が厳しい弾圧を行ったため、運動は沈静化した。

問5 正解はアクティウムの海戦。アクティウムの海戦は前31年にローマのオクタウ（ヴ）ィアヌスが、アントニウスとブトレマイオス朝の女王クレオパトラの連合軍を撃破した戦いで、翌年クレオパトラが自害してブトレマイオス朝は滅亡した。前27年には、オクタウィアヌスは元老院からアウグストゥス（尊厳者）の称号を与えられ、自らは「第一の市民（プリンケプス）を称して実質的な帝政である元首政（プリンキパトゥス）を開始した。

問6 正解は文永・弘安の役。高麗を征服した元のフビライ＝ハンは、日本の鎌倉幕府に使者を派遣し服属を要求したが拒否されたため、1274年日本に遠征軍を派遣した。元軍の兵器や集団戦法は日本軍を苦しめたが、暴風雨に遭い撤退した（文永の役）。南宋を滅ぼした後の1281年、フビライ＝ハンは再び遠征軍を派遣したが、日本側の抵抗と暴風雨などの影響で撤退した（弘安の役）。

問7 正解はムスリム同胞団。ムスリム同胞団は1920年代末にハサン＝アルバナンによって創設された政治結社で、イスラームの教えに立ち返り、『コーラン（クルアーン）』を憲法とするイスラーム国家の建設を目的とする。ムバラク大統領の失脚により2011年に行われたエジプトの大統領選挙でムスリム同胞団出身のム（モ）ルシが当選したが、2013年に軍のクーデタによって失脚した。

問8 正解はステュアート朝。ステュアート朝は14世紀後半にスコットランドに成立した王朝で、17世紀初めにはイングランドのテューダー朝の断絶によってジェームズ6世がイングランド王ジェームズ1世（位1603～25）として即位し、これによってイングランドと同君連合を形成した。ジェームズ1世とその子チャールズ1世（位1625～49）はイングランドの議会と対立し、チャールズ1世はピューリタン革命によって処刑されて共和政（コモンウェルス）が成立した。1660年王政復古によってステュアート朝は復活したが、ジェームズ2世期には名譽革命（1688～89）が起り、権利の章典によって立憲君主政が確立した。その後、アン女王時代にはイングランドとスコットランドが合併して大ブリテン王国となつたが、その死によってステュアート朝は断絶し、ドイツのハノーヴァー選帝侯が王位を継承してジョージ1世となり、1714年にハノーヴァー朝が成立了。

問9 正解はフィラデルフィア。フィラデルフィアはペンシルヴァニア州の都市で、アメリカ独立戦争期にはここで大陸会議が開催され、アメリカ独立宣言が出された。そして独立戦争後にはこの都市で憲法制定会議が開催された。また、1790年から1800年まで、アメリカ合衆国の首都となつた。

問10 正解は京都。1997年、京都で160以上の国・地域・NGOが参加して気候変動枠組条約第3回締約国会議（京都会議）が開催され、二酸化炭素など先進国の温室効果ガス削減目標を盛り込んだ京都議定書が採択された。京都議定書はロシアが2004年に批准したことから2005年に発効したが、アメリカはまだ批准していない。

問11 正解は第五福竜丸。1954年、アメリカは南太平洋のビキニ環礁で水爆実験を行ったが、この際に日本の漁船である第五福竜丸の乗組員が放射性物質（死の灰）を浴び、乗組員1人が死亡した（第五福竜丸事件）。この事件を契機に国際的に原水爆禁止運動が高揚していった。

問12 正解はウクライナ。1986年4月、当時のソ連

(現ウクライナ) のチェルノブイリ原子力発電所が暴走事故を起こし、放射性物質が拡散して多くの被害を出した。この事故はソ連のゴルバチョフ書記長が打ち出したグラスノスチ(情報公開)が本格化するきっかけとなった。

#### 〔設問Ⅱ〕

問a 正解は②。春秋時代の有力諸侯は霸者と呼ばれ、諸侯同盟の会盟を指導した。歴史上の代表的な霸者は「春秋の五霸」と呼ばれ、「尊王攘夷」を唱えた齊の桓公や、晋の文公などがある。①周(西周)が西方の周辺民族の戎寇の侵入を受けて攻略された都は洛邑ではなく鎬京である。その後、鎬京から都を洛邑に遷都した。これ以降の周を東周と呼ぶ。③戦国時代の韓・魏・趙で使用された青銅貨幣は、半両銭ではなく布銭などである。半両銭は秦の始皇帝による統一貨幣である。④諸子百家の一つである道家は、無為自然を唱えたが、兼愛や非攻を唱えたのは墨家である。

問b 正解は③。オランダの圧政に対し、1825年にジャワの王族ディボネゴロに指導されてジャワの民衆が反乱を起こした(ジャワ戦争、1825~30)。オランダはこれを鎮压したが、財政難に陥ったため、それを補うために1830年以降ジャワで強制栽培制度を

行った。①スペインからのオランダ独立戦争中に、南部10州はスペインと結んで戦争から離脱したが、北部7州は1579年にユトレヒト同盟を結成して独立戦争を継続し、1581年にネーデルラント連邦共和国として独立を宣言した。1609年にスペインと休戦条約を結んで事実上独立し、1648年のウェストファリア条約で独立が国際的に承認された。②オランダはアメリカ大陸の植民地であるニューネーデルラントを1664年にイギリスに奪われた。ニューネーデルラントの中心都市がニューアムステルダムで、イギリスによってニューヨークに改称された。その後第2次英蘭戦争によってイギリスのニューヨーク領有が確定した。④1992年にオランダのマーストリヒトで、ヨーロッパ連合(EU)の設立を定める条約が結ばれた。このマーストリヒト条約によって、翌1993年にヨーロッパ連合が設立された。

問c 正解は①。1004年に北宋は遼との間に北宋を兄、遼を弟とする澶淵の盟を結んで講和し、毎年遼に銀と絹を贈った。また、1044年に北宋は西夏との間に慶曆の和約を結んで臣下の礼をとらせたが、毎年西夏に銀・絹・茶を贈った。②王安石の新法のうち、農民に低利融資を行うことを規定したのは市易法ではなく青苗法である。市易法は中小商人に対する

#### ヨーロッパ方面

戦い・戦闘	内 容
スターリングラードの戦い	1942年8月~1943年2月 ソ連が勝利し戦局が逆転
イタリア上陸作戦	1943年7~9月 米英軍がシチリア島を経てイタリア本土に上陸 ムッソリーニが失脚し、バドリオ政権が連合国に降伏
ノルマンディー上陸	1944年6月 連合国が北フランスのノルマンディーに上陸 最高司令官アイゼンハワー 第二戦線の構築
ドレスデン大空襲	1945年2月 ドイツの古都ドレスデンを連合国が無差別爆撃
抵抗運動	レジスタンス…フランス語で「抵抗」の意で、占領地の民衆による抵抗運動 バルチャザン…ユーゴスラヴィアでティトーが指導する遊撃戦の武装抵抗

#### アジア・太平洋方面

戦い・戦闘	内 容
ノモンハン事件	1939年5~9月 満州帝国とモンゴル人民共和国の国境で限定戦争 日本の關東軍とモンゴル・ソ連軍が戦い、日本側が敗北
真珠湾奇襲	1941年12月8日 日本軍がハワイ真珠湾のアメリカ海軍基地を攻撃 太平洋戦争の開始
ミッドウェー海戦	1942年6月 中部太平洋で日本海軍がアメリカ海軍に敗北 戦局が日本劣勢へ転換
東京大空襲	1945年3月 アメリカ軍の無差別爆撃
沖縄上陸戦	1945年4~6月 アメリカ軍が沖縄本島に上陸し、6月に日本軍は壊滅
広島・長崎原爆投下	1945年8月6日・9日 アメリカは8月6日に広島に、9日に長崎に原爆投下 8月14日に日本はポツダム宣言の受諾を連合国に通告

〈第二次世界大戦関係の主な戦い・戦闘〉

る低利融資を行うことを規定している。③靖難の役ではなく靖康の変で北宋が滅ぼされると、高宗は南宋を建て、泉州ではなく臨安（杭州）を都とした。靖難の役は明で建文帝に対して燕王が起こし、勝利して永楽帝となった戦役である。④宮廷の画家たちによる写実的・装飾的な絵画は文人画ではなく院体画と呼ばれる。文人画は士大夫が余技として描いた絵画で、水墨・淡彩が特徴である。のちに様式化して南宗画と呼ばれるようになった。

問d 正解は③。チベットの都のラサにあるポタラ宮殿で、歴代のチベット仏教（ラマ教）の教主ダライ＝ラマの宮殿となった。①はジャワ島の大乘仏教遺跡のボロブドゥールで、シャイレンドラ朝期に建立された。②はメッカのカーバ神殿で、イスラーム教の信仰の中心となっている。④は首里城の正殿で、琉球を統一して琉球王国を建てた尚巴志以降、尚氏の居城となった。

問e 正解は①。スタンダード石油会社はカーネギーではなくロックフェラーが1870年に設立し、トラストによって全米の石油市場を支配した。カーネギーは鉄鋼業で成功し、「鉄鋼王」と呼ばれた。②1941年7月、日本がフランス領インドシナ連邦の南部に進駐すると（南部仏印進駐）、これに反発したアメリカ・イギリス・中国・オランダの4国は石油禁輸や日本資産凍結などを行った。この対日包囲網を日本側は各國の頭文字をとってABCDラインと呼んだ。③1951年にイランのモサデグ首相は石油の国有化を宣言し、イギリス系の国際石油資本である Anglo-Iranian Oil Company（現在のブリティッシュ

=ペトロリアム）の施設を接収したが、モサデグ政権は1953年に親英米国王派のクーデタで倒された。④イラクのサドム＝フセイン大統領は、1990年にクウェートに侵攻した。これに対し国連の安全保障理事会は経済制裁と軍事制裁を決議し、1991年にはアメリカ軍を中心とする多国籍軍がイラク軍を攻撃し、イラク軍をクウェートから撤退させた（湾岸戦争）。

問f 正解は③。a. ドイツは1939年9月1日にポーランドに侵攻し、ここから第二次世界大戦がはじまった。ドイツは3週間でポーランドを壊滅させ、翌1940年にはノルウェー・デンマーク・オランダ・ベルギーに侵攻し6月にはフランスを降伏させた。b. そして1940年9月に日独伊三国（軍事）同盟が結成され、これによって日本とアメリカ・イギリスの関係悪化は決定的となった。1941年12月には日本の英領マレー上陸、真珠湾奇襲から太平洋戦争が開始され、1942年のミッドウェー海戦で日本が敗北すると、以後はアメリカ軍の優勢が明らかとなつた。ドイツは1942~43年のスターリングラードの戦いの敗北から退却に転じ、d. 1944年6月には連合軍のノルマンディー上陸の成功によって第二戦線が形成されて戦局は決し、1945年5月8日にドイツは降伏した。そして、1945年8月6日、アメリカは広島に原子爆弾を投下し、c. 8月8日にはソ連が対日参戦を通告し、翌9日未明にソ連軍はソ満国境を越えた。さらにその8月9日にはアメリカは長崎に原子爆弾を投下し、日本は8月14日にポツダム宣言を受諾して8月15日に玉音放送で国民に降伏を公表した。

#### ●写真・図版提供

PPS 通信社

# 日本史B

## ① 平安時代中期～室町時代の日中関係 【解答】

- 問1 菅原道真
- 問2 イ
- 問3 大輪田泊
- 問4 治天
- 問5 ウ
- 問6 北条時宗
- 問7 天竜寺
- 問8 懐良親王
- 問9 ア
- 問10 肥富
- 問11 足利義持
- 問12 エ
- 問13 抽分銭
- 問14 勘合
- 問15 寧波の乱

### 【配点】 (30点)

問1～問15

各2点×15

### 【出題のねらい】

本問は、平安時代中期から室町時代の日中関係について、日宋・日元・日明貿易を中心に確認することを目的に作成した。平安時代中期から鎌倉時代において、日本と中国との間に正式な国交は開かれておらず、日宋貿易や日元貿易が私貿易として活発に行われた。その後、建国された明が伝統的な外交秩序を復活させ、足利義満は明からの朝貢と倭寇禁圧の要求に応じる形で国交を再開し、日明貿易が朝貢形式で行われた。本問を利用してそれぞれの貿易のあり方や、主要な輸出入品、貿易が国内に与えた影響、時の政権の対中関係に対する姿勢などについて確認してほしい。

### 【設問別解説】

問1 解答は菅原道真。630年の大上御田鍼派遣に始まる遣唐使は、天武・持統朝での中断を経て、大宝律令完成以降の8世紀に最盛期を迎えた。しかし、9世紀に入ると派遣回数が減少し、804・838年の派遣を経て、894年、半世紀ぶりに派遣が計画されたが、遣唐大使に任命された菅原道真的建議により派

遣が中止され、その後、遣唐使が復活することはなかった。その背景には、唐の衰退や朝廷の財政難、航海の危険のほか、新羅や唐の商人が頻繁に日本に来航し、遣唐使を派遣せずとも大陸の品物や情報を入手できるようになっていたという事情もあった。

#### 問2 解答はイ (齋然)。かなり詳細な事項である。

10世紀末、齋然は宋の商船に便乗して入宋し、五台山などの聖地を巡礼した後帰国したが、その際、設問文にあるように、釈迦如来像を持ち帰り、その像は京都の清涼寺に安置された。アの成尋は11世紀後半に入宋した僧。ウの栄西は12世紀後半に入宋し臨済宗を日本に伝えた。エの道元は13世紀前半に入宋し曹洞宗を伝えた僧である。設問文の時期設定から、少なくともウとエは排除できてほしい。

#### 問3 解答は大輪田泊。日宋貿易は、11世紀には博多を中心に行われていたが、平安時代末期、貿易振興を図る平清盛が摂津の大輪田泊を修築した。この結果、宋の大船は畿内への入港が可能となり、貿易は一層拡大した。

問4 解答は治天。白河上皇に始まる院政は、上皇が天皇家の家長（天皇の父や祖父）として権力をふるった政治形態である。院政を行った天皇家の家長の立場にある上皇は治天の君とか治天とよばれた。皇位を離れた上皇は、天皇とは異なり制約の少ない立場にあり、法や慣例にこだわらずに専制的な権力を行使した。

問5 解答はウ (借上)。日宋貿易の主要な輸入品であった銅錢の流通は平氏政権の頃から進展し始め、鎌倉時代には都市を中心に農村にも拡大していった。こうした貨幣経済の発展にともない、平安時代末期には借上とよばれる金融業者があらわれ、鎌倉時代には京などを中心に各地で活躍した。アの為替は、年貢輸送などに際し、遠隔地からの米や錢の送達を、割符とよばれる手形で代用することである。鎌倉時代からみられ、商業取引の発達した室町時代には、為替の利用が盛んとなった。イの頼母子は、金錢の融通を目的とした互助組織のことで、中世から近世にかけて村落内などで講を組織して行われた。エの鑄物師は、鍋や釜などの金属製品を加工する手工業者である。

問6 解答は北条時宗。鎌倉幕府はモンゴルのフビライの朝貢要求を拒否し、その結果、1274年の文永の役、1281年の弘安の役と、2度にわたる戦闘を経験した。その際の執権は北条時宗である。この蒙古襲来への対応の過程で北条氏への権力集中が進み、北条氏嫡流の当主である得宗の権力が強化していっ

た。

問7 解答は天竜寺。天竜寺は、夢窓疎石の勧めを受けて足利尊氏・直義により、後醍醐天皇の冥福を祈るために建立された寺院である。造営費用の一部は元に派遣された貿易船（天竜寺船）の利益によってまかなわれた。ちなみに、鎌倉時代末期、幕府が、建長寺修築費用を調達するため、貿易船（建長寺船）を元に派遣したことも押さえておきたい。

問8 解答は懷良親王。懷良親王は、南北朝の内乱期、九州に征西將軍として派遣された後醍醐天皇の皇子である。九州の武将を糾合して南朝勢力を形成して北朝側（幕府）と抗争を繰り返し、一時、大宰府にあって九州を制圧していた。懷良は、九州を制圧していた際、明から朝貢を要求され、当初は拒否したもの最終的には受け入れて明皇帝によって日本国王と認定されたが、その矢先、九州探題今川貞世（了俊）によって大宰府を追われ、勢力を衰退させた。

問9 解答はア（瑞溪周鳳）。15世紀後半に成立した古代・中世の外交史書である『善隣国宝記』の編者は瑞溪周鳳である。瑞溪周鳳は、將軍足利義教や義政に重んじられて相國寺に住し、鹿苑院の塔主となって僧録をつとめた。この間、幕府の外交に参与し、古代から15世紀後半までの外交史料を集成して『善隣国宝記』を撰述した。この書には、明や朝鮮との外交文書が収録されており、室町時代の外交史の史料として貴重である。問10で問うたが、この『善隣国宝記』に載せられた、義満の明への国書は頻出史料なので、史料集などで確認しておこう。

問10 解答は肥富。1401年、足利義満は僧の祖阿（正使）・博多商人の肥富（副使）を明に派遣した。史料の空欄には祖阿に副えられた人物が入るので、解答は肥富となる。この遣使によって日明間の国交が開かれ、義満は明の皇帝から「日本国王」に冊封された。1368年に明を建国した朱元璋は海禁政策を採用し、「国王」と認定した者による朝貢船以外の入港を認めず、自国民の海外渡航も禁止したため、義満は貿易の利益を得るために明の皇帝に朝貢して冊封をうけ、「日本国王」の称号を得たと考えられている。

問11 解答は足利義持。明への朝貢形式を屈辱的だとして日明貿易を中断させた將軍は4代足利義持である。その後、6代足利義教が貿易にともなう利益を得るために、日明貿易を再開させた。

問12 解答はエ（備前）。日明貿易における主要な輸出品の一つである刀剣の特産地を問うた。設問文の

長船派（鎌倉時代の長船長光が著名）を手がかりに、備前を選択できればよい。

問13 解答は抽分錢。勘合貿易の基本は朝貢貿易（公貿易）であったが、遣明船に便乗して渡航した商人による民間貿易も行われた。その商人たちに課された税が抽分錢である。輸入品の売上げ額の一定割合（例えは10分の1）、あるいはあらかじめ決められた額が徴収された。

問14 解答は勘合。勘合は、明に朝貢する使節であることを示すものとして、明が発行した証票であり、皇帝の代がわりごとに室町幕府に与えられた。本字勘合と日字勘合があり、日本には本字勘合が与えられた。日字勘合は明船が日本に来る際に使用されることになっていたが、使用された形跡はない。なお、遣明船が勘合の所持を義務づけられたことから、日明貿易は勘合貿易ともいう。

問15 解答は寧波の乱。明は寧波を日本の遣明船の入港地とし、ここで遣明船の持参した勘合が明側の底簿と照合された。幕府が衰退して以降は、貿易の実権が、堺商人と結んだ細川氏と博多商人と結んだ大内氏に移り、1523年、貿易の実権をめぐり争う両者は寧波で衝突する寧波の乱をおこした。乱の結果、勝利した大内氏が日明貿易を独占したが、1551年、大内氏が滅亡して日明貿易は途絶した。

### 【整理】

#### 《日宋・日元・日明貿易》

##### ・日宋貿易

私貿易が盛ん

11世紀…宋商人の来日が頻繁

12世紀後半以降、日本商船も南宋へ渡航

輸入品…銅錢・絹織物・陶磁器・書籍など

輸出品…金・硫黄など

平清盛が大輪田泊（横津国）を修築

##### ・日元貿易

元寇後も私貿易が盛ん

1325 建長寺船…鎌倉幕府が派遣

1342 天竜寺船…足利尊氏・直義が派遣

##### ・日明貿易

1401 足利義満が祖阿と肥富を派遣し国交開始

日本国王から明皇帝への朝貢形式の貿易

勘合を使用（倭寇と区別するため）

寧波で勘合を査証 北京で交易

1411 中止…足利義持が朝貢形式を嫌う

1432 再開…足利義教（貿易の利益が目当て）

輸入品…銅錢・生糸・絹織物・陶磁器など

輸出品…銅・硫黄・刀剣など
応仁の乱後
細川氏・堺商人と大内氏・博多商人が対立
1523 寧波の乱 以後、大内氏が貿易独占
1551 大内氏滅亡 日明貿易途絶

## ② 江戸時代の文学・芸能

### 【解答】

- 問1 德川綱吉  
 問2 蔵物  
 問3 松尾芭蕉  
 問4 ウ  
 問5 坂田藤十郎  
 問6 運上（冥加）  
 問7 寺子屋  
 問8 寛政異学の禁  
 問9 イ  
 問10 エ  
 問11 a ケ b オ c キ  
 d セ e イ

### 【配点】 (25点)

- |         |        |
|---------|--------|
| 問1～問10  | 各2点×10 |
| 問11 a～e | 各1点×5  |

### 【出題のねらい】

本問は、江戸時代の文学・芸能の動向を概観する問題である。大きく江戸前期（元禄文化）と後期（化政文化）にブロックを分け、文学・芸能を中心各時期の文化の内容の理解を確認するとともに、それらが隆盛した背景にある政治・経済の状況との関連についても問うた。それぞれの設問では、入試でよく狙われるポイントを中心に出題した。経済・文化は受験生が苦手とする分野であり、問題文・解説を熟読し、弱点の克服に役立て欲しい。

### 【設問別解説】

問1 解答は徳川綱吉。文治政治は、儒教に基づく徳治主義的な政策を通して幕藩体制の安定をめざしたものであった。綱吉は、まず武家諸法度天和令を発し、その第一条を「文武弓馬の道」から「文武忠孝」の重視へと改め、太名に儒教の理念である忠孝を重視させた。また、上野の林家の私塾にあった孔

子廟を湯島に移して湯島聖堂を建設し、林羅山の孫である林信篤（鳳岡）を大学頭に任じて管轄させた。あわせて林家の私塾も湯島に移して聖堂学問所とし、儒教の普及に勤めた。

問2 解答は藏物。幕府・諸大名にとって収入源は自領で取れた年貢米であったが、幕藩領主は年貢米を換金して自らの財政を維持することを必要とした。諸大名は大坂などに蔵屋敷を設置し、そこへ年貢米を輸送して、貨幣を得るために市場に売却した。そのようにして市場に出回った商品は藏物とよばれた。藏物の出納・販売を担当した商人が蔵元で、その代金の管理・送金を扱った商人が掛屋であった。後に同じ商人が掛屋と蔵元を兼務することが多くなった。江戸では、札差とよばれる商人が旗本・御家人の俸禄米の換金を行った。ちなみに、藏物に対して、各地の農民や職人が生産し、商人の手を経て流通した商品を納屋物とよんだことも、あわせて理解しておこう。

問3 解答は松尾芭蕉。江戸時代に入り、連歌から派生した俳諧が流行したが、上方を中心に活躍した松永貞徳・西山宗因らを経て、元禄期には松尾芭蕉が登場した。芭蕉は、世俗の世界に題材をとりながらも、現実の貧苦を「侘び」の精神的境地に昇華する正風（芭風）を新たに生みだし、五・七・五の17音のみで深い詩情と閑寂の境地を表現して、俳諧を文芸として確立させた。また芭蕉は、各地を旅して門人らと交流を深めながら、「奥の細道」などの優れた紀行文も著わした。

問11-a 解答はケ（浮世草子）。江戸初期には、平易で教訓的・通俗的な読み物である仮名草子が流行した。元禄期になると、大坂の経済的な発展を背景として、町人の世相・風俗をありのままに描いた小説の浮世草子が生まれた。その代表的な作者が井原西鶴である。大坂の富裕な町家に生れた西鶴は、人間の愛欲や金銭欲などを赤裸々に描き出す浮世草子を確立させた。その作品には、『好色一代男』などの好色物、『日本永代蔵』・『世間胸算用』などの町人物、『武家義理物語』などの武家物がある。

問4 解答はウ（椿説弓張月）。上方で井原西鶴と並ぶ名声を博した近松門左衛門は、淨瑠璃・歌舞伎の脚本を書き、当時の町人社会で起こった世俗の事件に題材をとって義理と人情の葛藤を描いた世話物と、歴史上の事件を題材とした時代物の作品を発表した。世話物では『曾根崎心中』・『心中天網島』・『冥途の飛脚』、時代物では『国性爺合戦』などがある。ウ『椿説弓張月』は、源為朝流罪後の武勇を描

いた滝沢（曲亭）馬琴の読本なので、これが誤りである。ちなみに、井原西鶴と近松門左衛門の作品はジャンルごとに作品・内容を整理しておく必要がある。以下の【整理】を参照してほしい。

### 【整理】

#### 《井原西鶴と近松門左衛門》

・井原西鶴

好色物 男女の恋愛模様を描く

『好色一代男』(浮世草子の第一作)

町人物 町人の出世談や処世訓が主題

『日本永代蔵』・『世間胸算用』

武家物 武家社会の仇討などに題材をとる

『武家義理物語』・『武道伝来記』

・近松門左衛門

世話物 町人社会に題材をとり、義理と人情の

葛藤を描く

『曾根崎心中』・『心中天網島』

時代物 歴史的事件を題材としたもの

『国性爺合戦』

問11—b 解答はオ（竹本義太夫）。人形淨瑠璃は、琉球から伝わった蛇皮線を改良した三味線を伴奏として、太夫の語る淨瑠璃節に合わせて人形遣いが人形を操って演じた人形芝居である。竹本義太夫は1684年に竹本座を創立した。翌年から脚本作者の近松門左衛門と提携し、独特の淨瑠璃節である義太夫節を創始し、人形遣いの辰巳八郎兵衛ら名手を招いて竹本座の基礎を固めた。スの大田南畠は、江戸幕府に仕えた幕臣で、天明期に狂歌が流行ると狂歌界の中心となった。洒落本や黄表紙も多く著したが、寛政の改革の時には一時文筆活動をやめた。改革後は、蜀山人の号を用いて狂歌などをよみ始めると、名声は天明期をしのぐほどになった。クの高三隆達は桃山期の堺の商人で、小歌の名人として知られ、様々な音曲を折衷して独自の隆達節を編み出した。

問5 解答は坂田藤十郎。歌舞伎は、17世紀初めに出雲の阿国が京都でかぶき踊り（阿国歌舞伎）を催したことから始まる。江戸時代に入ると、これをもとにした女歌舞伎、ついで若衆歌舞伎が生まれたが、ともに風紀を乱すとして幕府により禁じられた。その後、成人男性が演ずる野郎歌舞伎が、演劇的な要素を強めて庶民に支持された。元禄期には、江戸では、荒事（勇猛な立ち廻りを主とする演技）得意とした初代市川団十郎が評判を取り、上方では、優美な色男の恋愛描写を中心とした柔らかな演技の和事の名手である坂田藤十郎や、女形の芳沢あやめと

いった名優が活躍した。

問6 解答は運上（冥加）。田沼意次の財政政策を問うた。田沼は、年貢増徴政策には限界があると判断し、商業資本を積極的に利用した財政再建をはかった。彼は、江戸・大坂の問屋などのほか、在郷商人まで株仲間公認の対象を拡大し、彼らに営業・流通上の特権を認めるかわりに、運上や冥加を上納させた。

問7 解答は寺子屋。江戸時代になると、商品流通の発達、民衆の生活水準の向上を背景として、文字の使用や計算能力が要請され、江戸・大坂・京といった都市の町人は読み・書きの能力が必須であった。一方、農村部でも生産力増強を前提に商品作物栽培を行う者が増え、農書から新農法を取り入れるためにも、文字の読み書きが必要となった。その一方で、幕府など為政者が、民衆が諸法令を理解して遵守する効果を期待したことによって、庶民の子どもを対象とした初等教育機関である寺子屋は広く普及した。そこでは、僧・神官・下級武士らを師匠として、『庭訓往来』などの往来物を手本に読み・書き・そろばんなどが指導された。こうして、都市・農村とともに庶民の識字率が向上し、出版文化を支える基盤が生まれていった。

問8 解答は寛政異学の禁。松平定信は、1790年、江戸幕府成立期以来、幕藩体制を支える封建教學の根本とされた朱子学を振興するために、朱子学を正学として、古文辞学や折衷學など朱子学以外の儒學諸派を異学として聖堂學問所での教授を禁止し、柴野栗山・尾藤二洲・岡田寒泉（寛政の三博士）を幕府儒者に登用した。また、寛政異学の禁では、朱子学による官吏登用試験が行われることになり、幕府に忠実な官僚群を育成する意図をもつ施策でもあった。

問11—c 解答はキ（『仕懸文庫』）。山東京伝の洒落本『仕懸文庫』は、深川の遊里の風習を精密に写実したもので、寛政の改革の取り締まりの対象となって絶版処分となり、作者と版元は処罰された。アの『雨月物語』は、上田秋成による読本で、和漢の典籍を素材とした怪異小説集。初期読本の代表作で後続に大きな影響を与えた。サの『金々先生栄花夢』は、黄表紙の祖となった恋川春町の作品。当時の江戸の流行や世相を斬新な絵と文によって活写した。

問11—d 解答はセ（葛屋重三郎）。葛屋重三郎は、18世紀後半に本屋・版元を営み、恋川春町・山東京伝などの作品を刊行し、美人画の喜多川歌麿や役者絵の東洲斎写楽などを庇護して大成させた。寛政の

改革では、風俗を正し、公儀権威の回復をはかるため、風俗を乱す、あるいは政治批判・時事風刺を内容とする出版物が統制の対象とされ、政治風刺を内容とする恋川春町の黄表紙や、風紀を乱す洒落本などの書物の出版が禁止され、洒落本作者の山東京伝や、出版元の葛屋重三郎が処罰された。やや難間だが、消去法で解答を導き出すこともできる。まず空欄dには出版業者の名前が入ることを確認し、諸群を検討すると、セの他に淀屋辰五郎(カ)と紀伊国屋文左衛門(シ)が候補としてあげられる。カの淀屋辰五郎は元禄期の大坂の豪商である。淀屋は大名の藏米販売を引き受け、両替商や米仲買も行い栄えたが、辰五郎は町人の分を超えた驕奢な生活を幕府からとがめられ、全財産没収の処分を受けた。シの紀伊国屋文左衛門は、紀伊国の生まれとされ、紀州みかんを江戸に廻して巨利を得た後、江戸に進出して材木問屋を開いて元禄期に大いに栄えた。したがって、カ・シともに時代や職種が異なるので誤りである。

問9 解答はイ (銚子・野田)。江戸時代に成立した全国流通網において、最も重要なのは、「天下の台所」といわれた大坂への物資の集積と、大坂から最大の消費都市であった江戸への物資廻送であった。しかし、江戸後期になると、大坂周辺で盛んに行われた綿作の実綿などを扱う在郷商人が独自の販路を開拓するなど、在郷商人が独自の流通網の形成を志向して活動するようになった。さらに、諸藩でも、大坂を経由せず江戸などの消費地に専売品などを直送するようになった。こうしたことによって、全国流通における大坂市場の地位が相対的に低下した。これと並行して、江戸前期に多くの物資を上方からの下り物に依存していた江戸でも、19世紀初頭までには関東地方周辺で加工された地廻り物が大量に出回るようになった。こうしていわゆる江戸地廻り経済圏が形成された。イの下総の野田や銚子の醤油は、江戸で人気を博した調味料で、地廻り物の代表であった。ちなみに、アの桐生・足利も江戸地廻り経済圏の一端ではあるが、こちらは絹織物の産地である。また、ウの輪島・会津は漆器の、エの有田・九谷は陶磁器の生産地で、江戸から離れており、地廻り経済とは関係がないため、誤りである。

問11-e 解答はイ (為永春水)。大御所徳川家斉が亡くなると、老中水野忠邦らが天保の改革に着手した。水野は、大御所政治を一掃した上で、享保・寛政の改革期への復古や封建秩序の回復を目標として掲げた。綱紀肅正・俟約勵行・風俗是正に力を入れ、とりわけ奢侈を厳格に取り締まり、また出版統

制も行った。天保の改革では、「春色梅児音美」を著した人情本作者の為永春水がその作品が風俗に害があるとの理由で、また合巻作者の柳亭種彦が『修紫田舎源氏』で家斉時代の大奥を風刺したとして、処罰された。

問10 解答はエ (觀世座)。18世紀初頭以降、江戸では、中村・市村・森田の江戸三座が、幕府公認の劇場として歌舞伎の興行権を与えられていた。19世紀に入ると、鶴屋南北の『東海道四谷怪談』などの怪談物や、世話物の中でもとくに写実性の強い生世話物が観客を集めた。しかし、天保の改革では、風俗の悪化、奢侈の元凶と位置づけられたものに弾圧が加えられており、歌舞伎もその一つとみなされ、江戸三座は浅草猿若町に強制移転させられた。エの觀世座は、室町時代前期、大和の結崎座から出た観阿弥・世阿弥父子が3代将軍足利義満の庇護のもとで猿楽能を完成し、畿内を中心に勢力を伸ばした猿楽能の座である。

### ③ 条約改正 【解答】

- 問1 鹿鳴館
- 問2 三大事件建白運動
- 問3 ア
- 問4 陸奥宗光
- 問5 ウ
- 問6 イ
- 問7 エ
- 問8 1911 (年)
- 問9 A
- 問10 井上毅
- 問11 1 ク 2 ス 3 サ  
4 カ 5 シ

#### 【配点】 (25点)

問1～問10	各2点×10
問11	各1点×5

#### 【出題のねらい】

本問では、条約改正にあたった人物を素材にして、当該期の政治・外交など、条約改正の背景となった出来事を問うた。条約改正の学習にあたっては、改正にあたった人物とその改正内容の組み合わせを暗記する

だけでなく、それぞれの改正が行われた背景や改正交渉が破綻した事情についても、整理・理解することが重要である。

### 【設問別解説】

まず、文章A～Eの人物を確認しておこう。Aは井上馨。「欧化政策を推進」や「条約改正のため、東京で合同の予備会議を開催」とあることから判断できる。Bは青木周蔵。「イギリスが条約改正に応じる姿勢を示したことをうけて交渉を開始」し、「外務大臣を辞任」後、「駐英公使」としてイギリスと「新条約の調印にこぎつけた」ことから特定してほしい。Cは岩倉具視。「特命全権大使として使節団を率いて欧米各国を歴訪」とあることからわかる。Dは小村寿太郎。「日露戦争後」、「関税自主権の完全回復」から判断できよう。Eは大隈重信。「外国人判事の任用を大審院に限る」、「襲撃されて負傷」という記述から特定することができる。

条約改正交渉にあたった人物とその改正交渉の内容・結果は、下の【整理】を参考に整理しておいてほしい。それでは、時代順に設問を解説していく。

#### 【整理】

##### 《条約改正交渉の内容と結果》

**岩倉具視**（1871年～1873年）

目標…条約改正の予備交渉

方法…特命全権大使として使節団を率いる

結果…予備交渉は失敗 以後、欧米を視察

**寺島宗則**（1873年～1879年）

目標…税権回復を主眼に交渉

結果…アメリカは改正に同意

イギリス・ドイツなどの反対により挫折

**井上馨**（1879年～1887年）

目標…領事裁判権の撤廃と税権の一部回復

方法…東京で条約改正会議を開催して一括交渉

欧化政策の推進（鹿鳴館外交）

条件…内地雑居承認・外国人判事任用

結果…ボアソナード・農商務相谷干城らの反対

→井上馨の外相辞任

ノルマントン号事件に対する批判の高揚

**大隈重信**（1888年～1889年）

目標…領事裁判権の撤廃と税権の一部回復

方法…国別に秘密交渉

条件…大審院に外国人判事任用・内地雑居承認

結果…玄洋社員の襲撃で大隈が負傷し交渉中止

**青木周蔵**（1889年～1891年）

目標…領事裁判権の撤廃と税権の一部回復

経緯…ロシアの南下を警戒するイギリスと交渉

結果…大津事件による引責辞任で交渉が中断

**陸奥宗光**（1892年～1895年）

方法…青木周蔵を駐英公使に任じて交渉を再開  
結果…日英通商航海条約調印 以降各国と調印

①領事裁判権の撤廃

②最惠国待遇の相互承認

③関税率の一部引き上げ

**小村寿太郎**（1911年）

結果…日米通商航海条約改正 以降各国と改正  
関税自主権の完全回復

#### 文章C—岩倉具視

問5 解答はウ（西郷隆盛）。岩倉使節団には特命全権大使の岩倉具視のほか、副使として大久保利通・木戸孝允・伊藤博文らが随行した。使節団の外遊中、留守政府では西郷隆盛・板垣退助を中心とする征韓論が高まっており、使節団帰国後の1873年、西郷ら征韓派参謀は、内治優先を主張する大久保らと対立して一斉に下野した。これを征韓論の政変（明治六年の政変）という。

問11-3 解答はサ（津田梅子）。岩倉使節団には多くの留学生が随行したが、「女子英学塾を創設」とあることから判断してほしい。津田梅子は、11年に及ぶ留学中、米国で初等・中等教育を終えた。18歳で帰国するも再び渡米。この時生涯を女子高等教育の開拓に捧げる事を志し、帰国後は女子高等師範学校の教授となった。だが、1900年、職を辞して女子英学塾を創設し、人間教育、個性教育、さらには英語教師として自立できる実力の養成に全力を傾けたという。

問6 解答はイ。日米修好通商条約では、1年前の通告を条件に1872年以降の改訂が可能と規定されており、また、1871年の廢藩置県により国内の中央集権体制が整備されたこともあって、1871年末から岩倉使節団が派遣されることとなった。したがってエは、使節団派遣以前の内容であり、誤りである。1872年の学制、1873年の徵兵令・地租改正条例はともに使節団外遊中の出来事であるが、学制はフランスに範をとったものであることから、アは誤りであり、また、地租改正に際して、地租は金納とされたが、小作料は依然として現物納であったからウも誤りである。使節団外遊中には重大な改革は行わないという約束にもかかわらず、これらの改革が実行されたことは、大久保ら使節団と留守政府との対立の

一つの原因ともなり、征韓論の政変（明治六年の政変）につながっていくのである。

#### 文章A—井上馨

問1 解答は鹿鳴館。井上馨は、法権回復を優先した条約改正交渉を成功させるため、日本が文明国であることをアピールする欧化政策を推進した。それにともない、東京日比谷にコンドルの設計による鹿鳴館が建設され、内外の社交の場とされた。これは欧化政策の象徴ともいべき建築物で、日夜舞踏会などが開催された。

問11-1 解答はク（内地雑居）。日米修好通商条約では、開港場に居留地が設定され、外国人の国内移動は制限されていた。列強側はこれに強い不満を持っており、内地雑居承認が、列強側が条約改正に応じる上で必要条件となっていた。井上は、日本の裁判所への外国人判事の任用や近代的な法典編纂の約束とともに、内地雑居を認めることで各国に領事裁判権の撤廃を求めたのである。

問2 解答は三大事件建白運動。井上馨の条約改正交渉が農商務相の谷干城や政府顧問のボアソナードらの反対で失敗すると、民権派は政府批判を強めた。片岡健吉らは地租軽減・言論集会の自由・外交失策の挽回をもとめる三大事件建白書を元老院に提出し、三大事件建白運動とよばれる政治運動を展開していく。折しもこの頃には民権派の再結集をめざす大同団結運動が後藤象二郎らによって推進されており、この三大事件建白運動は民権派の大同団結の動きを急速に加速させることとなった。これに対して政府は保安条例を制定して民権派を東京から追放する一方、後藤象二郎を黒田清隆内閣に入閣させて運動の分裂を図った。

#### 文章E—大隈重信

問9 解答はA。前記の【整理】を参照すればわかるように、大隈の前任の改正交渉担当者は井上馨であり、井上の交渉を説明した文章はAである。井上の辞職後、大隈重信が改正交渉を担当した。大隈は、井上のような国際会議を開いて一括交渉する方式は日本にとって不利と考え、国別秘密交渉の方式に改めた。外国人判事の任用に関して大審院に限定するという修正を施したもの、その他の交渉内容では大筋で井上案を踏襲していた。

問10 解答は井上馨。大日本帝国憲法は、伊藤博文を中心に井上馨・伊東巳代治・金子堅太郎らがドイツ人法律顧問ロエスレルの助言を受けて起草したものであるが、設問文に「教育勅語の起草にも携わった」とあることから井上馨と判断する。ちなみに、

教育勅語は井上馨と元田永孚によって起草された。

問11-5 解答はシ（玄洋社）。大隈の交渉は秘密裏に進められ、主要国との交渉は概ね成功していたが、イギリスの新聞『ロンドン・タイムズ』がその内容をスクープすると、日本国内の世論が沸騰し、大隈は国家主義团体玄洋社の青年の襲撃によって負傷し、交渉は中止に追い込まれることとなった。

#### 文章B—青木周蔵

問11-2 解答はス（大津事件）。大津事件は来日中のロシア皇太子（のちのニコライ2世）が、日本侵略のための下見に来たと臆断した巡査津田三蔵によって切り付けられて負傷した事件である。ロシアとの関係悪化を恐れた政府は皇室に対する罪を準用して津田を死刑に処すよう圧力をかけたが、大審院長児島惟謙はこの圧力に屈しなかった。当時条約改正交渉を進めていた青木周蔵は、ロシアの南下に脅威を感じたイギリスが態度をやわらげたことで交渉が順調に進んでいたにもかかわらず、外交の最高責任者として外務大臣を辞職せざるを得なくなり、交渉は中止に追い込まれた。

問3 解答はア（自由党）。第1議会から第3議会まで、立憲自由党（第1議会後、自由党と改称）と立憲改進党は協力して政府の予算案に反対してきた。第4議会で海軍拡張予算をめぐる政府と議会の対立に、明治天皇が和衷協同の詔書を発し調停にのぞむと、自由党は政府に接近するようになった。続く第5・第6議会で争点が条約改正に移ると、民党連合は分裂することとなり、自由党は第2次伊藤内閣に協力して陸奥の改正交渉を支持した。それに対し、立憲改進党やもと吏党の国民協会は、現行条約を厳密に運用することで諸外国に居留地問題などの不利益を認識させて譲歩を引き出そうとする対外硬運動を展開して、陸奥の改正交渉に反対した。自由党が第2次伊藤内閣と提携し、日清戦争後には板垣退助が内相として入閣するという流れは理解しておいてほしい。ちなみに、ウの大日本協会は詳細な知識であり、覚える必要はない。

問4 解答は陸奥宗光。陸奥宗光は外務大臣に就任すると、青木周蔵を駐英公使にすえて交渉を再開させ、日清戦争の直前、日英通商航海条約に調印して、領事裁判権の撤廃と關税自主権の一部回復、および最恵国待遇の相互化に成功した。

#### 文章D—小村寿太郎

問7 解答はエ。イの権太序は判断できなくてよいが、朝鮮総督府が設置されるのは韓国併合条約のことであり、韓国を保護国化したのは第2次日韓協

約においてのことであるから、エが誤りと判断できる。ポーツマス条約で日本は、旅順・大連の租借権や長春・旅順口間の鉄道権益を獲得し、北緯50度以南の樺太の割譲をうけ、関東都督府、南満州鉄道株式会社、樺太庁を設置してそれぞれの経営にあたった。

問11-4 解答はカ（桂太郎）。小村寿太郎は第1次桂太郎内閣の外務大臣として日英同盟協約やポーツマス条約の締結にあたり、さらに第2次内閣でも外務大臣に任せられ、韓国併合を実現し、日米通商航海条約を改正・締結した。

問8 解答は1911（年）。外務大臣陸奥宗光によって1894年に各國と締結された通商航海条約は、1911年に満期を迎えることとなっていた。小村寿太郎は、日露戦争後の日本の国際的地位の上昇を背景に、改正条約を締結して関税自主権の完全回復を実現した。

## 4 労働運動の展開

### 【解答】

- 問1 横山源之助
- 問2 労働組合期成会
- 問3 ア
- 問4 エ
- 問5 工場労働者と都市人口の急増により米の消費量が増大し、シベリア出兵をあてこんだ米の買占めも横行した。（49字）
- 問6 日本労働総同盟
- 問7 イ
- 問8 大日本産業報国会
- 問9 イ

### 【配点】（20点）

- 問1～問4 各2点×4
- 問5 4点
- 問6～問9 各2点×4

### 【出題のねらい】

本問では、明治中期から戦後改革までを範囲とし、近現代の労働運動の展開を主なテーマとして取り上げた。その際、背景となる経済状況や、労働運動を支えた社会主義運動や無産政党の動向についても言及した。労働運動や社会主義運動まで学習の手がまわっていない受験生もいたことと思う。当該期の政治情勢や

文化史の思想分野などとも合わせて学習し、理解を深めてもらいたい。

### 【設問別解説】

問1 解答は横山源之助。『日本之下層社会』は、新聞記者であった横山源之助がルポルタージュの手法で調査・記録した報告書をまとめたものである。横山は東京・大阪・神戸・桐生・足利などの労働者・小作人の労働と生活の実態を視察して、新聞などにあいついで発表した。そして、それらの実地報告書を、東京の貧民状況、紡績業や鉄工場など機械工業の労働者、小作人の生活事情など5編に整理し、1899年に刊行した。

#### 【整理】

《近代の労働者の実態を伝える著作》

『日本之下層社会』（1899） 一横山源之助

『職工事情』（1903） 一農商務省

→工場法立案の基礎資料

『女工哀史』（1925） 一細井和喜蔵

問2 解答は労働組合期成会。労働組合期成会は、アメリカで労働運動の知見を得た高野房太郎が帰国後に結成した職工義友会が母体となり、1897年に組織された。幹事長に高野、幹事に片山潜らが就き、機関誌『労働世界』を発刊するとともに、各地で演説会を開いて労働組合の結成を訴えた。会員の大部分が砲兵工廠や鉄道工場などの鉄工関係の労働者であったので、まず鉄工組合が組織された。その他に、日本鉄道会社の機関士による日本鉄道矯正会や、活版工組合の結成に大きな役割を果たした。

問3 解答はア。工場法は日本最初の労働者保護立法である。1911年に第2次桂太郎内閣のもとで制定されたが、紡績業の経営者などの抵抗にあい、さまざまな例外規定などを設けられた上、施行されたのは、第2次大隈重信内閣時の1916年である。児童（12歳未満）雇用の禁止、年少者・女子の労働時間の規制（12時間以内）と深夜業の禁止、工場主の労災補償責任などを定めた。しかし、例外規定も多く、適用対象工場の規模を職工15人以上とするなど、労働者保護とは言い難い内容であった。この問題では「十五」人、「十二」歳、「十二」時間の組合せが正解となる。

問4 解答はエ（鈴木文治）。

問5 解答は日本労働総同盟。

大逆事件直後の困難な社会情勢のもと、鈴木文治は、1912年に友愛会を創設した。政府や警察による

社会運動への圧迫が強まるなか、鈴木は、資本と労働との調和を強調して労資協調と修養のための団結を説き、共済的活動を行うことにとどめた。しかし、第一次世界大戦中の大戦景気を背景とした労働者の増加とともに会員数を増やすと、友愛会は労働争議に関与するなど、次第に労働組合組織としての活動を展開するようになった。その後、米騒動やロシア革命の影響、さらには第一次世界大戦後の労働運動の飛躍的発展の中で、1919年に大日本労働総同盟友愛会と改称し、治安警察法の改正や普通選挙を要求する運動を積極的に展開した。そして、1921年、組織の戦闘化とともに友愛会の名称を取り去り、日本労働総同盟へと発展した。鈴木は、1930年まで会長を務め、その間、日本農民組合や無産政党の社会民衆党の結成にも関与した。

問5 解答は【解答】参照。論述問題を解答するにあたって最も大切なことは、設問の要求を的確につかみ、その要求に応じた答案を作成することである。ここでは米騒動の原因となった米価高騰の背景についてまとめることが求められている。さらに背景の中でも、「大戦景気にともなう社会状況の変化」と「政府の対外政策が与えた影響」に限定して解答をまとめなければならない。もちろん、下線部中にある「寄生地主制のもとで農業生産は停滞」したことや「大戦景気」も背景にあるが、この二つに触れてても問題文を書き写したに過ぎず、得点とはならない。ここではそれ以外の国内の「社会状況の変化」と「政府の対外政策」とその影響について、解答が求められていることに気づきたい。米価高騰をもたらす社会状況としては、第一次世界大戦による急激な経済の発展にともない、工場労働者が100万人を超える、また都市人口が急増したことと、それにともなう米の消費量の増大である。つぎに、政府の対外政策としてシベリア出兵を想起し、それをあてこんだ米商人による米の投機的買占めが横行したことと対外政策が与えた影響として指摘したい。

~~~【答案作成のポイント】~~~

- ・大戦景気にともなう社会状況の変化
- 工場労働者や都市人口の急増
- それにともなう米の消費量の増大
- ・政府の対外政策が与えた影響
- シベリア出兵を当込んだ米商人の米の買占め

問7 解答はイ。1925年に普通選挙法が成立し、1928年に普通選挙法にもとづく最初の衆議院議員総選挙が行われた。その結果、労働農民党など無産政党

(合法的社会主义政党)から、山本宣治など8名が当選した。したがってイが正しい。関東大震災の混乱の中で労働運動の指導者が虐殺された事件は亀戸事件であるが、幸徳秋水は問題文中にある大逆事件で刑死している。したがってアは誤り。治安維持法は1925年に普通選挙法と抱き合せで成立した。そして前述した1928年の最初の普通選挙の結果を受けて改正され、最高刑は死刑となった。したがってウも誤り。普通選挙実施に際し、労働農民党を隠れ蓑に日本共産党がほぼ公然と活動を開始したのを受けて、立憲政友会の田中義一内閣は1928年、三・一五事件において共産党員の一斉検挙を行い、さらに特別高等警察を全国に配備した。翌29年の四・一六事件でも共産党員の一斉摘発を行った。したがって、第1次若槻礼次郎内閣としているエも誤りである。

問8 解答は大日本産業報国会。日中戦争勃発にともない、総力戦遂行に向けて労資一体で国策に協力させるため、工場・職場ごとに組織されたのが産業報国会である。その後、1940年の新体制運動のもとで労働組合は自主的に解散し、産業報国会の全国連合体である大日本産業報国会が結成された。

問9 解答はイ。片山哲内閣時に労働省が設置され、初代の婦人少年局長には山川菊栄が就いた。したがってイが正しい。労働者の団結権など労働三権を保障したのは1945年に成立した労働組合法である。したがってアは誤り。1947年に成立した労働基準法では8時間労働制などの労働条件が規定された。1946年に成立した労働関係調整法とともに労働三法とよばれる。1946年に労働者の全国組織として組織されたのは、右派の日本労働組合総同盟(総同盟)と左派の全日本産業別労働組合会議(産別会議)である。したがってウは誤りである。ちなみに、日本労働組合総評議会(総評)は、中国共産党的躍進を背景として、GHQの占領政策が転換されるなか、1950年に反共産主義を掲げる労働組合の全国組織として結成されたものである。1945年、アジア・太平洋戦争の敗戦後、政黨は活動を再開した。日本共産党も合法政党として活動を開始したが、旧無産政党勢力を糾合して成立したのは日本社会党である。したがってエも誤り。ちなみに日本進歩党は、旧立憲民政党員を中心に結成された保守政党である。

# 地理 B

## ① 世界の気候と植生・土壌

### 【解答】

- 問1 (1) イーr エーs オーp  
 (2) 緯度—① 海拔高度 ⑦
- 問2 隔海度が大きく、冬季嚴寒となるため。  
 (18字)
- 問3 フーン
- 問4 a…亜熱帯高圧带 b…寒流
- 問5 偏西風に対し山脈の風上側 (12字)
- 問6 (1) I・B・C II-A・D  
 (2) A-ブレーリー B-リヤノ
- 問7 ②・③

### 【配点】 (25点)

- 問1、問7 各1点×7 = 7点
- 問2、問5 各3点×2 = 6点
- 問3、問4、問6(2) 各2点×5 = 10点
- 問6(1) 完答 2点

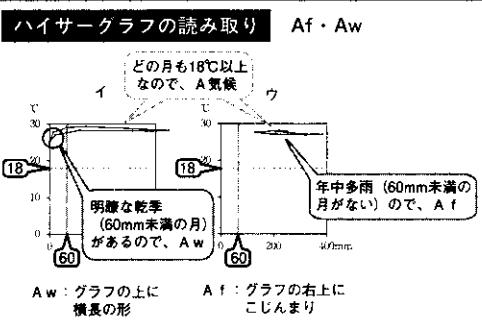
### 【出題のねらい】

気候については、気温、降水量などの気候要素に影響を与える緯度、海拔高度、風、海流などの気候因子について問い合わせ、植生・土壌については、分布の特色を中心に基本事項を聞いた。ハイサーグラフは、成因から考えて解くことができるが、ケッペンの気候区の区分基準を理解していれば、判定が容易である。気候の分野は、成因の理解を前提とし、それを応用して理詰めで解く問題が多いので、なぜそうなるかを理解する学習をおろそかにしてはならない。

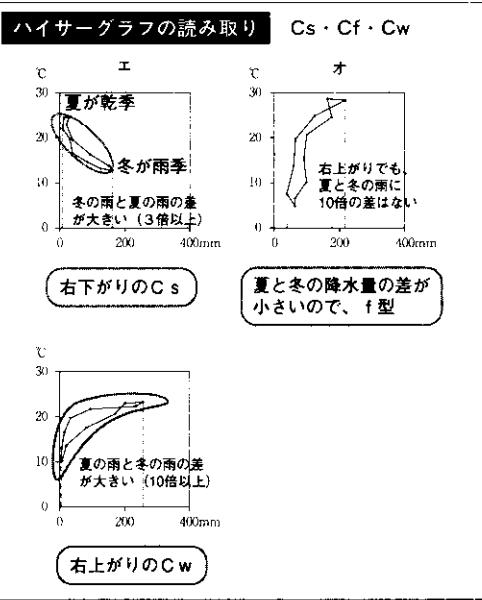
### 【設問別解説】

- 問1 正解は、(1)イーr、エーs、オーp、(2)緯度・①、海拔高度—⑦。
- (1) 図2中のア・イ・ウは、いずれも気温の年較差が小さいので、低緯度地域のq・r・uのいずれかが該当する。このうちイ・ウは、冬がない常夏の熱帯(A気候: 最寒月平均気温18°C以上)であるから、海岸に近く低地に位置すると考えられるq・rのいずれかである。次に降水量の年変化を見ると、ウは、右上にこじんまり描かれているグラフなので、年中多雨(最少雨月降水量が60mm以上)のAf(熱

帶雨林気候)であるのに対し、イは、横長の形のグラフなので、乾季(月降水量が60mm未満)もあるAw(サバナ気候)であるとわかる。図1に赤道(シンガポール付近やニューギニア島北端付近を通過する)を引いてみると、赤道により近いq(ブルネイの首都バンダルスリバガワン)がAfのウ、やや離れたr(ダーウィン)がAwのイとなる。マレー半島、スマトラ島、カリマンタン島、ニューギニア島は、高山を除き、ほぼ全域がAfであるが、北半球側のインドシナ半島の大部分と南半球のオーストラリア北部はAwである。



残るエ・オ・カは温帯(C気候: 最寒月平均気温が-3°C以上; 18°C未満)で、温帯は、降水量の年変化により、夏が乾季(summer dry)のCs(地中海性気候)、冬が乾季(winter dry)のCw(温暖冬季少雨气候)、および、乾季のないCfに分けられる。エは夏が少雨で右下がりの形のグラフなのでCs、オ・カは、右下がりでも右上がりでもないので、乾季のないCfとわかる。



Cfは、最暖月平均気温22°Cを基準にして、夏が暑いCfa（温暖湿润気候）と、夏が涼しいCfb（西岸海洋性気候）に分けられる。オは縦長の形で最暖月平均気温が22°C以上なのでCfa、カは気温の年較差が小さく形がこじんまりしており最暖月平均気温が22°C未満なのでCfbである。

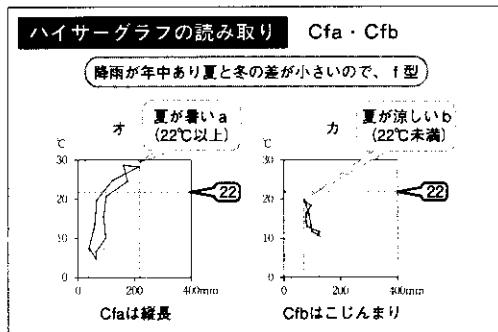


図1では、中・高緯度地域に位置するp・s・tが温帯で、p（シャンハイ（上海））はCfaで、縦長のグラフのオが該当する。東アジアの温帯にはCwとCfaが分布するが、いずれもモンスーンの影響を受け、**気温の年較差が大きく**、大部分の地域は夏の降雨が多い。残るエ・カはs・tのいずれかで、両地点は、南半球の海岸部に位置し、**海洋の影響**を受けるため、**気温の年較差が小さい**。大陸西岸の南緯30度付近に位置するs（バース）はCs、ニュージーランドのt（オーカランド）はCfbなので、エがsに、カがtに該当する。南半球のCsとCfbの分布は局所的なので、頻出の分布地域を覚えておこう。

**重要 南半球におけるCs・Cfbの頻出地域**

- ◆ Cs：ケープタウン、バース、サンティアゴ（大陸西岸の南緯30~35度）
- ◆ Cfb：メルボルン、タスマニア島、ニュージーランド全域、チリ南部

(2) アは気温の年較差がきわめて小さいので赤道付近であるが、年間を通して10°Cをやや上回る程度の常春気候であることから、高山に位置するとわかり、図1ではu（エクアドルのアンデス山脈の高地に位置するクエンカ付近）が該当する。uの緯度は赤道に最も近い①（5度）で、図1から赤道のやや南（正確には南緯約3度）とわかる。海拔高度は、高度による**気温の遞減率**（条件により異なるが、山地斜面の場合一般には100mにつき0.55°C）を考慮して決める。最暖月平均気温は、アは11°C程度で、低地との気温差は15~20°C（イ・ウのグラフから、

赤道直下の低地なら25~30°Cとわかる）である。気温の遞減率を0.6°Cで概算すると、気温差15°Cなら $(15°C \div 0.6°C) \times 100m = 2,500m$ 、気温差20°Cなら $(20°C \div 0.6°C) \times 100m = 3,300m$ となり、これらに最も近いのは⑦（3,000m）である。

問2 正解は、【解答】参照。

Vは北半球の寒極付近にある。寒極とは、南北それぞれの半球で最も気温の低い地点のこと、北半球の最低気温記録は、オイミヤコンとヴェルホヤンスクで別の年に観測された-67.8°Cであるとされる。オイミヤコンの最暖月（7月）平均気温は14.8°Cで同緯度の他の地点とそれほど変わらないが、最寒月（1月）平均気温は-46.4°Cときわめて低温である。寒極付近の気温の年較差が大きいのは、冬の寒さが厳しいためである。冬の気温が低い理由の1つは高緯度に位置することであるが、さらに高緯度の北極点付近よりも、また、同緯度の他の地点よりも低温となる理由では、**海陸の比熱の差**を考慮しなければならない。大陸内部に位置する寒極付近は、海陸の比熱の差により海洋より気温の年較差が大きいため、北極海にある北極点付近よりも冬季低温となる。また、Vの緯度帯は偏西風帯にあたるため、大陸東部の内陸部に位置するこの地域は、偏西風によってもたらされる海洋の影響を受けにくく、同緯度の西側よりも冬季低温となる。解答では、**冬季の気温がきわめて低いこと**、それは**海洋の影響**を最も受けにくい大陸内部に位置するためであること、この2点を字数内に盛り込めばよい。

なお、この地域が厳寒となる理由として、以上に加えて、**放射冷却**を考慮する必要がある。冬季、寒極付近は、偏西風がもたらす海洋の影響や南側からの暖気の流入もないため、一旦低温になると、寒さが継続し、優勢なシベリア高気圧が発達する。高気圧に覆われるため、雲が発生しにくく、少雨となる（気候区はDw）。冬季、雲がないと放射冷却により、さらに気温が低くなる。

問3 正解は、フェーン。

湿った風が山地斜面を上昇したのち山を越えて、山地斜面を吹き下ろすと、暖かく乾いた風になる。風が上昇すると気温が低くなり（高度による気温の递減）、下降すると気温が高くなるが、湿った風は乾いた風より気温が低くなりにくいので、湿った風が上昇するときの気温の低下よりも、乾いた風が下降するときの気温の上昇のほうが大きくなる。そのため、高温の風となって吹き下ろし、風下側の低地の気温が上昇する。これを**フェーン現象**という。

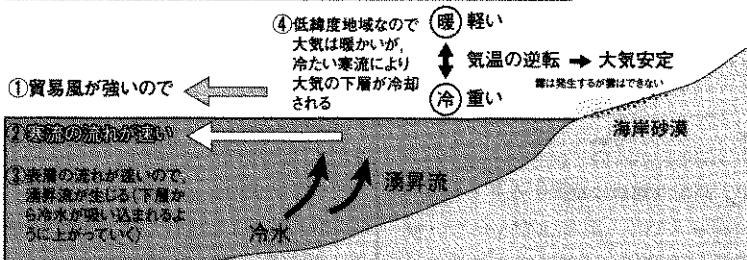
**重要 気温の年較差**

|                  | 年較差大   | 年較差小   | 原因                                     |
|------------------|--------|--------|----------------------------------------|
| 緯度               | 高緯度地方  | 低緯度地方  | 夏と冬の太陽高度の差                             |
| 隔海度              | 大陸（内陸） | 海洋（海岸） | 陸と海の比熱の差                               |
| 西岸と東岸<br>(中・高緯度) | 東岸     | 西岸     | 偏西風により海洋の影響を受ける西岸と、受けない東岸（東岸では季節風の影響も） |

◆寒極付近は、高緯度で、大陸東部の内陸部なので、気温の年較差がきわめて大きい。

**図解チェック 海岸砂漠の成因（南米西岸を例に）**

ペルー海流によって形成される海岸砂漠：ペルー海岸～アタカマ砂漠



**超重要・再度チェック 砂漠の分布と成因**

| 分 布                   | 成 因                  | 例                  |
|-----------------------|----------------------|--------------------|
| 緯度10~20度<br>(大陸西岸)    | 低緯度の大陸西岸<br>(海岸砂漠)   | 寒流：ペルー海流<br>ベンゲラ海流 |
| 緯度20~30度<br>(大陸東岸を除く) | 南・北回帰線付近<br>(亜熱帯砂漠)  | 亜熱帯高圧帯に年中<br>覆われる  |
| 緯度40~50度              | ユーラシア大陸内陸部<br>(内陸砂漠) | 隔海度が大きい            |
|                       | アルゼンチン南部<br>(雨陰砂漠)   | 偏西風に対して山地<br>の風下   |

フェーンは、ヨーロッパのアルプス山脈を吹き下ろす高温・乾燥の南風で、スイスやドイツ南部の地方風の名称であるが、同様の風は世界各地や日本でもみられ、北アメリカのチヌークによる気温の上昇もフェーン現象である。フェーンが吹くと、麓では火災が起きやすく、アルプスの雪が一気に融けて融雪洪水が起きやすい。ロッキー山脈の東斜面でも、春先に雪を融かし、雪崩を引き起こすため、チヌークは「Snow Eater（雪食い）」ともよばれる。

問4 正解は、a—亜熱帯高圧帯、b—寒流。

南回帰線付近に位置するオーストラリアのXが少雨で、グレートサンディー砂漠やグレートヴィクトリア砂漠が分布するのは、年間を通じて亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響を受けるためである。Yのペルー海岸からチリ北部のアタカマ砂漠にかけて

は、沖合を北上する寒流のペルー海流により大気下層が冷却され（=気温の逆転が生じ）、上昇気流が起きにくい（=大気が安定する）ためである。寒流の影響で形成される砂漠を海岸砂漠といい、低緯度の大陸西岸に分布する。海岸砂漠については、成因の説明が求められる。上の「図解チェック」の図をじっくり見て理解し、説明できるようにしておこう。

少雨地域は、寒冷で蒸発量の少ない極付近を除いて、砂漠となる。砂漠の成因は4つあり、上の「超重要・再度チェック」に示す。各砂漠がどのタイプなのかを、砂漠名とともに覚えておこう。

問5 正解は、【解答例】参照。

ニュージーランド南島は、全島がCfbであるが、島の東西で降水量が異なり、島の中央を南北に走るサザンアルプス山脈の西側が多雨、東側が少雨であ

る。南アメリカ南部のパタゴニア地方は、アンデス山脈の東西で降水量が大きく違うため、気候帯すら異なり、西側のチリ南部は多雨でCfb、東側のアルゼンチン南部は少雨でBWとなっている。ともに、西側の海から吹きつける偏西風が、山脈にぶつかって斜面を上昇するため西側は多雨となり、山脈を越えると水分を失った風が吹き下りるため東側は少雨となる。海からの風が山地の風上側にもたらす雨を地形性降雨という。ニュージーランド南島南西部とチリ南部にみられるフィヨルドの形成にも、地形性降雨による氷期の大量の降雪が一役買っている。逆に、海からの風に対して山地の風下側は少雨となる。山地の風下側に形成される砂漠を雨陰砂漠というが、その例は、アルゼンチン南部だけ覚えておけばよい。地形性降雨の例を、下の「超重要・再度チェック」に示す。マダガスカル島とハワイ諸島は風の名称だけよいが、他の地域は、風と山脈名をセットで覚えておこう。

#### 超重要・再度チェック 地形性降雨の事例

|       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| 南東貿易風 | マダガスカル島東部                       |
| 北東貿易風 | ハワイ諸島東部                         |
| 偏西風   | イギリスのペニン山脈の西側<br>(北半球)          |
|       | スカンディナヴィア山脈の西側<br>アラスカ南岸からカナダ西岸 |
| 偏西風   | ニュージーランド南島の西側<br>(南半球)          |
|       | アンデス山脈の西側のチリ南部                  |
| 南西季節風 | 西ガーツ山脈の西側 (マラバール海岸)<br>(インド)    |
|       | ヒマラヤ山脈の南側 (アッサム地方)              |

問6 正解は、(1) I—B・C、II—A・D、(2) A—ブレーリー、B—リヤノ。

Iは、Aw (サバナ気候) 地域に分布するサバナ (熱帯草原) と、熱帯に分布する肥沃度の低い赤色土壌であるラトソルの説明で、オリノコ川流域のリヤノ (B) とブラジル高原のカンボ (C) が該当する。IIは、温帶の半乾燥地域に分布する温帯草原と、そこに分布する黒色土のブレーリー土の説明で、ブレーリー (A) とパンパ (D) が該当する。広義の温帯草原には、丈の高い草原であるブレーリー (狭義の温帯草原) と丈の低い草原であるステップ (乾燥草原) があるが、前者は主にCfaに、後者はBSに分布する。温帯草原の黒色土には、ブレーリーに分布するブレーリー土とステップに分布するチエルノーゼムがあるが、いずれも腐植層の厚い肥沃な土壌である。パンパは、年降水量550mmを境に、東側のCfaに分布する湿潤パンパ (植生は

ブレーリーと同様) と西側のBSに分布する乾燥パンパ (植生はステップ) に分けられ、Dは湿潤パンパを示したものである。パンパにはブレーリー土と同様の肥沃土が分布する。

問7 正解は、②・③。

②の華北平原で綿花栽培が行われていることは正しいが、土壤の説明に誤りがある。華北平原には黄土が堆積している。これは、黄河が、中流部の黄土高原を流れる際、そこに厚く堆積している黄土を削って運搬してきたものである。黄土は風積土のレスの一種で、ゴビ砂漠から風で運ばれた細砂からなる。華北平原には、ゴビ砂漠から風で直接運ばれてきた黄土も堆積している。「玄武岩が風化して生成された黒色の肥沃な土壤」はレグールの説明で、②の文は、「華北平原」を「デカン高原」に変えれば正しい文となる。

③の九州南部でイモ類や茶の栽培が行われていることと、白色の土壤が堆積していることは正しいが、母岩に誤りがある。九州南部には、シラスとよばれる細粒の軽石や火山灰が堆積している。玄武岩は溶岩が冷えてできた黒い岩石で、これが風化すると黒色のレグールや赤紫色のテラローシャなどとなり、白色にはならない。シラスは、水はけがよすぎると水はけがよいため果樹栽培に適するところがあるが、水利条件がよければ稲作にも利用される。

①はブラジル高原南部のコーヒー栽培地域に分布するテラローシャの説明で、正しい。④のコイリン (桂林) は、タワーカルストの奇岩で有名であるが、これは、石灰岩が溶食を受けて形成されたカルスト地形の一種である。サトウキビやタバコ栽培で有名な⑤のキューバにも石灰岩が分布し、カルスト地形がみられる。石灰岩が風化して生成された土壤はテラロッサとよばれ、地中海沿岸地方に多く分布するが、石灰岩の分布地域には同様の土壤が分布する。肥沃度は中程度で、カルシウム分に富み、悪くはない。一般に、水はけがよいため果樹栽培に適するところがあるが、水利条件がよければ稲作にも利用される。

なお、問6で扱った熱帯のラトソル、温帯草原のブレーリー土のように、気候・植生に対応して分布する土壤を成帯土壤というのにに対し、問7で扱ったテラローシャ、テラロッサ、レグール、風積土 (レス、火山灰性土壤) のように、局地的に分布する土壤を間帯土壤という。土壤は色が重要で、さらに、成帯土壤は、気候・植生との対応と肥沃度の違いが、間帯土壤のうち風積土以外は母岩が重要である。これらを、各土壤の分布地域とともに、きちんと整理して覚えておこう。

### 重要 成帯土壌と間帯土壌

◆頻出の成帯土壌：気候・植生との対応と肥沃度

| 成帯土壌   | 色   | 分布地域<br>(気候・植生) | 肥沃度       |
|--------|-----|-----------------|-----------|
| ラトソル   | 赤色  | 熱帯              | やせ土       |
| ポドゾル   | 灰白色 | 亜寒帯             | やせ土       |
| 褐色森林土  | 褐色  | 温帯の森林地帯         | 肥沃        |
| ブレーリー土 | 黒色  | 丈の高い<br>温帯草原    | かなり<br>肥沃 |
|        |     | 丈の低い<br>温帯草原    | 最も<br>肥沃  |

◆頻出の間帯土壌：母岩、分布地域、農業との関係

| 間帯土壌   | 色   | 母岩        | 分布地域<br>農業との関係   |
|--------|-----|-----------|------------------|
| テラロッサ  | 赤色  | 石灰岩       | 地中海沿岸<br>果樹栽培    |
| テラローシャ | 赤紫色 | 玄武岩<br>など | ブラジル高原<br>コーヒー栽培 |
| レグール   | 黒色  | 玄武岩       | デカン高原<br>綿花栽培    |

◆風積土：風が運搬（間帯土壌に含まれる）

| 風積土 | 堆積物                 | 分布地域             |
|-----|---------------------|------------------|
| レス  | 水河堆積物の細砂<br>(水河性レス) | 東欧など             |
|     | 砂漠の細砂<br>(砂漠起源のレス)  | 黄土高原・華北<br>平原の黄土 |
| シラス | 細粒の軽石や<br>火山灰       | 九州南部             |

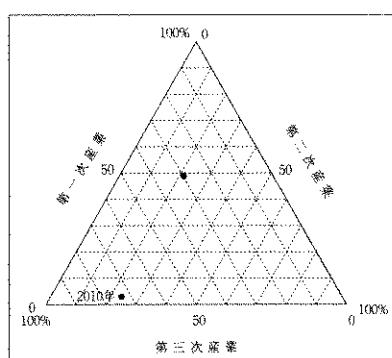
## ② 人口・都市

### 【解答】

問1 アメリカ合衆国—③ ナイジェリア—⑥

問2 韓国—a・ウ フランス—d・ア

問3 (1)



(2) ③

問4 (1) 海峽 (2) 河川の合流点

問5 (1) 門前町 (鳥居前町) (2) ③

問6 (1) 中心業務地区 (CBD)

(2) インナーシティ問題

(3) b

問7 川崎市—① 福岡市—⑤

問8 (1) キ (2) ドバイ

### 【配点】 (25点)

問1、問2、問3(1)、問5(2)、問6(3)、問7、問8

各1点×13=13点

問3(2)、問4、問5(1)、問6(1)(2)

各2点×6=12点

### 【出題のねらい】

「人口」で学ぶ最も基本的なテーマは人口動態と人口構成である。本問では問1で人口動態、問2と問3で人口構成に関する理解力を試した。「都市」では、問4の立地、問5の起源のほか、都市化に伴う機能的地域分化や都市の階層性が重要なテーマである。本問では問6で都市域の地域分化とこれに伴う問題を、問7で統計をもとに日本の都市の階層性に関する判断を求めた。問8は交通拠点として栄える世界の都市に関する問い合わせである。

### 【設問別解説】

問1 正解は、アメリカ合衆国—③、ナイジェリア—

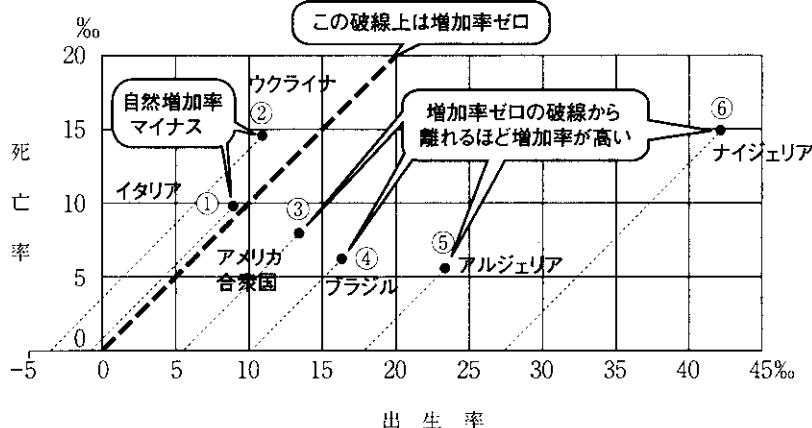
⑥。

一般に経済力の低い社会では出生率、死亡率ともに高い（多産多死型）が、工業化などで経済力が上昇するにつれ、出生率、死亡率が低下して、少産少死型となる。これを人口転換というが、出生率の低下は、死亡率の低下よりも遅れるので、人口転換期の前半は出生率が高く死亡率が低い多産少死型の時期が続き、この間に人口が急増する（人口爆発）。

図1では、⑥の出生率が40%超、死亡率が約15%だから、人口の自然増加率は25%超となり、6か国中最も高い。以下、⑤、④、③の順に自然増加率は低くなり、③では10%未満である。また、①と②は、どちらも出生率より死亡率が高いので、自然増加率はマイナスで、減少率は②のほうが大きい（次ページの図参照）。人口増加率がマイナスになるのは、少子高齢化が極端に進んだ先進国の一端にみられるほか、体制崩壊に伴う社会的混乱が尾を引く東欧・旧ソ連の旧社会主义国の一端にもみられる。

**統計図表の判定：ここに注目！ 出生率と死亡率のX-Yグラフ（散布図）**

\* 問題の図1は、X軸が出生率、Y軸が死亡率。X軸が死亡率、Y軸が出生率の場合もあるので、注意。  
原点を通る傾き45度の線を引くと、その線上が増加率ゼロ。  
増加率ゼロの線から離れているほど、増加率・減少率が高い。



**統計図表の判定：ここに注目！ ヨーロッパ諸国と新大陸の先進国の違い**

◆新大陸先進国は、自然増加率が高め。

若年層の移民の流入により、出生率が高めで死亡率が低めなため。

◆東欧・旧ソ連諸国は、自然増加率がマイナス。

体制変革後の混乱などが尾を引き、出生率が低く死亡率が高めなため。

◆南欧・ドイツは、自然増加率がややマイナス。

日本と同様、少子高齢化が深刻なため。

◆北西ヨーロッパは、自然増加率がややプラス。

少子化対策が効果を上げ、出生率が回復しているため。

ここで、6か国の1人あたり国民総所得（2011年）に注目すると、アフリカ最大の人口を抱えるナイジェリアが最も低い（1,347ドル）ので、⑥が該当する。一方、高い国はアメリカ合衆国（48,585ドル）とイタリア（35,849ドル）で、両国の人口増加率は低いはずである。このうち、新大陸の先進国であるアメリカ合衆国は、オーストラリアなどと同様、若年層移民の流入が多く、出生率がヨーロッパの先進国よりやや高いので③であり、イタリアはドイツ、日本とともに少子高齢化で自然増加率がマイナスだから①である。なお、ナイジェリアより所得は高いが、アメリカ合衆国、イタリアよりは低いブラジルは④、アルジェリアは⑤である。また、ウクライナは旧ソ連の構成国で、経済が低迷し未来に期待をもてない若年層が出産を控えたことから出生率が低下し、失業率が上昇したこと、健康保険制度が後退したことなどから死亡率が上昇して、人口の自

然減少が続いている、②が該当する。

問2 正解は、韓国—a・ウ、フランス—d・ア。

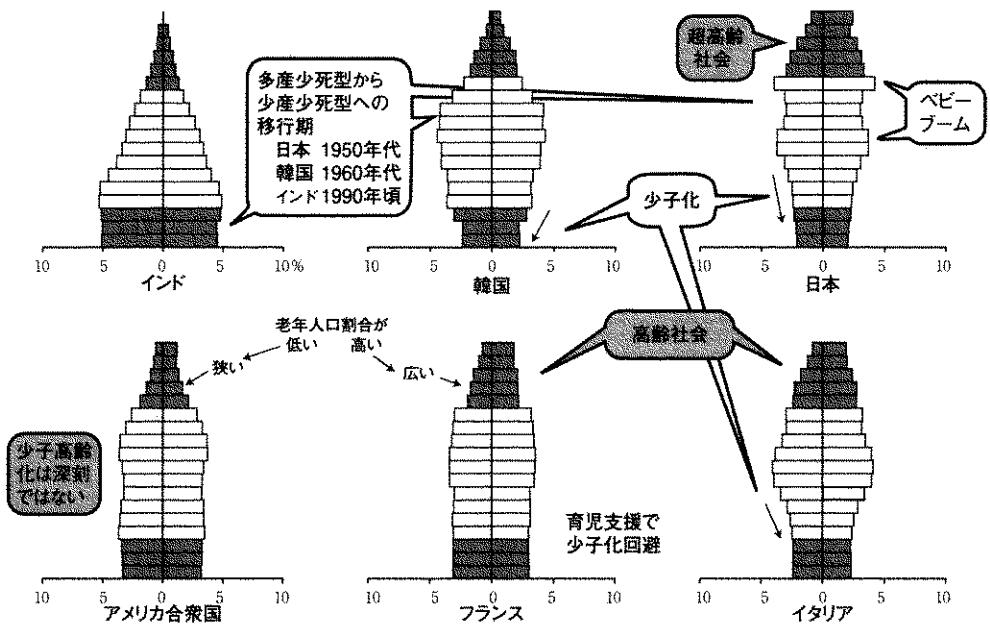
年齢別性別人口構成は、人口動態の型によって異なる。一般に多産多死型や多産少死型では、年少人口（15歳未満）割合が特に高く年齢が上がるにつれ割合が下がる富士山（ピラミッド）型の構成となる。出生率が低下し始めると、年少人口割合が低下し、生産年齢人口（15歳以上65歳未満）のうち若年層の割合と大差がなくなる。人口転換が終わり少産少死型になると、老人人口（65歳以上）以外の全階層間の割合に差がなくなり、つり鐘型とよばれるピラミッドとなる。また、少産少死型となって以後、少子高齢化が極端に進むと、老人人口割合が高くなる一方、年少人口割合が上の階層より低くなり、つぼ型とよばれる人口ピラミッドになり、人口が減少する。

問題の4か国では、フランスの人口転換が最も早

統計図表の判定：ここに注目！ 人口ピラミッド（最新年）

\* わかりにくい場合は、年少人口（15歳未満）と老人人口（65歳以上）の部分に色を塗って割合の大小を見やすくし、相互に比較しよう。

- ◆新大陸先進国：少子高齢化が深刻ではないので、年少人口の部分が広めで、老人人口の部分が狭め。
- ◆日本、南欧・ドイツ：深刻な少子高齢化。年少人口の部分が極端に狭く、老人人口の部分が広い。
- ◆北西ヨーロッパ：高齢化は進んでいるので、老人人口の部分は広い。少子化対策が進み、年少人口の部分はそれほど狭くない。



く、19世紀末から20世紀初頭には転換を終え、少産少死型となった。日本と韓国で、高かった出生率が急速に低下したのは日本のほうが早く、日本が1950年代、韓国が1960年代であった。インドで出生率が下がり始めるのは、4か国で最も遅く、比較的最近のことである。1970年の人口ピラミッドを見ると、cがピラミッド型、dがつり鐘型で、aとbはその中間型である。人口転換の時期が早いものから順に並べると、d、b、a、cの順となる。よってフランスがd、日本がb、韓国がa、インドがcである。

最新年のピラミッドは、その40年後もので、フランスがア、日本がエ、韓国がウ、インドがイである。フランスでは、育児支援などの政策により出生率の低下を抑えることに注力し、成果を上げたので、年少人口割合が極端に少ないことはない。日本では少産少死型となって以降も出生率の低下が止まらず年少人口率が低くなる一方で高齢化が進展し、老人人口率は世界最高（24.1%、2012年）となっている。韓国でも少子化は深刻で、年少人口率の低下

は日本以上に急速だが、老人人口割合は日本より低い。インドは高かった出生率が、20年ほど前から下がり始め、年少人口割合が下がる兆しが見える。

問3 正解は、(1)【解答】参照、(2)(3)。

産業別人口構成は、経済発展段階と対応する。一般に経済力の低い社会は農業を中心とする第一次産業人口率が高いが、工業化が始まると、工業を中心とする第二次産業と商業、サービス業などからなる第三次産業の人口割合が上昇し、第一次産業人口割合は低下する。第二次産業人口割合は、工業化が順調に進展すると、30～40%程度までは上昇するが、以降は停滞もしくは低下し始め、第三次産業人口割合だけが上昇を続ける。この段階を脱工業化、またはサービス経済化などとよび、経済力の最も高い先進国に共通してみられる。

(1) 1950年は朝鮮戦争が勃発し、日本の工業が本格的に復興し始める年だが、従業者のほぼ半数が第一次産業人口であり、第二次世界大戦前の1930年頃と同水準であった。設問文中の1950年データを三角グラフに示すと次ページの図のようになる。

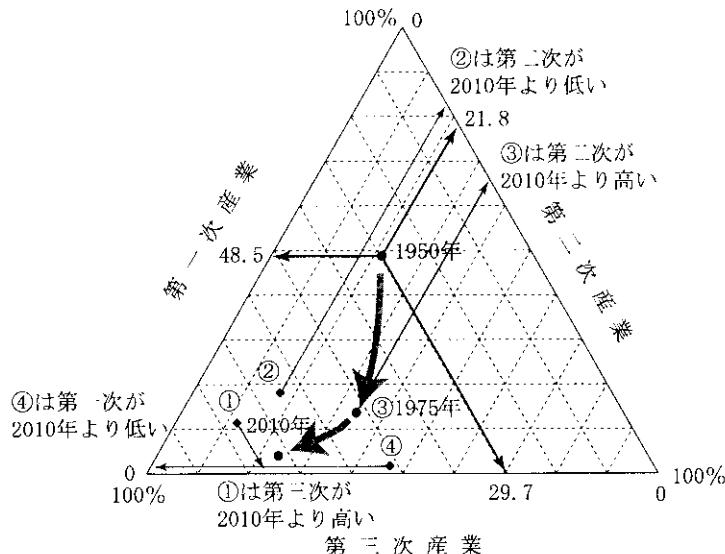
統計図表の判定：ここに注目！ 産業別人口構成の変化

◆工業化により、第一次が低下、第二次・第三次が上昇。

→ 三角グラフでは、下方に移動。

◆サービス経済化により、第三次のみが上昇、第二次はやや低下。

→ 三角グラフでは左下へ移動。



(2) 1950年代半ば頃から、工業が牽引役となって高度経済成長が始まり、第二次産業人口割合は上昇を続けるが、1970年代がピーク（1975年は約34%）で、1973年の第一次石油危機を契機に高度経済成長期が終わると停滞する。そして、1990年代には低下傾向がはっきりし、2000年以後は30%を割り込んで、20%に近づいていく。この間、第一次産業人口率は一貫して低下、第三次産業人口率は一貫して上昇している。よって、1975年の産業別人口構成は、2010年と比べ、第三次産業人口率が低く、第一次、第二次産業人口率が高い。これに該当するのは③である。1950年から1975年をへて2010年に至る変化は、上図に太く薄い矢印で示したように、三角グラフでは「J」の形の軌跡となり、1950年から1975年が工業化の段階に、1975年以後（特に2000年代に入ってから）はサービス経済化の段階となる。

問4 正解は、(1)海峡、(2)河川の合流点。

都市は人や物資が集まりやすい交通の要衝（結節点）に立地することが多い。具体的には平野の中心、河口、河川の合流点、湾奥、海峡などがそれである。

(1) いずれも海峡に面した都市である。イスタンブールはボスボラス海峡に面するトルコ最大の都市

でアジアとヨーロッパの間の交易の中継点、コペンハーゲンはデンマークの首都でスウェーデンを対岸に臨むシェラン島に位置する（海峡名は覚えなくてよい）。シンガポールはマラッカ海峡の南端に位置し、東南アジアはもとよりインド洋と太平洋を結ぶ広大な交易圏の拠点として高い経済力を誇る。

(2) いずれも河川の合流点に位置し、3方向からの船便が集まる河港を有し、それが発展を支えてきた。ウーハン（武漢）は長江中流の都市で、北から流入する支流のハン川（漢水）との合流点に位置する。セントルイスはミシシッピ川中流の都市で、ミズーリ川（本流より長い支流）との合流点に、ペオグランドはドナウ川中流の都市で、支流のサヴァ川との合流点にそれぞれ位置する。

問5 正解は、(1)門前町（鳥居前町）、(2)③。

都市は都（みやこ）と市（いち）を組み合わせた語だが、それは政治の中心地（都）や交易の中心地（市）を起源とするものが多いことによる。多くの参詣者が集まる寺や神社に接して商業施設が集積し、都市となったものも後者に含めてよい。

(1) 地形図Aの南西に「金刀比羅宮」（香川県琴平）があり、市街地は金刀比羅宮に向かう道沿いに形成されていることから、有名寺社を訪れる参詣者

統計図表の判定：ここに注目！ 都市の中心性を示す指標

◆昼夜間人口比率：3大都市圏の中心都市で高く、その周辺都市は低い。

◆商品販売額：商品販売額＝卸売販売額＋小売販売額。

卸売販売額は中心性の高い都市で多い。

小売販売額は人口と対応。

都市別ランキング—太字は3大都市と地方中枢都市—

|    | 人口         | 小売販売額      | 卸売販売額      | 商品販売額      |
|----|------------|------------|------------|------------|
| 1位 | <b>東京</b>  | <b>東京</b>  | <b>東京</b>  | <b>東京</b>  |
| 2位 | <b>横浜</b>  | <b>大阪</b>  | <b>大阪</b>  | <b>大阪</b>  |
| 3位 | <b>大阪</b>  | <b>横浜</b>  | <b>名古屋</b> | <b>名古屋</b> |
| 4位 | <b>名古屋</b> | <b>名古屋</b> | <b>福岡</b>  | <b>福岡</b>  |
| 5位 | <b>札幌</b>  | <b>札幌</b>  | <b>仙台</b>  | <b>横浜</b>  |
| 6位 | <b>神戸</b>  | <b>京都</b>  | <b>札幌</b>  | <b>札幌</b>  |
| 7位 | <b>京都</b>  | <b>福岡</b>  | <b>広島</b>  | <b>仙台</b>  |
| 8位 | <b>福岡</b>  | <b>神戸</b>  | <b>横浜</b>  | <b>広島</b>  |

年次は2007年。商業統計により作成。

に各種のサービスを提供する施設が核となって発展したものだと考えられる。これを門前町（神社の場合、鳥居前町とよぶこともある）という。

(2) 地形図Bの南東に「有子山城跡」とあり、「城山」の北の山麓には城跡の記号(凸)もみられるから、城下町(兵庫県の出石)である。城下町では、身分別や職業別の町割がみられ、武士と町人は居住区が異なる。また、町の外縁に寺院を集中させて寺町とすることが多い。図の「鉄砲」は、身分の軽い武士(足軽)の居住区、「魚屋」「材木」はそれぞれ町人(商人・職人)の居住区であったことを示し、これらの地名からも市街地が城下町であったと判断できる。③の「川原」は、図の西を流れる河川に因る地名なので、城下町だったことに由来する地名ではない。

使用した地形図は、地形図Aが国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1地形図「普通寺」、地形図Bが同じく「江原」である。

問6 正解は、(1)中心業務地区(CBD)、(2)インナーシティ問題、(3)b。

(1) 企業の本社、金融機関、官公署などを中枢管理機能といい、こうした機能を担う施設が集中するオフィス街を中心業務地区(CBD: Central Business District)という。CBDのある都心では、昼間人口が非常に多いが夜間人口は少ないので、昼夜間人口比率がきわめて大きい。

(2)(3) 大都市の都心近くの早くから市街地化が進んだ地区をインナーシティといい、同心円モデルで

はbが該当する。bは早くから開発された地区だから、住宅の老朽化が他の地区より進んでいる。このため、アメリカ合衆国の大都市では、モータリゼーションの進展とともにbの居住者がdの高級住宅地区やeの郊外に流出し、入れ替わるように移民や貧困層が流入した。老朽化した住宅は家賃が安いからである。貧困層の増加とともに住宅の荒廃はさらに進み、失業率の上昇、治安の悪化も目立つようになり、1970年代にはニューヨークやシカゴなどで深刻な都市問題と考えられるようになった。bの地区に典型的にみられるこのような問題をインナーシティ問題といいう。

問7 正解は、川崎市—①、福岡市—⑤。

都市は人や物資が集まる中心地として機能する。中心地機能をもつ施設には、オフィスのほか、百貨店、高級専門店、娯楽施設、大学、病院、駅などがあり、こうした機能を多く有する都市ほど多くの人々や物資が集まる。都市には階層性があり、高次の中心地機能を有する都市ほど階層性は上位で、中心性(中心地機能の大小)の高い都市である。日本の都市では東京(23区)が階層構成の頂点に位置し、政令指定都市では大阪と名古屋の中心性が高い。一方、東京に隣接する都市は、たとえ政令指定都市であっても、中心地機能の多くを東京に依存し、東京に通勤・通学する人が多いため、中心性が低い。

表1のうち、中心性を示す指標が商品販売額と昼夜間人口比率である。製造品出荷額は、地方の小都市でも大規模工場が立地していれば大きくなること

があり、都市の中心性を示す指標ではない。①と④は、昼夜間人口比率が100を下回り、商品販売額が少ない。この2市は東京周辺の住宅機能を担う都市で、中心性の低いさいたま市と川崎市である。川崎市は工業都市としても知られ、多くの工場が立地するから、製造品出荷額の大きな①が該当する（④がさいたま市）。他の4市は、昼夜間人口比率が100を超えており、周辺から通勤・通学者を集め、中心性の高い都市である。このうち②は商品販売額が特に大きいから大阪市であり、福岡市は大阪市に次ぐ商品販売額の⑤である。商品販売額のうち、小売販売額は人口にだいたい比例するが、卸売業は中心性の高い都市に集中しており、卸売販売額は、東京（区部）、名古屋市、大阪市の3大都市で多く（全国の6割を占める）、次いで九州の中心である福岡市が多い。残った③、⑥では、③が中国地方の中心で自動車工業などが立地し製造品出荷額の多い広島市、⑥が北海道の札幌市である。福岡、札幌、仙台、広島は地方中枢都市とよばれ、中心性が3大都市に次いで高い。

問8 正解は、(1)キ、(2)ドバイ。

(1) アジアは、世界の工場とよばれる中国を筆頭に、工業の世界的な拠点となっている。これに関連し、近年、コンテナ取扱量はアジアの港湾が圧倒的に多い。よってキがコンテナ取扱量の順位である。一方、国際航空網では、経済活動の活発な地域ごとに拠点空港（ハブ空港）があり、特にEU加盟国間の往来が多いヨーロッパに旅客数の多い空港が目立つので、力が国際乗降旅客数の順位である。

(2) Xはアジアとヨーロッパ、アフリカを結ぶ人の移動や物流の拠点として地位向上が著しいドバイである。ドバイは、7つの首長国（君主国）からなる連邦であるアラブ首長国連邦の主要構成国の1つだが、首都でもあるもう1つの主要構成国アブダビと異なり、石油資源に恵まれない。このため1980年代から産業の多角化を進め、大規模な空港、港湾のほか世界最高の高層ビルなどインフラを整備して、物流と観光、金融業の育成に努めてきた。シンガポール、ホンコン、ドバイは、それぞれ東アジア、東南アジア、西アジアの交通の拠点で、いずれも中継貿易が盛んで、各地域の代表的なハブ空港を有する。

### ③ 資源・農産物の需給と地球的課題

#### 【解答】

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 問1 1 都市鉱山          | 2 緑の革命     |
| 3 -遺伝子組み換え         | 4 -フェアトレード |
| 問2 ④               |            |
| 問3 (1) B-① C-② D-⑧ |            |
| (2) イ-② ウ-④        |            |
| (3) サトウキビ          |            |
| 問4 インドネシア          |            |
| 問5 P-② Q-⑥ T-⑤     |            |
| 問6 (1) 家畜の飼料       |            |
| (2) ブラジル           |            |

#### 【配点】 (25点)

問1、問2、問3(3)、問4、問6(1)

各2点×8=16点

問3(1)(2)、問5、問6(2) 各1点×9=9点

#### 【出題のねらい】

エネルギー・鉱産資源や農産物の生産、流通（貿易）、消費については、統計を使って多面的に出題した。とりわけ、エネルギー消費の多い国の一次エネルギー消費構成や発電構成は頻出統計であるので、国名判定問題が出ても全問正解できるようていねいに学習しておこう。地球的課題については、資源問題、南北問題、食料問題、環境問題を出題し、近年話題となり、教科書にも載るようになった頻出用語も多く聞いた。経済のグローバル化や技術革新については、よい面もあれば悪い面もあることを考えながら学習してほしい。

#### 【設問別解説】

問1 正解は、1-都市鉱山、2-緑の革命、3-遺伝子組み換え、4-フェアトレード。

1：都市鉱山とは、都市など地上に蓄積された工業製品を資源とみなす概念である。近年、レアメタル価格の高騰を受け、この概念が評価され、廃棄された携帯電話やパソコンを回収し、それらの部品から資源を取り出そうとする試みが積極的に進められている。

2：緑の革命とは、発展途上国の中食料不足を解消するために、米・小麦・トウモロコシの高収量品種の導入を図る技術革新である。米の高収量品種は、フィリピンのマニラ郊外にある国際稲研究所

(IRRI) で開発された。穀物生産が増加し食料自給を達成した国もあるが、高収量品種の導入には、化學肥料・農薬の使用と灌漑整備が不可欠なため、農家間・地域間の経済格差が拡大した。

3 緑の革命の高収量品種は、品種改良で開発されたものであるが、遺伝子組み換え作物（GM作物、GMO）は、バイオテクノロジーを駆使して遺伝子を操作し、農業生産上有用な性質をえた作物のこと、たとえば、病虫害や除草剤への耐性を持たせることで、生産減少のリスクが解消され、農作業の効率化を図ることができる。品種改良よりも早く確実に品種開発ができる利点もある。導入が最も進んでいるのはアメリカ合衆国とアルゼンチンの非食用作物（飼料用作物など）である。飼料用作物と食用作物の明確な区分は困難で、人体や生態系に対する悪影響は未知数であることから、EUはGM作物の導入やGM食品の輸入に消極的である。開発企業の知的財産権の観点から種子の採取・利用が制限されるため、開発企業による農業支配が強まるのではないかという懸念もある。

4 コーヒーやカカオなどの一次産品を生産する発展途上国の農家は、取引業者による買いたきや市場価格の変動により、収入が少なく不安定な生活を強いられている。フェアトレード（公正な価格による取引）とは、こうした状況を改善するための運動で、先進国の消費者が、労働に見合う適正・公正な価格で農産物を購入することで、発展途上国の農民の生活の維持・向上を図ろうとするものである。

問2 正解は、④。

①は「ヴォルガ川」を「アムダリア川とシルダリア川」に直せば正しい文になる。これら河川流域では、ソ連時代の自然改造計画により河川水を利用した綿花栽培が拡大し、ウズベキスタンは綿花の生産・輸出上位国となっている。しかし、河川からの大量取水により、アムダリア川はアラル海に到達する前に干上がり、シルダリア川の水量も大幅に減ったため、アラル海は湖面が縮小し、消滅の危機にある。アラル海の塩分濃度の上昇により漁業は壊滅し、干上がった湖底から塩分などが飛来して農地の塩害や人々の健康被害を招いている。アムダリア川からはカスピ海に向けてカラクーム運河が掘られ、周辺を灌漑農地に変えたが、ソ連崩壊後、カスピ海までつなぐ計画は中止となった。

②は「コンゴ川」を「アマゾン川」に直せば正しくなる。コンゴ川流域でも住民による焼畑サイクル

の短縮や耕地の拡大などにより熱帯林の破壊は進んでいるが、アマゾン川流域ほど急速ではない。アマゾン川流域の本格的な開発は、アマゾン横断道路が建設された1970年代以降で、「土地なき人々を人々なき土地へ」をスローガンに、北東部の貧困層の入植が進められたほか、大資本による牧場開発、ダム開発、カラジャス鉄山などの鉱山開発、その鉄鉱石を運び出すための鉄道建設や製鉄所の建設、製鉄用木炭の伐採などにより、広大な面積の熱帯林が失われた。

#### 違いに注意！ 热帯林破壊の主な原因 地域判定のキーワード

- ◆アマゾン川流域：横断道路、大牧場、鉱山開発、鉄道・ダム建設、入植政策。
- ◆東南アジア島嶼部：アラヤシ農園の造成、輸出用木材伐採、入植政策。

\* 耕地の拡大と焼畑の休閑期間の短縮は、アマゾン、東南アジア、コンゴ盆地に共通。

③は後半の「フロンにより、皮膚がんや白内障の患者が増加している」が誤りで、「PM2.5（微小粒子状物質）などによる深刻な大気汚染が続いている」とすれば正しくなる。大都市の大気汚染は、かつてはロンドンのスモッグ、ロサンゼルスの光化学スモッグなど、先進国との問題であったが、近年は、発展途上国で深刻である。工場などからの排煙や急増する自動車の排ガスがその原因で、中国では、工場や発電所、家庭で主に石炭が使われていることが、汚染をさらに深刻なものとしている。ペキンでは、オリンピック前に排煙の多い工場の郊外移転、発電所への集塵設備の装着、自動車の排ガス規制の強化などを進めたが、自動車の増加などもあり、改善は進んでいない。フロンは化石燃料の燃焼によって排出されるものではなく、冷却剤、噴射剤、洗浄剤として人工的に作ったもので、吸引しても人体に直接的な被害がないが、オゾン層破壊の原因物質であるとともに、地球温暖化を招く温室効果ガスの一種である。オゾン層破壊が進むと有害な紫外線が地上に到達し皮膚がんや白内障の患者が増えるなど、人体に悪影響を与える。④は正しい。

#### 違いに注意！ 大気汚染物質

- ◆工場からの排煙や自動車の排ガスの煤煙は、発生源近くの大気汚染を招く。

\* PM2.5は、風で移動するため、発生源近くだけでなく、広範囲に拡散する。

統計図表の判定 一次エネルギー供給の統計で押さえておくべきポイント

◆ エネルギー消費量トップ4：中国、アメリカ合衆国、インド、ロシア

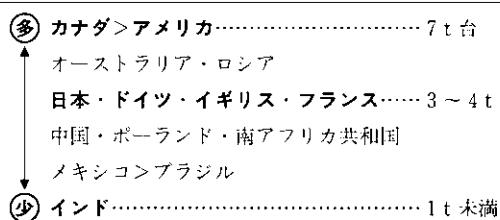
\* 経済規模には対応し、発展途上国でも人口の多い国が多い。

◆ エネルギー輸出大国：ロシア・オーストラリア・インドネシア・ノルウェー・カナダ

\* OPEC加盟国のサウジアラビアなども。

\* インドネシアは、原油の輸出は減ったが石炭の輸出が増えている。

◆ 1人あたりエネルギー供給量 (t/人・年)



◆ 一次エネルギー供給構成 (構成比が最大の化石燃料)

石炭………中国・インド・南アフリカ共和国・ポーランド

石油………日本・韓国・イタリア・メキシコ

天然ガス………ロシア・ウクライナ・オランダ

◆ 発電構成 (火力以外の比率の高い国)

水力………ノルウェー (95%)・ブラジル (80%)・カナダ (60%)

原子力………フランス (75%)

◆ 原子力発電ゼロの先進国：イタリア・オーストラリアなど。

- ◆ 硫黄酸化物・窒素酸化物は風で移動し、広範囲に酸性雨の被害をもたらす。
- ◆ フロンがオゾン層を破壊すると、陸上生物が有害な紫外線の被害を受ける。
- ◆ 二酸化炭素・メタン・フロンなどの温室効果ガスは地球温暖化を招く。

問3 正解は、(1)B-①、C-②、D-③、(2)イ-②、ウ-④、(3)サトウキビ。

(1) A・Cはエネルギー供給量が多いが、1人あたり供給量が多くないので、人口の多い発展途上国で、石炭の供給構成比が高いこともヒントに、中国またはインドとする。人口規模、経済水準とも中国がインドを上回るので、供給量1位のAが中国、3位のCがインドである。Bは、供給量が多いうえ、1人あたり供給量がきわめて多いので、新大陸先進国で経済規模の大きいアメリカ合衆国である。Dは、1人あたり生産量が1人あたり供給量を大幅に上回るので、エネルギー資源の輸出国で、天然ガスの供給構成比が高いことと、1人あたり供給量が多めであることもヒントに、ロシアとする。以上のように判定するためには、上の「統計図表の判定」に

示す押さえておくべきポイントを頭に入れておかねばならない。

(2) 表2のE~Hは、カナダ、ドイツ、ブラジル、フランスのいずれかで、表1の1人あたり供給量がアメリカ合衆国(B)と同じくきわめて多いHがカナダ、中国(A)より少ないFがブラジルで、残るE・Gはフランスまたはドイツである。

表1の一次エネルギーの供給構成で「その他」は、原子力、水力、バイオ燃料など、化石燃料以外のエネルギー源である。先進国には原子力発電の比率が10%以上の国が多く、フランスが75%を超え突出する。よって、表2では、10%以上の国が3つ(E・G・H)あるが原子力で、これが75%を超えるGがフランス、E・Hがカナダかドイツである。水力発電の比率が高い国は、表2中の4か国ではブラジルとカナダの2か国なので、イが水力で、これが約80%のFがブラジル(先進国ではないので原子力の値が低い)で、約60%のHがカナダである。残るEがドイツで、この国は他の国より石炭に恵まれることもあり石炭火力の比率が高く、南部を除く国土の大半が低平で水力発電に不向きなため水力(イ)の比率が低い。

ウ・エは太陽光または風力で、先進国ではともに近年急速に伸びているが、中国、インド、ブラジルなどの発展途上国を含め多くの国で発電量が多いのは風力である。よって、いずれの国でも比率がより高めのウが風力、残るエが太陽光である。ドイツ（E）は、 Chernobyl 原子力発電所の事故後、脱原発の機運が高まり、自然エネルギーの利用を拡大する政策に転じたため、風力、太陽光とも比較的高い値となっている。表2は福島第一原発事故のあった2011年のもので、その後のドイツは、自然エネルギーの利用をさらに積極的に進めている。自然エネルギーは、化石燃料と違って枯渇の心配のない再生可能エネルギーであるうえ、環境負荷の小さいクリーンエネルギーもある。

(3) 表1で、ブラジル（F）は「その他」の比率が45.4%もあるが、その内訳のうち、「バイオ燃料と廃棄物」が28.9%、「水力」が13.6%である。ブラジルのバイオ燃料のうち、バイオエタノールの主要原料はサトウキビである。ブラジルは、化石燃料が乏しかったため、水力の開発とバイオ燃料の利用のほか、資源探査を積極的に行ってきました。その結果、海底油田が発見され、最近、その開発が始まっている。原油を輸出できるのは、自動車などの燃料へのバイオエタノールの利用が定着しており、石油消費を抑えられるためでもある。ブラジルのバイオエタノール生産は長らく世界第1位であったが、アメリカ合衆国でトウモロコシを主原料とする生産が急増し、現在は世界第2位である。なお、表2のバイオ燃料火力は、サトウキビの搾ったかすを利用するものが多いが、最近、世界初のバイオエタノール火力発電所も建設された。また、表1中で、「その他」のうち「バイオ燃料と廃棄物」の比率がブラジル以外で高いのは、インド（C）である。インドなど発展途上国でバイオ燃料の比率が高いのは薪炭利用が多いためで、インドでは牛糞の利用も多い。

#### 重要 バイオエタノール原料

バイオエタノールの主原料は、生産1位のアメリカ合衆国ではトウモロコシ、2位のブラジルではサトウキビである。

問4 正解は、インドネシア。

インドネシアは長らくOPEC加盟国で、日本へも原油を輸出しているが、近年は、産油量が減少したうえ国内消費が増えたため輸出量が減って、2004年以降は石油（原油と石油製品）の輸入量が輸出量

を上回る状態にあり、2009年にOPECから離脱した。なお、インドネシアでは炭田開発が進み、オーストラリアに次いで世界第2位の石炭輸出国となり、日本の石炭輸入先としても、オーストラリアに次いで第2位となった。インドネシア産石炭は製鉄には不向きなため、多くは火力発電用に利用される。

問5 正解は、P—②、Q—⑥、T—⑤。

輸入で上位に登場するS・T・Uは、金属の消費量の多いアメリカ合衆国、中国、日本のいずれかで、輸出で上位に登場するP・Q・Rは鉱産資源産出国で消費の少ないオーストラリア、チリ、南アフリカ共和国のいずれかである。鉄鉱石輸出1位のPは、ブラジルとともに生産量・輸出量の多いオーストラリアである。銅鉱石輸出1位のRは世界一の銅鉱生産国チリである。チタン鉱とクロム鉱で輸出1位、鉄鉱石でも輸出上位のQは、さまざまな金属資源に恵まれる南アフリカ共和国である。輸入のいずれにおいても1位のSは近年、急速に需要を増大させている中国である。T・Uのうち、Tは鉄鉱石と銅鉱では中国（S）に次ぐのに対し、Uは鉄鉱石と銅鉱輸入では上位に登場しないが、チタン鉱とクロム鉱では上位に登場する。日本は鉄鋼生産が中国に次いで多いが、鉄鉱石は輸入に依存しているのに対し、アメリカ合衆国は鉄鋼生産が日本より少ないうえ、鉄鉱石は、生産量が減っているとはいえ国内に産する。したがって、鉄鉱石輸入量は日本のはうが多いと考え、Tを日本、残るUをアメリカ合衆国とする。鉄や銅など從来から大量に利用してきた金属（ベースメタル）に対して、生産量や流通量の少ない金属をレアメタル（希少金属）と呼び、ベースメタルに添加して錆びにくくしたり強度を増したりするのに使われるもの、電子部品の材料として使われるものなどがある。チタンとクロムは、強度や耐食性などにすぐれるため合金など高品質の素材生産に利用され、先進国での需要が比較的多いレアメタルに含まれる。

問6 正解は、(1)家畜の飼料、(2)ブラジル。

(1) 中国では、所得水準の向上に伴い、料理用の食用油脂の需要が増大するとともに、食肉需要を満たすため畜産業が発展し、家畜の飼育頭数が増加している。大豆は、採油用に利用されるほか、搾りかすなどが鶏や牛の飼料として利用される。

(2) 中国の需要増大に伴い大豆価格が上昇し、世界の大豆生産量が増えている。生産第1位はアメリカ合衆国であるが、特に生産を増やしているのがブ

ラジルとアルゼンチンで、この3か国で世界の大豆生産の約8割を占める。中国の輸入先も、アメリカ合衆国とブラジルからが多く、アルゼンチンからの輸入も増えている。ブラジルの大豆生産量は、生産第1位のアメリカ合衆国と肩を並べるほど増えており、大豆畑はブラジル高原からアマゾン川流域へと拡大し、熱帯林破壊の一因としてあげられるほどである。

#### ④ モンスーンアジア地誌

##### 【解答】

- 問1 (1) アーテンシャン (天山) イー・タリム  
(2) ③
- 問2 W
- 問3 ④
- 問4 (1) L  
(2) キーインドネシア クーベトナム
- 問5 (1) インド テ 韓国 ツ  
(2) バンコク
- 問6 (1) ダッカ (2) ペキン (北京)  
(3) ムンバイ
- 問7 (1) B—マレーシア E—フィリピン  
G—ベトナム  
(2) フランス  
(3) 仏教

##### 【配点】 (25点)

- 問1(1)、問5(2)、問6 各2点×6=12点  
問1(2)、問2、問3、問4、問5(1)、問7  
各1点×13=13点

##### 【出題のねらい】

モンスーンアジアの自然環境、産業、都市、国家群などについて出題した。この地域には人口大国が多く、さまざまな統計で上位に登場する国が多い。近年、工業化による経済発展がめざましい地域でもあるため、入試では頻出地域である。地誌学習では、山脈名・河川名・都市名などの地名を覚えなければならぬので、地図帳の活用が不可欠である。農業・工業生産などの統計を覚える際には、順位をやみくもに暗記するのではなく、自然環境や人口規模、工業化の進展度などと関連づけながら学習しよう。

##### 【設問別解説】

- 問1 正解は、(1)アーテンシャン (天山)、イー・タリム、(2)③。

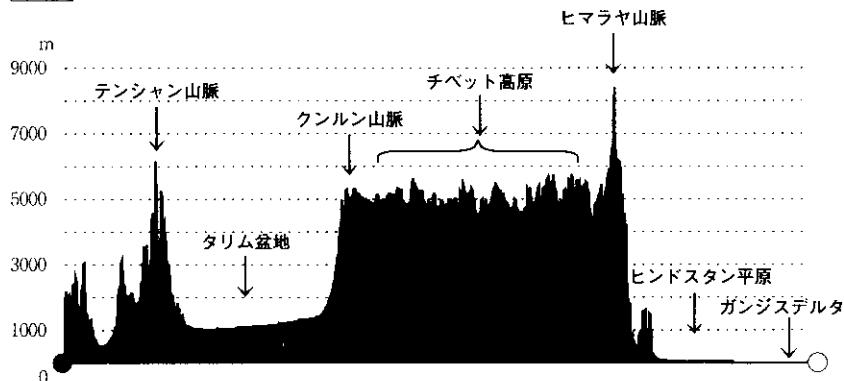
**重要** チベット高原は新期造山帶の高原。

テンシャン山脈は古期造山帶の山脈だが、断層運動で再隆起したため高峻。

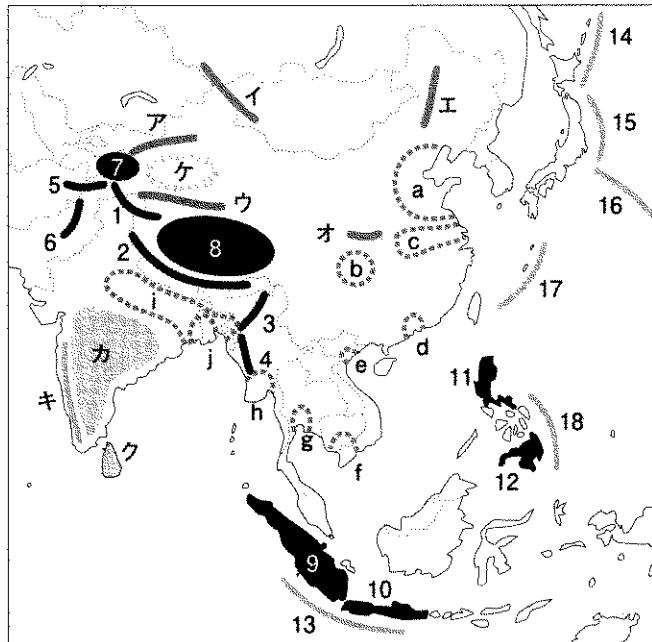
(1) ●—○沿いには、北側から、テンシャン (天山) 山脈 (ア)、タリム盆地 (イ)、クンルン (崑崙) 山脈、チベット高原 (ウ)、ヒマラヤ山脈、ヒンドスタン平原、ガンジスデルタがある。タリム盆地には、隔海度が大きく海からの湿気が届かないために形成される内陸砂漠の代表例であるタクラマカン砂漠が分布する。テンシャン山脈、クンルン山脈、ヒマラヤ山脈は標高が高いため、山頂付近に山岳氷河が分布し、タリム盆地では、融雪水が得られる場所にオアシス都市が立地し、オアシス農業が営まれている。チベット高原はツンドラ気候となっており、ヤク・羊などの遊牧が営まれている。

(2) チベット高原は新期造山帶のアルプス・ヒマラヤ造山帶に位置する高原であり、テンシャン山脈

図① テンシャン山脈からガンジスデルタにかけての地形断面図



発展学習 山脈・高原・平野などを覚えよう！



古期造山帯：アーテンシャン（天山）山脈 イーアルタイ山脈 ウークンルン（崑崙）山脈 エーターシンアンリン（大興安嶺）山脈 オーチンリン（秦嶺）山脈

安定陸塊：カーデカン高原 キー西ガーツ山脈 クーセイロン島 ケータリム盆地

新期造山帯：1—カラコルム山脈 2—ヒマラヤ山脈 3—バトカイ山脈 4—アラカン山脈 5—ヒンドゥークシ山脈 6—スライマン山脈 7—パミール高原 8—チベット高原 9—スマトラ島 10—ジャワ島 11—ルソン島 12—ミンダナオ島

海溝：13—スンダ（ジャワ）海溝 14—千島・カムチャツカ海溝 15—日本海溝 16—伊豆・小笠原海溝  
17—南西諸島海溝 18—フィリピン海溝

河川沿いの平原・盆地・デルタ：a—華北平原 b—スチワン（四川）盆地 c—長江中下流平原  
d—チュー川（珠江）デルタ e—ホン川デルタ f—メコンデルタ g—チャオプラヤデルタ h—エーヤワディーデルタ i—ヒンドスタン平原 j—ガンジスデルタ

は古期造山帯の山脈である。これらを知つていれば、タリム盆地が安定陸塊に分類されることを知らなくても答えが出る。

世界の大地形は、造山運動を受けた時期により区分され、その時期は、安定陸塊が先カンブリア時代、古期造山帯が古生代、新期造山帯が中生代末から新生代にかけてである。この時期が古いほど長期間の侵食を受けるため、起伏が小さく高度も低くなつておらず、安定陸塊には低平な準平原が、古期造山帯には丘陵状の老年期山地が、新期造山帯には高峻で壯年期山地が、それぞれ多い。

ところが、テンシャン山脈は、古期造山帯に分類されるにもかかわらず、高峻（最高峰約7,500m）である。これは、侵食を受け、低くなだらかになつ

た後、断層運動によって再隆起したためで、両側に断層崖を持つ地盤とよばれる断層山地の例である。ヒマラヤ山脈やチベット高原の北側から東側にかけての地域には、クンルン山脈とアルタイ山脈のように、同様の山脈がみられるが、これは、大陸プレートのインド・オーストラリアプレートとユーラシアプレートの衝突により地殻の圧縮・引張・ずれが生じ、大陸の広い範囲に断層が形成されているためである。

問2 正解は、W。

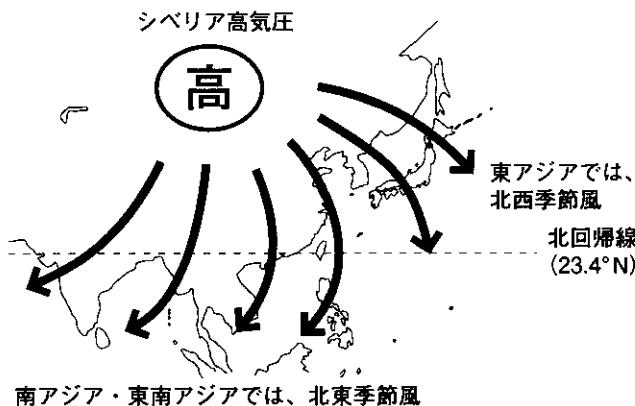
**重要** セイロン島はデカン高原と同じく、安定陸塊のゴンドワナランドの一部であった。  
海溝に沿う弧状列島には火山が分布する。

**違いに注意！ 季節風の風向き**

南アジア・東南アジアの大部分では、夏は南西季節風、冬は北東季節風が卓越する。

東アジアの大部分では、夏は南東季節風、冬は北西季節風が卓越する。

**冬の季節風一夏はこの逆**



W（セイロン島）は、インド半島とともに、かつて安定陸塊のゴンドワナランドの一部だった島で、火山はみられない。

せばまるプレート境界に対応する新期造山帯は地震が多発するが、そのうち、海洋プレートの沈み込み帯に形成される海溝に沿う弧状列島には活動的な火山が分布する。Y（ルソン島）、Z（九州）は環太平洋造山帯に属し、フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込む境界付近に形成された島である。ルソン島には、1991年に20世紀最大級の噴火を起こしたピナトゥボ山が、九州には、1991年に火碎流の被害を出した雲仙普賢岳、現在も噴煙を上げている桜島、霧島山の新燃岳、阿蘇山などがある。また、X（ジャワ島）は、アルプス・ヒマラヤ造山帯に属する島であり、インド・オーストラリアプレートがユーラシアプレートの下に沈み込む境界付近に位置し、スンダ海溝では2004年にインド洋大津波を引き起こしたスマトラ沖地震が発生した。ジャワ島には活動中の火山が複数みられ、2014年2月にも大きな噴火が発生した。

問3 正解は、④。

大陸と海洋の比熱の違いにより、夏季は高温で低圧となる大陸に向かって海洋からの風が吹き込み、冬季は低温で高圧となる大陸から海洋に向かって風が吹き出す。これがモンスーン（季節風）である。インド半島からインドシナ半島付近では、夏季、印度洋上の高気圧から吹き出した南寄りの風が自転による転向力を受けて右に曲がり、南西季節風となる。日本列島付近では、夏季、太平洋上の高気圧か

らの南東季節風が卓越する。冬季は、ユーラシア大陸東部に形成されたシベリア高気圧から吹き出した北寄りの風が転向力を受けて右に曲がり、日本列島付近では北西季節風、インドシナ半島やインド半島付近では北東季節風となる。

問4 正解は、(1)L、(2)キーインドネシア、クーベトナム。

**統計図表の判定：ここに注目！**

**決め手となる生産上位国**

- ◆コーヒー豆：ブラジルとコロンビア。ベトナムが急増。  
(Awの高原。原産地はアフリカ)
- ◆茶：中国と、旧英領のインド、スリランカ、ケニア。
- ◆バナナ：エクアドルとフィリピン。
- ◆パーム油：インドネシアとマレーシア。  
(Af。原産地はギニア湾岸)
- ◆天然ゴム：タイとインドネシア。マレーシアが後退。  
(Af。原産地はアマゾン)
- ◆カカオ豆：コートジボワールとガーナ。  
(Af。原産地は熱帯アメリカ)

(1) 決め手となる国を探し、わかりやすいものから決めていくとよい。Kのバナナはフィリピン・エクアドルが、Mの茶はケニア・スリランカが、Nのコーヒー豆はブラジル・コロンビアが、それぞれ決め手で、残ったしがパーム油となる。

(2) Lのパーム油の決め手となる国はインドネシ

統計図表の判定：ここに注目！ アジア諸国の工業生産の伸び

◆伸びた時期が早い順に、日本、韓国、タイ・中国・インド。

◆工業化が本格化したのは、

日本：高度経済成長期（1950年代半ば～1973年）

\*自動車生産は1990年代半ばまで急増。以後は高位安定。

韓国：1960年代後半からで、1970年代から本格化。

\*自動車生産は1980年代半ばから急増。

タイ：1980年代半ばから本格化。アジア通貨危機を克服した2000年代に加速。

\*「アジアのデトロイト構想」によりバンコクに自動車工業が集積。

中国：1978年に改革・開放政策に転じ、1990年代末から加速。

インド：1990年頃に経済自由化政策に転じ、2000年代に入って加速。

ア、マレーシアで、このうちインドネシアはNのコーヒー豆の生産も多いので、(キ)がインドネシアである。バーム油はアブラヤシの実から採取される。アブラヤシは、西アフリカのギニア湾岸の熱帯雨林地域が栽培起源地で、オランダ人によってスマトラ島やジャワ島に持ち込まれ、20世紀初頭から大規模に栽培が始められた。バーム油は、石けんや洗剤などの原料として利用されてきたが、近年はさまざまな食品の油脂原料としても利用されるほか、液体バイオ燃料（バイオディーゼル）の原料としての需要も増えている。特に、インドネシア・マレーシアでは、天然ゴムに代わるプランテーション作物として生産量が急増しており、2か国で世界生産の8割以上を占める。カリマンタン島など各所に農園が造成されており、東南アジアの熱帯林破壊の一要因となっている。

Nのコーヒー豆で生産第2位の（ク）はベトナムである。ベトナムでは、1986年にドイモイ政策に転じ生産許負制が始まって以降、各種農産物の生産が増え、特にコーヒー豆はブラジルに次ぐ世界第2位の生産を誇るまでになった。ブラジル（主産地は南東部のテラローシャ分布地域）やコロンビアのコーヒー豆は、エチオピア高原のカッファ地方を原産地とするアラビカ種で、栽培適地はサバナ気候の高原である。ベトナムとインドネシアでは、高温多湿な気候にも適するロブスタ種（コンゴ盆地原産で主にインスタントコーヒー用）の栽培が多い。

バナナは、エクアドルやフィリピンで輸出向けに生産されており、両国は輸出上位国でもある。インド・中国・ブラジルは生産上位国ではあるが、国内消費が多いため、輸出では上位に登場しない。

喫茶の風習、茶の文化は中国で始まり、日本や朝鮮半島にも伝わった。ヨーロッパでは、16世紀頃か

ら日本や中国から輸入され、茶を飲む文化が流行した。夏季冷涼なヨーロッパでは茶の栽培ができないため、イギリスは、19世紀に、植民地であったインド（カ）のアッサム地方やダージリン、セイロン（現在のスリランカ）に、20世紀に入ると東アフリカのケニアなどにも、プランテーションを拓いた。

問5 正解は、(1)インドー<sup>テ</sup>、韓国一<sup>ツ</sup>、(2)バンコ<sup>ク</sup>。

(チ)が日本であることは、1980年の生産台数が多く、1990年以後停滞していることからわかる。日本は、アジアの中で最も早い時期から工業化が進み、1980年代には世界最大規模の自動車生産国になっていた。自動車の普及率（人口100人あたり台数）が最も高いこともヒントになる。

次に（タ）は、2000年から2012年にかけて10倍近くの伸びを示し、2012年の生産台数がきわめて多いことから、中国（2009年以後世界第1位の自動車生産国）とわかる。中国は、1978年に改革・開放政策に転じて以後、輸出指向型工業化が始まったが、自動車生産が急増したのは、所得水準が上昇したことを背景に、外国メーカーが進出し、主に中国国内市場向けに生産を伸ばした1990年代末以後である。年間販売台数がきわめて多いことや、にもかかわらず、自動車の普及率が低いこともヒントになる。

(ツ)は、生産台数の急増期が1980年代で、以後も着実に伸びているので、工業化の時期が日本に次いで早かった韓国である。韓国は1960年代半ばに輸入代替型工業化政策を探ったが、1970年代からは輸出指向型工業化政策に転じ、国内の低賃金労働力を背景に外国企業を誘致した。その結果、工業化が加速し、1950年代の朝鮮戦争によって破壊された韓国経済が「ハンガン（漢江）の奇跡」と称されるほど短期間に発展し、1980年代半ばからは国内メーカー

による自動車の生産・輸出が急増した。1990年と2000年の生産台数が、(チ)の日本に次ぎ、(タ)の中国より多かったことが決め手で、自動車の普及率が日本に次いで高いこともヒントになる。

残る(テ)・(ト)がタイかインドで、両国は2000年代に入って生産台数が急増している。年間販売台数は人口規模の大きいインドのほうが多く、自動車の普及率は、所得水準の高いタイのほうが高いと考え、(テ)をインド、(ト)をタイとする。

タイの工業化は、アジア NIEs（韓国、台湾、香港、シンガポール）と同様、輸出を条件として税制面などの優遇措置をとる輸出加工区を設け、外国企業を誘致して進められた。しかし、本格的な工業化はアジア NIEs よりやや遅れ、1985年の円高を契機に日本企業の進出が増え、賃金水準の上昇したアジア NIEs 企業の進出も始まった。1997年のアジア通貨危機からの脱却後の2000年代初頭、政府は、バンコクを「アジアのデトロイト」にする構想を発表し、国内経済の好不況に左右されない生産体制を目指して、外国企業誘致政策を進めた。この構想により、バンコク近郊を中心に多くの自動車関連工場が立地し、タイ国内向けに加え、ASEAN 域内を中心とする輸出向け生産が伸び、生産台数世界第9位となった（2013年）。インドネシアでも自動車生産が増えており、ASEAN では、部品を相互供給する域内分業が行われている。

インドは、イギリスからの独立後、軽工業は民営企業が、鉄鋼などの重化学工業を中心とした基幹産業は国営企業が担う輸入代替型工業化政策をとり、国内産業の保護を重視してきた。しかし、産業保護政策は国内企業の生産性の低下をもたらすなどの問題を招いたため、1990年頃に経済自由化政策に転じ、外国からの企業参入を積極的に認めた。これにより、日本の自動車メーカーもインドに進出するようになり、2000年代に入ると、経済発展による中間層の形成が進み国内需要が高まったことから自動車生産台数、年間販売台数とも、飛躍的に上昇した。

問6 正解は、(1)ダッカ、(2)ペキン（北京）、(3)ムンバイ。

#### 違いに注意！ インドと中国の巨大都市

##### インドの巨大都市

ムンバイ：インド最大の商工業都市。綿工業と映画産業。

デリー：首都。人口急増中。

コルカタ：英領時代は最大の工業都市。ジュート工業。

##### 中国の巨大都市

シャンハイ（上海）：中国最大の商工業都市。鉄鋼など各種工業が発達。

ペキン（北京）：首都。近年、先端技術産業が集積。

(1) 「デルタ地帯で栽培される作物を原料とした繊維工業」は、ガンジスデルタで栽培の盛んな繊維原料のジュートを麻袋などに加工する工業である。古くからジュート工業が盛んな都市は、インドのコルカタとバングラデシュの首都ダッカであるが、「国内の人口最大都市」、「政治の中心」とあり、コルカタは首都でも国内最大都市でもない（市域人口最大はムンバイ）ので、ダッカ（Q）が正解となる。バングラデシュでは、近年、海外企業の進出が相次いでおり、綿花を海外から輸入し安価で豊富な労働力を活かした綿織物工業が発展しており、経済発展を牽引している。

(2) 「世界都市」からペキン（北京）またはムンバイであるが、「人口では国内第2」、「国内政治の中心」なので、中国ではシャンハイ（上海）に次ぐ人口規模の首都ペキン（R）となる。経済のグローバル化に伴い、国際金融や情報関連産業などの中枢機能や、多国籍企業の支社・支店などが特定の大都市に集積するようになっているが、そうした都市を世界都市（グローバル都市）という。経済発展が急速に進む中国の首都ペキンには、近年これらが集積している。また、「規模が大きく歴史の古い大学の

#### 重要 ASEAN の拡大と変質

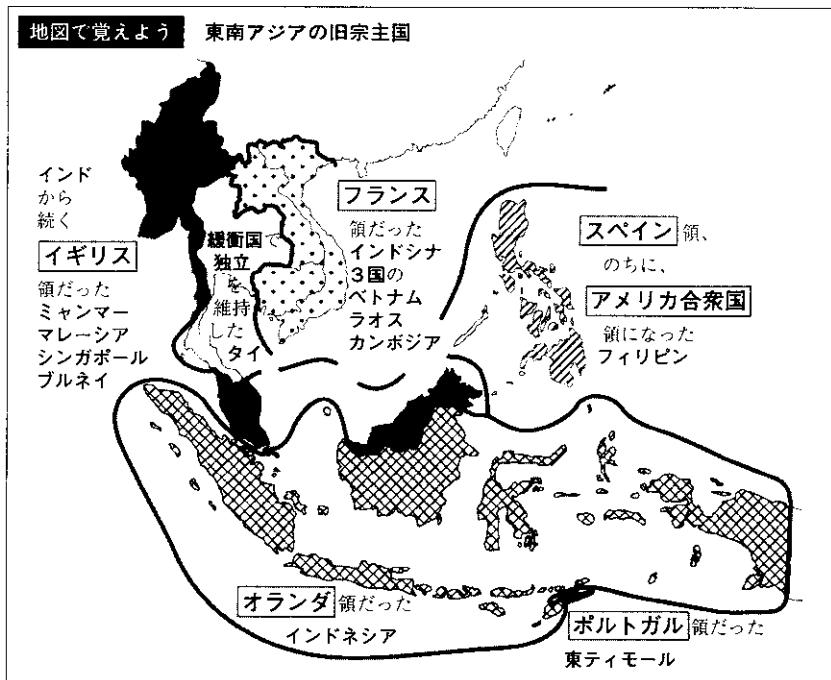
|         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 原加盟国    | インドネシア フィリピン タイ<br>マレーシア シンガポール |
| 1984年加盟 | ブルネイ                            |
| 1995年加盟 | ベトナム                            |
| 1997年加盟 | ミャンマー ラオス                       |
| 1999年加盟 | カンボジア                           |

反共同盟

地域共同体

アセアン10

2011年東ティモールも加盟申請



近隣」の「先端技術産業の集積地」は、北京市北西部の中關村のことであり、付近には北京大学や清华大学、北京理工大学などが位置し、これらの大学の出身者や海外へ留学していた研究者が帰国し、先端技術産業の研究開発に携わっている。

(3) 「付近で栽培される繊維原料を用いた工業」だけでは、デカン高原で栽培された綿花を用いた綿工業の盛んなムンバイだけでなく、綿花産地の華北平原の都市か、ジュート産地のガンジスデルタの都市も候補にあがるが、「メディア産業」からムンバイ(P)に決める。インド最大の商工業都市ムンバイは、メディア産業の拠点としても有名で、映画産業が発展していることから、「ボリウッド」(ムンバイの旧称ポンベイのボ+アメリカ合衆国の映画産業の中心地ハリウッド)とよばれている。

問7 正解は、(1)B—マレーシア、E—フィリピン、G—ベトナム、(2)フランス、(3)仏教。

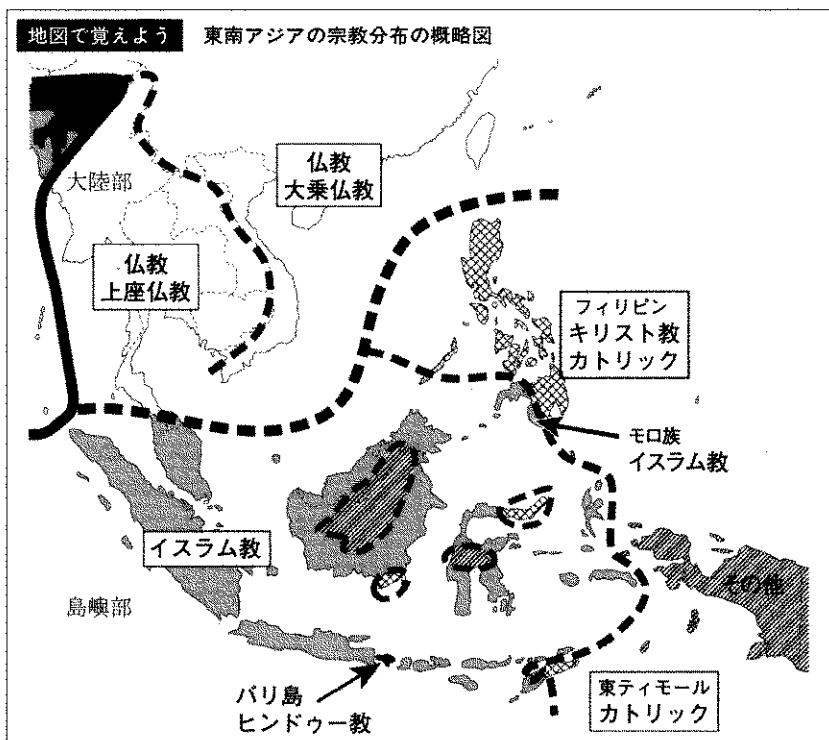
(1) (A) ~ (E) は ASEAN 原加盟国で、その輸出額は、工業化の進展度に応じて、60年代半ばに工業化が始まったアジア NIEs のシンガポールが最大で、1980年代半ばに工業化が本格化したマレーシアとタイがそれに次ぐ。よって、(A) がシンガポールで、1人あたり輸出額は約7,900ドルで世界最高水準（日本は約6,500ドル）である。次いで輸出額の多い (B)・(C) のマレーシアとタイは主要宗教で区別し、イスラム教の (B) がマレーシア、仏

教（上座仏教）の (C) がタイとなる。(D) は、旧オランダ領でイスラム教徒の多いインドネシアで、(E) は、アメリカ合衆国から独立し、アメリカ合衆国領となる前のスペイン植民地時代（16世紀～19世紀末）に普及したキリスト教徒（カトリック）の多いフィリピンである。

1984年に加盟した (F) は、イギリスから独立が遅れたブルネイで、独立と同時に加盟した。輸出額はそれほど多くないが、産油国で、人口が約40万人と少ないので、1人あたりの貿易額と1人あたりGNIはシンガポールに次いで多い。

ASEAN は、東西冷戦時代に、東南アジア地域の共産勢力に対抗する目的で結成された国際組織で、原加盟国は反共主義の立場をとる国であったが、冷戦終結後の1990年代に入ると、反共同盟から地域共同体へと変質し、加盟国を増やした。1995年に加盟した (G) は、社会主義国ベトナム、1997年加盟の (H) はミャンマー、(I) はラオス、1999年加盟の (J) はカンボジアである。

(2) 東南アジア諸国は、第二次世界大戦前、タイを除くと、歐米の植民地支配を受けていた。ミャンマーと、マレーシア、シンガポール、ブルネイはイギリスの、インドシナ3国と総称されるベトナム、ラオス、カンボジアはフランスの、インドネシアはオランダの、東ティモールはポルトガルの、フィリピンはスペイン支配を経てアメリカ合衆国のが、それ



それ植民地であった。よって、(S)にはイギリスが、(T)にはフランスが該当する。

フランス領だったインドシナ3国は、独立後も苦難の道を歩み、ASEAN加盟も遅れた。第二次世界大戦後の独立戦争を経て、フランスは1950年代にインドシナ半島から撤退したが、ベトナムは、アメリカ合衆国の支援を受ける南ベトナムと共産主義を標榜する北ベトナムとに分断された。1960年代に入ると東西冷戦を背景として、西側諸国の支援を受ける南ベトナムと東側諸国（ソ連や中国など）の支援を受ける北ベトナムとの間で戦争（ベトナム戦争）が勃発した。この戦争は1970年代に北ベトナムの勝利で終結し、南北ベトナムは統一され、国名もベトナム社会主義共和国と改称された。ラオスとカンボジアも、フランスからの独立後、それぞれ凄惨な内戦を経験しており、政情が安定し始めたのは1990年代以降のことである。

(3) 東南アジアの宗教分布は、大陸部（インドシナ半島）の佛教圏と、島嶼部（マレー半島を含む）

のイスラム・キリスト教圏に大きく分けられる。大陸部では、歴史的に中国の影響を強く受けってきたベトナムでは大乗佛教（北伝佛教）が、他のミャンマー、タイ、ラオス、カンボジアでは上座佛教（南伝佛教）が信仰される。島嶼部では、インドネシア、マレーシア、ブルネイでイスラム教が、スペイン領だったフィリピンとポルトガル領だった東ティモールでキリスト教（カトリック）が、それぞれ主に信仰される。インドネシアの主要宗教はイスラム教であるが、バリ島ではヒンドゥー教が信仰され、東部にはキリスト教を信仰する民族もいる。フィリピンは多数派がカトリックであるが、南部のミンダナオ島などにはモロ族とよばれるイスラム教徒が分布する。また、多民族国家のマレーシアとシンガポールでは、民族ごとに宗教が異なり、マレー系はイスラム教を、インド系はヒンドゥー教を、中国系（華人）は大乗佛教・道教・キリスト教などを信仰する。

# 【公民】

## ■ 政治・経済 ■

### ① 自由と平等

#### 【解答】

|         |                                                                         |
|---------|-------------------------------------------------------------------------|
| 問1      | <input type="checkbox"/> 1 フランス                                         |
|         | <input type="checkbox"/> 2 見えざる手                                        |
| 問2      | ③                                                                       |
| 問3      | ①                                                                       |
| 問4      | <input type="checkbox"/> 3 男女雇用機会均等                                     |
|         | <input type="checkbox"/> 4 国籍                                           |
|         | <input type="checkbox"/> 5 男女共同参画                                       |
| 問5 (1)  | ア—F イ—F ウ—T<br>エ—T                                                      |
| (2)     | 公共の福祉                                                                   |
| 問6      | 公共事業（公共施設の設置と維持）                                                        |
| 問7      | ③                                                                       |
| 問8      | アファーマティブ・アクション（ポジティブ・アクション）                                             |
| 問9      | 混合経済（修正資本主義）                                                            |
| 問10 (1) | 新国際経済秩序（NIEO）                                                           |
| (2)     | 開発途上国は、交易条件の面で不利な少数の <u>一次産品</u> の輸出に依存するモノカルチャー経済から脱することが困難だったから。（57字） |

#### 【配点】 (20点)

|        |            |
|--------|------------|
| 問1～問5  | 各1点×9 = 9点 |
| 問6～問9  | 各2点×4 = 8点 |
| 問10(1) | 1点         |
| 問10(2) | 2点         |

\*ただし、問5(1)は完答。

#### 【出題のねらい】

自由と平等をテーマとする本文を素材に、これにかかわる経済学説、基本的人権、人権条約、国際経済秩序など、政治分野、経済分野、国際分野の知識についての理解度を測ることをねらいとした。機会の平等と結果の平等、ハイエクの経済学説など教科書に取り上げられることの少ないものの、入試では出題される可能性のある事項についても出題した。

#### 【設問別解説】

問1  1 正解はフランス。市民革命期の1789年に採択された人権宣言であり、また、その第1条では各人の生來の自由と平等の権利が謳われているという本文の記述から、フランス人権宣言（人および市民の権利宣言）であると確定できる。フランス人権宣言は、フランス革命の成果を記した文書で、その第16条で「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されていないすべての社会は、憲法をもつものでない」と謳い、立憲主義の重要な原則を示したことでも知られている。

2 正解は見えざる手。イギリス古典派経済学のアダム・スミス（1723～90）は、主著『國富論（諸国民の富）』において、各人が自己の利益を追求すれば、結果として、あたかも神の「見えざる手」に誘導されるようにして、社会の利益を増進すると主張し、自由放任主義（レッセフェール）を唱えた。

問2 正解は③。 A : 本文にある「性別、出身、人種などの各人の属性を理由に不当に差別されることなく…誰もが一律に取り扱われるという意味での平等」は、形式的平等あるいは機会の平等と呼ばれる。したがって、 A には「機会」が入る。なお、日本国憲法の第14条や第44条は、形式的平等（機会の平等）を保障したものである。

B : 空欄の直前にある「格差の縮小や解消」を通じて確保される平等は、実質的平等あるいは結果の平等と呼ばれる。したがって、 B には「結果」が入る。形式的平等・機会の平等が保障されていても、能力の差や競争条件の差などを通じて、結果として格差が生じることがしばしばある。こうした現実を踏まえ、形式的平等・機会の平等の保障だけでは、実質的な意味での平等は実現できないと考え、実質的平等・結果の平等の確保が唱えられるようになった。この平等観は、結果として生じた格差や、結果がもたらされる以前から存在する不平等の状況を、国家などの公的部門が何らかの施策を通じて是正し、平等を実現する必要があるとする見方に立つものである。アファーマティブ・アクション（積極的差別是正策）や財政の役割の一つである所得の再分配はそうした施策の例である（アファーマティブ・アクションについては、問8の解説を参照）。

以上のことから、正しい組合せは③となる。なお、①②の選択肢にある「目的」と「手段」は、本文で取り上げた二つの平等觀にかかわる用語ではな

い。

**問3 正解は①。□ C**：「国家の関与は市場の効率性を損なう」という市場重視の考え方、「マネタリズム」の立場をとるという本文の記述から、フリードマン（1912～2006）が入ると確定できる。マネタリズムを代表するアメリカの経済学者フリードマンは、国家の市場への介入の必要を説くケインズ（1883～1946）を批判し、公的部門による市場への介入は必要最小限度にとどめ、市場における自由な経済活動を尊重すべきであるとする新自由主義の立場をとった。そして、国家などの公的部門が行う主要な経済政策の中心は、経済発展に見合うように通貨量を調節することにあると主張した。

□：フリードマンと同じく市場を重視する新自由主義の立場をとり、「オーストリア学派」に属するという本文の記述から、ハイエク（1899～1992）が入ると確定できる。ハイエクは、フリードマンと同様にケインズを批判し、新自由主義の先駆者といわれている。

□ E：「自由放任主義を批判し、経済の安定的な発展のためにには国家などの公的部門による市場への積極的介入が必要」と主張したイギリスの経済学者という本文の記述から、新自由主義の立場をとるハイエクやフリードマンはここには入らず、ケインズが入る。ケインズは、有効需要（資金の裏づけのある消費需要と投資需要からなる需要）が不足して不況に陥っている場合、完全雇用を実現するために、国家などの公的部門が積極的に経済に介入し財政支出を拡大するなどして、有効需要を創出すべきであると説いた（有効需要創出政策）。

以上のことから、最も適当な組合せは①となる。

**問4 □ 3** 正解は男女雇用機会均等。日本は女性差別撤廃条約（1979年採択）の批准（1985年）に際して、国内法整備を行った。その一つが「雇用の場面での男女の平等を確保」することを目的とする男女雇用機会均等法の制定（1985年）である。

□ 4 正解は国籍。女性差別撤廃条約批准に向けた国内法整備の一つとして、それまでの父系優先血統主義を父母両系血統主義に改める国籍法の改正（1984年）も行われた。父系優先血統主義とは、出生による国籍取得に関し、父が日本国籍をもっていれば、その子も日本国籍を取得できるとするものである。それに対し、父母両系血統主義は、父か母のいずれかが日本国籍をもっていれば、その子も日本国籍を取得できるとするものである。

□ 5 正解は男女共同参画。1999年に制定さ

れた法律であるということと、「男女が対等な構成員として活動できるような社会をめざす法律である」という設問文の記述から、男女共同参画が入る。男女共同参画社会基本法では、「男女共同参画社会の形成」を「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成すること」と定義している。

**問5 (1) 正解は、ア—F、イ—F、ウ—T、エ—T。**

ア：誤り。外国人には入国の自由は保障されていない。国際法上、外国人の入国を認めるかどうかは、各国の裁量により決定できるとされ、日本の場合、出入国管理及び難民認定法で入国を拒否できる事由を定めている。参考までに入国を拒否できる事由を一つ示しておこう。「日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを企て、若しくは主張し、又はこれを企て若しくは主張する政党その他の団体を結成し、若しくはこれに加入」していることがその一つである。なお、日本人の出入国の自由に関しては、日本国憲法第22条はその1項で「何人も、公共の福祉に反しない限り、居住、移転及び職業選択の自由を有する」と規定し、2項で「何人も、外国に移住し、又は国籍を離脱する自由を侵害されない」と規定している。これらの規定が、日本国憲法上で出入国の自由にかかわる規定である。日本人に関しては、出入国の自由は基本的には保障されているが、外務大臣が旅券（パスポート）の発給を拒否した場合、海外に行くことはできなくなるなどの制限がある。イ：誤り。職業選択の自由に関しては、上で引用した日本国憲法第22条1項に「公共の福祉」による制約がある。たとえば、医師という職業に就くためには、医師免許の取得が必要である。ウ：正しい。「特定の思想を信奉する自由」は他者の権利の侵害のおそれのない内心の自由である。そのため、制約されることのない自由と考えられている。エ：正しい。日本国憲法第20条1項で「信教の自由は、何人に対してもこれを保障する」と規定されている。とくに信仰の自由は内心の自由であるので、制約されることのない自由である。

(2) 正解は公共の福祉。「所有権は義務を伴う。その行使は公共の福祉に適合すべきである」というワイマール憲法（1919年制定）は、経済的自由権を公共の福祉という観点から制約できるとする規定を設けている。日本国憲法も、第22条の居住移転及び

**職業選択の自由**と第29条の**財産権**という二つの経済的自由権について、**公共の福祉**という観点から制約できる旨を規定している。

問6 正解は**公共事業（公共施設の設置と維持）**。アダム・スミスは、国家の役割（義務）として、(1)国防、すなわち、外国勢力の侵略から国を防衛することと、(2)司法制度の整備、すなわち、社会の他の成員からの不当な抑圧から社会の成員を保護するために、厳正な司法制度を確立すること、(3)**公共事業（公共施設の設置と維持）**、すなわち、道路・橋・港湾・教育施設などを設置し、それを維持することの三点を挙げている。スミスは、これら必要最小限の役割しか果たさない国家のあり方を、「**安価な政府**」と呼んだ。

問7 正解は③。これは**モラルハザード**と呼ばれる例である。モラルハザードとは、この事例にあるように、国家などの公的部門が金融機関を保護する政策を講じたために、経営者の責任感の欠如を招き、かえって節度を失った行動を招くことをいう。モラルハザードは、その当事者にとっては利益となるが、社会全体の利益には反することになる。その点で、「市場メカニズムを損ない非効率を生む例」といえる。

①②④はいずれも市場メカニズムが有効に機能している例である。①「国際競争力に欠ける国内企業が経済的に打撃を受けた」こと、②「その農産物を生産する農家の所得が減少した」こと、④「その財貨の価格が下落した」ことはいずれも市場における自由競争の結果であり、**資源の最適配分**という効率性の向上につながるものである。

問8 正解は**アファーマティブ・アクション（ポジティブ・アクション）**。これは**積極的差別是正策**と訳される。男性に比べて管理職登用の機会に恵まれていない女性の昇進状況改善の措置などがその例である。男女雇用機会均等法では、「国は、雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇が確保されることを促進するため、事業主が雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保の支障となつている事情を改善することを目的とする次に掲げる措置を講じ、又は講じようとする場合には、当該事業主に対し、相談その他の援助を行うことができる」と規定し、企業によるアファーマティブ・アクション（ポジティブ・アクション）に対して、国が支援できることを定めている。

問9 正解は**混合経済（修正資本主義）**。資本主義は**市場経済**を基本とする。しかし、自由放任主義の限

界が次第に明らかとなり、国家などの公的部門の経済的役割が増加してきた。所得格差の是正を図る所得の再分配や、景気の調整などがその例である。こうした民間部門と並んで公的部門も重要な役割をもつようになった段階の資本主義を**混合経済（修正資本主義）**と呼ぶ。

問10 (1) 正解は**新国際経済秩序（NIEO）**。新国際経済秩序（NIEO）樹立宣言は、資源ナショナリズムの高揚を背景に、1973年に起こった第一次石油危機の翌年に開催された国連資源特別総会で採択された宣言である。この宣言は、先進国本位の自由主義的な国際経済秩序を修正し、開発途上国の経済発展にも配慮した公正な経済秩序の樹立を求めるものである。この宣言には、天然資源に対する恒久主権や一次產品の価格の安定などが盛り込まれた。

(2) 正解は解答例を参照。**モノカルチャー経済**がなぜ北の先進国と南の開発途上国の経済格差を生むかを、指定語句を使って説明できるかどうかが答案作成のポイントとなる。モノカルチャー経済とは、工業化を推進するために必要な外貨の獲得を、少数の**一次產品**（まったく加工されていないか加工度の低い農産物や鉱産物）に依存する経済構造のことを行う。一次產品は、その代替品の登場（たとえば、綿花・綿糸にとって代わりうる化学繊維の登場）などにより、**工業製品**に比べ**価格が安くなる**がちである。そのため、一次產品1単位の輸出で購入できる工業製品の単位数は次第に少くなり（**交易条件の悪化**）、開発途上国は相対的に安い一次產品で、相対的に高い先進国の工業製品を購入しなければならなくなる。その結果、北の先進国と南の開発途上国との経済格差が拡大する。

## 2 日本国憲法の統治機構

### 【解答】

問1  1 最高機関

2 議院内閣

問2 条例

問3  3 三分の2

4 過半数

問4 ③

問5 アーF イーF ウーF

問6  A ⑦

B ⑨

C ⑪

D ⑯

E ③

問7 弹劾

問8 ①

問9 (1) 檢察審査会

(2)  5 参審

6 刑事

7 裁判員

## 【配点】 (20点)

問1～問9

各1点×20=20点

## 【出題のねらい】

本問は、日本国憲法に定める統治機構に関して、国会・内閣・裁判所についての基本的な知識と理解、さらに日本の統治機構をめぐる問題点や課題についての関心と理解を試すことをねらいとしている。

## 【設問別解説】

問1  1 正解は最高機関。日本国憲法は、第41条で国会の地位について国会を國權の最高機関としている。これは、国会が主権者である国民の意思を代表する機関であることに由来し、国会が国政の中心的役割を担う機関であることを意味している。

2 正解は議院内閣。日本国憲法は、第65条で「行政権は、内閣に属する」と定めるとともに第66条で「内閣は、行政権の行使について、国会に対し連帶して責任を負ふ」として議院内閣制の採用をうたっている。議院内閣制の基礎となった責任内閣制は、18世紀半ばにイギリスのウォルポール内閣(在任1721~42)が、下院の信任を失ったため、国王の信任があったにもかかわらず総辞職したことになると始まるとされている。

問2 正解は条例。日本国憲法は、第41条で国会を唯一の立法機関と定めているが、その一方で、国会以外の機関に対して例外的に立法を認めている。その一つが第94条であり、同条は「地方公共団体は、その財産を管理し、事務を処理し、及び行政を執行する権能を有し、法律の範囲内で条例を制定することができる」としている。また、両議院の規則制定権(第58条2項)、内閣の政令制定権(第73条6号)、最高裁判所の規則制定権(第77条1項)も憲法に特別の定めのある例外である。

問3  3 正解は3分の2。 4 正解は過半数。憲法改正については日本国憲法第96条に規定があり、その改正手続は、法律の改正に比べてよ

り一層厳格な手続を必要とする(硬性憲法)。まず、憲法改正の発議は国会が行うが、この発議には衆議院と参議院でそれぞれ総議員の3分の2以上の賛成が必要である。国会において憲法改正の発議が行われた場合、国民投票に付し、その過半数の賛成をもって憲法改正は承認される。憲法改正が承認されたら直ちに天皇が国民の名において公布する。なお、2007年に第一次安倍内閣の下で、憲法改正の国民投票の具体的な手続を定めた国民投票法が制定された。この法律では、国民投票の対象を憲法改正の国民投票に限定し、満18歳以上の日本国民に投票権を与えるが、選挙権年齢などが引き下げられるまでの間は満20歳以上とするとされていた。その後、2014年6月の通常国会において、選挙権年齢などとは切り離して憲法改正について投票年齢を満18歳以上とする改正国民投票法が成立した。

問4 正解は③。各議院はその職責を果たすために、国政に関する正確な情報をもたなくてはならない。そのため国政全般にわたる証言や記録などを収集するなどの調査を行う各議院の権能を国政調査権という。日本国憲法第62条は「両議院は、各々国政に関する調査を行い、これに関して、証人の出頭及び証言並びに記録の提出を要求することができる」と定めている。したがって、この権能は内閣の権能ではなく国会の各議院の権能であるから③は誤りである。

内閣の権能は日本国憲法の第73条などに規定されている。①予算の作成、②恩赦の決定、④最高裁判所長官の指名はそれぞれ内閣の権能として正しい。

問5 正解はアーF、イーF、ウーF。ア：誤り。日本国憲法の第68条で「内閣総理大臣は、任意に国務大臣を罷免することができる」としている。したがって、「国会の同意」は必要ない。イ：誤り。現行の内閣法によると、国務大臣の数は原則として14人以内(2011年に復興庁設置法に基づき復興大臣が置かれたので、復興庁が廃止されるまでの間は15人以内)としている。ただし、特別に必要がある場合には最大17人(同上、18人)まで増やすことができる。ウ：誤り。日本国憲法の第68条で「内閣総理大臣は、国務大臣を任命する。但し、その過半数は、国会議員の中から選ばなければならない」としている。

問6  A 正解は⑦。日本の裁判所は大きく最高裁判所と下級裁判所に分かれ、下級裁判所として、高等裁判所・地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所がある。

**B** 正解は⑨。特別裁判所とは、特別な身分をもつ人、または特別な事件についてのみ裁判権をもつ裁判所で、通常の司法裁判所の組織系列には属さない裁判所のことをいう。大日本帝国憲法の下では、**皇室裁判所・行政裁判所・軍法会議**といった特別裁判所が設置されていた。

**C** 正解は⑭。日本の裁判制度は、裁判の慎重を期して同一事件について訴訟当事者に原則として三回の裁判の機会を与える三審制がとられている。刑事裁判及び民事裁判において、第一審の判決が下された後に、訴訟当事者が上級裁判所に上訴することを控訴という。たとえば、刑事裁判の場合、第一審が簡易裁判所または地方裁判所であれば、控訴審は原則として高等裁判所である。

**D** 正解は⑪。第一審の判決後に訴訟当事者が上訴することを控訴というのに対して、第二審の判決後に訴訟当事者がさらに上級裁判所に上訴することを上告という。刑事裁判においては、上告審は最高裁判所であるが、民事裁判においては、訴額140万円以下の事件など地方裁判所が控訴審である場合は、上告審は高等裁判所である。

**E** 正解は③。慎重な裁判を期すために三審制を採用しているにもかかわらず、無実の者が罪に問われる冤罪えんざいがしばしば起きている。有罪判決が確定した後に裁判をやり直すことを再審といい、いくつかの事件において再審請求が認められ、再審によって無罪判決が言い渡されている。たとえば近年では、足利事件、布川事件、東電OL殺害事件において、いずれも無期懲役判決が確定した後に、再審の結果、それぞれ無罪が確定している。また、確定死刑囚が再審の結果無罪となった事例は、免田事件をはじめとして、財田川事件、松山事件、島田事件がある。なお、新しいところでは2014年に静岡地方裁判所が再審の開始を決定した事件として袴田事件がある。こうした冤罪の多くが、自白偏重の取調べのあり方に起因していることから、取調べの全面可視化、警察・検察による証拠隠しを防ぐための証拠の全面開示、法務省管轄の拘置所で管理すべき被疑者を警察署の留置場に勾留する代用監獄（刑事業設）の廃止などの改革が求められている。

**問7** 正解は**弾劾**。日本国憲法第78条によると裁判官は、裁判により心身の故障のために職務を執ることができないと決定された場合と、公の弾劾により罷免が決定した場合以外は罷免されないことになっている。この「公の弾劾」が**弾劾裁判**である。国会が設置する**弾劾裁判所**は、著しい職務上の義務違反や

甚だしい職務怠慢などを理由に裁判官の罷免を決定することができる。衆参各議院からそれぞれ10人ずつ選出された訴追委員で構成される裁判官訴追委員会が、罷免の訴追をするかしないかを判断する。罷免の訴追が決定された場合、衆参各議院からそれぞれ7人ずつ選出された裁判員によって構成される弾劾裁判所が罷免するかどうかの判断を下す。これまで弾劾裁判によって、数人の裁判官が罷免判決を受けている。

**問8** 正解は①。行政手続法は、省庁などの行政機関が業界や企業に対して行う許認可や行政指導の過程を透明化するために1993年に制定されたものである。行政指導とは、省庁などが特定の目的を達成するために企業や業界を指導し、自発的な同意を求めるものである。これが官僚と業界や政治家との結びつきを強め、政治や行政の不透明性や腐敗を生み出してきたとの批判から、行政の透明性の確保が課題となっていた。したがって、行政指導のあり方が問題視されてきたというのは事実であるが、行政指導そのものが廃止されたわけではないので、①は誤りである。

②国会の審議において、国會議員の質問に対して担当大臣が答弁することになっているが、専門的知識のある官僚が政府委員として大臣に代わって答弁をすることが認められていた。これに対して官僚依存の政治につながるとの批判があり、1999年にこの政府委員制度は廃止された。③政府委員制度と同様に国会審議における官僚依存からの脱却をめざし、2000年から与野党の党首が国家の基本政策について討論する党首討論制が採用されている。これは、イギリスの下院の本会議で行われているクエスチョン・タイムをモデルとしている。④開かれた行政を確立するため、また国民が行政を監視する仕組みを強化するために、1999年に情報公開法が制定された。同法は、何人に対しても中央省庁が保有する行政文書の公開請求を認めており、また行政機関が不開示情報に当たると判断して非公開とした場合には、開示請求者は当該行政機関の長に対して不服申立てを行うことができる。当該行政機関は情報公開・個人情報保護審査会に諮問し、その答申に基づいて裁決・決定を行う。

**問9** (1) 正解は**検察審査会**。刑事案件において、被疑者を起訴するか否かを判断するのは検察官である。検察官が不起訴処分とした場合、その判断が適切であったかどうかを被害者などの申立てによって判断するのが検察審査会であり、衆議院議員の選挙

権を有する者の中から無作為に選ばれた11人の審査員によって構成される。なお、2004年に検察審査会法が改正され、検察審査会が起訴相当と議決した後に検察官が改めて不起訴処分を維持した場合には、検察審査会が再度審査を行い、その結果、起訴すべき旨の議決を行った場合、この議決には法的拘束力が認められ、**地方裁判所が指定する弁護士**が検察官に代わって公訴を提起（強制起訴）できるようになった。

(2)  5 正解は**参審**。参審制は、任期制の参審員が裁判官と合議体をつくり、**有罪か無罪かを判断する事実認定と刑の程度を決める量刑判断**のほか法律問題についても判断を行うもので、ドイツやフランスで発達した制度である。裁判官以外の一般市民が裁判に参加するという点でアメリカやイギリスで発達した陪審制と共通するが、参審制が事実認定の段階から裁判官と合議体をつくるのに対して、陪審制は一般市民から選ばれた陪審員のみで事実認定を行うなどの違いがある。

6 正解は**刑事**。裁判員裁判の対象となる裁判は、殺人事件など**重大な刑事案件**である。したがって、金銭の貸し借りのようないくつかのトラブルである民事事件はその対象外である。また、軽微な刑事案件も対象外である。

7 正解は**裁判員**。裁判員制度は、参審制とよく似た制度であるが、参審員と異なり裁判員は任期制ではなく、法律問題についての判断も行わない。 6 の解説でも触れたように、重大な刑事案件の第一審に一般市民の中から無作為に選ばれた裁判員が裁判官と合議体をつくり、**事実認定と量刑判断**を行うものである。裁判員は選挙人名簿に基づく裁判員候補者の中から事件ごとにじで選ばれる。一つの事件につき、原則として裁判官3人と裁判員6人で裁判を行うことになっている。

### ③ 現代日本の政治過程

#### 【解答】

- 問1  1 55  
 2 細川
- 問2 2
- 問3 ①
- 問4 ②
- 問5 ④
- 問6  A 連合（日本労働組合総連合会）  
 B ロビイスト

問7 (1) 無党派層

(2) メディアリテラシー（情報リテラシー）

問8  C 小

D 比例代表

#### 【配点】 (20点)

問1 各1点×2=2点

問2～問7 各2点×8=16点

問8 各1点×2=2点

#### 【出題のねらい】

本問は、現代日本の政治過程をテーマとして、55年体制の成立と解体、日本の選挙や政治資金、消費税導入時と税率を引き上げたときの内閣、2012年の衆議院議員総選挙と2013年の参議院議員通常選挙、圧力団体、情報社会と有権者の動向、選挙制度の特徴などに関する基本的な知識を問うことをねらいとしている。比例代表制における議席をドント方式に基づいて求める簡単な計算問題も出題した。この分野では、時事問題が問われることが多いので、直近の国政選挙の結果などについても問うている。

#### 【設問別解説】

問1  1 正解は55。1955年に、それまで左派と右派に分裂していた**日本社会党（社会党）**が再統一され、これに対抗する形で保守政党の合同が行われて**自由民主党（自民党）**が結成された。これ以後、保守政党（旧来の制度や考え方を守っているとする立場の政党）の自民党と革新政党（現状を改革しようとする立場の政党）の社会党が、自民党優位の下で対抗する政治体制が定着した。この体制は、その成立年になんて、**55年体制**と呼ばれる。

2 正解は細川。1980年代末から1990年代初めにかけて、政界では**リクルート事件**（1988年発覚）や**佐川急便事件**（1992年発覚）などの汚職事件が相次いで起こり、自民党への批判が高まるなかで1993年に宮沢内閣不信任決議案が可決された。宮沢内閣は直ちに衆議院を解散したが、総選挙の結果、日本新党代表の細川護熙を首班とする非自民・非共産の7党1会派による連立政権である**細川内閣**が成立し、55年体制の下で38年間続いてきた自民党の一党優位の状況は終わった。

問2 正解は2。日本の衆議院議員選挙で採用されている比例代表における議席配分では、各政党の得票

数を1、2、3と正の整数で順次割っていく、その結果(商)の大きい順に各政党に対し定数になるまで議席を割り当てていくドント方式が採用されている。与えられた得票数を前提にしたときの結果を示すと下のようになり、①から⑥の順に議席が配分される。

【ドント方式に基づく議席数の決定】

| (定数 6) | A 党     | B 党    | C 党    | D 党  |
|--------|---------|--------|--------|------|
| 投票数    | 10000   | 8000   | 5000   | 3000 |
| ÷ 1    | 10000 ① | 8000 ② | 5000 ③ | 3000 |
| ÷ 2    | 5000 ③  | 4000 ⑤ | 2500   | 1500 |
| ÷ 3    | 3333 ⑥  | 2666   | 1666   | 1000 |
| ÷ 4    | 2500    | 2000   | 1250   | 750  |
| ⋮      | ⋮       | ⋮      | ⋮      | ⋮    |
| 当選者    | 3人      | 2人     | 1人     | 0人   |

問3 正解は①。戸別訪問は禁止されている。公職選挙法は、選挙の自由と公正を守るため、選挙運動期間前の事前運動の禁止や選挙運動期間中の戸別訪問の禁止、選挙用の文書配布の制限などの規制を設けている。

②公職選挙法では、選挙の候補者以外で選挙運動に携わった一定範囲の者（選挙運動の総括主催者・出納責任者・親族・秘書）が買収などの選挙犯罪で刑に処せられた場合、当選者自身がその犯罪に関与していないくとも、当選を無効とし、同一選挙区での立候補を5年間禁止する連座制が採用されている。③政党助成法は、人口に250円を乗じた総額を、(1)国會議員を5人以上有するか、または、(2)国會議員を有し、かつ、直近の衆議院議員選挙（小選挙区選挙か比例代表選挙のいずれか）あるいは前回・前々回の参議院議員選挙（選挙区選挙か比例代表選挙のいずれか）で得票率が2%以上の政党に対して、議員数と得票率に応じて配分し、政党交付金による助成を行っている。2014年分の政党交付金は、自由民主党が約158億円、民主党が約67億円、日本維新の会が約33億円、公明党が約26億円、みんなの党が約20億円、結いの党が約3億円、生活の党が約7億円、社会民主党が約4億円、新党改革が約1億円である（なお、共産党は、制度自体に反対しており、政党交付金を受け取っていない）。④政治資金規正法は、政治家個人と政治家の資金管理団体への企業・団体献金を全面的に禁止している。なお、政党や政治資金団体への個人献金や企業・団体献金、また、政治家の資金管理団体への個人献金（国民に限られ外国人は不可）は、一定の範囲内で認められている。

問4 正解は②。1989年に竹下内閣の下で消費税（3%）が導入され、また、1997年に橋本内閣の下で消費税率が5%に引き上げられた。なお、「社会保障と税の一体改革」の一環として、第二次安倍内閣の下で2014年4月1日から消費税率は8%に引き上げられ、2015年10月からさらに10%に引き上げられる予定になっている。

問5 正解は④。2013年7月に行われた参議院議員通常選挙では、総定数の半数の121議席（選挙区73議席・比例代表48議席）が改選された。その結果、自由民主党が65議席、公明党が11議席を獲得し、自由民主党と公明党の合計は非改選議席を合わせて過半数（122議席）を超える135議席となった。その結果、政権与党が衆議院で過半数の議席を占めているものの参議院では過半数の議席を占めていない「衆参のねじれ」現象は解消した。

①「自由民主党は単独で過半数の議席を獲得することができなかった」と「民主党との連立政権を樹立した」という記述が誤り。2012年12月の衆議院議員総選挙では、自民党が294議席、公明党が31議席で、両党を合わせて、与党が総定数の3分の2を超える325議席を獲得して圧勝し、第二次安倍内閣が成立した。②「日本国憲法に違反するとして、選挙のやり直しを命じた」という記述が誤り。2012年の衆議院議員総選挙に関して、最高裁判所は、2013年11月に、公職選挙法の衆議院定数配分規定を違憲状態（定数配分が選挙権の平等に反する状態）であるが、法律を改正すべき期間を経過していないとして合憲と判断した。③「インターネットを利用した投票が認められるようになった」という記述が誤り。2013年の参議院議員通常選挙で認められるようになったのは、インターネットを使った選挙運動である。2013年4月にインターネットを使った選挙運動を解禁する改正公職選挙法が成立し、7月の参議院議員選挙からウェブサイトのほか簡易投稿サイト「ツイッター」や会員制交流サイト「フェイスブック」などのソーシャル・ネットワーク・サービス（SNS）を使った選挙運動が認められるようになった。

問6 A 正解は連合（日本労働組合総連合会）。現在、連合は、日本最大のナショナルセンターである。組合員数は、最大の連合が約670万人で、それに次ぐ全労連（全国労働組合総連合）が約59万人である（厚生労働省「平成25年労働組合基礎調査」）。

B 正解はロビリスト。アメリカでは、圧力団体の代理人として活動する人々は、議会内のロ

ビー（控え室）で議員に働きかける活動をする人という意味でロビイストと呼ばれる。

問7 (1) 正解は無党派層。近年、特定の支持政党をもたない無党派層が増大している。ただし、無党派層は、支持する政党をもたないだけであり、必ずしも政治への関心が低いというわけではない。2005年や2009年の衆議院議員総選挙などのように、その動向が選挙の結果を左右する場合もある。  
(2) 正解はメディアリテラシー（情報リテラシー）。マスメディアには、政府による世論操作やコマーシャリズム（商業主義）・センセーションナリズム（煽情主義）などの危険が存在していることから、マスメディアが提供する情報に依存することは危険である。したがって、情報社会では、情報を主体的に選択・評価し活用することができる能力（メディアリテラシー）を育成しておく必要がある。

問8  C 正解は小。小選挙区制とは、候補者個人に投票し、かつ、1選挙区から1名を選出する選挙制度をいう。イギリスやアメリカの下院議員選挙で採用されている。小選挙区制は、多數派の政党に有利で少数派は議席を獲得しにくいので、二大政党制による安定した政治となりやすいが、死票（当選に結びつかない票）が多くなり、選挙民の多様な意見が議席に反映されにくいという特徴がある。これに対して、大選挙区制とは、候補者個人に投票し、かつ、1選挙区から2名以上を選出する選挙制度をいう（戦後日本で採用されていた中選挙区制も大選挙区制の一種である）。大選挙区制は、少数派の政党も議席を獲得できるので、小選挙区制に比べて死票が少なく選挙民の多様な意見が議席に反映されやすいや、多党制（小党分立制）になりやすく政治が不安定になる傾向があるという特徴がある。

D 正解は比例代表。比例代表制とは、各政党の得票数に比例して議席を配分する選挙制度をいう。ドイツの連邦議会では、比例代表制を中心とした小選挙区比例代表併用制が採用されている。比例代表制は、大選挙区制と同様、少数派の政党も議席を獲得できるので、小選挙区制に比べて死票が少なく選挙民の多様な意見が議席に反映されやすいや、多党制（小党分立制）になりやすく政治が不安定になる傾向がある。

## 4 国際経済の動向

### 【解答】

問1 リーマン・ショック

問2 比較生産費説

問3 (1) ⑦

(2) TPP

問4 ⑤

問5 -8.8

問6 (1) ②

(2) ③

問7  B ブレトンウッズ

C キングストン

問8 ④

問9 ③

問10 フェア・トレード（オルタナティブ・トレード）

### 【配点】 (20点)

問1 1点

問2～問3 各2点×3=6点

問4 1点

問5 2点

問6～問7 各1点×4=4点

問8～問10 各2点×3=6点

### 【出題のねらい】

本問は、国際経済の動向に関して、自由貿易体制の実現によって各国の経済が相互に依存し合う状況が生まれ、それにより世界的な経済危機が生じやすくなるという本文を参考にして、地域的経済統合、国際収支、IMFの動向やWTOの特徴などに関する知識や理解を問うことをねらいとしている。国際収支に関しては簡単な計算問題も出題した。

### 【設問別解説】

問1 正解はリーマン・ショック。2007年にアメリカで起きたサブプライム・ローン問題に端を発し、2008年にアメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズの破たんによって発生した世界的な金融危機のことである。この危機はヨーロッパや日本にも大きな影響を与えた。同年、アメリカのワシントンでG20金融サミットが開かれ、世界全体が協調してこの危機に立ち向かうという姿勢が示された。

問2 正解は比較生産費説。イギリスの経済学者リカード（1772～1823）は、その著書『経済学および課税の原理』のなかで、各国がそれぞれ比較優位にある（相対的に生産費が安い）財の生産に特化して輸出し、比較劣位にある（相対的に生産費が高い）財

は他国から輸入すれば、各国はいずれも利益を得ることができると説いた。この考えを比較生産費説という。

問3 (1) 正解は⑦。ア：誤り。AFTA（アセアン自由貿易地域）は、ASEAN（東南アジア諸国連合）域内における関税を撤廃し、非関税障壁を除去することで自由貿易の実現をめざすために発足した地域的経済統合である。日本は、2008年にASEANとEPA（経済連携協定）を締結したが、AFTAには参加していない。イ：誤り。NAFTA（北米自由貿易協定）は、アメリカ、カナダ、メキシコの3か国による自由貿易協定のことであるが、通貨統合を実現したわけではない。ウ：正しい。MERCOSUR（南米南部共同市場）は1995年に域内関税の撤廃と域外共通関税の設定をめざして発足した関税同盟であり、2012年ペネズエラが正式に加盟した。

(2) 正解はTPP。2006年にシンガポール、ブルネイ、チリ、ニュージーランドの4か国で発効した自由貿易協定（P4）をきっかけとした、多国間で、原則的にすべての分野における関税の撤廃、投資や知的財産権などに関するルールづくりをめざそうという枠組みをTPP（環太平洋パートナーシップ協定）という。上記4か国に加えて、アメリカ、オーストラリア、ベトナム、マレーシア、ペルー、カナダ、メキシコが交渉に参加し、2013年に日本も交渉参加を正式に表明した。

問4 正解は⑤。中国は2001年、ロシアは2012年に、それぞれWTO（世界貿易機関）に正式加盟している。ロシアの加盟により、WTO加盟国・地域の貿易総額は世界全体の98%に達した。

他の選択肢はすべて正しい。①自由・無差別・多角を3原則として自由貿易を推進してきたGATT（関税及び貿易に関する一般協定）を発展改組し、1995年に常設の国際機関として発足したのがWTOである。②一般特恵関税制度とは、開発途上国の輸出を拡大させるために、先進国が開発途上国からの輸入品に対して、通常よりも低い関税率にするか、関税を課さない制度をいう。WTOにおいても、無差別原則の例外としてこの制度を採用している。③④WTOは、サービス貿易や著作権・特許権などの知的財産権についても新たなルールを確立している。

問5 正解は-8.8。設問の表の（注）で指摘したように、経常収支のうち旧基準の所得収支と経常移転収支は、それぞれ第一次所得収支と第二次所得収支

に名称が変わっただけなので、経常収支=貿易収支+サービス収支+第一次所得収支+第二次所得収支という関係が成立する（詳しくは、下の「国際収支統計の見直し」を参照）。表からそれぞれ数値を代入して、 $3.2 = X + (-3.5) + 16.5 + (-1.0)$ 、 $X = -8.8$ となる。ちなみに、表は2013年における日本の国際収支表を参考にして作成した。日本の貿易収支は、2013年も赤字となった。これで2011年から3年連続の赤字となる。2011年に起きた東日本大震災以降、石油や天然ガスなどの化石燃料や通信機器などの輸入が増えた一方、中国やEUへの輸出が減少したことが影響したと考えられる。

2014年1月から国際収支統計の項目や表記方法が大幅に変更された。主な変更は以下のとおりである。

#### 国際収支統計の見直し

| (新統計の主要な項目) |                                 | (主な対応する旧統計項目) |
|-------------|---------------------------------|---------------|
| 経常収支        | 貿易・サービス収支                       | 貿易・サービス収支     |
|             | 第一次所得収支                         | 所得収支          |
|             | 第二次所得収支                         | 経常移転収支        |
| 資本移転等<br>収支 | その他資本収支                         |               |
| 金融収支        | 直接投資<br>証券投資<br>金融派生商品<br>その他投資 | 投資収支の各項目      |
|             | 外貨準備                            | 外貨準備増減        |

#### 〔変更の大きなポイント〕

- 旧「所得収支」は、新「第一次所得収支」となった。
- 旧「経常移転収支」は、新「第二次所得収支」となった。
- 旧「その他資本収支」が、新「資本移転等収支」として、独立した大項目となった。
- 旧「外貨準備増減」が、旧「投資収支」と統合され、新「金融収支」の一部となった。
- 旧統計は「資金流出=マイナス」「資金流入=プラス」であったが、新統計では「資産増加=プラス」「資産減少=マイナス」となった（すなわち对外投資のプラス・マイナスが旧統計と逆転する）。その結果、全体の関係式が次のようにになった。  
(旧) 経常収支+資本収支+外貨準備増減=誤差脱漏=0  
(新) 経常収支+資本移転等収支+金融収支+誤差脱漏=0

問6 (1) 正解は②。EC（歐洲共同体）は、1967年にフランス、西ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルクの6か国で発足した。イギリスは当初、EFTA（歐洲自由貿易連合）に加盟していたので、ECには加盟していないかった。その後、1973年にイギリスはデンマークとともにEFTAを脱退し、ECに加盟した。

①1950年のシューマン・プランに基づいて1952年に発足したECCS（歐洲石炭鉄鋼共同体）と1957

年のローマ条約に基づいて1958年に発足した EEC（欧州経済共同体）および EURATOM（欧州原子力共同体）の執行機関が統合され、1967年に EEC が発足した。③EU（欧州連合）では、ユーロ圏諸国の政策金利の決定や外貨準備の保有および管理を行うために、ドイツのフランクフルトに ECB（欧州中央銀行）を設置している。ただし、金融政策の実施については各国の中央銀行が行うこととされている。④2004年に採択された EU憲法は未発効に終わり、その後2007年にリスボン条約（EU新基本条約）が採択された。この条約に基づき、大統領（欧州理事会常任議長）と外相（外務・安全保障政策上級代表）のポストが新設された。

(2) 正解は③。EU加盟国の中でも2014年1月1日にユーロを導入した国はラトビアである。これで、ユーロ導入国は18か国となった（なお、2015年1月1日には、リトアニアが19番目のユーロ導入国になる予定）。

①スペインおよび②ポルトガルは、1999年にユーロを導入した。④ロシアはEUに加盟しておらず、ユーロも導入していない。

問7 **B** 正解はブレトンウッズ。1944年に連合国44か国がアメリカのブレトンウッズに集まって会議を開き、IMF（国際通貨基金）とIBRD（国際復興開発銀行）を設置する協定を結んだ。その協定をブレトンウッズ協定、その後の国際通貨体制をブレトンウッズ体制と呼ぶ。ブレトンウッズ協定では、1オンス=35ドル（ドルの金平価）で金との交換を保証された米ドルを基軸通貨とし、加盟国は自国通貨とドルとの交換比率の変動幅を、為替平価（ドルの金平価をもとに算定された各国通貨間の基準相場）の上下1%以内に維持する固定為替相場制が採用された。この制度の下で、円の為替平価は、1ドル=360円に設定された。

**C** 正解はキングストン。1960年代から70年代にかけてアメリカの経常収支の赤字幅の拡大を背景に金ドル交換の要求が高まり、アメリカからの金の流出が深刻化した。金とドルとの交換に応じられなくなったアメリカは、1971年に金とドルの交換を停止した（ニクソン・ショック）。これによってブレトンウッズ体制は崩壊した。同年のスマソニアントリニティ協定によってドルが切り下げられたが（1オンス=38ドル、1ドル=308円）、その後もドル不安は続き、1973年には、先進国は全面的に変動為替相場制に移行した。変動為替相場制は、1976年にジャマイカのキングストンで開催された IMF暫定委員会

における合意（キングストン合意）によって正式に承認された。

問8 正解は④。マネタリーベース（資金供給量）とは、市中で流通する現金通貨（日銀券発行高+貨幣流通高）と民間金融機関が保有する日本銀行預け金（日銀当座預金残高）を合計したものという。一般に、金融を引き締めてマネタリーベースを減らせば、通貨供給が上昇して物価は下落する。ただ仮にこの用語を知らない場合、デフレ（持続的な物価下落）脱却をめざすのがアベノミクスの課題であるから、「物価の上昇を抑える」という記述は論理的におかしいことがわかる。

ちなみに、他の選択肢①②③はいずれもアベノミクスの内容として正しい。第二次安倍内閣が掲げている景気刺激策を総じてアベノミクスと呼び、それには大胆な金融緩和、機動的な財政出動、規制緩和を中心の成長戦略の「三本の矢」が掲げられている。安倍内閣は、これらを実現させて、日本経済再生の目標として、今後10年間の平均で名目GDP（国内総生産）成長率3%、実質GDP成長率2%程度をめざすとともに、一人当たり名目GNI（国民総所得）を10年後に150万円以上拡大させるとしている。

問9 正解は③。変動為替相場制とは、為替レートを外国為替市場における需要と供給の関係に委ねる仕組みをいう。したがって、ある国の通貨の需要が増加すればその国の通貨の為替レートは上昇し、供給が増加すれば為替レートは下落するということになる。③国内金利が低下すると、資金はより高い金利を求めて国外に流出する（自国通貨を売って外貨を買う動きが強まる）から、自国通貨の供給が増える。したがって、自国通貨の為替レートは下落する。

①国内物価が上昇すれば、安価な海外製品の輸入が増える（自国通貨を売って外貨を買う動きが強まる）から、自国通貨の供給が増える。したがって、自国通貨の為替レートは下落する。②対外投資が拡大すれば、資金が流出する（自国通貨を売って外貨を買う動きが強まる）ので、自国通貨の供給が増える。したがって、自国通貨の為替レートは下落する。④経常収支が黒字であるということは、自國に外貨が流入している（外貨を売って自国通貨を買う動きが強まる）ということであり、自国通貨の需要が増えていることを意味する。したがって、自国通貨の為替レートは上昇する。

問10 正解はフェア・トレード（オルタナティブ・トレード）。先進国における民間企業が開拓途上国との

企業と貿易をした場合、開発途上国の产品が不正に低い価格で取引されることが多く、これが開発途上国における低賃金労働や児童労働につながっているといわれている。そこで、開発途上国の产品を適正な価格で継続的に購入することにより、開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立をめざそうという考え方やそれに基づいた運動が注目されている。これをフェア・トレードという。

## 5 国民福祉の現状と課題

### 【解答】

- 問1 ① 公衆衛生  
② 教育基本  
③ ワーキングプア
- 問2 ④
- 問3 ベヴァリッジ（ビバリッジ）報告
- 問4 公的扶助の財源はすべてが公費でまかなわれるが、社会保険は加入者から保険料を徴収して財源に充てる。（48字）
- 問5 ウ
- 問6 ④ 8  
⑤ 40  
⑥ 36
- 問7 ③
- 問8 労働者派遣法（労働者派遣事業法）
- 問9 ③
- 問10 ワグナー法（全国労働関係法）

### 【配点】 (20点)

- |        |            |
|--------|------------|
| 問1     | 各1点×3 = 3点 |
| 問2     | 2点         |
| 問3     | 1点         |
| 問4・問5  | 各2点×2 = 4点 |
| 問6・問7  | 各1点×4 = 4点 |
| 問8～問10 | 各2点×3 = 6点 |

### 【出題のねらい】

本問は、社会保障と労働問題について、その歴史的な知識と時事的な動向を含めて、基本的な知識の習得度と理解度を試すことをねらいとしている。併せて、格差の程度を測る手法であるジニ係数を題材に、論理的判断力を試す問いも設けた。

### 【設問別解説】

問1 ① 正解は公衆衛生。日本の社会保障制度は、公的扶助・社会保険・社会福祉・公衆衛生の四つの分野を柱としている。

② 正解は教育基本。教育の目的や理念など教育の基本について規定しているのが、教育基本法である。この法律は戦後まもない1947年に制定され、その後は長く改正されてこなかったが、2006年に改正された。この改正では、たとえば「我が國と郷土を愛する」ことが教育の目的として新たに盛り込まれたため、当時こうした改正の是非をめぐる議論が高まった。

③ 正解はワーキングプア。空欄直前の「働く貧困層」という言葉が大きなヒントになっている。明確な定義はないものの、フルタイムで働いても収入が生活保護基準に満たない貧困層を意味する場合が多い。

問2 正解は④。近年の日本の社会保障給付費は、およそ100兆円となっている（2010年度は104.7兆円）ので、④には「100」が当てはまる。そして、近年の国民所得（要素費用表示）はおよそ350兆円（2010年度は352.7兆円）であり、この値をもとに計算すると、社会保障給付費の対国民所得比はおおむね30%弱となるので、④には「30」が当てはまる。さて、社会保障給付費の内訳を見ると、近年はその約5割が年金に、約3割が医療に、それぞれ充てられている。つまり、現在では年金への給付額のほうが医療への給付額よりも多いのだから、④には医療が、④には年金が、それぞれ当てはまる（空欄を受けて「1980年代初頭からは逆転している」という文脈に注意しよう）。

⑤の数値は難しいが、以上を満たす選択肢は④のみであるから、これが正解となる。

問3 正解はベヴァリッジ（ビバリッジ）報告。イギリスの首相チャーチル（在任1940～45、1951～55）の委託を受けて、経済学者ベヴァリッジ（1879～1963）はイギリス社会保障制度に関する報告書をまとめた。正式には「社会保険および関連サービス」というタイトルだが、ベヴァリッジ報告と通称されている。第二次世界大戦後、この報告をもとにして、「ゆりかごから墓場まで」と呼ばれるイギリスの社会保障制度が整備された。

問4 正解は解答例を参照。公的扶助は、生活困窮者に対して全額公費（租税など）によって最低生活を保障するというものであるから、財源は公費である。これに対し社会保険は、保険料と公費を財源と

している。この設問は「財源という観点からの両者の違い」を説明するというものなので、「公費」と「保険料」という対比を示すことが解答のポイントである。

問5 正解はウ。アは不適当。日本の労働組合は、企業ごとに組織される企業別組合が一般的であるが、それ以外の形態がまったくないわけではない。勤務している企業や雇用形態（正社員か契約社員など）にかかわりなく、同じ地域の人々が個人単位で加入する形態の労働組合（地域労組）もある。近年では非正社員がこうした地域労組に加入する動きも広がっており、注目されている。イは不適当。労働組合法第7条は、使用者が「労働組合の運営のための経費の支払につき経理上の援助を与えること」を、不当労働行為として禁止している。すなわち、資金援助を禁止しているので、「資金援助をしなければならない」という記述は不適当。ウは適当。労働組合の推定組織率（雇用者に対する労働組合加入者の割合）は長期にわたって低下傾向を示し続けている。その結果、2003年には20%を下回るようになり、その後も20%以上を回復していない。なお、2013年現在の推定組織率は17.7%となっている。以上のことから、適当な記述はウだけである。

問6 4 正解は8。労働基準法第32条は「使用者は…労働者に、休憩時間を除き一日について8時間を超えて、労働させてはならない」と規定している。

5 正解は40。労働基準法第32条は「使用者は、労働者に、休憩時間を除き一週間にについて40時間を超えて、労働させてはならない」と規定している。

6 正解は36。労働基準法第36条は、労働者の過半数を代表する者などとの間で協定を結んだ場合には、先に解説した1日8時間・1週間40時間という法定の「労働時間を延長し、又は休日に労働させることができること」と規定している。この協定は、労働基準法第36条に基づく協定ということで、36協定（三六協定）と通称されている。

問7 正解は③。介護保険制度に基づく介護サービスは、市町村および特別区の介護認定審査会によって要介護認定・要支援認定を受けた者に対して給付される。この認定の程度によって、利用できるサービスの上限も決められている。

①保育所の運営は「地方自治体」に限られない。地方自治体のほかにも、条件を満たした社会福祉法人やNPO、株式会社なども参入可能である。な

お、いわゆる待機児童の問題は解消されてはおらず、政府や地方自治体はその解消に向けた施策を進めている。②生活保護受給世帯数は、1960年代にはおよそ60～70万世帯であったが、2010年には140万世帯を超え、2013年には160万世帯近くに達している（[日本国勢図会 2014/15]）。詳しいデータを知らないとも、最近でも2014年3月に、**生活保護受給世帯数が過去最多を記録**（160万世帯を突破）したという報道があり、このことから判断できた人もいただろう。なお、「バブル崩壊以降は上昇傾向にある」という記述は、適当である。④「利用料の一部を自己負担する必要がなくなった」という記述は不適当。2005年に制定された障害者自立支援法は、障害者が福祉サービスを利用する際の利用料を、その利用に応じて自己負担する規定（応益負担）が盛り込まれていた。しかし、その自己負担がネックとなって福祉サービスを受けたくても受けることができない障害者が生じ、むしろ障害者の自立を妨げているという批判があった。そのため、同法を憲法違反だとする集団訴訟が起こされたが、同法を廃止し新法を制定することできと原告との和解が成立した。これを受けて、2012年には**障害者自立支援法が廃止され、新たに障害者総合支援法が成立した**が、この新法でも応益負担の規定は残り、和解に応じた障害者団体からは批判の声が上がった。

問8 正解は**労働者派遣法（労働者派遣事業法）**。この設問にいう「雇用（勤務）形態」は、派遣労働のこと。派遣労働者は、派遣会社（設問でいう事業会社）との間で雇用契約を結び、その派遣会社（派遣元）と契約した企業（派遣先）に派遣会社の業務命令によって派遣され、派遣先の指揮の下で業務に従事するというものである。この派遣労働について規定している法律が、労働者派遣法（労働者派遣事業法）である。なお、同法が1985年に制定された当初は、派遣労働は専門的な業務に限定されていたが、徐々にこの規制は緩和され、現在では原則として自由化されている。

問9 正解は③。ジニ係数の知識があれば解答は容易だが、直接の知識がなくとも設問文をもとに考えてみよう。設問文に「所得が完全に均等に分配されているならば、ローレンツ曲線は原点Oを通る傾き1の直線（均等分布線）に一致し」とある。したがって、「所得が完全に均等に分配」されている状態では、「網かけの部分」の面積は0となる。すなわち、設問文に掲げられたジニ係数を求める式の分子が0なのだから、当然にその「値は0となる」。

①「三角形OAB」の面積は当然にプラスである。「網かけ部分」の面積は、上で解説したように、「所得が完全に均等に分配」されているときが0であり、ローレンツ曲線は「不均等であれば均等分布線から右下へと張り出す」のだから、「網かけ部分」の面積はそれにつれて大きくなる。すなわち、この面積がマイナスになることはないので、ジニ係数がマイナスの値をとることはない。②いま述べたように、所得格差が大きくなるほど「網かけ部分」の面積は大きくなり、したがってジニ係数の値も大きくなる。④直線OAおよびOBを超えてローレンツ曲線が張り出すことはない（人間あるいは所得の累積比率が100%を超えることはない）ので、ローレンツ曲線が右下へと最大限に張り出したならば、その線は直線OAおよびOBに張り付く形になり、「網かけ部分」の面積と「三角形OAB」との面積は一致することになるので、ジニ係数の値は1となる。

これがジニ係数のとりうる最大値であるから、この値が「1を超える」ことはない。

以上の解説および設問文からわかるように、ジニ係数は所得格差の大きさを数値で示すもので、所得が完全に均等に分配されている場合には値が0となり、格差が拡大するほど値が大きくなり、最も不均等な状態にある場合には値が1となる、というものである。

問10 正解はワグナー法（全国労働関係法）。アメリカではニューディール政策の一環として、1935年に、労働三権を保障し、不当労働行為の禁止などを定めた法律が制定された。正式には全国労働関係法というが、これを立案した連邦上院議員の名にちなんでワグナー法と通称されている。なお、第二次世界大戦後のアメリカでは、1947年に、タフト・ハートレー法（労使関係法）が制定され、労働側の権利は大きく制限されることとなった。

# 倫理

## ① 源流思想総合

### 【解答】

- 問1 アタラクシア  
問2 (1) ①  
(2) プロタゴラス  
問3 ⑧  
問4 (1) ①  
(2) ③  
(3) 居敬窮理（格物致知）  
問5 ⑤  
問6 (1) ③  
(2) 喜捨（ザカート）  
問7 モーセ  
問8 (1) 縁起  
(2) 慈悲とは、他者をいつくしんで樂を与える慈と、他者の苦に同情しそれを取り除こうとする悲からなる、命あるもの一切に向けられる心のあり方をいう。  
(69字)  
問9 唯識

### 【配点】 (24点)

- 問1・問2 各1点×3 = 3点  
問3～問6 各2点×7 = 14点  
問7 1点  
問8・問9 各2点×3 = 6点

### 【出題のねらい】

「富の追求と人間の幸福」をテーマとする本文をもとに、ギリシア哲学・キリスト教・イスラーム・仏教・中国思想など、東西の源流思想に関する基礎的な知識を総合的に問うことをねらいとしている。

### 【設問別解説】

- 問1 正解はアタラクシア。ヘレニズム期の思想家エピクロス（前341？～前270？）は、幸福とは快樂であり快樂が最高善であるとする快乐主義をいった。エピクロスによれば、眞の快樂とは刹那的・享樂的なものではなく永続的・精神的なものであり、心身の苦痛や死の恐怖にわざらわされない魂の平安、す

なわちアタラクシアに至ることで得られる。そして彼は、アタラクシアの境地に至るためには、政治などの公共の生活から身を引き、親しい人々とともに静かで質素な生活を営む必要があると考え、「隠れて生きよ」といった。

問2 (1) 正解は①。タレス（前624？～前546？）を含む古代ギリシアの自然哲学者たちは、人間や世界の起源を神話によって説明するという従来の非合理的な方法（神話的世界觀）を排し、自然の事物や現象を人間のロゴス（理性）に基づいて合理的に説明しようとしたことで知られる。したがって、「世界の成り立ちを神々の行為と結びつけて合理的に説明した」という記述は誤り。なお、タレスは、すべての生命には水分が不可欠であるという観察などに基づいて、アルケー（万物の根源）を水であると考えた。万物を一つの原理に還元し、この原理によって万物の生成や消滅を説明しようとした彼の探究は、ロゴスの自覚への第一歩となり、哲学の誕生を告げるものであった。このことからタレスは、「西洋哲学の祖」あるいは「最初の哲学学者」と呼ばれる。

(2) ヘラクレイトス（前540？～前480？）は、「万物は流転する」と考えて、世界は対立し合うものの間の調和と秩序を含み、燃えさかる火こそが万物の根源であると説いた。(3) デモクリトス（前460？～前370？）は、それ以上分割できない微小物質である無数の原子（アトム）が空虚（ケノン）のなかで離合集散することによって万物は生滅変化すると考えた。(4) ピュタゴラス（前6世紀？）は、万物は数によって秩序づけられていると主張し、世界は数的な比によって調和が保たれていると考えた。

(2) 正解はプロタゴラス。代表的なソフィストであるプロタゴラス（前494？～前424？）は、「人間は万物の尺度である」と唱えて、真理を判断する基準は個々の人間にあり、万人に共通する普遍的な真理は存在しないと説いた。このような真理の絶対性・普遍性を否定する立場は相対主義と呼ばれる。

問3 正解は⑧。ア・イ・ウともに誤りである。ア：誤文。ソクラテス（前470？～前399？）ではなく、ゼノン（前336？～前264？）を祖とするストア派の思想についての記述である。ストア派は、人間には自然のロゴス（理性）が等しく分け与えられているとし、その意味ですべての人間が平等であると説いた。そして、ポリス（都市国家）に縛られることのないコスモポリテース（世界市民）として生きることが、人間の理想とされた。このような考えは、コスモポリタニズム（世界市民主義）と呼ばれる。こ

れに対し、ソクラテスは、ポリスの民主政の<sup>うちのい</sup>外に置かれていた外国人や奴隸、女性など「非市民」を対話の相手としなかったことからもわかるように、あくまでポリスの市民としての倫理を追求した。イ：誤文。「知者としての自覚をもって自らが有する知識を相手の質問に応じる形で伝授する方法」という記述は、魂の助産術の説明として不適当である。ソクラテスは、善美のような人間の魂にとって最も大切なことについて無知であることを自覚すること（無知の知）こそ真理探求の出発点であるとし、人々をこの無知の自覚に導くための方法として魂の助産術（問答法）を実践した。魂の助産術とは、助産師が妊娠の出産を助けるように、問答（対話）の相手が自らの無知を自覚することを手助けする方法をいう。具体的には、相手に自分が知っていると思いつ常識だと信じていることを語らせ、それについて問答を重ねながらしだいに相手が自らの考えの不十分さや誤りに気づき、自分で真の知を生み出すよう手助けすることをさす。ウ：誤文。「必ずしも正しく行動するわけではないと説いた」という記述は不適当。ソクラテスは、人間にとてのアレーテ（徳）とは「善く生きること」にあると考えた。彼によれば、善く生きるために、徳とは何かを知らなければならない。もし、徳とは何かを完全に理解できたならば、それは必ず実践される（知行合一）。徳が実践されるということは、魂が優れた状態に至ったということであり、その魂の状態が、すなわち幸福である（福德一致）。このように、ソクラテスは、徳の実践の条件が徳を知ることにあり、そして徳の実践が幸福につながると考えた。

問4 (1) 正解は①。□Aには「忠恕」が入る。忠とは自分を偽らない誠実さをいい、恕とは自分のごとく他人を思いやる心をいう。いずれも孔子（前552？～前479？）が理想的な心のあり方（仁）の内容として説いたものである。孔子は、こうした心が親子・兄弟間における親愛の情として示されることを説きつつ、それを国家社会における人間関係一般におし広めることで、道徳的な秩序が保たれると考えた。なお、選択肢に登場する愛敬は、日本陽明学の祖とされる中江藤樹（1608～48）が、すべての道徳の根本に置かれるべき「孝」の本質と考えたもので、愛は真心をもって他者と交わろうとする心であり、敬は目上の者を敬い目下の者を軽んじない心をいう。浩然の気については、□Bの解説を参照。

□Bには「惻隱」が入る。孟子（前372？～

前289？）によれば、人間は誰でも、仁・義・礼・智（四徳）の芽生え、すなわち四端を生まれながらにもっている。彼は、四端のうち、惻隱の心（他人の不幸を見過ごすことができない心）が仁の芽生えであると説いているので、「惻隱」が空欄に入る語句として適當である。なお、孟子は、羞恥の心（自らの不善を恥じ他者の不善を憎む心）は義の芽生え、辞讓の心（他者に譲る心）は礼の芽生え、是非の心（善悪を区別する心）は智の芽生えであるとし、惻隱の心を含むこれら四端を養い育てることで四徳を身につけることができると説いた。そして、四徳が心身に充ちると、力強い道徳的勇氣（浩然の氣）が生まれ、どのような困難な場面でも正義を貫こうとする人間である大丈夫となることができるとした。

(2) 正解は③。道家の祖とされる老子（生没年不詳）は、「大道廢れて仁義あり、知恵出でて大偽あり」と述べ、儒家の説く仁義や知恵を批判した。彼は、いまの時代は無為自然の本来の道が廃れたために、逆に仁義の道徳が説かれ、知恵を働かせたために偽りが生じているとし、儒家の説く道徳には、人間性についての一種の欺瞞があると批判した。そして、老子は、こざかしい知恵を捨てて、ありのままの自然に自身のあり方を委ねること、すなわち無為自然を重視した。

①韓非子（？～前233）に代表される法家の思想を想定した記述である。法家は、古代中国の諸子百家の一つに数えられる思想潮流で、社会の秩序を守り国家をうまく治めるためには、君主が信賞必罰を旨とする法律によって人々を操っていく必要があると説いた（法治主義）。なお、選択肢の前半部分の「為政者の徳によって民衆を治めるべき」という記述は孔子の徳治主義について説明したもの。②荀子（前298？～前235？）の思想を想定した記述である。荀子は、人間の本性は利己的であるとする性惡説の立場から孟子の性善説を批判的に捉え、利己的な人々の性質を礼によって矯正する必要があるとする礼治主義を説いた。④墨家の祖である墨子（前470？～前390？）の思想を想定した記述である。墨子は、孔子の説く仁を近親者重視の差別的な愛（別愛）であると批判し、人々が血縁や身分などの違いを超えて互いに愛し合うこと（兼愛）がいかに大切であるかを説いた。

(3) 正解は居敬窮理（格物致知）。宋の時代の儒学者で、朱子学を大成した朱子（朱熹：1130～1200）によれば、人間のもつて生まれた性（本然の性）

は、理そのものであり、善である。しかし、聖人でも君子でもない凡人は、情欲に乱されて、自己の心の内にある理を見きわめることができない。そのため、善き生き方を実現するためには、情欲を抑制（居敬）して、聖人・君子が著した書物を読むなどして理をきわめ尽くさなければならない（窮理）。朱子はこの居敬窮理によって知の極致に至ること（格物致知）を重視し、情欲にとらわれずに公明正大に行動する人格者（聖人）になることをめざすべきである、と主張した。

**問5** 正解は⑤。ア：アウグスティヌスについての記述である。古代キリスト教会における最大の教父とされるアウグスティヌス（354～430）は、神による救済については神の意志によってあらかじめ決められているとする恩寵予定説を唱えた。アウグスティヌスによれば、人間が原罪から救われることも、善き行為を志すこととも、神の恩寵（恵み）によるものであり、教会こそがその救いを与える神の国の代理人である。このように彼は、神の絶対性と教会の権威を基礎づけたのである。イ：パウロについての記述である。パウロ（？～60？）は、ユダヤ教から回心したのち、イエス（前4？～30？）の教えを地中海世界に広めることに力を尽くし（異邦人伝道）、キリスト教が世界宗教へと発展するのに大きく貢献した。ウ：トマス・アクィナスについての記述である。スコラ哲学の大成者とされるトマス・アクィナス（1225？～74）は、神の「恩寵の光」によって示される信仰の真理と、理性の「自然の光」によって示される哲学的な真理を区別しつつも、信仰の優位を前提として理性と信仰の調和を図ろうとした（「恩寵は自然を完成させる」）。

**問6** (1) 正解は③。イスラームでは、すべての信徒はアッラー（神）の前に平等であると考えられており、聖俗を区別しないので、神に仕える聖職者は存在しない。

①は適当でない。イスラームは、ユダヤ教（ユダヤ教については問7の解説を参照）に見られるような選民思想に立脚していない。イスラームでは、アッラーへの信仰に基づく共同体（ウンマ）が重視され、むしろそのなかに生きるイスラーム教徒たちは神の前に平等だと考えられている。②も適当でない。イスラームでは、ムハンマド（マホメット：570？～632）は、キリスト教におけるイエスのように救世主（メシア）や神の子とは見なされず、最大にして最後の預言者と見なされている。④も適当でない。イスラームでは、『クルアーン（コーラン）』

のほか、『旧約聖書』や『新約聖書』も聖典（諸啓典）と見なされ、尊重される（ただし、『クルアーン』は神がムハンマドを通じて与えた最終的な啓示とされている）。また、イスラームにおいては、ユダヤ教徒やキリスト教徒は「啓典の民」と呼ばれ、ムハンマドのほか、モーセやイエスもまた預言者であるとされている。

(2) 正解は喜捨（ザカート）。イスラーム教徒には、聖典『クルアーン』に基づいて、五行の務めを実践することが求められている。五行とは、五つの宗教的義務を実践することで、アッラーへの信仰告白、礼拝（1日5回メッカに向かって神を拝すること）、イスラーム暦9月（ラマダーン）の断食、貧しい同胞を救済するための喜捨、メッカへの巡礼が含まれる。このうち喜捨は、具体的には生活困窮者の救済を目的として、財産に応じて課せられる救貧税を意味する場合が多い。

**問7** 正解はモーセ。『旧約聖書』の「出エジプト記」によれば、紀元前13世紀頃、エジプトにおいて奴隸生活を強いられていたイスラエル人がモーセ（生没年不詳）に率いられて脱出し（出エジプト）、神が約束した地カナンをめざした。この途中、モーセは、神（ヤハウェ）からシナイ山で十戒を授けられたとされる。なお、ユダヤ教では、自分たちは神から選ばれた民族であり（選民思想）、十戒に代表される律法（神の命令と掟）を遵守すれば民族は祝福され、それに背けば神から厳しく罰せられると考えられていた。

**問8** (1) 正解は縁起。縁起の法とは、ゴータマ・ブッダ（釈迦：前463？～前383？）の根本思想の一つで、あらゆる存在は何らかの相互依存関係あるいは因果関係にあって、それ自体で独立して存在するものは何もないという真理（ダルマ）をいう。

(2) 正解は解答例を参照。ブッダは、慈悲の心がいかに大切であるかを説いたことで知られる。慈とは命あるものをいつくしみ、安樂を与えること（与楽）、悲とは命あるものの苦しみをあわれみ、その苦しみを取り除くこと（抜苦）をいい、慈悲は生きとし生けるもの（一切衆生）に対して向けられなければならないとされる。

**問9** 正解は唯識。大乗仏教の思想家であるアサンガ（無着：310？～390？）とヴァスバンドゥ（世親：320？～400？）は、あらゆる事物は人間の心の奥底にある阿賴耶識（すべての心的活動のよりどころになるとされる人間の意識作用）の働きによりつくり出されたものであり、実在するのは心の本体である

「識」だけであるという唯識の思想を説いた。

## ② 日本の近現代思想

### 【解答】

- |    |     |            |
|----|-----|------------|
| 問1 | A   | ⑤          |
|    | B   | ③          |
|    | C   | ②          |
| 問2 | 1   | 中江兆民       |
|    | 2   | 折口信夫       |
| 問3 | ③   |            |
| 問4 | (1) | イエス、日本     |
|    | (2) | 自権         |
| 問5 | ①   |            |
| 問6 | (1) | 全国水平社（水平社） |
|    | (2) | ①          |
| 問7 | ア-② |            |
|    | イ-④ |            |
|    | ウ-⑦ |            |
| 問8 | ④   |            |
| 問9 | ④   |            |

### 【配点】 (26点)

- |       |             |
|-------|-------------|
| 問1    | 各1点×3 = 3点  |
| 問2～問6 | 各2点×8 = 16点 |
| 問7    | 各1点×3 = 3点  |
| 問8・問9 | 各2点×2 = 4点  |

\*ただし、問4(1)は完答。

### 【出題のねらい】

西洋への志向と、それに対抗する思想の展開をめぐる本文を使いながら、日本の近現代思想に関して時代やジャンルを超えて総合的に取り上げることをねらいとした問題である。

### 【設問別解説】

問1  A 正解は⑤。欧米との不平等条約の改正をめざす明治政府は、日本も西洋と対等の「文明國」であることを示すため、1883年に洋風建築の鹿鳴館を見て舞踏会を開くなどの欧化政策をとった。この前後のこうした西洋志向の風潮を、批判的な意味も含めて一般に欧化主義と呼ぶ。

B 正解は③。平民主義は徳富蘇峰(1863~1957)の造語で、平民的欧化主義とも呼ばれ、政府による上からの官僚的な欧化主義に対して、一般的

国民（平民）の側からの欧化を説いたもので、自由主義や平等主義の主張にもつながった。ただし、蘇峰自身は後に国家主義、国権主義に転じるようになつた。

C 正解は②。超国家主義（ウルトラナショナリズム）は、1930年代から1940年代前半の日本において顕著になった極端なナショナリズムで、天皇制の絶対化や国家至上主義が強調される思想のことである。

①無教会主義は内村鑑三（1861~1930）らが唱えたもので、直接に『聖書』の言葉と向かい合うことが信仰において重要であるとして、教会や儀式にとらわれることを排する立場をいう（内村鑑三については、問4(1)の解説を参照）。④個人主義とは、一般に、個人の権利や自由を尊重する考え方をいう。日本思想の分野においては、夏目漱石（1867~1916）の思想と関連して問われることが少なくない。漱石のいう個人主義とは、自己中心主義（自分の要求だけを尊重して、他人の犠牲をかえりみない利己的な考え方）ではなく、自己の内面的な要求に従いつつ、同時に他人の個性も尊重しようという自己本位の立場をいう。⑥民本主義は吉野作造（1878~1933）が唱えて大正デモクラシーの思想的背景となつた考え方。吉野の民本主義とは、誰が主権を有するかということをあえて問わず、政治（主権）の運用において国民の意向を尊重し、国民の福利増進を図ろうとする考え方をいう。⑦無政府主義はあらゆる権力を否定する政治思想で、大杉栄（1885~1923）などが唱えたことで知られる。

問2  1 正解は中江兆民。「東洋のルソー」と評され、自由民権運動の思想家として活躍した中江兆民（1847~1901）は、ルソー（1712~78）の『社会契約論』の翻訳を『民約訳解』と題して出版し、フランス流の急進的な民主主義の紹介に努めたことで知られる。

2 正解は折口信夫。折口信夫（1887~1953）は、日本古来の神の原型を、共同体の外部（常世の国）から來訪する「まれびと」だと捉え、「まれびと」と人々との交流が様々な芸能や文学の起源であると考えた。

問3 正解は③。渡辺崑山（1793~1841）は、蘭学者の高野長英（1804~50）らと尚歎会に参加し、西洋の科学技術だけでなく政治経済や世界情勢、外交政策などを議論した。その結果、幕府の鎖国政策を批判することになり、幕府から弾圧され最後は自殺した（蛮社の獄）。

①「藩の枠のなかで主君に忠誠を誓う」という記述は、吉田松陰（1830～59）の一君万民論の説明として適当でない。彼の一君万民論は、藩の枠を越えて天皇に忠誠を尽くす政治のあり方を意味するものであり、尊王倒幕運動に影響を与えたことで知られる。②佐久間象山（1811～64）は、『省齋録』において、「東洋道徳、西洋芸術、精粗遺さず、衣裏兼該し、因りてもって民物を沢し、国恩に報ゆる」と述べ、儒学に代表される東洋の道徳を基礎としつつも、西洋の芸術（科学技術）を積極的に導入することで国力の充実を図るべきだと説いた。したがって、「中国や西洋の学問の影響を受けない日本古来の科学技術こそ、すぐれた内容をもつ」という記述は、彼の考えを示したものとはいえず、誤り。④大塩平八郎（1793～1837）は「朱子学」ではなく陽明学の説く知行合一に学び、飢餓の続く社会情勢のなかで、民を救うため幕府に対して反乱（大塩の乱）を起こした。

問4 (1) 正解はイエス、日本。内村鑑三は教会や儀礼によらず直接に聖書の言葉と向き合う無教会主義を唱え、イエス（Jesus）と日本（Japan）という二つのJに生涯を獻げることを誓うとともに、日本の武士道にキリスト教信仰の基礎を見いだした。また内村は、日露戦争に際して非戦論を説いたことでも知られる。

(2) 正解は白樺。白樺派は、1910年創刊の文芸雑誌『白樺』を中心にして起こった、武者小路実篤（1885～1976）、有島武郎（1878～1923）、志賀直哉（1883～1971）らが参加した文壇的一大流派である。彼らは、個人の自由な個性の伸張が、そのまま宇宙や人類の意志につながるとして、徹底的な個人主義とそれに基づく人道主義を主張した。

問5 正解は①。福沢諭吉（1835～1901）の「一身独立して一國独立す」という言葉は、天賦人権論に基づく独立自尊の精神を重視し、それが個人の独立にとどまらず国家の独立にもつながることを説いたものである。しかし、福沢は、晩年には自由民権運動の急進化を見て、國権のために人権の制限はやむを得ないと考えたり、アジアとの関係では近代化の遅れる中国・朝鮮を批判して脱亜論を主張したりした。したがって、「晩年まで富国強兵論を批判してアジア諸国との連帶を主張した」という記述は適当でない。

②③④は、明六社の同人についての記述として、いずれも適当である。②西周（1829～97）は、西洋哲学の移入・紹介に尽力し、「演繹」「帰納」「理性」

などの哲学用語を考案したことで知られる。③森有礼（1847～89）は明六社を創設して啓蒙活動を行った思想家。彼は、『明六雑誌』において「妻妾論」を発表し、封建的な…夫多妻を野蛮な制度として批判し、一夫一婦制を主張したことで知られる。④中村正直（1832～91）は、イギリス留学後、ミル（1806～73）の著作『自由論』（"On Liberty"）を『自由之理』と題して翻訳・出版するなど、西洋の自由主義や功利主義の思想を広く日本に紹介したことでも知られる。

問6 (1) 正解は全国水平社（水平社）。全国水平社は、地域や職業によっていわれのない差別を受けてきた被差別部落の解放をめざして、西光万吉（1895～1970）らが1922年に結成した組織。創立大会で採択された全国水平社宣言は、「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という言葉で知られる。

(2) 正解は①。『青鞆』は、平塚らいてう（1886～1971）らが創刊した文芸雑誌。平塚らいてうは、その創刊号で「元始、女性は實に太陽であった。真正の人であった」と宣言し、「隠されて仕舞った我が太陽を今や取戻さねばならない」と述べて女性の自我の覚醒を訴えた。

②『舞姫』は森鷗外（1862～1922）の小説（森鷗外については問8の解説を参照）。③『明星』は与謝野鉄幹（1873～1935）の主宰により発刊された詩歌雑誌。④『若菜集』は自然主義文学者の島崎藤村（1872～1943）の詩集。

問7 正解はア・②、イ・④、ウ・⑦。アは、西田幾多郎（1870～1945）の『善の研究』からの引用である。引用文のなかの、「見る主觀もなければ見らるべき客觀もない」という部分が大きなヒントとなる。西田は、西洋近代哲学が自我を中心にはせず、認識する自我（主觀）と認識されるもの（客觀）を対立させているという点を批判し、主觀と客觀が対立する以前の、主客未分の直接的経験、すなわち純粹経験のなかにこそ眞の实在が現れるとした。イは、和辻哲郎（1889～1960）の『人間の学としての倫理学』からの引用である。「人間は、個として現われつつ全体を表現する」という部分がポイントとなる。和辻によれば、人間は、社会から孤立したたんなる個としての存在ではなく、また社会に埋没した存在でもなく、人と人との「間柄」において生きる間柄的存在であって、個人と社会は人間の二つの側面である。ウは、柳田国男（1875～1962）の『口承文芸史考』からの引用である。ここにある「口」は口承文芸（口承伝承）、「文字」は文字で記された文

学のことである。「西洋の学者」はこの二つを区別して後者を高尚なものと考えるが、柳田は文字で記された文学（「手承眼承」）は必ずしも文芸に基礎をもつと批判し、文芸の重要性を説いている。柳田は、文字史料中心の歴史学では振り返られることが少なかった一般民衆（常民）の手承眼承や生活様式などを重視し、そこに日本文化の基層が表れているとして民俗学を提唱した。

①夏目漱石については、問1④の解説を参照。③岡倉天心（1862～1913）は、明治期の美術界の指導者・思想家で、「茶の本」や「東洋の理想」などを著し、海外に向けて日本文化や東洋の精神文化を紹介したことで知られる。⑤幸徳秋水（1871～1911）は、青年期には自由民権運動に加わり、やがて社会主義へと自らの思想を深化させ、大逆事件では天皇暗殺計画の首謀者という嫌疑をかけられ、他の多数の社会主义者とともに刑死した人物。彼の代表的な著作として、「社会主義神髄」や「二十世紀之怪物帝国主義」がある。⑥河上肇（1879～1946）は、「貧乏物語」を著し、経済学的な視点から「文明国に於ける多数人の貧乏」という問題を取り上げた人物。⑧田中正造（1841～1913）は足尾銅山鉱毒事件を告発したことで知られる人物。彼は、「民を殺すは國家を殺すなり」と訴え、農民の立場から公害反対運動を行った。

問8 正解は④。□Dには「丸山真男」が、□Eには「無責任の体系」がそれぞれ入る。日本の政治学を学問として確立し、第二次世界大戦後の民主主義思想を主導した丸山真男（1914～96）は、戦前・戦中の日本の政治のあり方を「無責任の体系」と呼んで批判した。彼によれば、戦前・戦中の日本では近代的な市民社会が未成熟であったために、それを支える自立した近代的市民が育たず、結果として無責任体制としてのファシズム体制を生み出した。そして丸山は、戦後の日本において、近代的主体による民主的な市民社会の形成を唱え、他者を他者として理解し、また自分のなかに巣くう偏見につねに反省の目を向けることのできる、自主独立の精神をもつ個を確立しなければならないと説いた。

なお、選択肢に登場する小林秀雄（1902～83）は、「様々なる意匠」や「無常といふ事」などを著した文芸評論家。彼は、日本の近代批評の確立者としても知られている。諦念（レジグナチオン）とは、森鷗外の處世態度を規定していた思想で、歴史や運命のなかで自己の立場や使命を受けつつ、

しかもそこに埋没しない境地をさす。森鷗外の小説『舞姫』では、ドイツを舞台に、留学生太田豊太郎と踊り子エリスの愛とその挫折の物語を通して、近代的自我に目覚めた青年が、世俗世界の日常を離れては生きられないことに気づかされ、諦念に至る過程が描かれている。

問9 正解は④。朝廷の風俗と庶民のひな祭りは異質な要素の融合ではあるが、どちらも日本のものであり、本文の下線部にある「外来文化を積極的に取り入れて自らの文化に融合した」というあり方ではない。

①日本の住宅に、西洋起源のソファやテーブルがあり、しかも西洋のように靴を履いたまま使用するのではないということだから、この例は設問の条件を満たしている。②神社は日本の宗教である神道、寺は外來の宗教である仏教の施設だから、区別せず同じように参拝する例は、設問の条件を満たしている。③カレーライスはインドからイギリス経由で流入し、ハンバーグは西洋から流入していて、家庭料理のメニューとして定着しただけでなく、日本的な変化も遂げている。したがって、この例も設問の条件を満たしている。

### ③ 市民社会の倫理 【解答】

問1 ③

問2 ①

問3 (1) ア—F イ—F ウ—T  
(2) グロティウス

問4 百科全書

問5 (1) 良識（理性、ポン・サンス）  
(2) 人間は一本の葦のように弱く悲惨な存在だが、そのことを考えることができるという点で偉大な存在である。（49字）

問6 ⑥

問7 自由からの逃走

問8 神

問9 ③

問10 ア—F イ—F ウ—T

問11 野生

問12 共感（同感、シンパシー）

問13 ⑦

## 【配点】 (26点)

|          |          |
|----------|----------|
| 問1～問3(1) | 各2点×3=6点 |
| 問3(2)    | 1点       |
| 問4       | 2点       |
| 問5(1)    | 1点       |
| 問5(2)～問7 | 各2点×3=6点 |
| 問8       | 1点       |
| 問9～問11   | 各2点×3=6点 |
| 問12      | 1点       |
| 問13      | 2点       |

※ただし、問3(1)・問10は完答。

## 【出題のねらい】

本問は、自由をテーマに、その基本的な考え方と社会とのかかわりについて論じた本文をもとに、西洋近現代思想について、幅広く知識・理解の程度を試すことをねらいとしたものである。社会契約説やドイツ観念論、イギリス功利主義という西洋近代を代表する思想を中心に、アダム・スミスやフロムらの社会思想、啓蒙思想、現代の哲学者などについても出題した。

## 【設問別解説】

問1 正解は③。メルロー・ポンティ（1908～61）は現象学から出発し、独自の思想を展開したフランスの哲学者。メルロー・ポンティは、主体と客体は不可分のものであるという観点から身体を捉え直し、身体は精神であると同時に物体でもあるとした（「生きられる身体」）。彼のこうした考えは、身心二元論（物心二元論）を前提とした近代以降の西洋哲学を大きく揺さぶるものであった。なお、近代哲学の祖デカルト（1596～1650）が唱えたことで知られる身心二元論とは、思惟（考えること）を属性とする精神と、延長を属性とする物体（身体を含む）をそれぞれ別の実体だと論ずるものである。

①ウィトゲンシュタイン（1889～1951）はオーストリアに生まれ、イギリスで活躍した言語哲学者。哲学の問題に言語の側面から独自のアプローチを行う分析哲学の創始者の一人に数えられている。②クワイン（1908～2000）は分析哲学の流れを汲むアメリカの言語哲学者。④デリダ（1930～2004）はアルジェリアに生まれ、フランスで活躍した哲学者。様々な形而上学的思考に内在する二元論を問い合わせ試みを脱構築と呼び、ポスト構造主義の代表的な思想家となった。

問2 正解は①。Aには「ロック」が入る。イギリスの哲学者ロック（1632～1704）は、人間が

生まれつきもっている観念（生得観念）の存在を否定し、人間の心はもともと白紙（タブラ・ラサ）であり、神の観念を含め、すべての観念や知識は経験によって得られたものであると説いた。こうした認識論によってロックは、ペークン（1561～1626）にはじまるイギリス経験論を思想的に確立したとされる。なお、選択肢に登場するライブニッツ（1646～1716）は大陸合理論の系譜に属するドイツの哲学者。ライブニッツによれば、宇宙は無数のモナド（單子）から成り、それらは神によってあらかじめ調和のとれたものとして創造された（予定調和説）。そして、モナドは、それ以上分割することのできない、非空間的で精神的な実体であるとされる。

Bには「知覚の束」が入る。イギリスの哲学者ヒューム（1711～76）は、経験論を受け継ぎ徹底させたことで知られる。ヒュームは、物体のみならず精神をも実体ではないとし、人間の心は経験としての知覚の積み重なり（知覚の束）にすぎないと主張した。なお、選択肢に登場する「精神の最小単位」は、ライブニッツの説くモナドを想定したもの。

問3 (1) 正解はア～F、イ～F、ウ～T。ア：誤文。「ルソー」ではなくロックの思想についての記述である。ロックによれば、国家が成立する以前の自然状態は「自由で平等で平和な状態」である。しかし、自然状態においては、他者の生命や財産を侵害するなど自然権をめぐる争いが生じても、それを公正に裁いて処罰する公的権力が存在しない。そこで人々は、自然権を確実に保障するために、契約によって国家を形成し、国家の代表者である政府に統治を信託する。ただし、政府が人民の信託に反して自然権を侵害する場合には、人々はその政府に抵抗し、新たな政府をつくる権利（抵抗権、革命権）をもつ。このようなロックの主張は、民主政治の基礎をなすものとして、アメリカ合衆国の独立やフランス革命などに大きな影響を与えた。イ：誤文。人々が自然権としての「自己保存権」を行使することで「万人の万人に対する闘争状態」に陥るとしたのは、「ルソー」ではなくホップズ（1588～1679）である。ルソー（1712～78）は、国家成立以前の自然状態を「自由で平等で平和な状態」と見なしている。そしてルソーは、自由で平等で平和な自然状態を破壊し、自由や平等を欠いた社会をつくり出したのは私有財産制度（土地や財産の所有権を認める制度）であると説いている。一方、ホップズは、自然状態を戦争状態（「万人の万人に対する闘争状態」）と捉え

ている。ホップズによれば、人間は自然権として自己保存権（自分の生命を守る権利）をもっている。しかし、自然状態において各人が自由にこの権利を行使すると戦争状態に陥ってしまう。ホップズは、この戦争状態を脱して平和を回復するためには、各人が自然権を国家に全面的に譲渡し、国家に絶対的な権力を与えなければならないと説いた。ウ：正文。ルソーは、自然状態において人間は自由かつ平等であったが、財産の私有などによって不平等が生じ自由が失われたと考えた。そこでルソーは、失われた人間同士の自由で平等な関係を回復するためには、公共の利益をめざす全人民の普遍的意志（一般意志）を指導原理とする共同体を形成すべきだと説いた。こうした考えから彼は、各人が自然権を共同体に譲渡し、各人が自己を一般意志に全面的に服従させるという形の社会契約を提唱した。そして、社会契約に参加する者は、いわば自分自身と契約するのであり、共同体の一員として、自ら法をつくり、自らそれに従うことこそが「真の自由を獲得すること」（=市民的自由の獲得）であるとした。

(2) 正解はグロティウス。「国際法の父」と呼ばれるグロティウス（1583～1645）は、「戦争と平和の法」などを著し、自然法思想に基づいて、国家間の関係を律する国際法の発展の基礎を築いたオランダの法学者。また彼は、自然法を人間の自然本性（理性）に根ざす「理性の法」であると説き、「近代自然法の父」とも呼ばれた。

問4 正解は百科全書。ディドロ（1713～84）やダランペール（1717～83）を中心編纂・刊行された『百科全書』は、多数の執筆者によって18世紀当時の最先端の技術的・科学的な知識が紹介された大百科事典である。

問5 (1) 正解は良識（理性、ポン・サンス）。デカルトは、良識によって正しいと判断された真理を出发点にして、正しい思考方法（演绎法）によってあらゆる知識に到達することが可能であると考えた。彼の著作『方法序説』の冒頭の「良識はこの世で最も公平に分配されているものである」という言葉は、正しい知識は万人に開かれている、ということを強調したものである。

(2) 正解は解答例を参照。パスカル（1623～62）は人間を「考える葦」にたとえ、人間とは、一本の葦のように自然界で最も無力で弱い悲惨な存在であるが、他方、そのことを自覚し、真理を求めて何事かを考えることができるという点では宇宙に優る偉大な存在であるとした。パスカルによれば、人間は

悲惨と偉大という両面をもつ中間的な存在（中間者）なのである。

問6 正解は⑥。ア：誤文。「幸福を求めるのではなく、幸福に値する人間となれ」ではなく「最大多数の最大幸福」が適当。ベンサム（1748～1832）は、幸福とは快楽の増大あるいは苦痛の減少であるとし、幸福を実現するのに有効か否かという功利（有用性）の観点から、すべての行為の善悪を判断すべきであると説いた。そして、各人がそれ自身の幸福だけを追求すれば社会は混乱してしまうから、そこには社会の調和をもたらす何らかの原理が必要であるとする。そして、最も多くの人々に最も大きな幸福をもたらすような行為が最善の行為であるという観点から、「最大多数の最大幸福（の実現）」こそ、市民社会にふさわしい道徳と立法の原理であると考えた。なお、「幸福を求めるのではなく、幸福に値する人間となれ」は、ドイツの哲学家カント（1724～1804）の徳と幸福についての基本的な考え方である。カントによれば、人間が従うべき道徳法則の形式は、定言命法（無条件の命令）であって仮言命法（条件付きの命令）ではない。例えば、「幸福になりたいなら、○○すべし」といった仮言命法に従った行為（「幸福を求める」こと）は他律的な行為であり、道徳性を認めることはできない。しかし、「○○すべし」といった定言命法に従った行為については道徳性を認めることができる。つまり、カントは、行為の善さを「結果」の善さではなく「動機」の善さに求めたのである。イ：正文。ベンサムによれば、快楽は、その強さや持続性などの基準によって比較・計量すること（快楽計算）が可能である（量的功利主義）。ウ：誤文。ベンサムによれば、人間の本性は快楽（幸福）を求める、苦痛（不幸）を避けるところにある。そして、より多くの快楽をもたらすもの（行為）は善、その逆に苦痛をもたらすもの（行為）は悪と見なすことができる、とベンサムは考えた。したがって、「快楽と善は区別されるべきである」という記述は誤りである。

問7 正解は自由からの逃走。フロム（1900～80）は、ドイツに生まれ、ナチスのヒトラー（1889～1945）が政権を握る1930年代にアメリカに亡命した社会心理学者。彼は、その著作『自由からの逃走』において、権威への服従と全体（国家や人種など）への奉仕を求めるナチズム（ヒトラーが率いていたナチス党の思想）が台頭したのは、大衆社会のなかで孤独感と無力感にとらわれ自由を重荷と感じるようになっていた人々が、権威をもつカリスマ的な人物や

組織への服従を求めるようになり、ついには重要な決定を自ら放棄してしまったからだ、と論じた。

問8 正解は神。スピノザ（1632～77）は合理論の系譜に位置づけられるオランダの哲学者。設問文の趣旨が、「自然を産み出す」ものも「産み出された自然」も□である、という点にあるということを読み取ることができれば、スピノザの汎神論（神と自然を同一とする説）についての記述であるということが推測できる。スピノザは、自由と必然性を密接な関連のもとに置きつつ、神のみが自由原因であると考え、すべての事象を、自然を貫く必然性のもとに（「永遠の相のもとに」）理的に認識することの重要性を説いた。

問9 正解は③。カントは、自然界に自然法則が存在しているように、人間には従うべき道徳法則が存在すると考えた。カントは、各人の実践理性の命令である道徳法則に自ら進んで従う主体を人格と呼び、人格をたんなる手段としてのみ扱うことは許されず、それ自体を目的として尊重しなくてはならない（「あなた自身の人格や、ほかのすべての人の人格のうちにある人間性を、つねに同時に目的として扱い、けっしてたんに手段として扱わないように行為せよ」）と説いた。そして、人々が相互の人格を目的として尊重し合う社会を目的の國（目的の王国）と呼んで理想とした。

①行為の結果から道徳性を判断するのはベンサムの立場（結果説）。これに対し、カントは、「その行為の動機によって判断されるべき」という立場をとる（動機説）。②カントは、道徳法則への尊敬だけを動機として、その命令に従うことを義務と名づけ、純粹な義務の意識に基づいた行為にのみ道徳的価値（道徳性）を認めた。したがって、「道徳法則への尊敬の念をもたず、純粹な義務の意識を欠いた行為」については、道徳的価値は認められないでの、「道徳的価値が認められる」とする記述は不適当である。④前半の「主觀にそなわる感性や悟性などの諸能力が対象を構成する」という記述と後半の「客觀的な対象をありのままに受容する」という記述を入れ替えれば、カントの認識論における「コペルニクス的転回」についての説明となる。カントは、認識とは対象が認識に従うこと（「認識とは、主觀にそなわる感性や悟性などの諸能力が対象を構成すること」）であり、認識が対象に従うこと（「客觀的な対象をありのままに受容すること」）ではない、とした。

問10 正解はア…F、イ…F、ウ…T。ア：誤文。「自

然の変化の過程にあるのは対立や矛盾ではなく、自己同一的な統一性である」という記述は誤り。ヘーゲル（1770～1831）は、あらゆる事物はその内部に対立・矛盾するものを含み、その対立・矛盾を契機として、より高次のものへと発展・展開していくと考えた。こうした発展・展開のあり方は弁証法と呼ばれる。ヘーゲルによれば、すべての事象は弁証法に従って運動し、「自然の変化の過程」も例外ではない。イ：誤文。ヘーゲルは、世界史を、理性的な精神（絶対精神）が自らの本質である自由を実現していく過程と捉えた（「世界史は自由の意識の進歩である」）。そして、彼によれば、世界史は、一人の人間（專制君主）だけが自由で、他の人間には自由がなかった時代から、少数の人間が自由であった時代を経て、すべての人間が自由であるような時代へと発展するという。したがって、世界史を「理性的な精神が自らの本質である自由を実現していく過程」ではなく「自由が抑圧されていく過程」と捉えたとする記述は誤り。ウ：正文。ヘーゲルは、正と反の対立と矛盾が、合へと止揚される過程としての弁証法に、すべての事象は貫かれていると考えた。このことは人倫（人間の共同体）についても当てはまると言へるが、ヘーゲルは説く。彼によれば、人倫は、対立・矛盾によって前段階のものを統合した、より高次のものへと展開する。具体的には、自然な愛情に基づく一体性をそなえつつも個人の独立性に欠ける家族と、自然な愛情に基づく一体性を欠くが個人の独立性をそなえる市民社会とは、正と反の関係にあるが、両者の矛盾・対立は、共同体としての一体性と諸個人の独立性とが一つになった国家へと止揚される。それゆえヘーゲルにとって国家は「人倫の最高段階」であるとされる。

問11 正解は野生。フランスの文化人類学者レヴィー・ストロース（1908～2009）は、アマゾンの諸部族についての実地調査などから、ある社会の主觀的な意識の内容（婚姻関係や神話など）は、意識されていない構造に依拠している、ということを発見した。そこから、アマゾンの諸部族だけでなく、西欧も含めたあらゆる社会の思考や社会制度が、それぞれの構造に規定されているという構造主義の立場を確立していった。そして、象徴を用いて世界を理解するアマゾンの神話的思考（野生の思考）は、人間にとつての効率性を追求した西洋近代の科学的思考（栽培種化された思考）と比べても、その複雑さや精緻さにおいて劣っていないということを発見し、アマゾンなどの未開社会の文化を西洋近代社会の文化と

比べて「野蛮なもの」「劣ったもの」と見なす考え方を批判した。

問12 正解は共感（同感、シンパシー）。イギリスの経済学者・哲学者アダム・スミス（1723～90）は、各人の利己心に基づく活動が、神の「見えざる手」に導かれて、社会全体の利益（公益）を増進させると論じた。そして、『道徳感情論』において、人間は利己的ではあるが、自分の行為を観察する「公平な第三者」の共感（同感、シンパシー）を得ようとする道徳感情がそなわっているため、観察者（公平な第三者）の反感を買うような行為を避けようとする自己規制が自然に働くと主張した。

問13 正解は⑦。□Cには「実証」が入る。コント（1798～1857）は、人間の知識は、神話的段階（現象を神の意志などに根拠づけて説明しようとする段階）、形而上学的段階（あらゆる事物の起源と目的を、抽象概念を用いて説明しようとする段階）を経て、実証的段階（現象を検証可能な事実によって説明しようとする段階）において最高の段階に達すると說いた。

□Dには「自然選択」が入る。ダーウィン（1809～82）は、環境に適応する変異を起こした個体とその子孫が生き残り、そうした変異を起こさなかつた個体とその子孫は淘汰されるとし、こうした自然選択が、生物進化の原因であると論じた（生物進化論）。なお、選択肢に登場する「パラダイムシフト」とは、（ある学問領域の根底をなす）思考の枠組みの変換を意味する語句である。科学史家クーン（1922～96）によれば、科学の進歩とは科学者集団に共有されている研究の前提となるものの見方や研究方法、すなわちパラダイムが新しいものへと転換されること（パラダイムシフト）である。

□Eには「スペンサー」が入る。スペンサー（1820～1903）は、進化の法則を、宇宙から人間の社会までのあらゆる分野・領域を貫くものと考え、社会進化論を提唱した。そして、社会の進化を、全体優位で等質な「軍事型社会」から、個人優位の自発的な協働に裏づけられた「産業型社会」への移行として捉え、それは、個人が社会的権威から解放され自由を獲得していく過程でもあるとした。なお、選択肢に登場するオーウェン（1771～1858）は、初期の社会主義者として知られる人物。彼は、自ら経営するニューラナークの紡績工場で労働条件の改善などの改革に取り組み、後にアメリカに渡ってニューハーモニー村という自給自足の共同社会の建設に取り組んだ。

## 4 國際化と倫理的課題

### 【解答】

問1 (1) ③

(2) ③

問2 エスノセントリズム

問3 ⑦

問4 人間の安全保障

問5 ②

問6 ③

問7 (1) マージナル・マン（境界人、周辺人）

(2) モラトリアム

問8 ①

問9 (1) ②

(2) 集合（普遍）

問10 A ポーヴォワール  
イ キング

### 【配点】 (24点)

問1～問8 各2点×10=20点

問9・問10 各1点×4=4点

### 【出題のねらい】

本問は、朝鮮と日本の友好に関する雨森芳洲の思想を概観する本文をもとに、日本文化の特質や異文化理解を中心に、平和問題、青年期の特質と課題、フロイトとユングなど、幅広い分野から出題した。

### 【設問別解説】

問1 (1) 正解は③。A：正文。仏教によつてもたらされた無常觀は、古来、四季の移ろいを「おのづから」あるものとして受け入れてきた日本の感性のもとで独自の変容を遂げ、日本人特有の美意識の一つとして定着した。そして、「わび」や「さび」の美意識は、古くから日本人の間に連綿として伝えられた自然觀や生命觀のうえに、仏教的無常觀などが重なつて形成されたといわれる。なお、「わび」とは、物質的な不足（わびしさ）を心の自足によって補うところに成立する境地をさし、千利休（1522～91）によって大成された茶道（わび茶）で重んじられる美意識として知られる。また、「さび」は、寂しさのなかに無常の美を見いだして、そこに安らぐ心境をさし、江戸時代に松尾芭蕉（1644～94）によって俳諧の美意識を示すものとして深められた。イ：誤文。清明心（清き明き心）とは、仏教伝来以前から

日本において尊ばれてきた心のあり方であり、清らかで他者などに対して欺き偽ることのない心をいう。したがって、「禅の思想が受容されるにつれて形成されたといわれる」という記述は誤り。**ウ：誤文。**文化人類学者のベネディクト（1887～1948）によれば、西洋文化がキリスト教に基づく倫理観に背くことを罪と考える「罪の文化」であるのに対して、日本文化は他人にどのように見られているのかを気遣い他人に恥をさらすことを嫌う「恥の文化」であるとされる。**エ：正文。**柳宗悦（1889～1961）は、民衆的工芸を民芸と呼んで、日常の手芸的な生活雑器に「用の美」を見いだすとともに、日本全国を行脚して民芸品のもつ美を紹介したり、その制作に助言を与える民芸運動の創始者となった人物である。

以上より、③の組合せが正解となる。

- (2) 正解は③。**ア：正文。**時宗の開祖とされる一遍（1239～89）は、南無阿弥陀仏という名号を書いた札を各地で民衆に配り歩く独自の布教活動（賦算）を展開するとともに、もとは空也（903～972）がはじめたとされる踊り念佛を広めた。一般の人々に念佛をすすめて遊行し、家族や郷里を捨て、一所不住の生活を送ったことから、遊行上人あるいは捨聖と呼ばれた。**イ：誤文。**淨土真宗の開祖とされる親鸞（1173～1262）は、阿弥陀仏による衆生救済の誓い（弥陀の本願）について思索するなかから、いわゆる悪人正機の思想（悪人正機説）にたどりついたとされる。親鸞の悪人正機説とは、「善人なまもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」（善人さえ淨土に往生できるのだから、まして悪人が往生できないはずはない）という考え方である。ここにいう悪人とは、悪事を働く人という意味ではなく、自分の罪深さや無力さを自覚して絶望している人をさす。親鸞によれば、そうした煩惱を自覚している悪人こそ阿弥陀仏の本来の救いの対象である。これに対し、自分の力で善行を積むことができる人（善人）は、阿弥陀仏にすがろうとする心に欠けているため、本来は阿弥陀仏の本願から外れてしまうが、それにもかかわらず、阿弥陀仏の力によって往生することができる。したがって、「阿弥陀仏は善人のみを本来の救いの対象としている」という記述や、「悪人も悔い改めるならば救いの対象となることができる」という記述は、この悪人正機説と矛盾するものであり、適当でない。**ウ：誤文。**中国（宋）から曹洞宗を伝えた道元（1200～53）は、ただひたすら坐禅を行う只管打坐を重視したことで知られる。坐禅は、自力

聖道門とも呼ばれ、厳しい修行を伴うことから、「自力のはからい」を一切捨てるという趣旨の記述は誤り。道元は、日常生活のすべてが坐禅に通じる厳しい修行の場であり、こうした修行に努めることによって、一切の執着から解き放たれた境地（身心脱落）に至ると説いた。なお、「自然法爾」は、親鸞の絶対他力の考え方を表す言葉である。親鸞は、阿弥陀仏による衆生救済の誓い（弥陀の本願）をひたすら信じ、それにすべてを任せる絶対他力の信仰を説いた。彼によれば、念佛も含めすべては仏の誓いのおのずからなる働きである（自然法爾）。**エ：正文。**法華宗（日蓮宗）の開祖とされる日蓮（1222～82）は、『法華經』への帰依の言葉、すなわち「南無妙法蓮華經」と題目を唱えること（唱題）によって人々が救済されると説くとともに、自らを「法華經の行者」であると自覚し、人々を救済するという使命を果たそうとしたことで知られる。

以上より、③の組合せが正解となる。

- 問2 正解はエスノセントリズム。エスノセントリズム（自民族・自文化中心主義）とは、自己の属する民族の価値観や文化を優れたものであると賛美し、他民族の価値観や文化を劣ったものと見なす思考や態度をさす。こうした傾向が高じると、他民族に対する文化的強制が行われることがある。また、ナチスによるユダヤ人撲滅のような他民族の抹殺（ホロコースト）が行われるおそれもある。

- 問3 正解は⑦。**ア：誤文。**「留学したいと思わない」と回答した者の割合は、4か国の中で日本（52.3%）が最も高く、韓国（17.6%）が最も低い。したがって、「中国が最も低い」という記述は誤り。**イ：誤文。**「高校在学中に留学したい」と回答した者の割合と「高校を卒業したら、すぐ留学したい」と回答した者の割合の合計は、日本が6.1%（3.4%+2.7%）、米国が21.1%（13.4%+7.7%）、中国が14.1%（8.3%+5.8%）、韓国が24.0%（13.6%+10.4%）となる。したがって、「4か国の中でも20%に満たない」という記述は誤り。**ウ：正文。**「高校在学中に留学したい」と回答した者の割合と「大学期間中、留学したい」と回答した者の割合の差は、日本が28.4%（31.8%-3.4%）、米国が9.6%（23.0%-13.4%）、中国が11.3%（19.6%-8.3%）、韓国が26.3%（39.9%-13.6%）となり、日本が4か国の中で最も大きいことがわかる。**エ：正文。**「大学卒業後、留学したい」と回答した者の割合は、4か国の中で中国（24.4%）が最も高く、日本（8.0%）が最も低くなっている。

以上より、⑦の正誤の組合せが正解となる。

問4 正解は人間の安全保障。「人間の安全保障」とは、貧困・飢餓、環境破壊、人権侵害など、人間の生存・生活・尊厳を脅かすあらゆる種類の脅威から、人間一人ひとりの安全を守ろうという理念をいう。この言葉は、1994年に公表されたUNDP（国連開発計画）の『人間開発報告書』で一般に知られるようになった。

問5 正解は②。「核兵器を保有することが核戦争の防止につながるとする核抑止論の重要性を訴えている」という記述は誤り。ラッセル・AINシュタイン宣言とは、冷戦下のアメリカ・ソ連（現ロシア）両国による核戦争の危機という世界情勢を前にして、核兵器と、すべての戦争の廃絶を訴えた宣言（1955年発表）である。この宣言は、数学者・哲学者であるラッセル（1872～1970）と物理学者であるAINシュタイン（1879～1955）の提言に基づき、当時、世界的に著名であった科学者らが署名したことで知られる。この宣言に呼応して、1957年には世界の科学者が核兵器の廃絶や軍縮など戦争と平和の問題について討議し提言を行う第1回パグウォッシュ会議（科学と国際問題に関する会議）が開催された。なお、核抑止論とは、報復目的の核兵器を保有することによって、他国に核攻撃を思いとどまらせようとする、核戦略理論の考え方である。

①ドイツの哲学者であるカントは、『永遠平和のために』において、戦争のない永遠平和を実現するためには、諸国家による国際的な平和機構を創設すべきであると説くとともに、常備軍は漸進的に廃止されるべきであると訴えている。③ドイツの元大統領であるヴァイツゼッカー（1920～）は、「荒れ野の40年」と題する、1985年の議会における演説のなかで、「問題は過去を克服することではない。そのようなことができるわけではない。後になって過去を変えたり、起こらなかったことにするわけにはいかない。しかし過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在に対しても目を閉ざすことになる。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした行為に陥りやすい」と述べて、ナチス時代のドイツ人の罪を反省し、同様の過ちを再び起こさない決意を示した。④ユネスコ憲章は、その前文において「戦争は人の心のなかで生まれるものであるから、人の心のなかに平和のとりでを築かなければならない。相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民

の不一致があまりにもしばしば戦争となった」と謂い、戦争は諸人民が「相互の風習と生活を知らないこと」による「疑惑と不信」から起きると指摘している。

問6 正解は③。アはマクルーハン（1911～80）についての記述である。マクルーハンは、あらゆるメディアは人間の感覚や身体的な機能の外部的拡張を可能にするものだと論じた。彼によれば、グーテンベルク（1400？～68）による活版印刷の発明以来、人々は活字メディアを黙読しながら抽象的な思考と個人的な想像力の世界をつくり上げた。マクルーハンは、このような変化が人々の感覚世界を大きく変化させたことに注目したのである。

イはブーアスティン（1914～2004）についての記述である。ブーアスティンの指摘した擬似イベントとは、テレビなどのマスメディアが意図的につくり出す「本当らしさ」のことである。例えば、テレビによる擬似イベントの大量生産は、人々の現実理解に大きな影響を及ぼし、「現実」と「幻想」との境界を曖昧にしてしまうことがある。その結果、観光地に出かけて現実の風景を見ても、「テレビで見たのと違っていた」と逆転した感想をもつなど、実際に体験したことよりもマスメディアによってつくり出されたイメージが優越することになる。

なお、選択肢に登場するウェーバー（1864～1920）は、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を著したことで知られるドイツの社会学者。彼は、カルヴァン主義ないしピューリタニズムの禁欲的な倫理が資本の蓄積を促し近代資本主義の精神を育んだと指摘した。ウェーバーについては、巨大化した組織を効率的に運営する仕組みである官僚制の特徴を分析したということも押さえておきたい。リースマン（1909～2002）は、『孤独な群衆』を著し、現代人の社会的性格について論じたことで知られるアメリカの社会学者。リースマンは、現代人は孤独や不安から周囲の人々の行動に同調し、周囲の評価を基準として生きる他人指向型の性格を帯びやすいと指摘した。

問7 (1) 正解はマージナル・マン（境界人、周辺人）。レヴィン（1890～1947）は、青年を、もはや子どもではないが、まだ大人にもなりきれていない存在として位置づけ、このような観点から青年をマージナル・マンと呼んだ。

(2) 正解はモラトリアム。モラトリアムという用語は本来、債務の支払い猶予を意味する経済用語であるが、エリクソン（1902～94）はこの用語を、青

年が社会的な義務や責任の遂行を猶予されること、あるいはその猶予期間を表すものとして用いた。

問8 正解は①。Aには「ラング」が入る。

スイスの言語学者ソシュール（1857～1913）は、人間の言語活動を、言語体系としてのラングと、ラングに基づく具体的な発話行為（会話）であるパロールによって成り立っていると考えた。ソシュールによれば、現実の個々人の言語使用のあり方は、各人が無意識に身についている言語システム（構造）によって規定される。そして、個々の発話行為（パロール）が可能になるためには、語彙や文法が共有されていることが必要である。彼は、この共有体系のことをラングと呼んだ。なお、ブリコラージュとは、フランスの文化人類学者レヴィーストロースが著作『野生の思考』においていわゆる『未開社会』の思考様式の特徴を示すために用いた言葉で、器用仕事（ありあわせの道具と材料とを用いて何かをつくること）を意味する。

Bには「構造」が入る。構造主義とは、個々の人間の行為に意味を与える社会の全体的な枠組み（構造）を解明することで理解しようとする立場をいう。構造主義の創始者としての評価を確立した人物としてレヴィーストロースがいる。彼は、未開社会の親族関係や神話の分析を通じて、婚姻関係や神話などのなかに主観的意識を超えた構造やシステムが存在することを明らかにした。このレヴィーストロースの考えは、言語システム（構造）が個々人の言語使用のあり方を規定しているとするソシュールの考えに通じるものである。なお、実存主義とは、自己自身を見つめ直し、本来の主体的な真実の自己のあり方・生き方を求めるこによって、人間疎外を克服しようとする思想をいう。

問9 (1) 正解は②。精神分析学を創始したフロイト（1856～1939）は、人間の行動の根底には無意識の衝動がひそんでいるという。彼によれば、人間の心はエス（イド）・自我（エゴ）・超自我（スーパーイゴ）の三層からなる。このうち超自我とは、両親の教育などによって刻み込まれる、根本的な倫理的規制力として機能する心の層（良心）をさす。

①エス（イド）は、様々な欲望の源泉となる心の層にあたり、本能的・衝動的なエネルギー（リビドー）の貯蔵所である。③自我（エゴ）は、エスのもつ衝動を外的環境（人間をとりまく環境）に適応できるように調整する機能を果たす心的装置である。④エラン・ヴィタール（生の躍動）はベルクソン（1859～1941）の用語で、宇宙における生命の創

造的な活動を意味する。ベルクソンによれば、生命的創造的進化の原動力となるのがエラン・ヴィタールであり、人間はそれを自己のなかに感じることによって「開かれた魂」（家族や国家の枠を超えて、人類に開かれた普遍的な人類愛）の持ち主へと進化する。

(2) 正解は集合（普遍）。ユング（1875～1961）によれば、人間の心は、「意識」の部分と、その下に隠れるようにして意識を支えている「無意識」の部分とに分けられ、さらに無意識の部分については、個人的無意識（個人の経験や記憶に由来する無意識の領域）と集合的無意識（個人の経験を超えて人々に共有される先天的な無意識の領域で、人類が太古から繰り返してきた無数の体験が積み重なってきたもの）からなる。そして、集合的無意識は、時代や民族を超えて神話・昔話・宗教・夢に登場するという。さらにユングは、集合的無意識のうちに現れる象徴やイメージを元型（アーチタイプ）と呼んだ。

問10 Aの正解はボーザー。ボーザー（1908～86）は、サルトル（1905～80）の理解者・協力者であり、「第二の性」において人間の自由と女性の解放を主張したことで知られる。彼女は、「第二の性」において、「人は女に生まれない。女になるのだ」と語り、「女性」を規定するのは生得的な差異ではなく社会的に伝承された習慣などに根ざす性差別だとして、西欧文化の男性中心主義を批判した。こうした主張が、文化的・社会的にくり出される性差（ジェンダー）をめぐる議論の基礎を築くことになった。

イの正解はキング。マーティン・ルーサー・キング（1929～68）は、アメリカの黒人牧師で、公民権運動の指導者である。公民権運動は、1955年にアラバマ州で起こった市営バスの差別の座席制に対する抗議運動（バス・ボイコット運動）などをきっかけに始まり、黒人（アフリカ系アメリカ人）などのマイノリティが白人と同等の権利を求めて闘った非暴力の運動である。その結果、1964年に公民権法が定められ、キングはその年のノーベル平和賞を受賞した。

才について。一葉は『閑桜』で桜を描いているが、それは一葉が「旧い文学理念から脱皮」する前のことである。これに対し、「一葉の小説に描かれた近代意識」とは「旧い文学の美意識を捨てて、西洋先進文化の中の文学に倣おうとする」ものである。その時点では一葉は、「旧い文学理念から脱皮し……もう一度とさくらを書こうとした」のであり（第五段落・第六段落）、「ここにさくら観はないのである。したがつて『一葉の小説に描かれた近代意識』が『現代の読者が抱くさくら観に通底している』」というのは誤りである。

カについて。「江戸の庶民」が桜をどのように「観賞」していたかについては、第九段落、第十段落で述べられている。「劇的感動とともに死とさくらがしつかり観客の心に刻印されてゆく」（第十段落）が、カの「歌舞伎のさくらが強烈な印象を与えた」に当たる。また「さくらとドラマは生活の中に取り入れられ、感覚の中で完全に燃着してしまい、現実のさくらを見ると反射的に歌舞伎の演劇空間に装置や効果として用いられたさくらを連想するようになる」（第九段落）が、カの「現実のさくらさえ虚構を踏まえて観賞していた」に当たる。ちなみに「虚構」とは「想像的に作られたもの」「フィクション」という意味であり、本文の「歌舞伎」の世界を意味している。したがつて、カが二つの目の正解である。

問六 桶口一葉の作品は、ア「十三夜」、オ「にごりえ」である。本文で挙げられている「たけくらべ」とともに覚えておこう。一葉は、貧しい生活中で小説家を志し、文語体で書いた小説が森鷗外や幸田露伴などに激賞されたが、若くして病死した。

正解以外の選択肢について確認しておこう。イ「あらくれ」は徳田秋声の小説。ウ「金色夜叉」は尾崎紅葉の小説。エ「青年」は森鷗外の小説。カ「それから」は夏目漱石の小説である。

の人々も含む「国防軍を戦闘の専門職として強化するためには、彼らを専門職である士族に倣って擬似士族化（＝士族と同様のものとすること）する必要があつた」（第十四段落）。すなわち、国民すべてに「戦闘の専門職」としての自覚を持たせ、それにふさわしい役割を「分担」させていく必要があつたのだ。そしてその国家に捧げられる、理想的な死の象徴として「さくら」があつたのである。

以上をまとめると、「国華としてのさくら」を「明治士族」が「作り上げた」のは、  
a. 国防軍の指導者である「明治士族」は、国民すべてに「戦闘の専門職」としての自覚を持たせ、国防の役割を「分担」させていく必要があつた

b. そのためには、「戦闘」の「専門としての武士」として国のために戦つて死ぬという、日本の兵士の理想像を示す必要があつた  
からである。よつてこれらを踏まえているエが正解である。

アはaもbも踏まえていないので、不適当である。また「国民皆兵といふ制度に強い不満を抱く兵士たち」が起こした「反乱」とは「竹橋事件」（第十四段落）などを指しているが、「国防のために亡くなつた人々を讃えるのは、反乱（再発を防ぐためだ）」という内容も誤りである。兵士を賛美するのは、あくまでaのためである。

ウは「国家のために亡くなつた士族たちの死を美化する」が誤りである。これでは「明治士族」だけを「美化する」ことになつてしまい、「国民皆兵の推進」という目的（a）につながらない。  
オはaを踏まえているがbの内容を欠いている。「国民皆兵の推進」という目的に触れただけでは、散り際の美しいさくらを、なぜ「国華」とし

て」「作り上げた」のかを説明したことにはならない。

#### 問五 選択肢を順に検討していく。

アについて。「さくらのように美しく散る死」とは「江戸の歌舞伎」のさくら観である。それに対する「官僚化した武士」の反応は、「積極的に否定する理由もなく、むしろ一種の見栄としてさくらの死というさくら觀を受け入れた」（第十一段落）というものであつた。アの「望ましい」という積極的、肯定的な捉え方ではないので、アは適当ではない。

イについて。「人間の命を尊いものとして贊美する感覚」とは、「さくらに生命の輝き……を見る」「王朝文学」のさくら観に表れていると言えよう。だが、だからといってその「感覚」が「いつの時代の日本人にも共通して見られる」わけではない。「国のために戦つて潔く死ぬことを贊美する」といった明治期のさくら観も存在する。よつてイは正解ではない。

ウについて。「幕末の志士たち」の「武士階級」への思いは、第十二段落に述べられている。「この革命的若者たち（＝幕末の志士たち）はリーダーの少数を除いて侍身分以外の階層の出身者、あるいは士籍があつてもごく軽い身分の出身者が多かつた。それゆえ、武士に階級としての執着が深かつたのだろう」とある。ウはこれを踏まえているので、ウが一つ目の正解である。

エについて。「本居宣長は」「さくらに自身を仮託した」が誤りである。宣長は桜を「日本の花」として掲げた（第十二段落）が、「さくらに自身を仮託した」などとは述べられていない。「本居宣長によつて発揚された日本の花としてのさくら観は彼ら（＝幕末の志士たち）の攘夷の思想の象徴となり、その実践者である彼ら自身をさくらに仮託した」（第十一段落）とあるにすぎない。つまり「さくらに自身を仮託した」のは、攘夷思想の実践者であつた幕末の志士たちであり、宣長自身ではない。また宣長は、「さくら」と「命」をつなげる「さくら観」を提示してはいない。よつて正解ではない。

う点が含まれていない」とも問題である。

問三 設問は、傍線部1「一葉のさくら観」が「どのようにして形成されたのか」というものであり、「一葉のさくら観」そのものの説明が求められているのではないことに注意したい。

まず傍線部1を含む一文は、「一葉のさくら観はこうしたさくら観の一部を引き継いでいたものだった」というものであるから、「こうしたさくら観の一部を引き継い」ということを説明する必要がある。

「こうしたさくら観」とは「さくらの死」というさくら観（第十一段落）を指示しているが、単にこの部分を抜き出すだけではなく、「さくらの死」の意味するところを丁寧に説明すべきである。「さくら」と「死」については、第十段落に「劇的感動とともに死とさくらがしっかりと観客の心に刻印されてゆく」「さくらは散り際美しい武士の花というさくら観」とある。これは「江戸の歌舞伎」において登場人物の「死の悲愴美を強烈に映し出し」たものである。そこで、「こうしたさくら観の一部を引き継い」だということについては、

a さくらによつて武士の悲愴な死を美化する、江戸歌舞伎のさくら観の一部を継承した

とまとめられるだろう。

また第四段落で、「(桜に女性の生死を重ねた) 小説(『閨閣』)には「一葉の散るさくらとしてのさくら観がうかがわれる」と述べられ、これを受けて「さくらに生命の輝き、ことに女性のいのちを見る」というこのさくら観は王朝文学サロンのさくら観をそのまま踏襲している(『受け継いでいる』)(第五段落)と述べられている。(二)から「一葉のさくら観」は、「江戸の歌舞伎」だけでなく、「王朝文学」をも継承したといふことが読み取れる。そこで、

b さくらに女性の生命的輝きを見る王朝文学のさくら観を継承したというような説明が必要となる。

なお、第七段落に「江戸俳諧にはなかつた新しい散るさくらに絶えてゆく生命を見る。——つまり、さくらをいのちの象徴と見るさくら観」とあるが、これは「八世紀以来のさくら観になかつた全く異質の観念だ」と述べられており、aを意識した叙述と言える。だが、「江戸俳諧にはなかつた」とか、「八世紀以来」「なかつた」というだけでは、「一葉のさくら観」がどのようにして生まれたのかの説明にはならない。第九段落以降に詳しい説明がある(それがaにあたる)ので、解答はそちらを踏まえて作成する方が妥当である。

以上a、bを制限字数内でまとめればよい。

問四 「国華としてのさくら」を「作り上げる」必要があつたのはどうしてか、が問われている。傍線部は「明治士族たちの手で国民皆兵を推進する国華としてのさくらを作り上げた」という文脈にある。ここからわかるのは、「国華としてのさくら」とは「国民皆兵(=一定年齢の男子すべてに兵役義務があること)を推進する」ためのものであり、「明治士族(=旧侍階級)」がそれを「作り上げた」ということだ。

次に「国華としてのさくら」とは、「この国粹思想の具現としてのさくら」(傍線部直後)、「士族のといつよりも武士の精神のさくら、その死を飾るべき国華」(第十四段落)と言い換えられている。ここで注意したいのは、「士族の」というよりも武士の精神のさくら」という表現である。「国華としてのさくら」とは、あくまで「戦闘」の「専門としての武士」(第十四段落)として國のために戦つて死ぬことを賛美する象徴なのだ。

このような「国華としてのさくら」を「明治士族」が「作り上げた」のは、先に見たように「国民皆兵を推進する」ためである。では「国民皆兵を推進する」とはどういうことか。「国民皆兵」制度以前、「戦闘は専門としての武士が……携わり、農工商に属する階層は全く別な価値観に生きていた(第十四段落)。「国民皆兵」はそうした一般の人々にも「国防の実際を分担させよう」(第十三段落)とする制度である。したがつて一般

いこう。

アは「新たな美を獲得する」が誤り。これでは、「さくら」が更新されることになり、（さくらは書かれなくなつた）につながらない。

イ「作家たちから見捨てられたのだった」は「作品に取り上げられることはなかつた」という意味だから、（さくらは書かれなくなつた）につながる。したがつて、イが正解である。

ウは「逆に伝統に突き当たつてしまふ」が誤り。たしかに「さくら」は「旧い文学」といった「伝統」の中で取り上げられていたが、X直前の「過程」は、その「旧い文学の美意識」が捨てられる「過程」なのだから、「さくら」が「逆に伝統に突き当たつ」る（（さくらは書かれなくなつた）につながり得ない事態だし、（さくらは書かれなくなつた）ということと対応しない。

エは「死の影をより色濃く表す」が誤り。ア同様、「さくら」が書かれることになり、（さくらは書かれなくなつた）につながらない。

オは「多様な意味をもつ」が誤り。X以降で様々な「さくら觀」が述べられているので、ひつかかつた人がいたかもしれないが、一葉が生きた「明治文学」における「過程」という流れの中で考えなくてはならない。するとこれもまた、（さくらは書かれなくなつた）につながらない。

Yについて。Yは、「さくらは」という主部に対する述部にあたる。また「この軍歌の歌い継がれるところ」という状況下にある。したがつて「この軍歌の歌い継がれるところ」の意味を手がかりとして、「さくら」がどうなつたのか、を考えることになる。

まず「この軍歌」とは「さくらをメインテーマに」（第十六段落）した「歩兵の本領」のこと、「大和男子と生まれなば／散兵線（（ある間隔を置いて配置された兵隊によつて形成された戦線）の花と散れ（（潔く死のう））」という歌詞には「武士の精神のさくら、その死を飾るべき國華」（第十四段落）、「國粹思想の具現」（第十五段落）としての桜が歌われている。つまり、桜は國のために死ぬことと結びつけられているのであ

る。

では、この軍歌が國民によつて「歌い継がれるところ」で、「さくら」はどうなるのか。第十五段落に「この國粹思想の具現としてのさくらは、……國民的思想として定着するようになる」とある。つまり「國粹思想」に基づいた「武士の精神」や「その死」への賛美を象徴する「さくら」は、もはや現実の桜を離れて、國民に「歌い継がれ」「國民的思想として定着する」のである。これらのことと踏まえて選択肢を検討していこう。

アは「久遠（（永久）に栄える國をことはぐ（（祝う））が「國粹思想」を踏まえ、「理念（（物事がどうあるべきかについての根本的な考え方）」が「國民的思想」を踏まえていると言えるが、軍歌に関連する「武士の精神」にも「その死を飾る」ことにも触れていないため、説明不足であり、適當ではない。

イの「死の悲愴美」は、「武士の精神」や「その死」が、「悲愴」なものとして國家や國民によつて美化されることを意味している。また「形而上（（形を持たない、抽象的・觀念的なもの）の花」は、現実の桜を離れて「國民的思想として定着」した、「國粹思想」と結びついた「さくら」を意味している。したがつて、イが正解である。

ウは「哀悼（（死を悲しみ悼むこと）の花」が誤り。「歩兵の本領」の「花と散れ」という歌詞は死を賛美している。よつて「その死を飾るべき國華」（第十四段落）とは「死を美化する花」という意味であり、「哀悼」とはずれる。また「戦いに敗れた」という表現も適切とは言えない。「さくら」が「國民的思想」として定着するのは「二度の対外戦争に勝利」していく過程においてである。

エは「いのちの重みを……物語る」が誤り。右で確認したように「さくら」は「兵士の死を美化し、賛美する」ものであり、「いのちの重み」を表すということは本文から読み取れない。

オは「富國強兵の思想」が誤り。「富國（（殖産興業による資本主義化）」については本文で述べられていない。また「國家のための死」とい

反幕的排外運動で頂点に達する。高い志をもつて日本のために尽くそうとする彼らは、前記のような形で本居宣長が掲げた「日本の花」である桜に、自身を「假託（＝ことよせること）」した。宣長自身は「さくらが死の花だなぞとは歌つていよい」（第九段落）が、ここには、日本のためならば潔く死のうとする点で「花は桜木、人は武士」という「江戸の歌舞伎」のさくら観も引き継がれていると言えよう。（第十一段落第二文以降）

こうした反幕派の下級武士を主体とする指導者によって組織された明治政府は、徵兵制を敷き、「国民皆兵（＝一定年齢の男子すべてに兵役義務があること）」による国防軍を創設した。つまり、一般国民に国防の実際を分担させようとしたのである。だが、戦国末期の兵農分離以来、戦闘は専門要員である武士が担ってきたという経緯があり、明治政府は一般国民をも、国防軍の戦闘専門職として強化しなくてはならなかつた。そのためには、専門職である士族（＝侍階級）に倣つて彼らを「擬似士族化（＝士族と同様のもとのすること）」する必要があつた。この「擬似士族化」のために実際は様々な方法がとられたに違ひないが、「幕末の志士たち」のさくら観も、兵士が日本のために戦おうとする意気込みを上げ、実際に戦地に赴く際には潔く死ぬ覚悟を促す契機として取り入れられた。

このように、「生命の輝き」としての「王朝文化の華」は、「江戸の歌舞伎」における桜によって演出された「悲愴美」を経出し、また宣長の桜に象徴される「國粹思想（＝自國の文化、民族性の優秀さを主張する考え方）」を吸収して、「明治上族（＝侍階級）の手」によって「武の化身、死の花」へと変化した。こうして「国民皆兵を推進する國華としてのさくら」が作り上げられたのである。

この「國粹思想の具現（＝具体的なあらわし）」としてのさくらは、対外戦争（日清戦争、日露戦争）における日本軍の二度の勝利の後、「国民的思想」として定着するようになる。（以上、第十三段落～第十五段落）

明治四四年に発表された「歩兵の本領」という軍歌は、桜をメインテーマにしたものだった。そこでは、国家のために潔く死ぬこと、死を恐れない

ことが、散る桜と重ね合わされて美化されている。この軍歌が歌い継がれることは、「國粹思想の具現」として作り上げられた桜が「国民的思想」として受け継がれることを意味している（ちなみに「大和田建樹」と「陸軍唱歌」との関係については不明な点もある）。（第十六段落～最終段落）

#### 【設問別解説】

問一 a 「踏襲」は「とうしゅう」と読み、〈前人のやり方をそのまま受け継ぐこと〉という意味である。b 「倣（おう）」は「なら（おう）」と読む。「倣う」とは「手本としてまねる」という意味である。c 「携（わり）」は「たずさ（わり）」と読む。「携わる」とは〈関係を持つ。従事する〉という意味である。d 「悌（おもかげ）」は「おもかげ」と読み、〈日の前のものから思い起こされる姿や状態。記憶に残っている姿や状態〉という意味である。e 「襟（えり）」は「えり」と読み、〈衣服の首の周りの部分〉のこと。

#### 問二 空欄補充問題。

Xについて。Xは「その過程でさくらは」という主部に続く述部にある。「その過程」に何があつたのかを手がかりとして、「さくら」がどうなつたのか、を考えよう。「その過程」とは「明治文学の近代意識」が「旧い文学の美意識を捨てて、西洋先進文化の中の文学に倣おうとする」ことを指示していることは明らかだ。この「過程」をたどつた作者の例として X の前の部分に一葉が挙げられていると考えられる。そこで、「やがて一葉は『たけくらべ』を書いて、（明治以前の）旧い文学理念から脱皮していったとき、もう一度とさくらを書こうとした」（第五段落）という…文に着目しよう。一葉も「旧い文学の美意識を捨てて、西洋先進文化の中の文学に倣おうとする」「明治文学の近代意識」の持ち主だったわけだ。すると X と対応するのは、「もう一度とさくらを書こうとした」という部分となる。つまり〈明治文学においてさくらは書かれなくなつた〉のである。このことを踏まえて選択肢を検討して

語に対し、小説は近代になって登場した（ちなみに「小説」という語は novel の訳語として坪内逍遙の『小説神髄』で用いられた）。明治期になって書かれるようになつた小説の中に桜が描かれることはほとんどなく、「さくらを求める」とすると「その対象（さくら）を見失つてしまふ」と筆者は言う。（第一段落）

桜を描いた数少ない小説の一つである『闇桜』（一八九一年）は、作者樋口一葉にとつても桜から着想を得た唯一の作品である。（第二段落）

主人公千代の恋は、彼女の命とともに、かなわぬものとして「散つていく」。ここには「一葉の散るさくらとしてのさくら観」がうかがえる。（第三段落・第四段落）

このようす、さくらに「生命の輝き、ことに女性のいのち」を重ねるといふさくら観は、「王朝文学サロン」（＝女流文学が盛んに書かれた平安時代の宫廷社会）のものであり、一葉はそれを「踏襲（そのまま受け継ぐこと）」した。だが、明治期になつて文学も近代化・西洋化し、旧文学の美意識を捨てていく中で、一葉も桜を描くことはしなくなつた。（第五段落・第六段落）

ここで注意したいのは、一葉のさくら観が「王朝文学」に見られる「生命の輝き」というより、「散るさくらに絶えてゆく生命を見る」というものである点だ。『闇桜』には「王朝文学」のさくら観とともに、「さくらに死の影を見る」というさくら観もつかがえる。これは日本文学に桜が登場した「八世紀以来」なかつたさくら観であり、かといって明治期の文明開化とともに生まれたものでもない、と筆者は述べる。（第七段落・第八段落）

「さくらに死の影を見る」一葉のさくら観の源流は、文学作品ではなく、江戸の歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』にあるようだ、と筆者は考へている（ここで筆者は文学と演劇とを異なるジャンルとして扱つてゐる）。そもそも歌舞伎の名場面では桜が効果的に用いられることが多い。『義経干本桜』では吉野山の桜、『楼門五三桐』では南禅寺の桜、「仮名手本忠臣蔵」では鎌倉の桜……。当時の庶民の娯楽であつた歌舞伎とそこで用いられた桜は、観客の「感覚の中」で完全に統合（＝一体化）し、観客は現実の桜から歌舞伎で

用いられた桜を反射的に連想するようになる。

『仮名手本忠臣蔵』では、江戸城中で刃傷に及んだ（「刃を抜いて人を傷つけた）塙治判官（史実では、浅野内匠頭長矩）が、所領を没収され、即日切腹を命じられる。その死の臨場感を盛り上げるのが、舞台いっぱいの桜と舞い散る無数の花びらである。「花は桜木、人は武士」という台詞はこうした演出を前提としたものであり、花では桜の花が最も美しく、人は散る桜のように死に際の潔く美しい武士が最もすぐれている」といった意味で人々の間に波及していく。桜は死の悲愴美を飾るものとして観客の心に刻みつけられていくのだ。このようにして「散り際美しい武士の花」というさくら観が定着していくのである。（以上、第九段落・第十段落）

だが現実の侍たちはどうだつたのか。戦闘要員ではなくなり「官僚化した侍たち」は、このかつての武士を讃えるさくら観を、「見采（日うわべだけの威勢）」として受け入れた。もつとも、そんな侍たちが潔く美しい死を迎える訳にはいかないことは、戊辰戦争（一八六八年に始まる、明治新政府と旧幕府側との内戦）において明らかになつた。（第十一段落）

これまで見てきたように、「一葉のさくら観」は、桜を女性の「生命の輝き」の象徴とする「王朝文学」のさくら観と、武士の死の「悲劇」を美化するものとする「江戸の歌舞伎」のさくら観の一部と引き継いだものである。（第十二段落第一文）

## II 明治政府によって作り上げられたさくら観（第十二段落第二文～最終段落）

「江戸の歌舞伎」のさくら観は、本居宣長のさくら観と相まって、「幕末の大和心を人間はば朝日に匂ふ山桜花」という歌がある。つまり「大和心（日本人固有の精神）」とは何かと問われたら、それは「山桜の花」のようなものだ、と答えるということである。

幕末に起つた「攘夷の思想（＝排外思想）」は、下級武士を中心とした

## 五 現代文

### 【解答】

問一 a とうしゅう b なら c たずさ d おもかげ  
問二 X イ Y イ  
問三 さくらに女性の生命の輝きを見る王朝文学のさくら観を前提として、さくらによって武士の悲愴な死を美化するという江戸歌舞伎のさくら観の一部を継承することで形成された。(80字)

問四 エ えり  
問五 ウ・カ (順不同)  
問六 ア・オ (順不同)

### 【配点】 (50点)

問一 各2点×5 問二 各4点×2 問三 12点 問四 6点

問五 各5点×2 問六 各2点×2

### 【出典】

小川和佑『桜の文学史』(朝日文庫 一九九一年刊)「第九章 文明開化とさくら」(明治時代)の一節。なお、問題作成の都合上、一部省略した箇所がある。

小川和佑(おがわ・かずすけ)は、一九三〇年東京生まれ。明治大学専門部文芸科卒業。文芸評論家。詩人。中村真一郎に師事し、詩作を始める。高校教諭を経て、大学で長く教鞭を執る。『伊東静雄論考』『立原道造の世界』『中村真一郎とその時代』『桜と日本人』など多数の著書がある。

### 【本文解説】

本文にはさまざまな「さくら観」が登場する。それらが引き継がれ、さらには新たな「さくら観」を生んでいく。それぞれの「さくら観」の特徴と、相互の関係を正確に押さえられただろうか。それらを概観しておこう。

#### ① 王朝文学サロンのさくら観

- ・さくらに生命の輝き、ことに若い女性のいのちを見るというもの
- ・王朝文化の華

#### ② 江戸歌舞伎のさくら観

- ・散り際美しい武士の花
- ・花は桜木、人は武士

#### ③ 本居宣長のさくら観

- ・日本(大和)の象徴としての花

#### ④ 一葉のさくら観

- ・①と、②の一部を引き継いだもの

#### ⑤ 幕末の志士たちという若いラジカルな革命家たちのさくら観

- ・散る桜に絶えてゆく生命を見るもの
- ・②と③を引き継いだもの

#### ・攘夷の思想の象徴としての花

#### ⑥ 明治士族によって作り上げられたさくら観

- ・⑤を引き継いだもの

・武士の精神としてのさくら、その死を飾るべき国華  
・國民皆兵を推進する、國粹思想の具現としてのさくら

以下では本文を二つの部分に分けて、その内容を確認していく。なお、本文中の「歩兵の本領」の歌詞の引用部も独立した段落とする。

#### 一 積口一葉のさくら観(第一段落、第十二段落第一文)

日本の文学のジャンルの中でも、古代からあつた詩歌や中古からあつた物

なかつた」はともに誤り。ウ「学者として名を成すことができず、無念の思いを抱きつつ最期を迎えた」は本文の内容には合致するが、「無以資」と「不以壽」の意味としては誤り。オ「すぐれた作品を世に発表することもなく」も「無以為資」の意味としては誤り。

## 問六 現代語訳の問題

### 解法のポイント

- 1 基本句形の意味を正しく押さえる。
- 2 指示語の内容を文脈から判断する。
- 3 傍線部全体を逐語訳する。

まず「欲——」は「——しようとする」という意味、「使 A——」（使役形）は「Aに——させる」という意味である。つぎに指示内容を確認すると、「其名」とはこの傍線部の主語の丁景仁にとって師である「高惟正の名」である。「是編」は前半の冗拙の言葉に「求其遺稿、得詩百編、刊諸木、使行于世」（高惟正の遺稿を探し求めて、詩百篇を入手した。この詩を刊行して、世間に広く行き渡らせようとしているのだ）という言葉を聞いて「丁景仁」の行為を行き渡らせようとしているのだ」ということである。以上のことからして、「必欲使其名因是編以不朽」を逐語訳すると、「必ずや師の高惟正の名をこの詩集によって不朽なものとさせようとした」となる。

## 問七 内容説明の問題

### 解法のポイント

- 1 文章全体の内容を正しく読み取り、本文中に解答の根拠となる箇所を求める。

## 2 設問の意図にかなう内容を制限字数内で過不足なくまとめる。

二重傍線部を直訳すると「私は聞いてそれをほめた」となる。「私」筆者が聞いたのは、二重傍線部の直前にある冗拙の言葉である。筆者は、「惟正既沒、景仁哀其師之無成而至於卒也、求其遺稿、得詩百篇、刊諸木、使行于世」（惟正はもうくなり、景仁は自分の師が功成り名をなすことなく死んでしまったことを悲しみ、その遺稿を探し求めて、詩百篇を入手した。この詩を刊行して、世間に広く行き渡らせようとしているのだ）という言葉を聞いて「丁景仁」の行為を行き渡らせようとしているのだ」というのである。あとは「ほめた」対象となる丁景仁の行為を制限字数内でまとめればよい。解答のポイントは、

- (1) 丁景仁の、  
  - (2) 師であつた高惟正が名を成すことなく亡くなつたのを悲しみ、  
  - (3) その遺稿を集めて詩集を刊行することによって名声を世間に広めようとした行為、

の三点である。

## 2 前後の内容を踏まえて指示語の内容を確定する。

(1) 傍線部を含む一文の前半「惟正既没、景仁哀其師之無成而至於卒也」を直訳すると、「惟正はもう死くなり、景仁はその師が功成り名をなすことなく死んでしまったことを悲しみ」となるので、「其師」は「高惟正」である。したがって「高惟正」とは「誰」の師であるのか考えればよい。傍線部の少し前に「吾鄉有丁景仁、自少小学於高惟正」（私と同郷の者に丁景仁）という人がおり、若いときから高惟正を師として学んだ）とあって、「高惟正」は「丁景仁」の師であることがわかる。「其」の指示するものは「丁景仁」である。

(ii) 傍線部を含む一文「蓋不<sup>止</sup>於師死而遂倍<sup>之</sup>也」を直訳してみると、「思うに師が死んでその結果これに背くようになるというだけではないのだ」となる。さらに直前の文を見ると、「自師弟子之道廢<sup>世之学者、其始未嘗無<sup>之</sup>師、及其稍有<sup>之</sup>所立、即以<sup>為</sup>諱」（師弟間の道が廃れてから、世の学ぶ者たちは、その学び始めの時には必ず師というものがあつたのに、少しばかり學問で自立できるようになると、すぐに師を嫌うようになる）とあって、世の弟子たちが師をないがしろにしがちであることが述べられている。したがって傍線部の「倍<sup>之</sup>」（これに背く）とは弟子が「師に背く」という意味であることがわかる。「之」の指示するものは「師」である。</sup>

## 問四 書き下し文の問題

### 解法のポイント

- 1 二重否定の読みを押さえる。
- 2 文意にふさわしい読み方を考える。

「其始」は直前に「自師弟子之道廢<sup>世之学者、</sup>（師弟間の

## 問五 解釈の問題

### 解法のポイント

わかりにくい語や句の意味を文脈から判断し、傍線部の意味内容を把握する。

「——也」は「——する」のは「——する」時には「」の意味である。「其生也」と「其死也」は「其」が「高惟正」を指すことは明らかであるから、高惟正の「生きているときには」と「死ぬときには」の対比であることがわかる。「無以<sup>爲</sup>資」はややわかりにくいか、「無以<sup>——</sup>」は「——する手段がない、できない」という意味であり、また傍線部の直前に「而況<sup>高君之窮</sup>」（まして高惟正のように窮屈した師であればなおさらである）があるので、直訳すると「生活に必要な資金を得ることができず」となる。「不以<sup>老</sup>寿」については、どのような死に方をしたのかを述べているのであるから、「寿」は「長生き・寿命」という意味であり、「長生きできなかつた」ということである。傍線部は、「高惟正は、生きているときには生活する十分な資力もなく、死ぬときには長生きするともできなかつた」の意味である。正解はこれと同じ内容である。

道が廃れてから、世の学ぶ者たちは」とあるので、「その学び始めの時は」という意味で「其の始め」と読む。「未嘗無<sup>之</sup>師」は二重否定「未嘗無<sup>之</sup>——」の読みに当てはめて「未嘗無<sup>之</sup>師」と送り假名を付けて「未だ嘗て師無くんばあらず」と読むが、文は終止しておらず、後に「及<sup>其</sup>稍有<sup>之</sup>所立、即<sup>以</sup>師爲<sup>諱</sup>」（少しばかり學問で自立できるようになると、すぐに師を嫌うようになる）と続くので、「必ず師といいうものがあったのに」の意味で「未だ嘗て師無くんばあらざるに」と読む。

(2) —— 則 主語などを示す  
|| だから・こういうわけで

○ 故

## I 基本句形

- 見る ————— || される (受身形)  
○ 未嘗無 ————— || いつもきっと——があつた (否定形)

↓ 【設問別解説】問四 参照

○ 以 A 為 B || AをBとする・AをBと思う (みなす) (慣用句)

○ 而況 ————— || まして——ならなおさらである (抑揚形)

○ 使 A ————— || Aに——させる (使役形)

(= 令・教・遣)

|| —だけだ・——しかない——だ (限定形)

↓ 【設問別解説】問六 参照

## 【設問別解説】 問一 語の読みの問題

イ「与」には、動詞として(1)「あたふ」と読んで「あたえる」という意味、(2)「くみす」と読んで「仲間になる・味方する」という意味、(3)「あづかる」と読んで「かかわる」という意味がある。また(4)「と」と読んで「——と」という意味、(5)「ともに」と読んで「いっしょに」という意味、(6)「よりは」と読んで「——よりは(——の方がよい)」という意味もある。ここは「吳僧冗拙与余遊三十年」とあって「吳の僧冗拙は私と三十年來の交流があつた」という意味であり、「与」は「と」と読む。

ロ「蓋」には、名詞として(1)「ふた」と読んで「おおい」という意味、動詞として(2)「おほふ」と読んで「かぶせる・おいかくす」という意味があるほか、副詞として(3)「けだし」と読んで「思うに・多分」という意味がある。ここは弟子が師を軽んじてゐる昨今の風潮を指摘してゐる部分

であり「蓋」の直後で「不<sub>レ</sub>止<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>師<sub>レ</sub>死<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>遂<sub>レ</sub>倍<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>也」(師が死んでその結果師に背くよつになると、いうだけではないのだ)と述べているので、(1)・(2)は当てはまらない。ここは(3)「けだし」と読むのがふさわしい。

## 問二 語句の意味の問題

### 解法のポイント

- 1 重要語の知識が問われている。  
2 複数の意味を持つ語については、文脈にふさわしい意味を選択する。

a 「遊」には、(1)「遊び楽しむ」、(2)「各地を回る」、(3)「故郷を離れて遊学する」、(4)「交際する」などの意味がある。傍線部を含む一文「吳僧冗拙与余遊三十年」は、「余」が「私」という意味で筆者を指し、吳の僧冗拙と筆者の関係を述べてゐるのであるから、「遊ぶ」は(4)「交際する」という意味である。

b 「卒」には、「するに」と送り假名が付いてゐるので動詞である。「卒」には、動詞としては(1)「おわる・おえる」と、(2)「死ぬ」の意味がある。傍線部を含む一文には「惟正既沒景仁哀其師之無成而至於卒也求其遺稿得詩百篇」とあり、「卒」は「惟正既沒」(惟正はもう亡くなり)の「没」と同様に「死ぬ」という意味である。「死ぬ」という意味の場合には「しゆつす」と読む。

## 問三 指示語の問題

### 解法のポイント

- 1 指示語を含む文や句を現代語訳する。

きのみ。故に余深く之を嘉して之が序を為す。

### 【全文解釈】

吳の僧冗拙は私と二十年來の交流があつた。ある日吳から私の所に立ち寄つた。臨邛の高文度、字は惟正という者の作つた詩を私に見せ、さらに言った、「私と同郷の者に丁景仁」という人がおり、若いときから高惟正を師として学んだ。惟正はもう亡くなり、景仁は自分の師が功成名をなすことなく死んでしまつたことを悲しみ、その遺稿を探し求めて、詩百篇を入手した。この詩を刊行して、世間に広く行き渡らせようとしているのだ」と。私はこれを聞いて丁景仁の行為をほめた。師弟間の道が廃れてから、世の学ぶ者はちは、その学び始めの時には必ず師というものがあつたのに、少しばかり学問で自立できるようになると、すぐに師を嫌うようになる。思うに師が死んでその結果師に背くようになるというだけではないのだ。まして高惟正のように窮乏した師であればなおさらである。高惟正は、生きているときには生活する十分な資力もなく、死ぬときは長生きすることもできなかつた。さらには高惟正の後を継ぐ子孫もいないのである。(それなのに)丁景仁はうやうやしく慎んで、師を手本として自分の身を修める気持ちを忘れず、必ずや師の高惟正の名をこの詩集によつて不朽なものとさせようとした。まことに高惟正の極みである。このことから推し量ると、人として守る道について丁景仁が従い守つていることがわかるのだ。だから私はこのことを深く賛美して高惟正の詩集に序文を作るものである。

### 【重要語・基本句形】

I 重要語  
○与 —————  
○余

II わたし

→ 【設問別解説】問一 参照

○遊 —————  
○一日 —————  
○自ら —————  
○（II 従） —————  
○所 —————  
○過 —————  
○（II 徒） —————  
○既 —————  
○且 —————  
○為 —————  
○（II 已） —————  
○卒 —————  
○也 —————  
|| 立ち寄る  
|| ある日  
|| ———から  
|| 作る  
|| そのうえ・さらには  
|| もうすでに

|| 遊び樂しむ・各地を回る・故郷を離れて遊學する。  
→ 【設問別解説】問二 参照  
|| 交際する  
|| ある日  
|| ———から  
|| 作る  
|| そのうえ・さらには  
|| もうすでに  
|| 立ち寄る  
|| する(O)(連体修飾)  
|| 作る  
|| そのうえ・さらには  
|| もうすでに  
|| 立ち寄る  
|| する(O)(連体修飾)  
↓ 【設問別解説】問二 参照  
|| すぐくなる  
|| する(O)(連体修飾)  
↓ 【設問別解説】問五 参照  
|| これが  
|| ほめる  
|| になつて  
|| 少し・いささか  
|| ほめる  
|| になつて  
|| 思うに・多分  
↓ 【設問別解説】問五 参照  
|| こうして・そのまま・その結果  
↓ 【設問別解説】問五 参照  
|| する手段がない・——できない  
↓ 【設問別解説】問六 参照  
|| (1) ———則、順接の仮定条件・確定条件を示す  
↓ 【設問別解説】問六 参照

## 四 漢文

### 【解答】

- 問一 イと 口けだし  
問二 a 交際する b 亡くなる  
問三 (i) 景仁(丁景仁) (ii) 師  
問四 其の始め未だ嘗て師無くんばあらざるに、  
問五 工  
問六 必ずや師の高惟正の名をこの詩集によつて不朽なものとさせようとした。  
問七 丁景仁の、師であつた高惟正が名を成すことなく亡くなつたのを悲しみ、その遺稿を集めて詩集を刊行することによつて名声を世間に広めようとした行為。(70字)

### 【配点】 (50点)

問一 各3点×2 問二 各3点×2 問三 各3点×2  
問四 6点 問五 6点 問六 8点 問七 12点

### 【出典】

『松雪齋文集』全十卷。著者は元の趙孟頫(一二五四—一二九六)。趙孟頫は、字は子昂、松雪道人と号し、宋の皇帝の末裔であり、南宋に役人となる。南宋が滅亡した後も学問に励み、元の世祖フビライに認められて元に仕え、後の皇帝にも重用されて高官となつた。博学多才で、官僚として手腕を發揮しただけでなく、数多くの詩文を著し、また音楽や書画にも造詣が深かつた。『松雪齋文集』は趙孟頫の死後に編纂された詩文集である。本文は卷六の「高惟正吳山紀実詩序」と題された、詩集の序文である。

### 【本文解説】

本文は詩集の序文で、その詩集が刊行されるに至つたいきさつと、筆者がその序文を執筆した理由とを記したものである。

まず筆者の友人亢拙が高惟正の詩を持参して訪れ、高惟正の弟子の丁景仁が無名のまま没した師のために詩集を刊行しようとしていることを筆者に伝える。丁景仁の行いを知つて感心した筆者は、弟子が師を疎んじている昨今の師弟関係を痛烈に批判し、そのような風潮の中で亡き師の恩を忘れず、師の名を不朽なものにするために詩集を刊行しようとしている丁景仁の行為を「忠厚之至(まごころの極み)」であると称賛する。さらにこの師に対する態度から、丁景仁は「人倫(人として守るべき道)」についても従い守つてゐる立派な人物に違いないと確信する。そこで筆者は丁景仁のことを絶賛し、序文を執筆することを決意したのである。

無名のうちに早く亡くなつた師の名を後世に遺すことで恩に報いようとす  
る丁景仁の態度に心動かされた筆者は、丁景仁の名も後世まで伝えようと  
したのである。

### 【書き下し文】

○ 吳の僧允拙余と遊ぶこと二十年なり。一日吳より余に過る。臨邛の高丈度字  
は惟正の為る所の詩を持ちて示され、且つ曰く、「吾が鄉に丁景仁有り、少  
より高惟正に学ぶ。惟正既に没し、景仁其の師の成る無くして卒するに至るを  
哀しむや、其の遺稿を求めて、詩百篇を得たり。諸を木に刊みて、世に行はれ  
しむ」と。余聞きて之を嘉す。師弟子の道の廢るるより、世の学ぶ者は、其の  
始め未だ嘗て師無くんばあらざるに、其の稍立つ所有るに及ぶや、即ち師を以  
て諱と為す。蓋し師の死して遂に之に傍くに止まらざるなり。而るを況んや高  
君の窮するをや。其の生くるや以て資を為す無く、其の死するや寿を以てせ  
す。而して又子孫の以て其の後を繼ぐ無し。景仁奉拳として私淑の意を忘れ  
ず、必ず其の名を因りて以て不朽たらしめんと欲す。忠厚の至り  
なり。是を推して以て往かば、則ち其の人倫の間に於けるや、従ふこと知るべ

る。

この和歌は、作者が夫兼家に宛てた遺書めいたもの最後に記されたものである。病気にかかり、自分の死を意識している作者は、兼家に、自分の死後、道綱のことをよろしくお願ひすると書き、その最後に和歌を詠み添えているのである。

### I

直下に「しげき道」とある。「しげき」はク活用形容詞「しげし」の連体形。「しげし（繁し）」には「草木が生い茂つてゐる・たくさんある・絶え間ない・わざらわしい」などの意味がある。ア「草」・イ「葉」・ウ「露」・エ「人」・オ「風」は、いずれも「しげき」と主語・述語の関係をつくることができる。よつて、Iのみから選択肢を決定することはできない。

### II

「死出の□」という表現から、「死ぬこと」を表す「死出の旅・死出の山・死出の山路」などの表現を思い浮かべたい。このことから選択肢をウ「山」・オ「旅」に絞ることができる。

### III

「かつがつ濡れる□」という表現に注目する。「かつがつ」は副詞で「不十分ながらも・とりあえず・早くも・だんだん」の意味である。「死出の旅に出る」または「死出の山を越える」時に、「早くも（だんだんと）濡れる□」と詠んでいるのである。つらく悲しい状況などで「袖が濡れる」と表現する場合は、多く「涙で袖が濡れる」の意になる。ここも、オの「心」が「濡れる」より、ウの「袖」が「涙で濡れる」と解するのがよい。

のことから、正解はウと決まり、

露しげき／道とかいと／死出の山／かつがつ濡れる／袖いかにせむとなる。ひとしお露が多い道だとかいう死出の山を越えようとして、だ

んだんと涙で濡れる私の袖をどうしようか」と現代語訳でき、死を予感して早くもその後のことを心配してとめどなく涙がこぼれるのをどうしたらよいのか、と兼家にその心細さを訴えるものとなっている。

### 問七 文学史の問題（選択型）

#### 解法の着眼点

○ 著名な作品について、成立時代・作者（編者）・ジャンルを確認する。

○ 同ジャンルの作品をまとめる。  
○ 同時代の作品をまとめる。

選択肢の作品を成立順に並べると、次のようになる。

エ 上佐日記（平安時代前期・紀貫之）

オ 紫式部日記（平安時代中期・紫式部）

ア 更級日記（平安時代後期・藤原季長）

ウ 讀岐典侍日記（平安時代後期・藤原長子）

イ 十六夜日記（鎌倉時代前期・阿仏尼）

『蜻蛉日記』は、【出典】に記したように平安時代中期の成立である。

同じ平安時代中期の『紫式部日記』は、紫式部が中宮彰子に仕えた時のこと記したものだが、この中宮彰子の父藤原道長は、『蜻蛉日記』の作者の夫である藤原兼家の息子である。また、紫式部の手による『源氏物語』は『蜻蛉日記』の心理描写などから影響を受けていると言われている。以上のことから、『紫式部日記』は『蜻蛉日記』の後に成立したと判断できるので、正解はオ。

解答のポイントは、

○ 夫兼家が冗談でも機嫌の悪さを見せる

○ 道綱がたいそうつらく悲しく思う

の二点である。こうした設問の場合、「夫兼家」「道綱」など人物を間違えるのは設問全体がり点となることがあるので、人物判断は慎重にすることが求められる。

問五 内容説明の問題（記述型）

解法の着眼点

○ 傍線部を逐語訳する。

○ 前後の文脈をおさえて、傍線部の内容を具体的につかむ。

○ 文字数制限のある場合は、その制限内でどうまとめるかを考える。

○ 設問の要求する形式にそろえる。

\* まずは傍線部の内容を確認する。

\* 「それ」

→ 「それ」は代名詞。さまざまな意味があるので、文脈から具体化する。

\* 「いと／よく／かへりみ／させ／給へ」

→ 「いと」は「たいそう・とても」の意味の副詞。「よく」はク活用形容詞「よし」の連用形で、副詞的に用いて「よく・しつかりと」の意味。「かへりみ」はマ行上一段活用動詞「かへりみる」の未然形。「かへりみる」は、「振り返る・自分を反省する・懸念する・世話を」

の意味。「させ」は使役・尊敬の助動詞「さす」の連用形。「給へ」はハ行四段活用動詞「給ふ」の命令形で、助動詞「さす」の直下にある場合は尊敬の補助動詞となる。「させ+給へ」で「させしてください」

または「うてください」と訳す。

以上のこと踏まえて逐語訳すると、

または、

それをたいそうしつかりと「かへりみ」させてください

（「させ」⇒使役）

あなたは、夫兼家に宛てた文書の中で「うてください」と願うのだから、作者が依頼する相手は、兼家である。「させ」を使役だと考えると、兼家が誰にさせるのか、使役の対象を読み取ることができない。よって、「させ」は専

数と判断できる。

では、作者は兼家に、何を「かへりみ」することを求めているのか。「それ」の具体化と、「かへりみ」の意味を考える。【設問別解説】問四でも確認したように、作者は病氣で自分が死ぬことを思い、兼家に、自分のことはともあれ、息子道綱のことを心配して、冗談でも不機嫌な様子を見せてほしくないと言っていた。また、傍線部の直前で「年ごろ、御籠じ果つまじくおぼえながら、やはりも果てざりける御心を見給ふれば（何年も、あなたは私を最後まで世話してはくださるまいと感じながら、今まで私を見限らなかつたあなたの御心を拝見していますので）」と言っていることも合わせて考える。つまり、今まで作者を見限らなかつた兼家の「御心」に期待して、「それ」⇒「息子道綱」をしつかりと「かへりみ」⇒「世話を」とことを頼んでいるのである。

解答のポイントは、次のようになる。

○ 誰に=夫兼家に

○ どうしてほしい=息子道綱の面倒をしつかりみてほしい

問六 和歌中の空欄補充の問題（選択型）

解法の着眼点

○ 和歌が詠まれた状況を確認する。

和歌に詠まれた語同士のつながりや関連から、空欄に入る語を考え

この「なむ」は直上が形容詞「長し」の連用形「長く」なので、②の☆にあてはまり、強意の係助詞「なむ」である。「聞ゆる」が結びとなつてゐる。

c 「ちりのことをなむ」

この「なむ」は直上が助詞「を」であることから、③より、強意の係助詞「なむ」である。結びは「あやまたざなる」の「なる」だと思つかもしれないが、「なる」は直下の「才」へとつながつており、結びは消滅している。

d 「忌など果てなむに」

この「なむ」は直上の「果て」が下二段活用動詞「果つ」なので、未然形か連用形か形の上からは判断できない。しかし、直下に格助詞「に」があることから、文の途中だと確認できるので、⑤のイより、強意（完了）の助動詞+婉曲の助動詞となる。

e 「胸いたかるべければなむ」

この「なむ」は接続助詞「ば」に接続していることから、③より、強意の係助詞「なむ」である。結びの語は省略されている。よつて、dだけがほかのものとは異なっている。**正解はd。**

\* 「御氣色／の／ものしき／を／ば」

→ 傍線部は作者が夫兼家にあてた遺書めいたものの中に入り、「御」という尊敬の接頭語がついていることから、ここは兼家の「御氣色」である。「氣色」には「様子・態度・意向・機嫌・きざし」などの意味がある。「ものしき」はシク活用形容詞「ものし」の連体形。「ものし」は「気にくわない・不快だ」の意味である。「をば」は、格助詞「を」と係助詞「は」の濁音化したもの。「御氣色のものしき」で、「ご様子が不快だ」となり、不機嫌な様子を表している。

\* 「いと／わびし／と／思ひ／て／侍／める」

→ 「いと」は「たいそう・とても」の意味の副詞。「わびし」はシク活用形容詞「わびし」の終止形で、「もの悲しい・つらい・落ちぶれている」の意味。ここは兼家の不機嫌な様子を「わびし」と思うのだから、「悲しい・つらい」の意味が該当する。「侍」は、ラ行変格活用動詞「侍り」の連体形「侍る」の撥音便「侍ん」の「ん」の無表記形で、丁寧の用法である（本動詞とも補助動詞とも解せる）。「める」は、推定婉曲の助動詞「めり」の連体形で「ようだ」と訳す。

傍線部の逐語訳は、

冗談でも（兼家の）ご様子が不機嫌なのを、とてもつらいと思つてゐるようです

となる。

誰が「わびし」と思つてゐるのかは、傍線部の直前に、作者が「幼き人」のことを心配していることが記されていることから、「幼き人」つまり息子道綱だと判断できる。道綱が、兼家の顔色をうかがい、兼家の様子に一喜一憂する様子を見てきている作者は、自分の死後、兼家の機嫌の善し悪しで道綱が悩むことになるのではと心配して、傍線部の直後でも「大きくなることなくて侍らむには、御氣色など見せ給ふな（＝たいてして大きなことがございませんような時には、不機嫌なご様子などをお見せにならぬ）」と釘を刺しているのである。

\* 「たはぶれ／に／も」

→ 「たはぶれ」は名詞で、「たはむれ」と同語。「戯れ・冗談」である。

#### 問四 内容説明の問題（記述型）

##### 解法の着眼点

- 傍線部を逐語訳する。
- ○ 前後の文脈をおさえて、傍線部の内容を具体的につかむ。
- ○ 字数制限のある場合は、その制限内でどうまとめるかを考える。
- 設問の要求する形式にそろえる。  
まず、問われている傍線部を確認する。

### 問三 文法の問題II 「なむ」の識別（選択型）

解法の着眼点

- 紛らわしい語の識別は、接続・活用などから慎重に判断する。
- 接続・活用などから判断できない場合は、文脈をしっかりとおさえて判断する。

「なむ」の識別のしかたについて確認しておく。

#### 【「なむ」の識別】

- ① 未然形+「なむ」=願望の終助詞「なむ」

\* 「～てほしい」と訳す。

- 例 一 惟光とく参らなむ。〔源氏物語〕夕顔巻

(惟光が早く参上してほしい)

- ② 連用形+「なむ」=強意(完了)の助動詞「ぬ」の未然形+推量など助動詞「む」

\* 「きつと～む」と訳す。「む」は文脈でその意味を判断する。

- 例 一 髪もいつも長くなりなむ。〔更級日記〕

(髪もとても長くなりとなるだろう)

- ☆ただし、形容詞・形容動詞・助動詞「ず」「べし」「まじ」「なり

(断定)の連用形には、助動詞を接続させるための活用と、助動

詞以外を接続させるための活用の二つがある。助動詞以外が接続す

る連用形に付いている「なむ」は、強意の係助詞となる。

- 例 一 うつくしくなむ。=強意(完了)の助動詞「ぬ」の未然形

うつくしかりなむ。=強意の係助詞「なむ」

+推量などの助動詞「む」

- ③ 連体形・非活用語+「なむ」=強意の係助詞

\* 特に訳出しなくてもよい。

- 例 一 その人かたちよりは心なむまさりたりける。〔伊勢物語〕

(その人は容貌よりは性格がすぐれていた)

### ④ ナ行変格活用動詞の未然形活用語尾+推量などの助動詞「む」

\* 「む」は文脈でその意味を判断する。

- 例 一 願はくは花のもとにて春死なむその如月の望月のころ(『山家集』)

(で見るなら桜の花の下で春死にたい。その二月の満月の頃に)

#### 未然形・連用形同形の語+なむ

- イ 文の途中にある時 強意(完了)の助動詞「ぬ」の未然形+仮定・婉曲の助動詞「む」

- 例 一 かく暮れなむに、まさに動きたまひなんや。

- 例 一 前後の文脈から判断する  
文の末尾にある時

I 〔助動詞「ぬ」+助動詞「む」〕の場合  
(さあ桜よ、私も散ってしまおう。一盛りがあつたなら(その後は)人にみじめな姿をきつと見られるだろう(と思うから))

II 〔終助詞「なむ」〕の場合  
(古今和歌集)

例 一 春立てば消ゆる氷の残りなく君が心は我にとけなむ

例 一 春が来ると消える氷のようにすっかりあなたの心は私にうちとけてほしい

a 以上の手順を踏まえて、波線部 a ~ e の「なむ」を判断する。  
「この幼き人の上なむ(ありける)」

ここでの「なむ」は直上が名詞「上」で、「ける」が結びとなっている。

よって、③より、強意の係助詞「なむ」である。

b 「いと長くなむ思ひ聞ゆる」

○ 多義語が用いられている場合は、まずは基本語意で訳し、文脈をし

っかりおさえてから具体的な意味をとらえる。

○ 遂語訳したものと、選択肢を比較検討して正解を導く。

○ 選択肢に補いがある場合は、文脈をおさえて確認する。

ここでの「だに」は、「あらば」という仮定条件句と呼応しているので、まずは「せめて」だけでもの意味と考える。残っている選択肢イ・ウ・エの中から、「だに」の訳出がないウを除き、選択肢をイ・エの二つに絞る。

2 「ある／ほど／に／だに／あら／ば」  
ポイントは、「ある」「あら」の具体化と、「だに」「未然形+ば」の用法である。

この場合は、「だに」「未然形十ば」の用法を確認して選択肢を絞り込み、その上で「ある」「あら」の訳出を考えるという手順が有効である。選択型の問題の場合、重要な古語・語法から考えるのは鉄則である。

まず、接続助詞「ば」は、未然形に接続する場合は順接仮定条件となり、「～なら」などと訳す。「～ので」は「已然形十ば」の用法の訳なので、選択肢ア・オは誤りとなる。

次に、副助詞「だに」の用法を確認する。

### 〔副助詞「だに」の用法〕

① 限定（最小限の希望） セめて～だけでも。

\* 「～だに……意志・希望・願望・命令・仮定」という形となる場合  
(ただし、「仮定」と呼応する場合、必ずしも「限定」用法となる  
ない時がある)。

例・我に今ひとたび声をだに聞かせ給へ。(『源氏物語』夕顔巻)

(私にもう一度せめて声をだけでも聞かせてください)

② 類推 ～さえ。

\* 「～だに……、まして……」という構文を取ることが多いが、「まして」やそれ以降の内容が省略される場合もあるので、その場合は補つて考えることが求められる。  
例・光があると見るに、螢ばかりの光だになし。(『竹取物語』)  
(光があるかと思つて見ると、螢程度の光さえない)

病気になつた作者が、このまま死ぬかもしれない懸念して、思つていることを言えないまま死んでは「いと口惜しかるべき」(II)たいそう残念にちがいない」と思い、「あるほどにだにあらば」「思ひ」があるのでにまかせて夫に語つておきたいと思って、遺書めいたものを書くのだから、最初の「ある」は「生きている」の意味で、「あるほどに」というのは「生きているうちに」ということになる。後の「あらば」は、「語らひべきを(リ語らうこともきっとできそつなのに)につながることを踏まえると、「夫の訪れがあるなら」という意味だと考えられる。ただし、その判断はかなり難しい。しかし、「未然形十ば」「だに」と最初の「ある」の意味から、正解はエと決まるので、その上で「あら」の主体が「夫の訪れ」だと理解することも、こうした選択型の設問での有効な視点である。すべてを文脈から正確に把握することが難しくても、選択肢を絞り込む過程で、より具体的に把握するというのが実践的なあり方である。

### 6 「御覽せ／さす／べし」

ポイントは「御覽せさす」である。助動詞「べし」は意味の判断が難し

いので、選択肢を検討する際には、まずは「べし」以外の古語・語法から判断するとよい。

「御覽せさす」は、慣用表現で、サ行変格活用動詞「御覽す」の未然形+使役の助動詞「さす」という語構成となっており、「御覽に入れる・お目にかける」の意味である。遺書めいたものを記した作者が、その文書の封の上書きに「恩など果てなむに、御覽せさすべし」と書いたのである。つまり、「自分の死後、四十九日の服喪期間が終わつた後、夫兼家にこの遺書めいたものをお目にかけよ」というのである。正解はイとなる。

る場合が多い。「～けれども、…」「～だが、…」の意味となる。

例・中垣こそあれ、一つ家のやうなれば、望みて預かれるなり。

(中垣はあるけれども、一つの家のようなので、望んで留守を預かつたのである)

## ② 懸念

\* 「も」、「そ」、「已然形」の形となる。「～すると困る」「～すると大変だ」「～かもしれない」の意味となる。

例・鳥などもこそ見付くれ。(『源氏物語』若紫卷)

(鳥などが見つけると大変だ)

## ③ 否定

\* 「未然形十ば十こそ(……)「然形」の形となる。(未然形十ば十こそ十あら十め)の形が多い。」「～ならともかく(実際にはそうではない)」「～なら：だが、～ではない」の意味となる。

例・里に住めども、吾子よりほかに見え通ふ人のあらばこそ。(『宇津保物語』)

(里に住んでも、我が子以外に姿を見せ通う人がいるならともかく、実際はそんな人はいない)

## ④ 強意

\* 「こそ」、「已然形」となる。これが「こそ」の基本的用法である。

例・これは竜のしわざにこそありけれ。(『竹取物語』)

(これは竜のしわざであつたことよ)

これは「死に十も十こそすれ(サ行変格活用動詞「す」の已然形)」となつておる、(2)懸念を考える。病気になつた作者が、僧などに加持祈禱をさせて、効果が現れないため、「死んだら大変だ」「死ぬことになるかもしれない」と懸念し、夫に遺言めいたものを書くという文脈にも適合するので、この用法だと判断できる。

## 5 「思ひ／給へ／つる／も／しるく」

ポイントは「給へ」「つる」「もしるく」の三つである。

「給へ」は、直下に、連用形に接続する完了の助動詞「つる」(「つ」の連体形)があることから、連用形とわかる。連用形が「給へ」ということは、下二段活用動詞「給ふ」で、動詞「思ひ」の直下にあることから、謙譲の補助動詞である。

## 【下二段活用動詞「給ふ」の注意点】

① 終止形「給ふ」はほとんど使われない。命令形「給へよ」は使われない。

② 動詞の直下にあり、謙譲の補助動詞の用法だけである。

③ 会話部や手紙の中に使われて、「～ます」「～させていただく」の意味となる。

④ 主語は「私」であることが多い。

また、「～もしるく」は、係助詞「も」+ク活用形容詞「しるし」の連用形で、この形で「～も予想どおり」の意味となる。形容詞「しるし」の意味を確認しておく。

### ○しるし「著し」(ク活用形容詞)

1 はつきりしている。際立っている。顯著だ。

2 「～もしるく」の形で「～も予想どおり」

以上のこと踏まえて逐語訳すると、「(私が)思つておりましたのも予想どおりで」→「思つていましたとおり」などとなる。

## 問二 解釈の問題 (選択型)

### ○ 解法の着眼点

問われている傍線部を品詞分解し、注意すべき言語・語法を確認する。

○ 品詞分解に忠実に逐語訳をする。

てくれるのなら、（かねてからの）思いが心に浮かぶようなのにまかせても、（夫に）語らうこともきっとできそうなのに」と思つて、脇息に寄りかかるで、書いたことは、

（私の）寿命は長いにちがないとばかり（あなたは）言ってくださるけれども、（私の命がある限りはあなたとの縁を）見届け申しあげようばかり思いながら（過ぎして）いたが、（命が）最後にもなつてしまつているのだろうか、妙に心細い気持ちがするので（こうして書き記すのです）。いつも申しあげるよう、この世で（命の）長いことが、（私にとつては）たいそう思いがけないので、少しも（命が）惜しいわけではなくて、ひたすらこの幼い子（口道綱）の身の上が、とても気がかりに思われますものであつたことよ。冗談にせよ（あなたの）ご機嫌の悪い様子を、（あの子が気にして）たいそうつらいと思つてゐるようで、たいして大きなこと（リ失敗）がございませんような時には、（不機嫌な）ご様子などをお見せになるな。（私は）たいそう罪深い身でござりますので、

風だにも……せめて風だけでも物思いのない方角（口極楽）へ私を吹き送つてくれないのなら、この現世のこと（口自分の亡き後の道綱のこと）は、来世でも（執着を捨てきれずに）見ることになるだろう。

（私がこの世から）いなくなりますような後にも、（あの子のこと）を邪険に扱いなさる人がいるなら、（私は）耐えがたく感じるにちがない。何年も、（あなたは私を）最後まで世話をへくださるまいと感じながら、（今まで私を）見限らなかつた（あなたの）御心を拝見していますので、この子のことを特にしつかり世話をください。（後のことは）お任せして（おこう）などと（かねて）思つていましたとおり、このように（死にそうに）なつてしまつにちがないようなので、（この子を）末永くお願ひ申しあける。誰にも詫さないことで、おもしろいなどと申しあげたことも、忘れずにしてくれるだろうか。折悪し

く、お目にかかるて申しあげられる時でもなかつたので、

露しげき……口露がひとしお多いとかいう死出の山路よ、（その道に向かう前から涙の霧に）だんだんと濡れる私の袖をどうした

と書いて、端に、「（私の亡き）後には、『ちよつとしたことをも間違えないという学者を、しつかり身につけよど、言い残し申しあげていた』と（あの子に）仰せ付けください」と書いて、封印して、上書きに、「忌」（口死後四十九日間）などが終わつてしまつような時に、（兼家様に、この手紙を）お目にかけなさい」と書いて、傍らにある唐櫃に、にじり寄つて入れた。（私を）見ている人（口侍女）は変だと思うだろうけれど、もし（病状が）長引いたら、せめてこのよつに（遺言）だけでも書かないようなことが、たいそう後悔されるにちがないので（書き記したものである）。

### 【設問別解説】

#### 問一 現代語訳の問題（記述型）

##### 解法の着眼点

- 問われている傍線部を品詞分解し、注意すべき古語・語法を確認する。

##### 1 「死に／も／こそ／すれ」

ポイントとなるのは「もこそ」口然形である。係助詞「こそ」は重要な語法を持つので、まずそれを確認する。

##### 【係助詞「こそ」の重要な語法】

##### ① 強意逆接

\* 「こそ」口然形、……」のように、結びの口然形の下に読点があ

つらく苦しい病状の中、作者は脇息に寄りかかって、遺書めいたものを書く。

それほどに作者は思い詰めていたのかもしれない。

### ○「命長かるべしとのみかの世にも見む」（6行目～10行目）

遺書めいたものの前半部分である。

兼家は「あなたは長生きするだろう」と言つてくれる。それなら命のある限り兼家との縁を見届けようと思つていたが、もう難しいかも知れないほどに、心細く感じる。自分の身は惜しくはないけれど道綱のことを見つづらい。道綱は、兼家が冗談でも不機嫌な様子を見せると気にしてつらく思うようなので、そのような様子を見せないでほしい。

ここには、兼家の、息子道綱に対する愛情が薄いことを気にする作者の思いが強く表れている。

そして、「風だにも」の和歌を詠み添える。「せめて風だけでも物思いのない方角（＝極楽）へ私を吹き送つてくれないのなら、この現世のこと（＝自分が亡き後の道綱のこと）は、来世でも（執着を捨てきれずに）見ることになるだろう」と詠むことで、いかに自分が道綱に執着しているかを伝える。

### ○「侍らざらむ世にさへ、といかにせむと書きて」（11行目～16行目）

現世での執着が強ければ極楽往生できないという考えが背景にあり、自分は往生できないほどに、我が子への執着が強いのだと詠んでいるのである。

「侍らざらむ世にさへ、といかにせむと書きて」（11行目～16行目）  
遺書めいたものの後半部分である。  
自分が死んだ後、道綱のことを疎遠に扱うよくな人がいるなら、耐えがたい。

「うとうとしもてなし給ふ人（＝疎遠に扱いなさる人）」と、尊敬語を使つていることから、明らかに兼家のことを意識した表現である。さらに、兼家の愛情は続かないとは思つていたが、今も完全に失せたわけではない兼家の愛情に一縷の望みをかけ、しつかり道綱の面倒を見

てほしいと言うのである。会つて話すこともできそつないので、死出の山を越える（＝死ぬ）前から、涙で袖が濡れていた、と和歌に詠む。

心から愛する道綱のことを、兼家に訴える作者の心情が強く表されている。

### ○「端に、ういと胸いたかるべければなむ」（16行目～本文末）

その遺書めいたものの端に、「ちよつとしたことも間違えないように、しっかりと学問しなさい」と道綱に伝えてほしいと兼家に頼んでいる。さらにその遺書めいたものに封をして、その上に、「私の忌が明けたら、夫に見せてほしい」と書いて、唐櫃に入れておいたのである。

以上のように、兼家の愛情を期待できないことがわかつていながらも、道綱のことを心配する作者は、まだ残っているかもしれない夫のかすかな愛情に期待しつつ、道綱のことを心から頼むのである。  
『蜻蛉日記』は、このように女性の微妙な心理が精緻に描かれるので、読解がかなり難しい作品である。前書きや（注）をしっかりと意識しながら、慎重にその心情を読み取るようにしてほしい。

### 【全文解釈】

（夫兼家との仲が）うまくいかないのなら（死ぬ方がましだ）とばかり思う（今の我が）身であるので、少しも（命が）惜しいといつわけではないが、ただ、この一人息子（＝道綱）をどうしたらよいだろうかとばかり思ひ続けると、涙を塞き止められない。（いくら堪えて隠そうとしても）やはり妙に、気分がふつうでないと感じている様子も現れているにちがいないので、（夫兼家が）格別にすぐれている僧などを呼んで（我が家に）寄こしてくれたりなどして、（その僧に祈りをさせて）試してみるが、まったくどうにもこうにも（効果が現れ）ないので、「このように（病状を繰り返しながら）死んだら大変だ。（死期が）急であつては、それらしいことも言えないものであるそつなのに、こうして（命が）果ててしまつたなら、たいそう心残りであるにちがいない。せめて（私の命の）あるうちに（夫が）訪ねて来

成立時代……平安時代中期。  
内容……時の権勢家藤原師輔の「男兼家と結婚した作者の嘆きと苦悩」を綴つたもの。

「天下の人の品高きや」と問はむ例にもせよかし（「この上ない高貴な人との結婚生活がどのようなものかと尋ねる人がいたら、その答える一例にでもしてほしい」と思つてこの日記を書いたと、作者自らが執筆の動機を記している。）

作者にとって兼家との結婚は不本意なものであつたが、自分の意志で拒否できるような時代ではなく、まして権勢家の息子との結婚は父親にとっては望外の喜びであったため、否応なく結婚させられた。結婚当初は作者に愛情を示していた兼家であつたが、一人息子の道綱が生まれた後は、作者への愛情は薄れ、訪問が間違になつたり、ほかの女性との関係もあつたりして、作者を悩ませる。そんな不安定な結婚生活の中でも、作者は次第に兼家への愛情を深めていくが、それに反するかのように、兼家の愛情は薄れていくのである。女性として夫に愛されないことの苦悩や、息子道綱への夫の愛情の稀薄さに対する母としての懊惄などの心理が精緻に記されている。

なお、この作品では、兼家・道綱・倫寧などの主要な人物は、具体的な名称を使つては描かれず、それぞれ「人」・「幼き人」・「頗もしき人」などのように表現されているので、人物の把握には十分な注意を払うことが求められる。

出題本文は『新潮日本古典集成 蜻蛉日記』（新潮社）に掲載された。ただし、説解の便をはかつて一部省略し、表記など適宜あらためて、問題文としての体裁を整えた。

## 【本文解説】

今回出題した部分は、「蜻蛉日記」の中巻で安和二（九六九）年閏五月の記事である。

前書きにあるように、作者は夫兼家の不実に悩んでいた。そんな折、病にかかるてしまう。ただでさえ心細く思つていたのに、病気になつてさらに心細さが増し、自分の死を考え、苦しむのである。ちなみに、この本文の前には、兼家が新しく造る邸（東三条殿ではないかとされる）が完成した。作者をそこに迎えると約束してくれていたのに、結局そのことが実現しなかつたことが記されている。作者は、兼家が去世すればするほど、自分との距離が遠く離れていくことを実感するのであつた。そんな心境にあつた作者は、兼家に遺書めいたものをしたためるのである。

本文の叙述に従つて、その内容を確認する。

### ○「よからずはとのみ思ふ身なれば、～涙せきあへぬ」（1行目～2行目）

兼家との仲がうまくいかないのなら、いつそ死んだ方がましだと思う作者は、病氣にかかるた今、我が身は少しも惜しくないと思つ。一方、後に残される道綱のことを思うと、涙が止まらない。

女性として夫の愛を失つた悲しみよりも、母としての我が子への愛情による悲しみの方が強いのである。

### ○「なほあやしく、～と思ひて」（2行目～5行目）

病状をいつもと違うと感じた兼家は、すぐれた僧などを作者のもとに呼んで祈禱をさせる。しかしその効果は現れない。

この時、兼家が作者のことを気遣つたのは、作者への愛情によるものなのかどうかについて、作者ははつきりとは述べていない。

祈禱の効果が現れないことから、作者は死を意識する。このままでは夫に言いたいことも言えないままになつてしまふことを残念だと思い、また、夫が訪れてくれるのなら語つておくのに、それも期待できないと考え、遺書めいたものを記そうとする。

### ○「脇息におしかかりて、書きけることは」（5行目）

またこの「観念的」な志向を持つ「人々」と学生時代の「筆者」が重なることは、【設問別解説】問二でも確認した。だから「学生」時代の筆者も「イデオロギーに則り生きよう」とした人間だと見える。事実当時の筆者は政治的な活動（＝「ストイックな運動」）をしていたが、こうした活動が一般に「主義主張、思想」＝「イデオロギー」を基盤として行われることは想像しやすいだろう。

そして「学生」時代の筆者は、「意志的で、人生に対して責任感に溢れ、開いを積みあげることとのなかで自己」を形成してゆくようなベートーヴェンの音楽こそ望ましい」と思っていた。この「ベートーヴェンの音楽」を、「自分に対する厳しさをうかがわせるような音楽」と言い換えることは可能である。すると「イデオロギーに則り生きようとする人間は、自分に対する厳しさをうかがわせるような音楽を称揚（＝讃めたたえること）する」と言うことができる。よってオが二つ目の正解である。

カは、最終段落に「彼は人間存在そのものの喜びと不安とを……花開かせた」と書かれているので、「モーツアルトの音楽」が「人間の普遍的な感情を表現している」とは言える。しかし「モーツアルトの肖像も同じよう見ているはずなのに、私の内側ではどうしても一つの像を結ばない」（最後から二つの段落）というのは、その後に書かれているように、「浮び上ってくる」ものが、「彼の顔ではなく彼の旋律であり音そのもの」であることを言おうとしているのである。「彼自身の顔」を「忘れさせる」ということとは異なる。その上「浮び上ってくるのは、彼の顔ではな」い、ということと、「モーツアルトの音楽」が「人間の普遍的な感情を表現している」ということとは、本文では何の関連づけもなされていない。よって「彼自身の顔さえも忘れさせるほど、人間の普遍的な感情を表現している」というように結びつけるのは不適切である。よってカは正解ではない。

### 三 古文

#### 【解答】

問一 1 死んだら大変だ  
5 思っていましたとおり

問二 2 工 6 イ  
d

問三  
問四  
夫兼家が冗談にせよ機嫌の悪い様子を見せると、道綱が気にして

たいそつらいと思っているということ。（48字）  
問五 夫兼家に、息子道綱の面倒をしつかりみてほしいと言っている。

問六 ウ

問七 オ

#### 【配点】（50点）

問一 各4点×2  
問二 各4点×2  
問三 4点  
問四 12点

問五 9点  
問六 6点  
問七 3点

#### 【出典】

『蜻蛉日記』・中巻  
作者……藤原道綱母。

本朝三美人の一人とされるほどの美貌の女性であり、和歌の達人でもあつたという。父は、藤原倫寧。左大臣藤原冬嗣の子孫にあたり、高貴な血筋であったが、倫寧の頃には受領階級にまで没落していた。

ジャンル……日記。

仮名で書かれた女性日記の先駆。自身の半生を綴つている。

樂の「性格に反」することではない。また「アーチスト」＝「全体主義者」も「モーツアルトに魅かれた」（最後から二つの段落）が、彼らがモーツアルトの音樂を「政治に利用」したとは本文に書かれていない。よってエは正解ではない。

#### 問五 一つずつ選択肢を見ていく。

アは、「モーツアルトが自らの音樂を言葉によって語らなかつた」理由を、「彼が言葉自体の限界を知つていたからである」と述べているが、こうした内容は本文に書かれていらないし、アに示された因果関係は本文と食い違う。モーツアルトが書いた父親宛の手紙の中には「自分は音樂家だから、思想や感情を音を使ってしか表現できない」とある。つまり「モーツアルトが自らの音樂を言葉によって語らなかつた」理由は「音樂家だから」であつて、アの後半のような理由ではない。よつてアは正解ではない。

イは、「モーツアルトの音樂の素晴らしさ」が、「生前には認められなかつた」が「最近ようやく」理解され始めたという内容である。しかしそうしたことは本文から読み取ることができない。よつてイは正解ではない。ウについて。モーツアルトは「天才と言われる人間」の一人だが、彼は自ら意識しなかつたにせよ「時代の感情」（傍線部2を含む段落の次の段落）を表現したし、自分の「生きていた」時代である「近代」を「個性を引き出す素材」（最後から四つの段落）としたと書かれている。また問題で見たように、「近代」の「終末」を「予感」していたとも考えられるのだから、「天才」が「時や場所と無関係に存在しうる」とは言えない。よつてウは正解ではない。

エについて。「モーツアルトの音樂」の「奥ゆきの深さ」は「十八世紀後半の時代において」は「言葉に表わすことは不可能であった」し、彼の音樂は「言語によつては決して表現する」との出来ない思想や感情がある

のだと「こと」を「見せてくれ」る音樂だった（最後から六つの段落）。よつて「モーツアルトの音樂は既成の言葉」を超えていくと言つてよい。

また傍線部2を含む段落の冒頭には、「モーツアルトの音樂的天才の歩みの非常な迅速さが、彼の堅い信仰を……おきざりにしてしまった」という吉田秀和氏の言葉が引用されている。これは筆者の言葉ではないが、筆者はこうした吉田秀和氏の見解を、「たしかに」と肯定しているので、この見解は筆者のものと見なしてもよい。そして「信仰」は「信仰」心という表現もあるように、「心情」でもある。この部分の内容を「モーツアルトの音樂は……彼自身の心情さえも追い越してしまった」と説明するのは妥当である。よつてこれらを総合すれば、エが一つ目の正解であるとわかる。

オについて。「イデオロギー」とは「人間や時代を支配する主義主張や思想、信念」である。モーツアルトを「否定」した、「規範を梃子にして、自らを観念的に想定された高みへ引きあげようと身構えている人々」（傍線部1を含む段落の次の段落冒頭）の「自らを観念的に想定された高みへ引きあげようと身構えている」というあり方は、その人が「高みへ向かわなければならぬ」という「信念」を抱いている状態である。よつて彼らは、「思想、信念」という「イデオロギーに則り生きよう」としていると言つてよいだろう。

諸君の中には、この「人々」は「イデオロギー」によってではなく「没理論的」にモーツアルトを「否定」したのだから、彼らは「イデオロギーに則り生きよう」としているのではない、と考えた人もいるかもしれない。だが「イデオロギー」的ではないのは、「イデオロギー」や「理論」で人生に対する場合とは次元が異なることに注意しよう。彼らは傍線部1を含む段落の次の段落冒頭にあるように、「人生」においては、「イデオロギーに則り生き」ることを基本としていたのである。

そして今まで説明してきたことを、傍線部に対応するようにモーツアルトの立場に立つてまとめれば、「近代」という時代は、自分の音楽を十分には理解、受容できないまま、終わりを迎ってしまうのではないかということ不安」ということになる。

この内容に最も対応しているのはオ「言葉でなく音で自分が表わそうと

しているものを人々が十分に理解しないまま、近代は終わるのではないか」という不安である。モーツアルトの音楽が「近代」と距たりを生む可能性があること、そして「近代」という「時代」の「終末」に言及しているからである。また「言葉でなく音で自分が表わそうとしているもの」という部分は、モーツアルトが書いた父親宛の手紙の中の「思想や感情を音を使つてしか表現できない」という表現や、モーツアルトは「言語によつては決して表現することの出来ない思想や感情」(最後から六つの段落)を表現したと書かれていることと対応している。よつて正解はオである。

ただ諸君の中には、先に傍線部3と対応させた、「もし……知つていたら……憮然としたのではないかな」という箇所は仮定の話をしているのだから、「モーツアルトが予感していた不安」には当たらないのではないか、と考えた人もいるかもしれない。もちろん「彼は自分が音を使つて表わしたもののが、どのような思想であり、時代の感情であつたのかを意識していくなかつたように思われる」(傍線部2を含む段落の次の段落)のだから、モーツアルトは「終末」や「滅び」の「不安」を意識しているのではないか。では誰が「モーツアルト」は「不安」を「予感していた」と言っているのか。もちろん、本文におけるモーツアルト像は筆者の視点から説明されたものである。

つまり、傍線部の「予感」や「不安」はモーツアルト自身の心情や意識とは別に、あくまで筆者がモーツアルトの中にあると見なしたものである。だとするならば、「もし……知ついたら……自分の感性の中に早くも望見されてしまつていて、彼自身憮然としたのではないかな」と仮定した時点で、こうしたモーツアルトの「予感」や「不安」は、筆者の脳裏

に思い描かれていたはずである。すなわちこのようにして筆者自らが仮定し想像した「予感」や「不安」を、「予感していた不安」と確定的に表現しているのが傍線部3なのである。よつて「もし……知ついたら……憮然としたのではないかな」という箇所を傍線部3と結びつけることに問題はない。

他の選択肢を見てみよう。

アは、「純真な若者を甘美な世界に引きずり込んでしまうのではないか」という不安がおかしい。モーツアルトに魅了されるのは「純真な若者」に限定できないし、筆者が想定している「不安」がこのような「不安」ではあると見なす根拠は本文にはない。よつてアは正解とはならない。

イは、「音楽家として失格なのではないか」という不安が不可である。モーツアルトは父親宛の手紙に「自分は音楽家だから、思想や感情を音を使つてしか表現できない」と書いたが、そのことに「音楽家として失格なのではないか」という不安が含まれていたとは読み取れない。よつて筆者が傍線部3で言う「不安」が、こうしたものだと見なす根拠は本文にはない。よつてイは正解とはならない。

ウは、モーツアルトの音楽が「人間への共感を表現した」ものであるとしている点が、「人間存在そのものの喜びと不安」(最終段落)を表現したものだという本文とすれば、最終段落の「共感」は現代の人々の抱くモーツアルトへの「共感」である。また「近代文明の終焉を表現していると誤解されてしまうのではないか」という不安も不可である。モーツアルトの音楽は無意識にせよ、「滅び」(最終段落)を表現しているとも言えるのだから、「近代文明の終焉を表現している」と考えることは「誤解」ではない。筆者が思い描いた「不安」がウのようなものだと考える根拠も本文にはないため、ウも正解にはならない。

エは、まず「自分の音楽がその性格に反し、時代を超えて」という部分が不可である。「時代を超えて」いくのがモーツアルトの音楽の「性格」でもあることは最終段落末尾部分から読み取れるので、モーツアルトの音

的確に説明しているとは言えない。よってウも正解とはならない。

エは、前半部にaの要素が示されているが、「作者や演奏者だけでなく聴者も、論理にこだわる日本文化を変革できる」という後半部が本文に書かれていないことであり、bの要素が欠落している。よってエも正解ではない。

オは、聴く対象を「西洋音楽」に限定して説明している点がまず問題である。傍線部の「聴くこと」は、「西洋音楽」を「聴くこと」に限定されではない。また「日本と西洋を融和させた音楽を作者や演奏者とともに生み出すことができる」という部分も、本文に書かれていないことである。最後の部分がbと関連する説明となっているが、aの要素がなく、オは正解とはならない。

問四 傍線部3の「モーツアルトが予感していた不安」の内容を問う設問であるが、この「不安」の内容は、本文に明示されているわけではない。それゆえ設問文も「どのようなものだと考えられるか」と問うているのであるが、そのことを踏まえて、まず傍線部とその前後の文脈を辿つていこう。

まず傍線部直前に、「近代が終<sup>しゆう</sup>熄<sup>き</sup>し、近代を支えた社会構造が崩壊しようとしている時」とあり、「モーツアルトが予感していた不安」が「近代」の「終<sup>しゆう</sup>熄<sup>き</sup>」や「崩壊」に関連することがわかる。またその「モーツアルトが予感していた不安」は、傍線部直後にあるように、今「美しく人々の心に甦<sup>よみがえ</sup>りつつある」。つまり傍線部の「不安」が、現代の「人々の心」にも同じように抱かれているのである。それを筆者は傍線部直後で「この共感」と記している。もちろんこの「共感」は、現代の人々がモーツアルトに「共感」しているのである。またそれは傍線部の後で「滅びへの共感と読みとることも可能だ」と言われている。

「終<sup>しゆう</sup>熄<sup>き</sup>」「崩壊」と「滅び」とは意味として通じるものがある。すると傍線部の前後から、傍線部の「不安」は、「近代」が「終<sup>しゆう</sup>熄<sup>き</sup>」する、ある

いは「滅」ぶということに関連する不安<sup>くわんせん</sup>だと理解することができる。

こうした観点から本文を見渡してみると、傍線部2を含む段落の次の段落の末尾に、「もし自分の作品の思想的な拡がりを知っていたら、モーツアルトはその奥ゆきの深さと近代というものの矛盾と終末が自分の感性の中に早くも望見されてしまつてはいることに彼自身<sup>ヒツジン</sup>標然としたのではないか」という部分がある。つまりもしモーツアルトが「自分の作品の思想的な拡がり」を意識してたら、「近代」の「終末」を自分が感じとり、それを作品に表現していたことに気づいたかもしれないと言うのである。さらにこの「標然」という言葉は〈恐ろしくておののきふるえるさま〉を表わす。よって「標然」は「不安」に通じる感情を含んでいる。そして「終<sup>しゆう</sup>熄<sup>き</sup>」「滅び」と「終末」も意味として通じるものがある。

よつて傍線部3の「不安」と今引用した部分とは関連している。この引用部分に即して傍線部の「不安」を言い直せば、モーツアルトを「標然と」させたかもしれない「近代」の「終末」に關わる不安<sup>くわんせん</sup>ということになる。

なお「近代」という時代についての明確な説明は本文にはない。ただし今引用した部分や傍線部3前後から、「近代」という時代は、モーツアルトの音楽の「拡がり」に比べれば、ある種の限界や度量の狭さを持つていると筆者が考へていることは言えるだろう。モーツアルトの音楽は「時代」さえも「個性を引き出す素材」（最後から四つ目の段落）にしてしまうのだし、「近代の確立期」に「人間存在そのものの喜びと不安」（最終段落）を表現したモーツアルトの音楽は、「近代」が「終<sup>しゆう</sup>熄<sup>き</sup>」しようとしている現代において人々を惹きつけた。このような箇所から、モーツアルトの音楽は、「近代」によって十分に受容、理解されたとは言えず、モーツアルトが<sup>ほど</sup>距たりを感じる可能性のある時代だった、というのが、筆者の「近代」に対する見方だと考えられる。言い換えるならば、そうした「近代」との距離があるからこそ、モーツアルトは「近代」の「終末」を「望見」する可能性を得たとも言えるだろう。

についての内容と関連するため、解答例では**a**と**b**を結びつける形をとっている。

問三 この設問では、「聴くこと」が「創造」に結びつく理由が問われている。よって「聴くこと」の中に「創造」につながる要素があること、あるいは逆に、「創造」の中に「聴くこと」につながる要素があること、が理解できれば、問われている（理由）を見出したと言えるだろう。

ではまず、「聴くこと」とはどのようなことだと筆者が述べているか、本文を確認していきたいが、「聴くこと」自体の内容を説明している部分は本文にない。それゆえ少し戸惑うが、傍線部2を含む段落の一つ前の段落に着目してほしい。「明治以後の日本人」の文化攝取について述べた後、筆者は、美を「論理の体系（＝統一された論理のまとまり）」にはめ込む」「享受」の仕方にについて「悲しい習性」であるとし、特に「論理そのものが生活感覚（＝生活しているあるいは生きているという実感・感覚）から遊離している場合」には「創造を不可能にする場所での文化攝取」となり、それは「モーツアルトの音楽が持っている本質とは対極的な場にたつ鑑賞姿勢である」と述べている。よってこの「享受」・「文化攝取」とは、音楽の場合で言えば「鑑賞姿勢」に当たる、つまり「聴くこと」に対応することがわかる。

そして「生活感覚から遊離し」た論理のみで音楽を「鑑賞」することは否定されているのだから、本来「聴くこと」とは生活感覚と密接している（a）ものでなければならないことになる。そして「生活感覚から遊離している場合」は「創造を不可能にする」のだから、逆に「生活感覚」に基づいて「聴くこと」ができるならば、「聴くこと」は「創造」に結びつくのだと考えられる。よってaは、この設問の問う（理由）の説明に必要な要素である。

また「創造」についてだが、傍線部2の直後にるように、「作り演じ聞く」という三つの動作の総て」が「連らなつて」いかないと「創造」には聞こえない。

ならない。つまり「創造」は「作り」手や「演じ」手と「聞き」手との関係の中に存在する。このことについては最後から一つ目の段落末尾に「彼（＝モーツアルト）の世界へと参加する」という表現があり、「彼（＝モーツアルト）」という「作り」手（や「演じ」手）と「聞き」手の側との一体化について説明されていることも読解の手助けになるだろう。

このように、「創造」とは「聞き」手が「作り」手や「演じ」手の世界に参加すること（b）でもあるのだ。これも「創造」と「聴くこと」との結びつきについて述べた内容であるから、正解に必要な要素だと答えられる。

こうした観点から選択肢を見ていくと、アの「音楽を自分の生きた実感のままに聴くことで」がaと、「作者や演奏者とともに音楽の表現世界に参与できる」という部分がbと対応していることがわかる。よって正解はアである。

#### 他の選択肢を見ていく。

イは、前半部がbの要素に該当するが、「その後の日常生活を彩る甘美な思い出となる」という後半部が本文に書かれていないことであり、aの要素もないため、正解とはならない。

ウは、「既存の論理に縛られず」というだけではcの要素を明確に説明したことにはならない。「自分もまた彼らと同じ立場になれる」という部分は、「創造」の場への参加を意味すると解釈すれば妥当だとも考えられるが、「作者や演奏者とともに音楽を聴く」という説明がおかしい。この部分は「作者や演奏者」と「自分」との一体感を説明しているように読めないこともない。だが他方、まるで「自分」と同じ時空に「作者（例えばモーツアルト）」があり、その「作者」と「演奏者」や「聞き」手である自分と一緒に、三者で音楽を「聴く」いている状態を説明しているとも受け取れる曖昧な表現となっている。bの「参加」とは、三者がそれぞれ作り演じ聞く」という別個の「三つの動作」を行ながら「連らなつてゆく」（傍線部2直後）ことである。するとウはそうした状態（＝b）を

とつては、受け入れがたいあり方<sup>ii</sup>害悪だったと考えられる。それゆえそうした事態をもたらす音樂<sup>ii</sup>モーツアルトの音樂を否定したのである。よつてb・cも、筆者が「否定的」に捉えたモーツアルトの音樂の側面だと言えるので、解答の要素となる。なおモーツアルトの音樂は、「恐い」「音樂」と言わわれているものの典型として挙げられているので、「音樂」に関するこれらの説明はモーツアルトの音樂に当てはまると考えてよい。

さらに「モーツアルトの音樂は」、「人生に何か規範<sup>ii</sup>(手本、規則)」を求める、その規範を梃子にして、自らを觀念的<sup>ii</sup>現実を離れ、抽象的に物事を考えるさま<sup>ii</sup>に想定された高みへ引きあげようとするようなな「人々」によっても否定された。この「人々」のあり方は、<sup>ii</sup>ある手本や基準を現実とは異なる觀念的な次元に想定し、それに向かって意識的に自分を向上させていくうとする姿<sup>ii</sup>である。こうした「人々」が「モーツアルト」を否定したのは、モーツアルトの音樂が自分たちの目指すものに反するからであろう。つまりヘモーツアルトの音樂は、高みを目指し、「觀念的」に生きようとする姿勢を描るが<sup>ii</sup>(d)、ということになるだろう。

そのように推論できる根拠をさらに挙げるならば、「觀念的」に「身構えている人々」がモーツアルトを否定する際、「イデオロギー」(人間や時代を支配する主義主張や思想、信念)などによるのではなく、「理論」や論理が存在しないような「沒理論的な」(傍線部<sup>ii</sup>1を含む段落の次の段落)ものによつて否定したという点にある。「觀念的」な人間であれば、「イデオロギー」や「理論」、論理で否定する方が自然だと言えよう。だから「沒理論」的に否定するのは不自然である。しかしそうした不自然な態度で否定するしかないほど、モーツアルトの音樂は何やら計り知れない妖しい魅力をやはり持つのである。モーツアルトには「觀念」や「理論」などでは太刀打ちできない。とにかくモーツアルトを「沒理論的な」形であつても否定しなければ自らの「觀念的」なあり方を保持することができない。それほど、ヘモーツアルトの音樂は、「觀念的」に生きようとする姿勢を描るが<sup>ii</sup>(d) ものだったのである。

そしてこれも【本文解説】Iで触れたが、こうした「人々」のあり方は、「ストイックな運動<sup>ii</sup>(禁欲的で厳しい政治活動)」に身を投じ、自分の中にある「弱い部分」を必死に押し隠し、「意志的」なものを持向していた「学生」時代の筆者の姿と重なると言える。すると「觀念的」な「人々」にとつての、モーツアルトの音樂の否定的側面<sup>ii</sup>dは、筆者にとつても否定すべき側面だと考えられる。よつてこのdも解答に入れるべき要素である。またこうした「觀念的」な「人々」のあり方には、dの要素だけではなく、ヘモーツアルトの音樂が、「恐ろしいほど」人を魅了してやまない(a) という要素も見て取ることができる、と言えよう。

以上から解答に必要な要素は次のようになる。

- a モーツアルトの音樂は、(恐ろしいほど) 人を魅了してやまない
- b 人間の「思想」や「意志」を歪めてしまう
- c 自分の存在や罪に対する責任を曖昧なものにする
- d 高みを目指し、「觀念的」に生きようとする姿勢を描るがす

これらの要素を制限字数内に收めればよいのだが、そもそも筆者が「モーツアルト」を「否定」したのは、傍線部にも示されているように、モーツアルトの音樂への恐さがあつたからである。a～dのいずれも恐さを示しているが、もともと「モーツアルト」(や「音樂」)に強く惹きつけられなければ、「わな」にかかるなりすることもないと考えれば、筆者の心の根本にaがあつたがゆえに、それに伴いb～dのようなことを、「学生」時代の筆者は思つたのだとも考えられる。よつて解答例は、そのような考えに則つた構成になつてゐる。単に本文の最初に登場するからaを解答の冒頭に書いたのではないことを理解してもらいたい。もちろんこうした形が唯一のものというわけではなく他の構成の仕方もあるだろうが、解答の構成にも配慮する意識を持つて解答作成に臨んでもらいたい。なおdの

〈高みを目指し……生きようとする姿勢〉という部分は、bの〈「意志」〉

ある。Y の部分の内容は、筆者の「学生」時代のことであり、今も筆者が、「蘭」の作り出す「闇」の中にいるとは本文の内容から考えられない。すると「永遠に」という言い方は適当ではない。よってAは正解ではない。

イ「蚕」がやがて美しい姿を見せるようには、「隠し防御する」と逆に、解き放たれて「美しい姿」となるイメージである。よってIも正解とはならない。

ウ「蝶が冬になれば老いて姿を空に消すように」は、「この世から姿を消す」という内容であり、「隠し防御するさま」と一致しない。また「弱い部分」も明確に示されていない。よってウも正解ではない。

エ「蟬が自分の命の短さを知っているように」は、「死の自覚」という内容であり、「隠し防御するさま」と一致しない。また若いときの筆者が死を自覚していたというような内容は、Y の部分にも本文にも書かれていない。よつてエは正解ではない。

問二 答者が、「モーツアルト」の音楽のどのような点を「否定的」に捉えていたのか、が問われている。まず傍線部の「モーツアルトについて否定的に述べた」という表現は、直接は、「だから音楽は恐いんだ、殊にモーツアルトのような音楽は」と友人に語った、「学生」時代の筆者の言葉を指している。この言葉はC・モルガンの小説『人間のしるし』の中の言葉を受けて発せられたものである。しかも「だから音楽は恐いんだ」と、「人間のしるし」の中の言葉を受け入れる形で発せられている。つまり、音楽やモーツアルトの恐さについて語られた『人間のしるし』の中の言葉に筆者は同感し、「だから音楽は恐い」と「否定的」に語ったのである。

よつて『人間のしるし』の中の言葉に、筆者がモーツアルトを否定する手がかりがあると考えられる。では『人間のしるし』の中では、音楽やモーツアルトの恐さについてどのように語られていたか、該当する部分を見ていく。

【本文解説】Iでも触れたが、そこにはまず「音楽」が「阿片」になり得る」と書かれている。「阿片」は麻薬の一種であり、中毒になるほど人を惹きつけ、廢人にもしてしまった恐ろしいものである。すると筆者が「恐い」と言つてるのは、音楽が「阿片」と同じように、人を虜にする魅力

を持つことなどと考えられる。なぜだろうか。それは美に感動する自分の中に「弱い部分」を抱えていながらも、「スタイルな運動（日禁欲的で厳しい政治活動）を行ひ「人生」に対する「責任感」を重んじ自らを律していくなければならないと考える筆者の、その「弱い部分」に音楽が、特にモーツアルトの音楽が訴えかけてくる魅力を持つからである。それゆえ「恐い」ものとして「否定」され避けられねばならなかつたのだ。

よつて、モーツアルトの音楽は、(恐ろしいほど)人を魅了してやまない。(a) ということだが、まず解答に必要な要素となる。ちなみにこのaの要素を、解答例では「蠱惑的な美」と表現している。「蠱惑的」とは人の心をひきつけ、まとわすこと」を言うが、本文の表現で言うならば、最後から二つ目の段落にある「官能的」がこれに類する言葉と言える。

また「阿片」という言葉は人間の精神（や肉体）に害を与える。どのように述べたうか。『人間のしるし』に書かれている言葉で言えば、「思想をわなにかける」、「意志を稀薄」にしてしまう、という害である。つまり『人間の「思想」や「意志」を歪めてしまう(b)」のである。

さらに「不在証明（アリバイ）と免罪符の役割を演ずる」という『人間のしるし』の中の言葉は、次に続く「野蛮人が放火と殺人をやつてのけたあとで、モーツアルトを演奏して罪を清めたつもりになる」という文とのつながりから、(自分の存在や罪に対する責任を曖昧なものにする)こと(c)だと考えられる。

bやcは傍線部1の前にあるように、「意志的で、人生に対して責任感に溢れ、闘いを積みあげることのなかで自己」を形成してゆくようなベート・ヴェンの音楽こそ望ましいものに思われていた」「学生」時代の筆者に

なら誰しもが持つてゐる感情であり、「近代」という時代に限定されるものではないということだ。だとするなら現代の人々がモーツアルトに惹かれるのは、「近代」が滅ぶことへの「共感」からではなく、モーツアルトの音楽に、人間であるがゆえに抱く「喜びと不安」が表現されているからだということになるだろう。そうした根源的なものを表現しえたがゆえに、モーツアルトは天才なのであり、今もなお人々を魅了してやまないのである。(以上、最終段落)

### 【設問別解説】

問一　□ X の主語は「語ること」である。まずこの主語と対応することが正解となる条件(a)である。また直後の「情緒過多(II)感情が過剰に溢れているさま」や「啓蒙的(II)無知な人々を教えるさま」な口調と対応するものでなければならないことは容易にわかるだろう。これが二つの条件(b)である。ただし、選択肢を見るとすべての選択肢が二つの語句を並列する形になつてゐるが、選択肢前半の語句が「情緒過多」に、選択肢後半の語句が「啓蒙的な口調」に対応しているとは限らない。それゆえそうした先入観を排し、二つの条件を満たす最適な選択肢を選んでいかなければならない。

そのような観点で選択肢を見ていくと、イ「総ての信条の告白、愛の告白と同じように」は、「告白」が「語ること」だからaと合致する。また「信条(II)強く信じている事柄」を語るときには、聞き手に對して自分の「情緒過多」になることもあるだろう。「愛の告白」が「情緒過多」になることは容易に想像がつく。よつてbにも合致するので、イが正解である。

他の選択肢を見ていく。

まずアだが、「諦念」は「あきらめの気持ち」という意味である。「政治への諦念」「政治家への諦念」は、「情緒」的になつたり「啓蒙的」になる可能性はある。しかし単に「諦念」という「気持ち」だけでは、「語ること

と」と対応しない。それゆえaと合致しないし、「口調」という語にもつながらない。よつてアは正解ではない。

ウは「沈黙」が□に合わず、正解にはならない。

エの「理論」「命題(II)一つの判断の内容を言語・記号・式などで表したもの、解決すべく課せられた問題」は、基本的には客観的なものであり、「情」と結びつきにくい。そのため「情緒過多」とうまくつながらないため、bと合致するとは言えない。よつてエは正解ではない。

オの「思想、感情」は、aもbも満たすと言えるが、「あらゆる音楽の中にある思想、感情」という部分に問題がある。「あらゆる音楽の中にある思想、感情」が、すべて「情緒過多」や「啓蒙的な口調」であるならば、モーツアルトの音楽が表現した「思想、感情」も、「情緒過多」や「啓蒙的な口調」だということになる。だがそうなると、「優しく自由な手つきで」「表現した」(傍縁部2直後)などと書かれている、筆者のモーツアルトへの評価や説明と食い違が生じる。よつてオも正解ではない。

次の□Yは、直前の「弱い部分が表に現れ出るのを防ごうとしていた」様子を比喩的に表現した部分である。すると「内部には「弱い部分」があるが、それが現れ出ないよう隠し防御するさま」を表現できる語句がふさわしい。

この条件に最も合致するのはオ「蛹が寒い季節に固い殻をかぶるようになっている。」「蛹」はまだ成虫にならない幼さを残す存在である点で、「弱い部分」と対応する。また「固い殻をかぶる」という表現は、(隠し防御するさま)と対応する。なお「寒い季節」というのは、厳しい政治活動を行っていた「学生」時代をイメージさせるものだと言える。よつてオが正解である。

他の選択肢について見ていく。

ア「繭が永遠にその闇を保ち続けるように」は、「繭」が「防御」するものとしてある点ではよいのだが、内部に「弱い部分」があることが明示されていない点にまず問題がある。また「永遠に」という表現にも問題が

の段落末尾)、あるいは「近代が終<sup>しゆう</sup>滅<sup>めつ</sup>し、近代を支えた社会構造が崩壊しよ<sup>う</sup>としている時、モーツアルトが予感していた不安が美しく人々の心に甦<sup>よみがえ</sup>りつつある」(最終段落、傍線部3前後)、と書かれていることからすると、モーツアルトの音楽は「近代」という時代には收まりきれない「拡張<sup>ひろがる</sup>」を持っていたと筆者が考えていることがわかる。このことは、「彼は人間存在そのものの喜びと不安とを、近代の確立期において、早くもその個性の上に花開かせたのだ」(最終段落)という部分にも示唆されていると言える。モーツアルトの音楽の豊かさが、「近代」という時代の容量を上回ったというこ<sup>と</sup>である。

だがモーツアルトが生きた「十八世紀後半の時代」には、モーツアルトが「望見<sup>むけい</sup>」したかもしれない自分の作品の思想の「奥ゆきの深さと近代」というものとの矛盾と終末<sup>しゆめつ</sup>」を、「言葉に表わすことは不可能であった」。なぜなら「言葉は昔以上に存在被拘束性<sup>(=あるものに拘束される性質)</sup>を持つてゐる」からである。つまり「言葉」はその時代に存在しているものなどに「拘束<sup>くわくそく</sup>」されやすいのだ。「拘束<sup>くわくそく</sup>」されれば自由ではなくなる。「言葉」は自由に何でも表現<sup>あらわ</sup>できるものではないのである。

ただし、こうした「言葉」の性質ゆえにモーツアルトが「望見<sup>むけい</sup>」したかもしないものを言葉で表わせなかつたのは、「幸いなこと」だつたと筆者は言う。もしそれを言語化できたならば、「自分は音楽家だから、思想や感情を首を使つてしか表現できない」というモーツアルト自身の言葉や、「言語によつては決して表現することの出来ない思想や感情があるのだと言うことを、モーツアルトほど活々と見せてくれた人はなかつた」という筆者の評価が無効になつてしまふ。それゆえ「幸いなこと」だと筆者は言うのである。

そしてモーツアルト自身は、「近代」の「終末」を見ることなく、「一七九一年に夭折<sup>(=若くして死ぬこと)</sup>」してしまう。しかし筆者が歴史的事件や年号を用いて、モーツアルトと「近代」という時代との関係を記すのは、「近代」という「時代」にモーツアルトを「嵌め込んで」、「彼の作品」を

「浮き立たせるためではない」。そうではなく、天才モーツアルトの前では、「時代」さえも彼の「個性を引き出す素材」となつてしまつことを示したいからなのである。こうしたこと筆者が記すのも、やはりモーツアルトの音樂が、「近代」という「時代」を凌駕<sup>(=他のものを)をしのいで</sup>その上に出ること)するものであることを示唆しようとしているのだと考えられる。(以上、傍線部2を含む段落の後の四段落)

#### IV 現代におけるモーツアルト

ベートヴェンの音樂も「深く美しい」のだが、彼の音樂を聴くと、「苦惱」に満ちた彼の「顔」が浮かぶという人も多いだろう。だがモーツアルトの場合、彼の名前とともに浮かんでくるのは彼の「顔」ではなく、「彼の旋律であり音そのものだ」。これはモーツアルトの音樂が「音」そのものへと聴く人を誘い、他のものを消え去らせる、ということだと考えられる。モーツアルトを聴く人は、いわば音そのものの虜にさせられてしまうのだ。「だから彼(=モーツアルト)の音樂を官能的(=肉体的な感覚や欲動を刺激するさま)で甘美だと言つことも可能である」と筆者は述べているのである。それゆえ「論理」で身構える人々も、その「論理」を放棄し「彼の世界へと参加する」。このようにモーツアルトの音樂は多くの人々を魅了<sup>めうりやく</sup>する。(最後から二つ目・三つ目の段落)

そして現代においてもモーツアルトは多くの人々を惹きつけてやまない。それはどうしてなのだろう。筆者は現代を、「近代が終<sup>しゆう</sup>滅<sup>めつ</sup>し、近代を支えた社会構造が崩壊しようとしている時」だと捉えている。それゆえモーツアルトが感じていたかもしれない「近代」という時代の「終末」への「不安」が、彼の音樂を通して現代の人々と共有されることになる。よつて現代において人々がモーツアルトの音樂に惹かれるのは、一つの時代が滅んでいくことへの「共感」からだと言うこともできる。

だが筆者は、モーツアルトが表現したものは「人間存在そのものの喜びと不安」であると考えている。つまりモーツアルトの表現したものは、「人間」

と」が「困難」なものとなる。

特にその「論理」が「生活感覚」(=生活している、あるいは生きているといふ実感・感覺)から遊離している場合には、「論理の体系にはめ込」んで「美しさを享受し」ようとすることは「創造を不可能にする」ような「文化攝取」(傍線部1を含む段落の二つ後の段落)となり、「モーツアルトの音樂が持つてゐる本質とは対極的な場にたつ鑑賞姿勢」だと筆者は言う。どういふことだろうか。

ここで筆者は、モーツアルトの「戴冠ミサ」(=ローマ・カトリック教会で神に感謝し共同性を深める儀式)曲に関する音楽評論家・吉田秀和氏の言葉を引用する(傍線部2を含む段落)。吉田秀和氏は、「モーツアルトの音樂的天才」が「信仰」や「ミサの枠」を超えてしまったと述べ、「初めに終りがあるような彼の靈感の恐ろしい時間の同時性」(モーツアルトにおいては、音樂創造のインスピレーション・着想がとてももない速さで湧き出てくるということ)を基盤とするモーツアルトの音樂に言及している。そして吉田秀和氏の見解を受け、筆者もまた「だしあに彼の樂曲は流れ、変化し、爆発を含みつつ更に流れる」のだと述べる。しかも、「聴くことも演奏することもまた創造なのだ」と言い、「作り演じ聞く」という三つの動作の総てが創造に連なるべく」とも言つ。

「作り演じ聞く」ということについての具体的な説明は本文ではない。だが一般に、「作」る者が作曲家であるとすれば、「演じ」る者は演奏者であり、「聞く」者は聽者であるだろう。作曲家はもちろん「作」る者であるから「創造」を行つてゐる。また演奏者もその曲を自分なりに解釈して表現するのであり、その意味で「演じ」ることも「創造」行為であると言える。では聽者はどうだろう。聽者もまたその曲を身をもつて受け止め、そこに新たな美をそのつど発見していくのではないか。その発見が曲を新たに輝かせる。コンサートの場合を考えてみよう。作曲家が「創造」した曲を演奏者が音にして表現!「創造」する。聽者はその表現に、ときには賛嘆の表情を浮かべ、ときには身体をゆらして反応する。このようにして聽者もまた、コン

サート空間を生き生きと創り出していくだろう。ここには、作ること・演じること・聞くことが、互いに影響を与え合いながら、より高い次元に向かうといふ「弁証法」(=対立する事柄をより高い次元で統合すること)(傍線部2直後)が息づいてゐる。まさに、作曲家・演奏者・聽者の生き生きとした感覺が、豊かな音響空間を「創造」していくのである。

とりわけモーツアルトの音樂は、「変化」や「爆發」をはらむ、豊かでダイナミックなものである。そしてそれこそが「モーツアルトの音樂が持つてゐる本質」なのである。だとすれば、それを「論理の体系にはめ込」んで「享受」することなどできるはずがない。聽者がそのダイナミズムを受け止め表現していくには、生き生きとした感覺、そうした意味での「生活感覚」が必要となる。それゆえこうしたモーツアルトの音樂を「生活感覚から遊離し」た「論理」によつてのみ受容する「鑑賞姿勢」は、「モーツアルトの音樂が持つてゐる本質とは対極的な場にたつ」ものだと言えよう。

そして、こうした「モーツアルトの音樂」と「対極的な場にたつ」「姿勢」は、当然モーツアルトの音樂「創造」の場との距たりをも作つてしまうことになる。よつてそれは、「創造」の場に参与し自らも「創造」者となる聽き方とは異なる「鑑賞姿勢」となる。それゆえこうした「鑑賞姿勢」を、筆者は「創造を不可能にする場所での文化攝取」だと述べているのだ。こうした意味では、「明治以後の日本」は、モーツアルトの音樂を十分理解してきたとは言ひがたいのである。

#### ■ 近代という時代とモーツアルトの音樂

「モーツアルトが生きた時代」は「フランス大革命に象徴される近代の確立期であった」(最後から五つ目の段落)。ただ本文には「近代」に関する明確な説明はない。だが「もし自分の作品の思想的な拡張性を知つていたら、モーツアルトはその奥ゆきの深さと近代というものの矛盾と終末が自分の感性の中に早くも望見されてしまつてゐることに彼自身慄然(=恐ろしくておののきふるえるさま)としたのではないか」(傍線部2を含む段落の次

トの音楽の美しさが、「言語による描写を拒否する」類のものだからか、あるいは「モーツアルトの個性」が「音楽そのもの」と言えるようなものだからか、と問いかける。(以上、第一段落・第四段落)

しかし現在の時点では、こうした最大級の評価をモーツアルトに対して行なう筆者も、「学生」時代にはモーツアルトの音楽を否定していた。「音楽」は「阿片」(=麻薬の一種)になり得るし、「モーツアルトを演奏して罪を清めたつもりになる」というC・モルガンの小説の中の言葉を読み、「学生」だった筆者は、「だから音楽は恐いんだ、殊にモーツアルトのような音楽は」と友人の女性に語った。その友人と筆者は「ストイックな運動」(=禁欲的で厳しい政治的な活動。注1の説明参照)のリーダーであった。その当時を振り返って筆者は、若い自分が「美」に対し「禁欲的」な態度をとっていたのか、あるいは本当は美に感動する自分の中に、厳しい活動には似つかわしくない「赤ままや女の髪」に惹きつけられる「弱い部分」があるのを自覚していく、あえて「美一般を拒否」し、「その弱い部分が表に現れるのを防ごう」(空欄Y)前としていたのかもしれない、と述懐する。

權力とも戦うような苛酷な活動を行っていた当時の筆者にとっては、「闇いを積みあげることのなかで自己を形成してゆくようになーヴェンの音樂こそ望ましいものに思われ」た。それゆえ、自分の内部の「弱い部分」を意識させるような美の典型であるモーツアルトの音楽は、「否定」されなければならなかつた。そうしなければ「ストイックな運動」などできないと心のどこかで感じたからだろう。

だが、「だから音楽は恐いんだ、殊にモーツアルトのような音楽は」という発言は、モーツアルトの音楽に引きずり込まれる自分に対する不安を表わしている。モーツアルトの音樂をどうでもよいと思っていたら、「恐いんだ」などとは言わないだろからだ。ここから、モーツアルトを否定するその分だけ、「彼の音樂に魅かれていたようである」という述懐も出てくる。そしてまた「学生」のときの筆者だけではなく、「人生に何か規範を求める規範を梃子にして、自らを観念的(=現実を離れ、抽象的に物事を考え

るさま)に想定された高みへ引きあげよう」とするような「人々」も、「モーツアルトの音樂」を「否定」しがちである。それも「イデオロギー」(=人間や時代を支配する主義主張や思想、信念)などによるのではなく、「没理論的」(=「理論」が存在しないさま)な形で「否定」されてきたのである。逆に言えば「理論」などでは「否定」できないほどの、何やら計り知れない妖しい魅力を、モーツアルトの音樂は持つのである。「ローマ法王」がモーツアルトを「世俗音樂」とし、神聖なる「教会」にはふさわしくないとしたというエピソードを筆者が紹介しているのも、そうしたモーツアルトの底知れない魅力を示唆しようとしているのだと考えられる。(以上、第五段落・傍線部1を含む段落の次の段落まで)

## I 明治以後の日本人におけるモーツアルトの受容

「明治以後」、近代化を急ぐ日本は多くの西洋文化を吸收しようとした。だがその吸収は「何よりもまず頭で理解し、それに自らを近づけようと努力する姿勢」で行われたと筆者は言う。どうして「日本人」が「まず頭で」という姿勢を選択したのか、ということについては本文で触れられていない。ただ長く外国との交流を避けてきた日本人にとって、外来文化は肌に馴染まない、つまり身体や感覚が受けつけないものも多かつたことは想像しうる。だが、だからといって外来文化を拒否していくは近代化が遅れる。感覚が受けつけないものだとても受け入れるしかない。感覚が受けつけないなら、  
〔頭〕で理解し知識として身につけ、「論理の体系」(=統一された論理のまとまり)にはめ込んでいくしかない。そのような事情が「明治以後の日本」にあつたのだと想定すればよいだろう。

しかし美を、それも計り知れないものを含むモーツアルトの音樂の美を、そのような「論理の体系にはめ込」み、言葉によって「語ること」ができるだろうか。美は感覚的な要素を含むものもある。それを「論理」という限定された枠に「はめ込」み語ろうとすれば、はみ出る部分が生じる。だから「明治以後の日本人にとって」、「モーツアルトの音樂の質」は「最も語るこ

化を頭（＝知性・論理）で理解しようとした明治以後の日本人、そして近代という時代とモーツァルトとの関係に触れながら、現代においても人々を感動させるモーツァルトの音楽の素晴らしさ、偉大さを綴った文章である。その概容を図示すると以下のようになる。

I

〈学生時代の筆者によるモーツァルトの評価〉

禁欲的で厳しい政治活動を行っていた学生の頃の筆者はモーツアルトを否定していた

↔

〈現在の筆者によるモーツァルトの評価〉

モーツアルトの音楽の美しさは、言葉による描写が無意味になるほど魅力を秘めている

II

〈明治以後の多くの日本人の態度〉

西洋文化を頭で理解しがちであり、美すらも生活感覚から遊離した論理にはめ込んで享受しようとした

↔

〈モーツアルトの音楽を鑑賞する際の態度〉

変化や爆発を含みつつ流れれるモーツアルトの音楽においては、作曲家や演奏者だけでなく、聴者もまた生き生きとした感覚をもつて創造に関わるべきである

III

言葉は時代に拘束されており、近代の言葉は近代という時代に拘束されている

↔

モーツアルトの音楽は、近代という時代を超える奥ゆきと拡がりをもつている

モーツアルトの音楽は、言語では表現できない思想や感情の存在を表わしている

IV

現在、近代という時代が終わりを告げようとしている

モーツアルトの音楽は、時代を超えて人間存在の喜びと不安を表現している

↔

モーツアルトの音楽は、今もなお人々を魅了し続けている

この図に従い以下本文を解説していくが、形式段落の数が多く、その示方も独特なため、「第〇段落」というように、通常の形式段落に基づいた形で引用箇所を明示するのが困難な部分については、適宜傍線や空欄に連づけて示すことにする。

### I モーツアルトの音楽を否定していた学生の頃

「音楽について何か書くこと、語ること」は「言語」による表現である。しかし筆者は、「言語」で音楽を「語ること」に疑義を表明する。音楽は「聴いて感じる」だけで「充分」であり、その上なお音楽について「語ること」は、「情緒過多」や「啓蒙的（＝無知な人々を教え導くさま）な口調」になり、「読む人を白々しい気分にしてしまう」ことになりかねない。特にモーツアルトの場合はそうだと筆者は言う。その理由について、モーツアル

『安定』を得る権利』に対して「多くの若者たちがその理想を自明の前提としている」とある。さらに第十四段落では、そのような「『標準モデル』のライフコースが目標として強く意識されているにもかかわらず、それを達成する手段がないと感じられ」ていると述べられている。

イは以上の内容をまとめているものなので、本文と合致し、正解である。

ウについて。「過激な社会変革を求める若者」という部分が間違っている。若者たちは先行世代と同様の「既得権」を得たいと思っているのであり、「保守化」しているとの指摘もある」(第十二段落)と書かれているように、「過激な社会変革」など求めていない。また国によつて「その行動」に「微妙な差異」があるとは本文から読み取れない。よつて正解にはならない。

エについて。「先行世代が自分たちの権利を侵害している」という若者の主張」いわゆる「既得権批判」を「的外れ」としている点が間違い。筆者はそうした主張が事実に反する「誤解」かも知れないとは言つてゐるが、「理由のある誤解」(第十三段落)だと捉えている。すなわち、「的外れ」なものとは考えていない。よつて正解ではない。

オについて。若者たちの批判の対象となつてゐる「正規雇用者」を「現実には何の利権も持たない」としている点が不適当。第十二段落に書かれているように、多數派ではないにせよ、「メンバーシップを限定し、身内の保身のために他者を調達する」ことで「『安定』を得る権利」を獲得している者もいるのである。よつて「正規雇用者」の中に「利権」を所有している者がいないとは断定できない。また「若者たち」の「批判」は、工でも触れたように「理由のある誤解」であるから、「世代間の対立図式をいたずらに煽つてゐる」とも言えない。よつてオも正解とはならない。

## 〔二〕 現代文

### 【解答】

問一 X イ Y オ

問二 識惑的な美によつて、思想を通じて自己を観念的に向上させようとする意志を挫き、人生に対する主体的な責任を放棄させる点。(58字)

問三 ア

問四 オ

問五 エ・オ (順不同)

### 【配点】 (40点)

問一 各 3 点 × 2

問二 14 点

問三 5 点

問四 5 点

問五 各 5 点 × 2

### 【出典】

辻井喬「私のなかのモーヴアルト」(新潮社 一九八七年刊『深夜の読書』所収)の一節。なお、問題作成の都合上、一部省略した箇所がある。

辻井喬(つじい・たかし)は一九二七年現東京都生まれの小説家、詩人。本名は堤清二(つつみ・せいじ)で西武流通グループ代表、セゾングループ代表などを歴任した実業家でもあった。主な著書に、詩集『群青、わが黙示』(高見順賞受賞)、『驚がいて』(現代詩花椿賞・読売文学賞詩歌俳句賞受賞)、小説『虹の岬』(谷崎潤一郎賞受賞)、『父の肖像』(野間文芸賞受賞)などがある。二〇一二年死去。

### 【本文解説】

本文は、かつてモーヴアルトの音楽を否定していた若い頃の筆者、西洋文

「本来ならば得られるはずだった」という主張（b）の論理的な正当性

を検討したり、計量調査を根拠に、彼ら（＝若者たち）の考える前提が実際にはどの程度までてはまるものなのかについて明らかにしたりすることとは、世代的不遇感（a）の相対化という意味で重要ではある。だがそれだけでは、彼らの内的な合理性は揺るがないだろう。というのも、彼らの不満の源泉となっているのは、世代という偶然の要素で生き方に差がつく

という理不尽さに対する不満なのであり、その差の尺度として「既得権」が抽出されているに過ぎないと考えられるからだ。彼らの認識は誤解であるとしても、理由のある誤解である」。

ここで述べられていることは以下のようことである。bへ時代が違えば自分たちもあざかることができたはずの権益を先行世代が不當に所有している」という若者たちの認識（＝「既得権批判」）が誤解であるとしても、彼らは、aへ自分たちの世代は上の世代に比べて不當に損をしている」という不遇感には「内的な合理性」があると信じている。この「的な合理性」という言葉は、客観的に実証されている「合理性」ではなく、若者たちの思い（＝主觀）の内において成立している「合理性」であると考えられる。彼らは、自分たちがaの「不遇感」を抱いていることには「合理性」がある、すなわち道理があると自らの思いの内で確信しているのである。これが「内的な合理性」という言葉の意味である。そしてaの不遇感に「合理性」があることを示すために、bの認識（＝「既得権批判」）を持ち出している（それが「抽出」という言葉に含意されている意味である）。bの認識がたとえ「誤解」であっても、それはaの不遇感に「合理性」があることを示すために持ち出されたものなのであり、それゆえ筆者は「理由のある誤解である」と言つてゐるのである。今述べたcへaの不遇感に「合理性」があることを示すために、bの認識（＝「既得権批判」）を持ち出している」ということが、「aの尺度としてbが抽出されている」という、傍線部3に示されているyとbとの関係を説明していく。「尺度」とは先にも書いたように、「物事を評価するときの規準」であ

る。aの不遇感にc「合理性」があることを示すために、bの認識が持ち出されたとすれば、aの不遇感に「合理性」があると見なすときの規準（＝「尺度」）としてbの認識が持ち出された、という関係は説明できているだろう。

以上をまとめると、「その差の尺度として『既得権』が抽出されている」とは、

a 自分たちの世代は上の世代と比べて不當に損をしているという格差を感じること（自分たちの世代は上の世代と比べて不當に損をしているという不遇感）には

b 時代が違えば自分たちもあざかることができたはずの権益を先行世代が不當に所有していると認識すること

c 合理性があることを示すために

なお、cは「aの不遇感を合理化する（＝理由づける、正当化する）ために」と表現することも可能である。正解例はこの「合理化」という言葉を用いてcを表現している。

## 問六 内容合致の問題なので、選択肢を本文と照らし合わせながら、順に検討していこう。

アについて。日本を含めて世界で共有される若者たちの「雇用問題」の原因を、「新自由主義やグローバル化」に限定している点が不適当。第五段落において、少なくとも日本の雇用の変動については「新自由主義やグローバル化」がさほど大きな要因ではないことが、経済学者らによつて言われているとある。よつてアは不適切である。

イについて。第一段落には「団塊世代」の「消費による自己実現」という志向は、「現在においてこそ広く共有されている価値観」になつている。したがつて、そうした価値観は彼らの子どもであるロストジェネレーションにも共有されている。また、第十二段落には、「日本型の

を的確に説明しているエが正解。

他の選択肢についても検討しておこう。

アについて。まず、「日本人がそれを経済的な用語として使い始め」がます。日本で「ロストジェネレーション」は、「世代的不遇感」を抱く若者たちを指す言葉として使われたのであり、「経済的な用語」という説明は適切とは言えない。また「現代社会における経済問題の深刻さがうかがえる」という内容も、bのポイントからされている。

イについて。単に「英米のメディアまでがその意味に注目した」という説明では、「逆輸入」の的確な説明にならないし、「日本文化の影響力の強さがうかがえる」は、傍線部前後の文脈ともbポイントとも全く関係がない。

ウについて。この選択肢も「日本の抱える様々な社会的な問題が集約されている」としているだけで、世界の多くの若者に関わる問題だという内容がないため、bのポイントに言及しておらず、不適当。

オについて。この選択肢では、「ロストジェネレーション」という言葉が、もともとの意味で現在も日本を含めた各国で使われるようになつたことを指摘するのみで、そもそも「逆輸入」(a)の説明になつていらない。また「現代社会がいまだ同様の問題を抱えている」というだけでは、「ロストジェネレーション」という言葉によつて示される「問題」に焦点が絞られておらず、bポイントが的確に説明されていない。

にしよう。傍線部3の直前に「彼ら(=若者たち)の不満の源泉となつてるのは、世代という偶然の要素で生き方に差がつくという理不尽なことに世代の違いという偶然の要素で生き方に差がつくこと」を指していることがわかる。これは、「若者の世代は、上の世代に比べて不適に損をしている」という「世代的不遇感」という第九段落の表現を踏まえて、aへ若者世代は上の世代と比べて不適に損をしているという、世代間の格差のことだと理解することができる。若者たちはこの格差を意識することで「世代的不遇感」を抱いているのである。

次に、「既得権」が本文でどのように説明されているかを検討してみよう。この「既得権」については、第十段落に、「世代的不遇感の議論には常に、彼ら(=若者たち)の不利な状況の原因となつてゐる先行世代が「既得権」として批判されるという構図が存在しているのだ」と述べられている。そして、つづく第十一段落に、この「既得権批判」には、「既得権者は、その地位をたまたま得たに過ぎないのに、そこから得られる権益を不適に保有しているということ」という意味と、「自分も生まれた時代が違えば、その恩恵(=権益)にあずかることができたはずだということ」という意味が込められている、と書かれている。これらの箇所から、「既得権(批判)」とは、aへ自分たちの世代は上の世代と比べて本当に損をしているという世代的不遇感を抱いている若者たちが、自分たちの「不利な状況」の原因として持ち出すものであり、bへ時代が違えば自分たちもあずかることができたはずの権益を先行世代が不適に所有していることを意味していることがわかる。

これで、「その差の尺度として「既得権」が抽出されている」という傍線部の表現の中で、「その差」の内容(a)と「既得権」の内容(b)が明らかになつたのであるが、最後に「aの尺度としてbが抽出されている」という、傍線部3に示されているaとbとの関係を説明しなければならない。ここで、傍線部3を含む文脈を詳細に検討してみよう。

まず、「その差」がどのような「差」のことを指しているのかを明らかに

問五 「その差の尺度として「既得権」が抽出されている」とはどういうことかを説明する問題である。ただし、この傍線部とその前後の文脈はかなり難解な内容であるため、傍線部全体を一度に説明しようとすると、何をどう答えるべきかわからなくなってしまう恐れがある。こうした問題の場合、傍線部をいくつかの部分に分け、それぞれの内容を整理した上で、全体をまとめいくとよい。

まず、「その差」がどのような「差」のことを指しているのかを明らかに

ること、つまり収入や雇用の保証という足場があつて初めて成り立つもの」なのに、「ロストジエネレーション」には「収入や雇用」が「保証」されていないからである。ここから逆に、「親世代」＝「団塊の世代」にとつては、「収入や雇用の保証」が「当たり前」であり、そのためには「消費による自己実現」への「志向」＝「消費社会化による自由の獲得」（＝a+c）も「当たり前」だと考えられていた、ということがわかる。したがつて、「消費による自己実現」への志向の説明に当たる要素（＝a+c）に加えて、

d 収入や雇用の保証

も、解答に必須の要素となる。

以上の内容を制限字数内に的確にまとめればよい。

ちなみに解答例は、dがa+b+cの前提であることを踏まえ、「d」によつて、a、b、cすること」とまとめている。

なお傍線部は、前後の文脈から「若者」の「羨望と反発の対象」であることがわかるが、説明すべきなのは「親世代の考える」事柄なので、「若者」に関連する「既得権」などについては説明する必要はない。

問四 「この言葉の『逆輸入』は、非常に興味深い現象である」という傍線部について、「筆者はどういう点を『興味深い』と思つてゐるか」が問われている。

そもそも「逆輸入」とは、自分の国で製作されたものを、輸入した他の国で変形し、この他国が輸入して変形したもの元の国が再び輸入することである。そしてここでは、米国発の言葉である「ロストジエネレーション」が日本に輸入され、それが形を変えて欧米に再輸入されることを指している。もともと「ロストジエネレーション」は、「ミングウェイやフィッツジエラルドなど、一九二〇年代のアメリカの作家たちを指して」アメリカの作家カートルード・スタインが用いた言葉である。日本ではその言葉を外来語として「輸入」した上で、本来の意味からかけ離れて

た、先行世代と比べて自分たちは不方に損をしているという思いを抱く若者たちを指す言葉として使つようになつた。ふつう、こうした用法は特殊な表現だと、歐米人には扱われるが、「ロストジエネレーション」という言葉は事情が違つた。それを、英米のメディアが、「仕事に就けない英米の若者たち」を呼ぶ言葉として、日本と同様の意味で使い始めたのである。これが、「ロストジエネレーション」という言葉の「逆輸入」という「現象」である。

すなわち、

a もともと歐米で使われていた意味とはかけ離れた問題や対象を指摘する言葉として日本で使われるようになつた「ロストジエネレーション」という言葉が、歐米でも日本と同様の意味で使われるようになつたこと

が、「」の言葉の「逆輸入」という「現象」である。

それでは、こうした「現象」を、筆者はどうして「興味深い」と思つてゐるのだろうか。そのことについて本文では直接言及されていないよう見える。しかし、この「現象」をどうしてここで取り上げて紹介しているのかを考えれば、筆者が「興味深い」と思つてゐる点が推察される。【本文解説】のIで見たように、傍線部は、「ロストジエネレーション」という言葉で表現される若者たちの「世代的不遇感」が、日本ばかりでなく諸外国にも広がっていることを紹介した部分にある。直前の第七段落では韓国との例が取り上げられ、傍線部のある第八段落では同様の問題が歐米でも取り沙汰されていることが紹介されている。こうした具体例や傍線部直後のイギリスの政治家の発言を踏まえ、第九段落では、「世代的不遇感」が、世界的に共有されるようになつてゐるのである」としてゐる。こうした文脈から、筆者は、

b 日本の「ロストジエネレーション」という言葉が指摘する問題が、

世界的に共有されている問題であるという点について興味深く思つてゐる、と理解できる。すると、以上a+bの内容

理想として夢見ていたはずである。しかしその実現が困難になれば、一転してそれは彼らを苦しめる（悪い夢）＝（恐ろしい現実）に変わってしまうことになる。したがって、〔B〕には、オ「悪夢」を補うのが適当である。ちなみに傍線部1直後に若者が、親たちのあり方に「羨望と反発」を抱く、とあることもヒントになるだろう。羨ましくて「反発」するという状態は、（夢）を見つつ、それが実現されない（現実）を抱えていることを示しているからである。否定的な意味を表す言葉としては、ウ「鬱屈」もあるが、これは（気持ちがふさぎ込んでいる状態や心情）を表す言葉であり、主語である「テーゼ」が「鬱屈」である」という表現は不自然なので、〔B〕に補うには適當ではない。

〔D〕について。「彼ら（即世代的不遇感を抱く若者たち）の不満の〔D〕となつてゐるのは、世代という偶然の要素で生き方に差がつくといふ理不尽さに対する不満なのであり」という文脈から、「彼らの不満」が「理不尽さに対する不満」と関係していることがわかる。そこで残つてゐる選択肢の中から〔D〕にアの「源泉」を入れると、若者たちの「不满」のおおもとに、「理不尽さに対する不満」があり、そこから「世代的不遇感」がわき出しているという適切な文脈が形成される。したがって、ア「源泉」が正解。イ「足場」は〔C〕に入れだし、「不満の足場」は日本語として不自然なので、「足場」と「源泉」を逆にすることはやはりできない。

〔E〕について。秋葉原連続殺傷事件の「加害者が『派遣社員の〔E〕』や『格差社会の犠牲者』の象徴（即具体的に示されたもの）として扱われた」とある。すなわち、事件を起こした青年は「派遣社員」という不安定な雇用状態に置かれ、「格差社会の犠牲者」となつていてと考へられる現代の若者たちの状況を「象徴」する存在として扱われた、というのである。こうした若者たちの精神の中には「不遇感」や「不満」が存在する。したがって、〔E〕にはこのような感情と関連し、思い悩みふさぎ込む精神状態を表す、ウ「鬱屈」を補う。

### 問三 「親世代の考える『当たり前』」が、どういうことを指しているのかを説明する問題。

ここでの「親世代」とは、ロストジェネレーションの「親世代」＝「団塊世代」のことである。この世代の考え方は、一九七〇年代の若者論として第一段落に説明されている。なおかつその「親世代の考える『当たり前』」は、傍線部の直後にもあるように、現代の若者の「羨望」の対象にもなつてゐる。とすれば、その「当たり前」は羨ましくなるような状態であるはずだ。そのことを踏まえて第一段落の内容を見ていく。

消費社会が訪れた日本で、当時の若者たち（即団塊世代）は「欲望の赴くままに変転する自在さを持った消費者」となることで、男は、女は、日本人は、「こうであらねばならない」というような既存の社会の「規範の制約からも自由」になり、商品の「微細な差異」を「消費」する「主体」となり、自分らしさを表現する。これが当時の若者が志向した「消費による自己実現」である。そして、この「自己実現」への志向は、決して過去のものではなく、むしろ「現在においてこそ広く共にされている価値観」なのである。若い頃にそのような価値観を持ち、その後もより広くそれが共有されていったとなれば、団塊世代が、そうした志向を「当たり前」のことと考えるのは当然だと言える。以上の内容をポイントとして整理すると、

#### a 欲望の赴くままに消費を行い

- b 既存の社会規範の制約から自由になり
- c 消費主体としての自己実現を目指す

ということになる。

ところで、こうした親の世代にとって「当たり前」であるa～cの内容を含む「消費による自己実現」への志向は、傍線部1の直前では「消費社会化による自由の獲得」というテーゼ」と言い換えられ、この「テーゼ」は「ロストジェネレーション」にとっては「ある意味で悪夢である」と述べられている。そのテーゼは「消費者」たる資格を有してい

## 【設問別解説】

問一 漢字の書き取り問題では、漢字を覚えるだけでなく、その言葉の意味や用法なども確認して、語彙力を身につけたい。

a 「犠牲」は、〈ある目的のために生命・財産・努力などをささげること〉。b 「排除」は、〈不要なものや邪魔なものを取り除くこと〉。c 「漢然」は、〈ほんやりとして取り留めのない様子〉。d 「逸脱」は、〈本来従うべき規範からそれること〉。e 「証左」は、〈あかし、証拠〉という意味。

問二 空欄に熟語を補う問題では、選択肢の語の意味・用法が確実に理解されていることが前提となる。したがって、まず選択肢の語の意味を確認しておこう。

ア 「源泉」……〈水のわき出るみなもと〉という意味から転じて、〈物事が生じてくる始まり、もと〉という意味で使われることが多い。

イ 「足場」……〈建築工事などで足がかりのため組まれるもの〉といふ意味から転じて、〈物事の基礎やよりどころ〉という意味でも使われる。

ウ 「鬱屈」……〈気持ちがふさぎ込むこと〉という意味。

エ 「洗礼」……もとは〈キリスト教における入信の儀式〉を指す言葉であるが、それから転じて〈自分を変えるようなことを経験する〉という意味でも使われる。「洗礼を受ける」という形で使われることが多い。

オ 「悪夢」……〈悪い夢〉という意味。この言葉も〈夢でしか起こらないような恐ろしい現実〉、というような意味で比喩的に使われることが多いので注意したい。

個々の空欄を検討していこう。

A について、「消費社会の最初の A を受けた上野の世代、すなわち『團塊世代』とある。上野については、「消費社会の欲望による人々

の社会規範からの解放のインパクト（＝衝撃、影響）を肯定的に捉える論者」（第一段落）という記述がある。すると、こうした「解放」の「衝撃」を目の当たりにした「團塊世代」は、今までとは異なる〈経験〉をしたと言える。したがって、エ 「洗礼」が正解となる。

B について。この二つの空欄は連続する文脈にあるので、あわせて考えていい。」「ロストジェネレーションにとつては、『消費社会化による自由の獲得』というテーマ（＝提示された命題、論題、主張）は、ある意味で B である。なぜならそれは、『消費者』たる資格を有していること、つまり収入や雇用の保証という

初めて成り立つものだからだ」とあるが、この文脈からます「収入や雇用の保証」は「消費社会化による自由の獲得」というテーマを成り立たせる前提・土台となることがわかり、C にはそれに近い意味の言葉が入る。そのような語として最も適当なものは、イ 「足場」であり、これが正解。

なお、C にア 「源泉」は適当とは言えない。右で確認したように、「消費社会化による自由の獲得」というテーマは「収入や雇用の保証」によって「成り立つ」のであり、両者の間には支える／支えられるという関係がある。だがア 「源泉」を入れると、「消費社会化による自由の獲得」というテーマが「収入や雇用の保証」から始まつたことになってしまい、支える／支えられるという関係を必ずしも意味しないからである。

次に B について考えると、「消費社会化による自由の獲得」というテーマを成り立たせるのは「収入や雇用の保証」であるが、「ロストジェネレーション」は直前の第二段落で説明されているように、「若年雇用環境が悪化した時期に社会に出なければならなかつた世代」であるつまり、彼らは「収入や雇用の保証」を得ることが非常に困難な世代なのである。したがって右の「テーマ」も成立困難になる。もともと「消費社会による自由の獲得」＝「消費による自己実現」は、現在においても「広く共有されている価値観」（第一段落）であるから、彼らもそれを

社会学者の高原基彰は、日本の若年雇用において「本来得られるはずだったもの」とは、「単なる正社員の地位」などではなく、「メンバー・シップ（＝団体や組織の構成員であることの資格）」を限定し、身内の保身のために他者を調達することを肯定する、日本型の『安定』を得る権利だとしている。たとえば、自分は同族企業のメンバーであって、自分たちの利益や会社の存続のためにには、他の社員を不當に扱うことも厭わないような立場を指すのである。実際には先行世代においてもそうした「権利」を得たものは決して多数派ではない。にもかかわらず、多くの若者が「その理想を自明の前提」として、本来ならば自分もその権利を得られるはずだった、と考えているというのが「既得権批判」の特徴なのである。また新入社員の意識調査において「いまの会社に一生勤めたい」とする回答が増えているという結果に対し、若者たちが「保守化」しているという指摘もある（このことにについては、少し説明を加えておこう）。若者の先行世代批判といふことは、何も最近に限られたことではない。若者が先行世代のあり方を否定し、自分たちの理想を実現しようとは、むしろさまざまな時代に見られる傾向であると言える。それは社会を「変革」していく原動力となつたとも言える。「既得権批判」の特徴は、こうした從来の先行世代批判とは正反対に、先行世代のあり方を肯定的に捉え、自らもそうなりたいと理想化している点にある。そうした点を捉えて、若者たちの「保守化」という指摘がなされているのである。（第十二段落）

「本来ならば得られるはずだった」という「既得権批判」の主張が、論理的に正当なものかを検討したり、それが事実に当てはまるものかを実証的に分析することは、「世代的不遇感の相対化（＝冷静に見つめ直すこと）」という点では意味を持つが、それによって「既得権批判」をする若者たちの「内的な合理性（＝彼らなりの理屈）」が揺らぐことはないと筆者は考えている。なぜなら、「既得権批判」という彼らの不満の根底には、「世代という偶然の要素で生き方に差がつく」という理不尽さに対する不満があるからだ。そうした理不尽な「差」の「尺度（＝物事を評価するときの規準）」と

して、若者たちは「既得権」というものを持ち出し、自分たちの「不遇感」を正当化しようとしている。筆者は捉えているのである。だからこそ、「既得権」に対する若者たちの認識は、たとえ事実に反する「誤解」であつても、そうせざるを得ない「理由のある（＝「内的な合理性」のある）誤解」だと言つてるのである。（第十三段落）

こうした若者のあり方を、筆者はアメリカの社会学者R·K·マーティンの言う「手段のアノミー（＝既成の規範の崩壊によって生じる無規則状態）」の状態だと指摘する。この内容はやや専門的なものなので、日本の若者に即した簡単な解説にとどめたい。先に見たように、彼らは「日本型の『安定』を得る権利」を人生の「標準モデル」として強く意識し、本来なら当然手に入るものだと考える。ところが現実にはそれを達成する手段がないと感じることで、自分の「現在の状態は不當である」という主張に達し、目標達成の手段を何としても手に入れようとする。たとえその手段が社会的な規範から逸脱するようなものであつても、不當な状態を解消するためには仕方がないと正当化してしまうのである。そこで問題となるのは、「不遇な状況に置かれている対象」が曖昧であり、「はつきりとした定義を持たない集団が想定されていること」である。つまり、不遇感を持っている集団が、若者世代全般に漠然と拡大されるのである。すると、その漠然と設定された世代に属する者が起こした犯罪などの逸脱行動が、すべて若者世代の「不遇さ」を象徴するものとして、あたかも「正当な行為の一部」であるかのように認められてしまう。たとえば、秋葉原連続殺傷事件を起こした加害者が、「派遣社員の鬱屈」や「格差社会の犠牲者」の象徴として扱われるのも、「手段のアノミー」の状態が、社会に蔓延（＝はびこり、広がること）している証左だと筆者は捉えているのである。（第十四段落・最終段落）このように、筆者は若者の「不遇感」に理解を示しながらも、「既得権批判」によって、若者の逸脱行動が、たとえ一部ではあつても正当化されてしまうことに、危惧を感じているのである。

正規雇用率は上昇しているということである。少なくとも雇用に関しては、ロストジエネレーション「だけ」が損をしているのではなく、その下の世代の方がより不安定な状態にあると言える。したがって、非正規雇用の問題は二〇〇〇年前後に始まり現在も進行する「雇用に関する構造変動がその背景にある」と考えるべきなのである。そうした「構造変動要因」として「小泉政権以降の新自由主義化政策」や「グローバル化による途上国との競争激化の影響」を指摘する論者は多い。だが、経済学者によれば、それらが雇用変動の明確な要因であるということは実証されていない、という。（第四段落・第五段落）

こうした知見から考えれば、二〇〇〇年前後に社会に出た人間は、自分たちだけが損をしている、「貧乏くじ」を引いた世代だとして、「ロストジエネレーション」と括る若者論は、実証的なデータにもとづかないものであり、「自分の生きている時代は特別なのだ」という「思い込み」（クロノセントリズム）の一種であると言える。ただし、それが事実にもとづかない思い込みでしかなくとも、そのような感情が生じる理由は検討しなければならない。なぜなら、このような若者世代の不遇感は、日本ばかりではなく諸外国でも見られる現象だからである。

韓国では、七七年～八六年に生まれた若者たちが「特に損をした世代」として「88万ウォン世代」という本で名指しされ、「〇八年の金融危機以後は、欧米でも若年層がとりわけ『損』をした世代として取り上げられ」ている。

英米のメディアは仕事に就けない若者たちを、「日本にならって『ロストジエネレーション』と呼んで特集した」。

ところで筆者は「ロストジエネレーション」という言葉の「逆輸入」は、非常に興味深い現象である（傍縦部2）と述べている。自分の国（この場合は米国）で製作されたものを輸入した他国（この場合は日本）がこれを変形する。この他国が輸入して変形したもの元の国が再び輸入することを「逆輸入」と言う。「ロストジエネレーション」は米国起源の言葉であり、第一次世界大戦に遭遇して從来の価値観に懷疑的になつた、ヘミングウェイ

やフィッツジエラルドなどのアメリカの作家たちを指す。この言葉が、日本で、「九〇年代後半から二〇〇〇年代前半の若年雇用環境が悪化した時期に社会に出なければならなかつた世代」（第二段落）を指す言葉として使われるようになつた。そして、英米のメディアは日本で意味の変形されたこの「ロストジエネレーション」という言葉をそのまま取り入れて、「仕事に就けない英米の若者たち」を「特集」したのである。では筆者が、このような「ロストジエネレーション」という言葉の「逆輸入」を、「非常に興味深い現象である」と言うのはなぜだろうか。それは、この「ロストジエネレーション」という言葉による「若者だけが損をしている」という議論や、そうした若者の「世代的不遇感」が、日本だけではなく「諸外国でも見られるようになつて」いることを示しているからである。（以上、第六段落～第九段落）

### III 世代的不遇感の要因としての既得権批判（第十段落～最終段落）

世代や時代は微妙に異なつていてもかかわらず、世界の多くの国の若者たちの間に似たような「世代的不遇感」が起きているのはなぜだろうか。筆者は、それを解くキーワードとして「既得権批判」を挙げる。

「世代的不遇感の議論」では、常にその原因として先行世代の「既得権」が批判されるという構図がある。「既得権」とはもともと「競争を免れることで大きな利権を保有」し得た公務員や金融機関を対象に使われていた言葉であるが、「若年雇用の悪化とともに、正社員一般にまで拡大して用いられるようになつた」のである。（第十段落）

こうした「既得権批判」には、二つの意味が込められている。一つは、「既得権者は、その地位をたまたま得たに過ぎないのに、そこから得られる権益を不当に保有している」というものであり、もう一つは、「自分も生まれた時代が違えば、その恩恵にあずかることができたはずだ」というものである。すなわち、「既得権批判」には「本来ならばその権益は自分のものになるはずだった」という主張が込められているのである。（第十一段落）

そ「広く共有されている価値観」だということである。一九七〇年代は、日本が経済成長を実現し、「消費社会」になつた時代である。そして、「消費による自己実現」とは、「次々と移り変わる流行」に敏感に反応し、「欲望の赴くままに変転する自在さを持つた消費者」となることによって、社会の「規範の制約からも自由」な「主体」になることである。上野千鶴子をはじめとする、七〇年代の若者たちについて論じる者たちは、「消費社会の欲望」が、「男／女はこうであらねばならない」、「日本人たるものかくあるべし」といった社会規範から人々を解放することを肯定的に捉え、「脱アイデンティティ」の戦略を掲げた。「アイデンティティ」には、「特定の集団への帰属意識」という意味がある。「男／女はこうであらねばならない」、「日本人たるものかくあるべし」といった社会規範からの解放は、「男／女」、「日本人」といった集団への帰属意識からの解放につながると考えられたのである。

すなわち、高度経済成長を実現し、経済大国となつた七〇年代の日本において、これまで贅沢や浪費としてネガティブ（＝否定的）に捉えられることが多く、「消費」を肯定的に捉え、流行に刺激され欲望の赴くままに商品やサービスを消費することが、「男は、女は、日本人はこうでなければならない」というような古い社会の制約から自己を解放することになるというのである。そこでは、商品の「微細な差異」が強調され、それによつて自分の個性やセンスを示すことができ、それらの消費を通じて、既成の規範から自由になり、自分らしい自分を実現することが目指される。（以上、第一段落）もう一つの理由は、このような消費社会を若者として最初に経験した七〇年代の若者＝「団塊世代」が、現代の若者論が扱う「ロストジェネレーション」と呼ばれる世代（八〇年前後に生まれ）二〇〇〇年前後に社会に出た世代」の親に当たるということである。

この二点が、「一九七〇年代の若者論を振り返る」理由なのだが、ロストジエネレーションにとって、親たちの持つ「消費社会化による自由の獲得」というテーマ（＝提示された命題・論題・主張）は、「ある意味で悪夢である」。なぜなら、それは「収入や雇用の保証」があつて初めて成り立つもの

であるからだ。ところが、ロストジェネレーションは、「若年雇用環境が悪化した時期に社会に出なければならなかつた」世代である。七〇年代の若者は、「収入や雇用」が「保証」されていたのだから、新卒者が正規社員として就職し、安定した「収入」を得て人生を送ることを「普通のこと」と考え、その前提の上に「消費社会化による自由の獲得」を志向していた。しかし、ロストジェネレーションにとってはその当然の前提が、「雇用環境」の「悪化」によって崩れてしまつたのである。彼らにとって、「親世代の考える『当たり前』は、羨望（＝うらやましく思うこと）と反発の対象にしかならない」。また、彼らは自分たちを、親たちの世代を中心とする高齢者の生活の安定のために犠牲にされた「貧乏くじ世代」と考える。こうした状況の中で、高齢者の所得を奪い取らなければ救われないと、いう「極端な見方」をする者さえ存在する。すなわち、ロストジェネレーションは、親世代と同様の価値観を持ち、「消費社会化による自由の獲得」あるいは「消費による自己実現」を目指しながらも、経済状況の悪化によりその実現が阻まれてしまった。そのとき、彼らにとってこれらの「チーザ」は自分たちを苦しめる「悪夢」のように感じられるだろう。（以上、第一段落・第二段落）

### II 若者世代に広がる不遇感（第四段落・第九段落）

ロストジェネレーションと団塊世代の間の「ギャップや対立」の理由を考察することは、「再び若年雇用が厳しさを増している」と言われる現在において非常に重要な課題」であると筆者は考えている。だからこそ、筆者は「現代の若者論」として、あえてロストジェネレーションと言われる世代（現在は三十代になり、「現代の若者」と言うにはやや苦しい）を取り上げているのである。しかし、ロストジェネレーションを考察する上で、留意しなければならない問題がある。一般には、ロストジェネレーションだけがその前後の世代と比較して「非正規雇用が突出して高い」というイメージが広まっているが（そうしたイメージが「ロストジェネレーション」という言葉の由来ともなっている）、実証的なデータによれば、世代が下るにつれて非

## 【国語】

### 一 現代文

#### 【解答】

問一 a 極端 b 排除 c 漠然 d 逸脱 e 証左

問二 A 工 B オ C イ D ア E ウ

問三 収入や雇用の保証のもとで、欲望の赴くままに消費を行い、既存

の社会規範から自由になつた消費主体として自己実現を目指すこ

と。(60字)

問四 イ

問五 上の世代と比べ自分たちの世代が不當に損をしているという不遇

感を合理化するために、自分たちも本来得られるはずの権益を先行

世代が不當に占有していると認識すること。(79字)

問六 イ

#### 【配点】 (60点)

問一 各2点×5 問二 各2点×5 問三 12点 問四 6点

問五 16点 問六 6点

#### 【出典】

鈴木謙介「若者のアイデンティティ」(『若者の現在 文化』小谷敏・土井隆義・芳賀学・浅野智彦編(二〇一二年 日本図書センター 所収)の一節。なお、問題作成の都合上、一部省略した箇所がある。  
鈴木謙介(すずき・けんすけ)は、一九七六年福岡県生まれ。東京都立大

#### 【本文解説】

本文は、二〇〇〇年前後に社会に出た世代のあり方を手掛かりに現代の若者を論じた文章である。

この世代は「ロストジェネレーション」(=失われた世代)と称され、親世代が志向した「消費による自己実現」を自らも理想しながら、現実にはそれを達成することが困難な状況の中で不遇感を強く抱いている。このような若者の不遇感は諸外国でも共有され、自分たちは先行世代に比べて不當に損をしているという意識が広まっている。そこには、本来ならば自分たちも得られたはずの権利を先行世代が不當に占有しているという「既得権」の考え方があり、それが事実であるか否かには関係なく、若者はその主張によって自らの不遇な立場を合理化している。そして、不遇であるとされる範囲が漠然としたものであるために、彼らの社会的規範(=社会の決まりごと)から逸脱した行動が、不遇さを象徴するものとして正当化され得るという事態に至っている。

以上が本文の論旨であり、筆者は若者の置かれたこうした状況に危惧を表明しているのである。

ここでは本文を大きく二つの部分に分けて、詳しく解説していく。

#### I ロストジェネレーションと団塊世代との対立(第一段落/第三段落)

筆者は、現代の若者論を考察するには、一九七〇年代の若者論を振り返つておく必要があると考えている。その理由の一つは、七〇年代の若者たちに見られる「消費による自己実現」への志向が、現在の若者たちにおいてこ

学大学院社会科学研究科修了。ネットやケータイなどの若者文化を主な研究テーマとしている社会学者。著書に、『暴走するインターネット——ネット社会に何が起きているか』『サブカル・ニッポンの新自由主義——既得権批判が若者を追い込む』『ウェブ社会のゆくえ——〈多孔化〉した現実のなかで』などがある。











© Kawaijuku 2014 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)